

第三編

教育・文化

第一章 新しい教育の振興と問題点

第一節 教育機関と教育団体

一、教育行政機関

苦小牧市 苦小牧市教育委員会は昭和二十七年（一九五二）十一月一日に発足し、教育委員は当初公職選挙法教育委員会による選挙により四人が選ばれ、一人は市議会選出委員の五人制で、任期は四年であった。

同三十一年（五六）六月、「教育委員会法」に代わり「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が制定され新たな発足となった。委員は市長の任命となり、市議会の同意を必要とした。苦小牧市では同年九月二十六日の市議会に教育委員の任命について同意を求める議案が提出され、門脇松次郎、小野真、瀬戸藤市、阿部悌甫、森田勇が選任された。また、教育委員の中から教育長を選定することになり、十月一日の第一回市教育委員会で委員長に瀬戸、同職務代理に門脇、教育長に森田を選出した。

教育委員会は合議制の執行機関で、合議の議決機関である委員会（五人）と執行機関としての事務局とから成り、教育長が事務局を統括する。委員は「人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するものの中から」選ば¹れる。事務局の内部組織は教育委員会規則で定め、指導主事、事務職員、技術職員を置くことになっている。平成十二年

（二〇〇〇）五月末現在、学校教育部、スポーツ生涯学習部の二部制で、二六四人体制である。

教育委員会の職務権限は、「学校その他の教育機関を管理し、学校の組織編制、教育課程、教科書その他の教材の取扱及び教育職員の身分取扱に関する事務を行い、並びに社会教育その他の教育、学術及び文化に関する事務を管理し、これを執行する」とされている²⁾。

苦小牧市教育委員会では、昭和四十年（六五）十一月二十二日に初の女性委員として小池トヨ（苦小牧短歌協会会長）が選ばれ、同五十三年（七八）十月二十四日に初の女性委員長として黒澤みつゑ（苦小牧クローズメーカー女学院院長）が就任した。また、教育委員会の長い歴史の中には不祥事とも言える出来事もあった。同五十五年（八〇）には部長人事をめぐり教育長の独断に三委員が反発して辞表を提出したことがあった。これは市議会でも問題になり、市教委正常化調査特別委員会が設置され、この特別委員会で市長、教育長が陳謝し、三委員は辞表を撤回した。特別委員会は要望意見を付して約二カ月半に及んだ一連の正常化問題を終了した。しかし、その後もこの問題はくすぶりをみせ、すべてが解消したのは関係委員が退任してからであった。

歴代教育委員一覧表

氏名	委員任期				氏名	委員任期			
	S	・	・	期		S	・	・	期
野口 為一郎	S 27	・	11	・ 1	海堀 つとむ	S 30	・	5	・ 17
門脇 松次郎	S 27	・	11	・ 1	森田 勇	S 31	・	10	・ 1
吉住 秀雄	S 27	・	11	・ 1	阿部 梯	S 31	・	10	・ 1
小野 貢	S 27	・	11	・ 1	荒田 俊	S 32	・	11	・ 5
田中 正経	S 27	・	11	・ 1	川村 武夫	S 32	・	11	・ 5
藤田 栄	S 28	・	3	・ 20	石堂 一夫	S 36	・	11	・ 27
保利 啓吉	S 28	・	8	・ 11	富田 茂	S 36	・	11	・ 22
瀬戸 藤市	S 30	・	5	・ 1	三海 静夫	S 39	・	9	・ 14
	S 36	・	1	・ 27		S 42	・	1	・ 17

氏名	委員	長	任期
田中正經	S 27	S 11	S 8
門脇松次郎	S 28	S 5	S 11
小瀬戸貢	S 30	S 10	S 9
川村武夫	S 31	S 11	S 10
小野村貢	S 31	S 10	S 9
小野村貢	S 35	S 13	S 32
三野村貢	S 37	S 13	S 31
三野村貢	S 41	S 25	S 37
三野村貢	S 42	S 16	S 41
三野村貢	S 43	S 20	S 43
三野村貢	S 44	S 21	S 44
三野村貢	S 45	S 22	S 45
三野村貢	S 46	S 23	S 46
三野村貢	S 47	S 24	S 47
三野村貢	S 48	S 25	S 48
三野村貢	S 49	S 26	S 49
三野村貢	S 50	S 27	S 50
三野村貢	S 51	S 28	S 51
三野村貢	S 52	S 29	S 52
三野村貢	S 53	S 30	S 53
三野村貢	S 54	S 31	S 54
三野村貢	S 55	S 32	S 55
三野村貢	S 56	S 33	S 56
三野村貢	S 57	S 34	S 57
三野村貢	S 58	S 35	S 58
三野村貢	S 59	S 36	S 59
三野村貢	S 60	S 37	S 60
三野村貢	S 61	S 38	S 61
三野村貢	S 62	S 39	S 62
三野村貢	S 63	S 40	S 63
三野村貢	S 64	S 41	S 64
三野村貢	S 65	S 42	S 65
三野村貢	S 66	S 43	S 66
三野村貢	S 67	S 44	S 67
三野村貢	S 68	S 45	S 68
三野村貢	S 69	S 46	S 69
三野村貢	S 70	S 47	S 70
三野村貢	S 71	S 48	S 71
三野村貢	S 72	S 49	S 72
三野村貢	S 73	S 50	S 73
三野村貢	S 74	S 51	S 74
三野村貢	S 75	S 52	S 75
三野村貢	S 76	S 53	S 76
三野村貢	S 77	S 54	S 77
三野村貢	S 78	S 55	S 78
三野村貢	S 79	S 56	S 79
三野村貢	S 80	S 57	S 80
三野村貢	S 81	S 58	S 81
三野村貢	S 82	S 59	S 82
三野村貢	S 83	S 60	S 83
三野村貢	S 84	S 61	S 84
三野村貢	S 85	S 62	S 85
三野村貢	S 86	S 63	S 86
三野村貢	S 87	S 64	S 87
三野村貢	S 88	S 65	S 88
三野村貢	S 89	S 66	S 89
三野村貢	S 90	S 67	S 90
三野村貢	S 91	S 68	S 91
三野村貢	S 92	S 69	S 92
三野村貢	S 93	S 70	S 93
三野村貢	S 94	S 71	S 94
三野村貢	S 95	S 72	S 95
三野村貢	S 96	S 73	S 96
三野村貢	S 97	S 74	S 97
三野村貢	S 98	S 75	S 98
三野村貢	S 99	S 76	S 99
三野村貢	S 100	S 77	S 100

教育委員一覧表

氏名	委員	長	任期
田中正經	S 27	S 11	S 8
門脇松次郎	S 28	S 5	S 11
小瀬戸貢	S 30	S 10	S 9
川村武夫	S 31	S 11	S 10
小野村貢	S 31	S 10	S 9
小野村貢	S 35	S 13	S 32
三野村貢	S 37	S 13	S 31
三野村貢	S 41	S 25	S 37
三野村貢	S 42	S 16	S 41
三野村貢	S 43	S 20	S 43
三野村貢	S 44	S 21	S 44
三野村貢	S 45	S 22	S 45
三野村貢	S 46	S 23	S 46
三野村貢	S 47	S 24	S 47
三野村貢	S 48	S 25	S 48
三野村貢	S 49	S 26	S 49
三野村貢	S 50	S 27	S 50
三野村貢	S 51	S 28	S 51
三野村貢	S 52	S 29	S 52
三野村貢	S 53	S 30	S 53
三野村貢	S 54	S 31	S 54
三野村貢	S 55	S 32	S 55
三野村貢	S 56	S 33	S 56
三野村貢	S 57	S 34	S 57
三野村貢	S 58	S 35	S 58
三野村貢	S 59	S 36	S 59
三野村貢	S 60	S 37	S 60
三野村貢	S 61	S 38	S 61
三野村貢	S 62	S 39	S 62
三野村貢	S 63	S 40	S 63
三野村貢	S 64	S 41	S 64
三野村貢	S 65	S 42	S 65
三野村貢	S 66	S 43	S 66
三野村貢	S 67	S 44	S 67
三野村貢	S 68	S 45	S 68
三野村貢	S 69	S 46	S 69
三野村貢	S 70	S 47	S 70
三野村貢	S 71	S 48	S 71
三野村貢	S 72	S 49	S 72
三野村貢	S 73	S 50	S 73
三野村貢	S 74	S 51	S 74
三野村貢	S 75	S 52	S 75
三野村貢	S 76	S 53	S 76
三野村貢	S 77	S 54	S 77
三野村貢	S 78	S 55	S 78
三野村貢	S 79	S 56	S 79
三野村貢	S 80	S 57	S 80
三野村貢	S 81	S 58	S 81
三野村貢	S 82	S 59	S 82
三野村貢	S 83	S 60	S 83
三野村貢	S 84	S 61	S 84
三野村貢	S 85	S 62	S 85
三野村貢	S 86	S 63	S 86
三野村貢	S 87	S 64	S 87
三野村貢	S 88	S 65	S 88
三野村貢	S 89	S 66	S 89
三野村貢	S 90	S 67	S 90
三野村貢	S 91	S 68	S 91
三野村貢	S 92	S 69	S 92
三野村貢	S 93	S 70	S 93
三野村貢	S 94	S 71	S 94
三野村貢	S 95	S 72	S 95
三野村貢	S 96	S 73	S 96
三野村貢	S 97	S 74	S 97
三野村貢	S 98	S 75	S 98
三野村貢	S 99	S 76	S 99
三野村貢	S 100	S 77	S 100

教 育 長 一 覧 表（昭和三十一年の法改正以降）

氏 名	教 育 長 任 期	氏 名	教 育 長 任 期
森 田 勇	S 31・10・1～S 43・9・30	野々垣 錦 一	S 59・10・11～S 62・5・19
工 藤 勇 二	S 43・10・1～S 55・9・30	佐々木 達 雄	S 62・6・1～H 8・10・10
生 玉 建四良	S 55・10・11～S 59・10・10	福 島 正 義	H 8・10・11～現在に至る

（『苦小牧市の教育／平成十年度』平成十年 苦小牧市教育委員会などより作成）

他の行政 苦小牧市には昭和二十五年（五〇）以降、苦小牧市条例及び規則に基づいた各界代表による次のよ
委 員 会 うな教育関係の各種行政委員会、協議会が設置されている。

・苦小牧市青少年問題協議会（昭和三十一年九月一日条例第一六号）

同協議会は青少年問題協議会設置法（昭和二十八年法律第八三号）に基づき、苦小牧市青少年問題協議会が設置された。同協議会
は青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立についての調査審議並びに連絡調整を担当し、委員は、①市議会議
員三人以内 ②関係行政機関の職員一人以内 ③学識経験者一五人以内とし委員の任期は二年と定められている。

・苦小牧市社会教育委員（昭和二十五年一月十五日条例第二号）

社会教育に関する諸計画の立案、研究調査に関する事項を担当し、委員の定数は一〇人とし任期は二年としている。

・公民館運営審議会（昭和二十五年一月十五日条例第四号）

公民館が行う各種事業の企画、実施についての調査審議することを担当事項としている。審議会委員は学校代表、各団体代表、学
識経験者で構成し定数は一〇人である。なお、現在は図書館協議会委員と兼務である。

・図書館協議会（昭和六十三年三月二十五日条例第三号・昭和二十六年三月の図書館条例を全文改正）

図書館の運営に関する事業の協議を行う協議会は学校代表、学識経験者、社会教育団体代表一〇人で構成し、委員の任期は二年としている。なお、現在は公民館運営審議会委員と兼務である。

・博物館協議会（昭和六十年七月五日条例第一二号）

博物館法第二〇条の規定に基づき同協議会が設置され、博物館の運営に関する事項を協議するため、学識経験者、学校関係者、社会教育関係者、市議会議員で構成し委員の任期は二年、定数は一〇人としている。

・勤労青少年ホーム運営委員会（昭和四十四年十月二十七日条例第三一号）

勤労青少年の福祉の増進と教養の向上を図るためのホームの運営に関する事項を担当し、勤労青少年学識経験者、勤労青少年の雇用主及び雇用主の配偶者、関係行政機関の職員一五人が運営委員会を構成、二年任期で運営に当たっている。

・女性センター運営委員会（平成六年十月十一日教委規則第三号）

勤労女性、家庭の主婦、学識経験者、勤労女性の雇用主、関係行政機関の職員ら一人で運営委員会を構成し、二年任期で同センターの運営に当たっている。

・学校給食共同調理場運営審議会（昭和四十三年四月一日条例第一〇号）

校長会代表、PTA代表、学識経験者一二人以内で構成する同審議会是一年任期で、学校給食及び共同調理場の運営に関する事項の審議を行っている。

・体育指導委員（昭和三十七年四月十一日教委規則第二号）

スポーツの振興のため市民に対する実技指導、指導助言、体育行事及び事業に協力する体育指導委員は、各域、学校関係者、体育関係団体から定数五〇人以上とし、二年任期で関係事項を担当している。

『『苦小牧市例規類集3（教育・病院・建設）』 平成十年十月加除分 苦小牧市より作成』

注（１）（２）『現代用語の基礎知識』1999 平成十一年 自由国民社

二、教育機関と教育団体

苦小牧市 昭和四十五年（一九七〇）四月一日、教育関係者の強い要望に応えて「苦小牧市教育研究所」が苦教育研究所 小牧市役所三階の教育委員会内に設置され、発足した。研究所開設以前、苦小牧市では現場教師の意欲あふれる自主的な個人研究、自校の研究課題にせまる共同研究および各種研究会や職能団体による組織的な合同研究など教育水準の向上に果たしてきた役割は大きく、その成果も高く評価されていた。

市教育委員会は変転する事態に対処するために、より広範な見地から地域の実態を見極め一層科学的な調査に基づく理論研究、実践研究をはじめ資料提供、教育相談などの奉仕活動を推進するため、公的教育機関として教育研究所設置の方針を固め、同四十五年三月の市議会に「教育研究所設置」について提案、可決されたのである。

研究所の基本構想は条例、規則に沿って他の教育研究所とともに共通したものであるが、組織、運営、事業の具体的方針並びに内容の概要を決定し、併せて各学校から研究委嘱の意向を打診し、研究員の推薦を求め、研究委嘱校と研究員の決定をみた。次いで、同年七月二十七日に研究員、研究委嘱校の初会議を開き、研究主題、研究推進計画をたて、各部門ごとに協議を重ねて実践活動を軌道に乗せて発足したのである。

教育研究所は設立以来すでに三〇年余を経過した。高度な教育理念のもと具体的に、かつ実践的に教育現場ですぐに役立つ教育研究が啓発され、苦小牧教育の流れとなつてその成果が構築されてきた。研究所の運営にかかわつてきた運営委員、所員、研究員、教育相談員をはじめ研究委嘱校などによる多くの人びとの努力の足跡は研究所の磐石な

基盤となった。

また、歴代の研究員が取り組んできた実践研究は目を見張るものがあり、その貴重なレポートが収録された『研究紀要』は、すでに七八号を数え苦小牧の最高の教育財産となった。一方、研究委嘱校の実践研究は延べ七六校にのぼり市内の各小中学校が研究指定を受け、それぞれの学校の独自性を生かし時宜にかなった主題が設定されて、学校ぐるみの共同研究による合意形成が図られ展開されてきた。

研究主題を大別すると、①授業改善の研究、②学校・学級経営の研究、③生徒指導の研究、④特別活動の研究、⑤視聴覚・放送・パソコン教育の研究等のほか安全教育、体力づくり、学習評価、性教育研究などに分類でき教育の全領域にわたっていることが実証され、この委嘱研究は二カ年の継続研究が定着し、さらに発展していくことであろう。研究所の広報活動としての刊行物に所報「潮流」、教育情報誌「ひろがり」「教育の広場」等がある。特に教育の広場は昭和五十八年（八三）七月に創刊号が発刊され、現在までに四六号の発刊を終えた。道内でもユニークな情報誌で当面する教育課題を取り上げ、教師集団の日常の教育実践を紹介しながら情報を提供し、教育のあり方を考え合い、学び合う素材としての問題提起をする役割を果たしてきた。

昭和四十年代（六五）に入って「教育相談」の微増傾向が見られるようになった。このため同四十五年度（七〇）



教育研究所の発行物

には研究所内に教育相談の窓口が開設された。このことが苦小牧における教育相談の草分けとなった。昭和四十六年（七二）の十一月には「教育相談指導の手引き」を作成、各教育関係機関から高く評価された。

相談者数は同五十年代（七五）後半から年々うなぎ上りに激増した。平成元年度（八九）の相談件数は三九〇件となり過去最高の数値となった。個々の事例は領域分類ができるほど簡単なものでなく、ある定義づけされた用語でくくれるものではなかった。

わけでも心身症的傾向の子どもたちが増えて、社会問題にまでなった「登校拒否」一つとっても研究所、学校、家庭のみの対応では対処しきれない状況となった。従って各医療機関との密接な連携が急務となり、研究所ではあらゆる手だてを尽くして相談業務に当たっている。ちなみに平成九年度（九七）の相談件数は一四六件であった。¹

研究所業務の中で特色あるものに、小学校社会科副読本「のびゆく苦小牧」の編集、発行がある。これは研究所開設以前の昭和三十年（五五）八月、当時の苦小牧市教育研究会社会科部会の酒井仁之進、大矢稔らが編集、市教委が発行した苦小牧郷土読本「伸びゆく苦小牧」が初版であった。

研究所が開設された後は、研究所業務に包括されるようになり「のびゆく苦小牧」として継続編集されてきた。この間、市の急速な発展による社会環境の変化や「学習指導要領」の改訂等で過去一三回の修正、改訂が行われてきた。ごく最近の全面改訂は社会科教科書が横書きになった昭和六十二年（八七）四月のことであった。この時の改訂版は初めてA四判のカラー印刷となり三、四年生共用の合本で一三七ページの豪華版となった。郷土苦小牧の具体的な社会事象や地域素材を教材化し、子どもたちが生き生きと楽しく学習する授業づくりへの足がかりとなっている。

苦小牧市教 苦小牧市教育研究会は昭和二十七年（五二）三月十七日に、参加校一八校、会員二四四人をもって育研究会 発足し、初代会長には加藤虎雄が選出された。しかし、同三十七年度（六二）以降、わが国の教育環

境は勤務評定、日米安保、指導要領改訂、全国一斉学力テスト、特設道徳問題、そして苦小牧では王子争議による後遺症など激変の渦の中にあった。

こうした現状認識から教師集団は当然のように、校長を中心に統一した学校経営を進めようとする動きが出てきた。苦小牧西小の「主体的学習」、勇弘中の「VTR放送教育」、光洋、和光中の「特設道徳の具体的研究」などがその典型的なものであった。特に勇弘小の「道徳教育の方法」に啓発された各学校は年次ごとに継続研究の積み上げ方式を導入していった。

苦小牧市の急速な発展による新設校と大幅な人事異動から他管内からの転入教職員が急増し地域が広くなり、同研究会の会員数も増大していった。しかし、教職員本来の研修活動と組合活動に対する討議が不十分で、市教育研究会の全員参加による研修体制は、ついに組合分裂によつて崩壊した。昭和四十年（六五）五月十九日のことであった。

苦小牧市の教職員は四分五裂、北教組、苦教組、無所属、校長会、教頭会に分かれ職員室には重苦しい空気が漂い、反目の日々が続いた。このような異常事態の中で苦小牧教育の停滞を憂える同志は次第に打開策を求めて動き出し、同四十一年（六六）七月「苦小牧市教育研究会連絡協議会」の創立総会を開催、会長に近江謙三清水小学校長を選出して市教育研究会の再建に乗り出した。

単位研究会が次々と再発足し、組合の分裂に関係なくほとんどの教職員が自らの研修の場を求めて加入した。従前の教科研究部会、教科外研究部会は直ちに再出発した。

再発足直後に登録された単位研究部会は十七部会であったが、その後、図書館、教育評価、特殊教育、生徒指導などの研究部会が結成されていった。これらの単位研究会の研究行事や対外的な交渉窓口は一切、連絡協議会があたり市教育委員会との補助金交渉にも当たっていた。

また、単位研究会への加入については強制化を避けて任意加入制としたが、全員加入を期待したものであった。これは対立感情やイデオロギーの持ち込みを回避しようとする配慮からであった。しかし、「学テ問題の審理」が進む昭和四十五年（七〇）ごろから北教組と道教委との対立関係が激しさを増し、北教組苦小牧市支部も同研究会連絡協議会に対し研究会の「自主、民主、公開」の三原則を掲げて、年二回の全体研究会への不参加体制を指示するようになった。このような実情を何とか打開しようと同連絡協議会の幹部は、再三にわたり北教組苦小牧市支部執行部と交渉を続けたが妥協点を見出せず、結局、同四十九年度（七四）までは一部不参加者を出しながら全体研究会を続けざるを得なかった。

同五十年（七五）になって苦小牧市教育研究会連絡協議会（会長・佐藤誠治和光中学校長）は北教組、苦教組の両執行部と徹底した話し合いを幾度となく繰り返し、難航の末によりやく合意に達することができ、同年四月三十日に市内全教職員参加のもとに教育研究会総会を開催することができた。

役員構成では佐藤が会長に就任し、教頭会、北教組、苦教組、無所属の各組織を網羅した中から選出するという苦心の配慮がなされた。こうして苦小牧市内七〇〇人の全教職員が一堂に会したのは、実に十年間もの空白の後のことであった。

同五十九年（八四）から同六十年代（八五）にかけて教育現場は生徒の問題行動が表面化し、いわゆる「荒れる学校」が出現した。特に中学校では生徒の世代闘争ともいえる校内暴力、つっぱり、いじめ問題が起り、家庭や地域の教育力の低下が社会問題となった。

学校や教師の力だけでは解決できない深刻な問題であっただけに、各研究部会をはじめ市教育研究大会や市PTA研究大会などで、ことあるごとに父母および一般市民に呼びかけ、教育の現状を訴え理解と協力を求める運動を精力

的に展開した。

苦小牧市教育研究会の平成十年度研究部会

() は会員数

教科部会

- ① 国語教育研究部会 (四八)
- ② 社会科教育研究部会 (四三)
- ③ 算数・数学教育研究部会 (五二)
- ④ 理科教育研究部会 (五一)
- ⑤ 生活科教育研究部会 (一一)
- ⑥ 音楽教育研究部会 (三七)
- ⑦ 保健体育教育研究部会 (三五)
- ⑧ 造形教育研究部会 (八三)
- ⑨ 技術・家庭教育研究部会 (一九)
- ⑩ 英語教育研究部会 (二二)

教科外部会

- ① 特別活動研究部会 (一九)
 - ② 道徳教育研究部会 (二二)
 - ③ 生徒指導研究部会 (二二)
 - ④ 書教育研究部会 (九)
 - ⑤ 視聴覚教育研究部会 (二三)
 - ⑥ 図書館教育研究部会 (三三)
 - ⑦ 演劇教育研究部会 (一三)
 - ⑧ 環境公害教育研究部会 (三二)
 - ⑨ 国際理解教育研究部会 (二一)
 - ⑩ 新聞教育研究部会 (六六)
 - ⑪ 進路指導研究部会 (一一)
- 特別部会

- ① 学校事務研究部会 (三八)
- ② 特殊教育研究部会 (六一)
- ③ 複式教育研究部会 (八)
- ④ 養護教員研究部会 (三六)

『第二四定期総会議案書』研究部会の会員数 平成十年 苦小牧市教育研究会

校長 会 苦小牧に校長会が設置されたのは昭和二十二年(四七)四月のことで、苦小牧西小学校長の萬谷直と教頭会 吉が初代会長に選任され、同三十五年(六〇)三月までの一四年間、苦小牧教育界の重鎮としてその

苦小牧市史（追補編）

責務を果たした。なお、本会は胆振管内校長会に所属していた。昭和二十三年（四八）四月一日、苦小牧は市制施行により苦小牧市校長会を設立、市内全小中学校長（一〇人）がその構成員となった。

同四十二年（六七）四月には全道的な動きもあつてこれまでの小中学校長会が分化して、苦小牧市小学校長会と苦小牧市中学校長会に分かれた。

苦小牧市教頭会は同四十一年度（六六）から全道一斉に各支庁別に校長昇任試験が実施され、これにより全道教頭会の組織化が進んだ。本会では同四十三年（六八）に北海道公立学校教頭会に加盟して活動を開始した。

校長会・教頭会一覧表

名 称	会 長 名	所 属	会 員 数	設 立 年 月 日	備 考
苦小牧市小学校長会	板垣 晨	泉野小学校	二一	昭和22年4月	
苦小牧市中学校長会	山川 修	和光中学校	一四	" 42年4月	
苦小牧市教頭会	松岡勝昭	啓北中学校	三六	" 43年4月	

（『教育名簿』 平成11年度 苦小牧市教育研究所）

注（一）『苦小牧市教育研究所報告』 平成十年 苦小牧市教育研究所

三、学校給食と学校保健

苦小牧市の 本市において本格的な学校給食が開始されたのは、昭和二十三年（一九四八）七月に「苦小牧市学校給食 校給食委員会」が設立されてからである。初期の学校給食は、PTA会費の中で実施され、学校給食委員会は企画、運営、物資購入、調理の奉仕などにおいて積極的に協力した。

同二十八年（五三）六月には、児童の心身の健全な育成と国民の食生活の改善をうたって「学校給食法」が公布された。

当初の学校給食は各学校において行われていたので、学校間においてかなりの格差があったといわれる。

同四十三年（六八）五月六日、苦小牧市に第一学校給食共同調理場（給食センター）がオープンした。このことにより「センター方式」となって従前の「自校給食方式」は一部を除き姿を消した。食材料費の安価仕入れ、栄養基準の確保、さらには現場教師の給食業務からの開放など、そのプラス面が多く大いに歓迎された。

ただ、給食費をめくりさまざまな論議が起こった。同四十二年（六七）の文部省の発表では、一食あたり平均単価が富山県の四六円四四銭、山形県の四四円四六銭が上位を占め、北海道は三三円六一銭、苦小牧市は三六円であった。文部省が同四十三年（六八）の給食費補助金として算出した一食単価では、小学校で三九円五〇銭であったから苦小牧市の三六円は下位グループに属していた。

苦小牧市学校給食会は同四十三年（六八）五月の第一学校給食共同調理場の開設と同時に発足し、主として学校給食会計の運営管理に当たることとした。会長は教育長とし、副会長は学校教育部長、校長、PTA代表の三人とした。理事は校長、PTA代表で構成し、業者選定、物資購入、給食献立、給食指導の四専門委員会を設け、より良い学校



ランチルームでの給食風景

給食の会計運営に当たった。

また、苫小牧市学校給食共同調理場運営審議会は、同調理場の適正な運営を図るため、教育委員会の諮問に応じて同調理場の運営について審議するとし小学校長、中学校長、小学校PTA会長、中学校PTA会長、苫小牧保健所、医師会、薬剤師会、市議会、駒澤短期大学、商工会議所、市経済部長ら学校給食について識見を有する者（一人）で構成されていた。

給食費については昭和五十一年度（七六）まで小学校では年額二万四、〇〇〇円、月額二、〇〇〇円で、一食当たり一二〇円、中学校では年額二万八、八〇〇円、月額二、四〇〇円で、一食当たり一四四円であったが、次表のように据え置き期間を置きながらも、物価の上昇、人件費の高騰などにより給食費の大幅な増額があった。すなわち、平成十年度（九八）には、小学校では年額で一万六、二〇〇円アップの四万二、〇〇〇円、月額で一、三五〇円アップの三、三五〇円（約一・六七倍）に上昇し、中学校では年額で一万八、九六〇円アップの四万七、七六〇円、月額で一、五八〇円アップの三、九八〇円（約一・六六倍）となった。そこで、平成八年度（九六）苫小牧市の月額給食費（小学校三、一五〇円、中学校三、七五〇円）を、全道・全国に比較してみると、小学生は全道平均（三、五〇三元）より三五三元、全国平均（三、六三一元）より四八一円安く、中学校も全国平均（四、一五八円）より四〇八円、全国平均（四、一五九円）より四〇九円安くなっていた。^{（一）}

この間、学校給食は教育の一環として行われてきたが、より効率的な運営と経営のため、民間委託も検討されてお

り、過去にも食中毒問題を引き起こしており、児童・生徒の給食だけにその点では最善を尽くして努力していく必要がある。

苦小牧市学校給食費の推移一覽（昭和五十年以降）

年 度	月 額	小 学 校				中 学 校			
		一食単価	一 食		内 訳	月 額	一食単価	一 食	
			主 食	牛 乳				主 食	牛 乳
昭和50年度	二、〇〇〇円	二、〇〇円	二六・一五円	二三・〇七円	七〇・七八円	二、四〇〇円	一四四円	三一・五六円	二三・〇七円
51年度	二、〇〇〇円	二、〇〇円	二七・九円	二五・三三円	六六・七五円	二、四〇〇円	一四四円	三三・五九円	二五・三三円
52年度	二、〇〇〇円	一三三円	三〇・一九円	二五・八七円	七四・九四円	二、六五〇円	一五九円	三七・二九円	二六・八七円
53年度	二、一〇〇円	一三三円	三一・三二円	二七・三五円	七三・三四円	二、六五〇円	一五九円	三八・五一円	二七・三五円
54年度	二、三〇〇円	一三八円	三〇・一一円	二七・三五円	八〇・五四円	二、八五〇円	一七一円	四一・一六円	二七・三五円
55年度	二、五〇〇円	一五〇円	三三・三四円	二八・一四円	八八・五二円	三、〇五〇円	一八三円	四四・九五円	二八・一四円
56年度	二、七五〇円	一五〇円	三四・六九円	二八・三四円	一〇・一九七円	三、三〇〇円	一九八円	四六・九〇円	二八・三四円
57年度	二、八五〇円	一七一円	三八・六三円	二八・三四円	一〇・四〇三円	三、四〇〇円	二〇四円	四八・九一円	二八・三四円
58年度	二、八五〇円	一七一円	三九・九〇円	二九・三四円	一〇・二七六円	三、四〇〇円	二〇四円	四九・九八円	二八・三四円
59年度	二、九五〇円	一七七円	四〇・六〇円	二九・三四円	一〇・七〇六円	三、五〇〇円	二一〇円	五〇・五三円	二九・三四円
60年度	二、九五〇円	一七七円	四〇・九八円	二九・三四円	一〇・六六八円	三、五〇〇円	二一〇円	五二・〇五円	二九・三四円
61年度	二、九五〇円	一七七円	三九・九七円	二九・九八円	一〇・七〇五円	三、五〇〇円	二一〇円	五五・〇七円	二九・九八円
62年度	二、九五〇円	一七七円	四二・七三円	二九・八八円	一〇・四・九円	三、五〇〇円	二一〇円	五八・八〇円	二九・九八円
63年度	二、九五〇円	一七七円	四二・一五円	二九・七〇円	一〇・三・八円	三、五〇〇円	二一〇円	五八・〇四円	二九・七〇円
平成元年度	二、九五〇円	一七七円	四四・七二円	三〇・二五円	九九・〇・円	三、五〇〇円	二一〇円	五九・五八円	三〇・二六円
2年度	二、九五〇円	一七七円	四四・五〇円	三〇・二二円	一〇・二・九円	三、五〇〇円	二一〇円	五九・六六円	三〇・二二円
3年度	三、一五〇円	一九四円	四五・五八円	三〇・五四円	一七・八八円	三、七五〇円	二二〇円	五二・七八円	三〇・五四円
4年度	三、一五〇円	一九四円	四九・七七円	三〇・七一円	一三・五五円	三、七五〇円	二二〇円	五六・七六円	三〇・七一円

苦小牧市史（追補編）

平成5年度	三、一五〇円	一九四円	四七九六円	三二・二四円	二四八〇円	三、七五〇円	二三〇円	五七八六円	三二・二四円	一四〇九〇円
6年度	三、一五〇円	一九四円	四八六二円	三二・二四円	二四一五円	三、七五〇円	二三〇円	五八五五円	三二・二四円	一四〇・一四円
7年度	三、一五〇円	一九四円	四八・二二円	三二・二五円	一四六四円	三、七五〇円	二三〇円	五七七二円	三二・二五円	一四〇・二二円
8年度	三、一五〇円	一九四円	五〇・二〇円	三二・七九円	一一二・〇一円	三、七五〇円	二三〇円	五〇・二四円	三二・七九円	一三七九七円
9年度	三、一五〇円	一九四円	五三・七七円	三三・四二円	一〇七八二円	三、七五〇円	二三〇円	五五九九円	三三・四四円	一三二・六〇円
10年度	三、一五〇円	二〇六円	五七・八五円	三三・四〇円	一一五七五円	三、九八〇円	二四五円	七二五五円	三三・四〇円	一四一・〇七円

『学校給食の概要』 平成十一年 苦小牧市学校給食共同調理場

苦小牧市の栄養基準

学 年	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂肪 g	カルシウム mg	鉄 mg	A	B1	B2	C
小学低学年	六一五	二・三・五	摂取エネルギーの二五	二七〇	三・一	六三八	〇・三八	〇・五三	二二
小学高学年	六八〇	二・七・〇	ギターの二五	三三〇	三・三	七二三	〇・四三	〇・五九	二二
中学生	八二〇	三・三・〇	〇・三〇%	四三〇	四・〇	七五〇	〇・五一	〇・七〇	二七

苦小牧市の給食献立

品 目	回	数	内 容
ごはん	週3回	小学校 月・水・金 中学校 月・火・木	まぜご飯、手巻きすし、ちらし寿司等
パン	週1回		スライスパン、メロンパン、クロワッサン、ハンバーガーパン、レーズンパン、ジャミールパン、バターパン、黒糖パン、甘納豆パン等
めん類	週1回		スパゲッティ、ラーメン、うどん、そば等（いずれもホットめん）
牛乳	週5回		

『学校給食の概要く別表』 平成十一年 苦小牧市学校給食共同調理場より作成

苫小牧市の 苫小牧市学校保健会（会長・佐久間三八王子病院院長）は、昭和三十九年（六四）二月に設立された学校保健会だ。これは同三十三年（五八）施行の「学校保健法」及び「学校保健法施行令」等、一連の法令によつて学校における健康診断、伝染病予防、環境衛生、安全点検等についての実施方法や基準などを具体的、効果的に実施できるよう研究活動を進め、児童生徒の健康の保持増進を図るというものであった。

さらに、学校薬剤師の設置、就学時の健康診断が新しく実施されるようになり義務づけられた。また、「学校安全法」「学校給食法」の施行とともに学校における健康増進の重要性が位置づけされたことも「学校保健会」設立の背景にあった。

同保健会の会員は幅広く小中学校、高校の教師、養護教諭をはじめ幼稚園、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA会員、学校保健関係者らで組織化されて講演会、講座、研究発表会等が開かれ研究成果とその実績が構築されていた。

市内の児童生徒の健康診断、予防接種、健康管理等については学校医部会が単独で市教委と交渉し実施されていたが、同五十年代（七五）に入り児童生徒数の増加に伴い、小児科、内科医師のみでは定数を満たすことができず、しかも学校保健あるいは児童生徒の健康管理については地域医療の中でも大きな比重を占めるものと考えられ、これを医師会直轄の事業として全会員の協力が必要との考えから、同五十四年（七九）四月十六日の学校医部会総会に提案されて医師会への移管を承認、正式に学校保健委員会が発足した。

同医師会内に学校保健・学校医委員会、小児成人病対策委員会、学校心臓検診委員会の三委員会を平成六年度（九四）から「学校保健部会」に統合し現在に至っている。

第二節 教育の抱える問題点

一、新しい問題への取り組み

心の豊かさ 高齢化、高度情報化、国際化などの急激な社会変化とともに、科学技術が著しく進歩し、自由時間が増大するなかで、人びとの価値観は「物の豊かさ」から「心の豊かさ」を求める傾向が強まってきた。

一方では、市民の生涯学習に対する関心と意欲が高まり、生活のなかに楽しみや生きがいを見いだすための趣味や教養の学習、文化・スポーツ活動などがますます盛んになってきた。

このような社会環境の変化のなかで、市民一人ひとりが個性や能力を伸ばしたり、経験や知識を発揮して生きがいのある生活を送るために、個人の自発性や主体性にもとづき生涯を通じて学び続けることが一層重要となった。

昭和五十年代（七五〇）以降、「ゆとりのある教育」「人間性豊かな教育」を目標としながら「教育危機」といわれる事態を避けることはできなかった。わが国の教育改革を目指す中央教育審議会が設置され、当面する教育課題をふまえ教育にかかわる諸問題について文部省へ答申されてきた。特に平成三年（九一）四月の審議会最終答申は「生涯学習の基盤整備について」によって基本方向が示され、教育改革の推進策が提案された。

高度経済成長がもたらした社会環境の激変に、文部省は中央教育審議会や臨時教育審議会、教育課程審議会の答申を受け「心の豊かさ」を求める生涯学習の重視を提唱したのである。

苫小牧市においては、豊かな文化都市の基礎を築くとともに、自然条件を生かした工業都市化への着実な歩みにより、道南、道央における経済、文化の進展に重要な役割を果たしてきた。しかしながら、都市化現象に伴う人間疎外や生活環境の複雑化といった新たな問題が生じた。

したがって苫小牧市の求める都市像は、市民憲章にうたわれているように、豊かな大自然のなかで高度の福祉と文化を調和させ、相互の愛情と強い連帯意識に結ばれた市民すべてが生きがいのある郷土づくりに情熱を注ぐことが、より大切である。そのためには生涯教育の視点から、家庭教育、学校教育、社会教育などのあらゆる教育の場を通して目標達成に努めることが肝要であると心の豊かさ教育の到来を告げたのである。¹⁾

苫小牧市教育目標

苫小牧市においては、草創の頃から多くのすぐれた先駆者が北国の厳しい自然を克服し、進取の気性と磨かれた知性を発揮して豊かな文化都市の基礎を築くとともに、自然条件を生かした工業都市化への着実な歩みにより、道南、道央における経済、文化の進展に重要な役割を果たしてきたところであります。

しかしながら、都市化現象にともなう人間疎外や生活環境の複雑化といった新たな問題も生じております。

したがって本市の求むべき都市像は、市民憲章にうたわれているように、豊かな大自然の中で高度の福祉と文化を調和させ、相互の愛情と強い連帯意識に結ばれた市民すべてが生きがいのある郷土づくりに情熱を注ぐことが大切であります。

そのためには、生涯学習の視点から、家庭教育・学校教育・社会教育などあらゆる教育の場を通して目標達成に努めることが肝要であります。

- 一 強じんな身体と豊かな教養をもつ文化人
- 二 道義を重んじ進んで住みよい郷土を建設する社会人
- 三 おう盛な開拓精神と勝れた科学的技術をもつ生産人

『苦小牧市の教育』 平成六年度 苦小牧市教育委員会

学校週 文部省は平成四年（九二）三月二十三日、全国各市町村教育委員会に「学校週五日制の実施について（文初小第一一六四号）の通達を出した。同号の通達では学校教育法施行規則の一部を改正し、幼稚園、小学校、中学校、高等学校並びに盲学校、聾学校及び養護学校において同年九月一日から毎月の第二土曜日を休業日とする学校週五日制を実施するといふものであった。^②

この制度の実施をめぐるのは、教育の現場ではさまざまな論議が起こった。子どもの学校外での休日生活を世話する態勢が整わないまま休日が増えると、非行に走りはしないか、塾通いに拍車がかかって子どもの受験戦争が一層あおられないか、といった親たちの意見が強まる一方、土曜日四時間の授業を他の週休に移して消化しようとするれば、子どもたちに時間的ゆとりもなくなるし、教員の労働強化を招くものだという教員間の意見も高かった。^③

この通達を受けた市教育委員会では学校週五日制の潤沢な推進に向けて検討する「苦小牧市学校週五日制推進委員会（関寺恭朗委員長）を設置した。委員は子どもの育成にかかわる関係者、小中学校長会、PTA連合会、子ども会育成連絡協議会など幅広い十五団体の代表二十人で構成され、土曜日分の授業時数の確保を検討する学校部会と、子どもたちの受け皿や家庭での親子のふれあいの促進を話し合う学校外部会で組織された。

同推進委員会は二回目の会議から実質的な討議に入り、学校関係機関からは週五日制で減る土曜日分の授業の確保、新学習指導要領に伴う新しい学力観の認識、地域の受け皿を知らせる情報ネットワークの整備、五日制実施後の経過

のまとめや問題点に対応する機関の設置、受験産業がますます盛んになることが挙げられた。

父母は、留守家庭児童、生徒の受け皿の用意、受け皿役としてのPTAの役割の見直し、青少年非行の増加についての憂慮などを挙げ、地域団体は企業に向けた週休二日制普及促進の働きかけ、子どもたちを育成する地域指導者の明確な位置付けを必要とした課題解決への基本的方策が検討、協議された。

同推進委員会は平成四年（九二）八月四日に第六回目の会議を開き、九月から始まる学校週五日制推進について協議してきた事項の報告書を市教委に提出した。報告書では新学力観にたつた授業のあり方、教育水準の維持と学習負担、学校週五日制に対する父母の啓発と家庭の教育力、児童生徒の健全育成と非行防止、家庭・地域・学校の連携などの現状、課題、推進方策が箇条書きされ、学校教育、家庭、地域社会のあり方がまとめられた。^④

一方、苫小牧市中学校長会（会長・佐々木和夫東中学校長）では、学校週五日制実施を前に部活動への対応について検討していたが、同四年八月三十一日、休みとなる毎月第二土曜日の午前中について、部活動を自粛し、止むを得ず行う場合も午前十時ごろからにするなどを申し合わせた。特にここ数年はスポーツ活動で練習が加熱気味ということもあり、その成り行きが注目された。

スポーツ都市・苫小牧では、アイスホッケーやスピードスケート、野球などを中心に部活動は活発で、生徒以上に父母が熱心である。このため、一部生徒や父母から、今回の申し合わせについて不満の声も予想された。校長会

学校5日制推進委員会の報告書提出

では、部活動の目的は健全育成や体力づくりにあるので、部活動の希望があった場合は週五日制の趣旨を説明し、理解を求めるよう努力するとして、スポーツ以外の部活動についても同様の措置を取ることにした。

学校週五日制が、毎月第二土曜日だけを休日にする形で実施されることになり、平成四年（九二）九月十二日は全国で幼稚園、小中学校、高校が休日となった。苦小牧市内では、私立の幼稚園や高校も、ほぼ足並みをそろえたので「授業のない日」となった。家庭や地域で子どもたちが自主的に活動する日にしようという市教委の呼びかけで、町内会や地域ではさまざまな行事が企画されたが、予想どおり子ども参加者は少なかった。受験戦争の現実と「ゆとり教育」としての学校週五日制は手探りの中のスタートとなった。

小学校では、父母が家を空ける一、二年生を対象に学校を開放、一六校で一〇五人の子どもたちが教職員のＯＢなどの指導でレクリエーションを楽しんだ。ＰＴＡは、学校ごとに行事を計画したところが目立った。親子ボウリング、校下のごみ拾い、親子サイクリング、花壇整備、親子入浴体験などが行われたが、参加を強制すると五日制は無意味になるのでは、といった声も聞かれた。

学校五日制の二回目となった同年十月十四日、市内ではユニークな地域行事や公共施設での親子向け行事が繰り広げられた。料理講習会や学校も子ども天国にと趣向をこらしたふれあい活動が開かれたり、管弦楽鑑賞の集い、中央図書館では子どもアニメ上映会など多彩なプログラムが展開された。特に公共施設の図書館、温水プールなどはふだんの三―四割増のにぎわいとなった。学校五日制は家庭や地域で子どもを育てる日という意識が芽生え、その日のあり方が少しずつ浸透し始めた。

同六年（九四）十一月二十四日、文部省令第四六号をもって「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」が公布され、同七年（九五）四月一日から施行されることになった。この改正によって学校、家庭及び地域社会の教育全体

のあり方を見直し、社会の変化に対応してこれからの時代に生きる幼児、児童及び生徒の望ましい人間形成をはかる観点から、平成七年（九五）四月から毎月の第二土曜日及び第四土曜日を休業日とする学校週五日制を実施することになったのである。

留意事項として月二回の学校週五日制の実施にあたっては、月一回の学校週五日制の実施の経験をふまえ、各学校においては、①指導内容・指導方法の一層の工夫改善などにより学校教育の質的な向上にさらに努めること、②月二回の学校週五日制の実施に伴って、家庭や地域社会における幼児、児童及び生徒の生活時間が増加することに鑑み、その生活体験、自然体験、社会体験などを豊かにするため、さまざまな活動に参加できる場や機会の充実にさらに努めるとともに、学校週五日制の趣旨について保護者をはじめ広く国民の一層の理解と協力を得るようにつとめることというものであった。⁽⁵⁾

土曜日休みを有意義に過ごそうと同八年度（九六）からの公立学校「週五日制」の月二回実施に伴い、子どもの遊びや学習を取り入れている苦小牧市内の社会教育施設では、より充実した休日を送ってもらおうと施設の特徴を生かした事業で対応することにした。

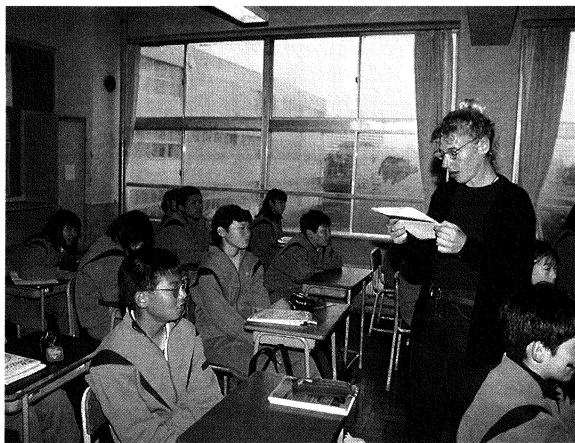
科学センターでは小中学生を対象にした「レッツゴー教室」を第四土曜日に実施、博物館では体験学習を通して郷土の理解を深める「博物館クラブ」、埋蔵文化財調査センターでは「考古学クラブ」を月一回から二回に増やし、中央図書館では土曜休みに合わせて「ビデオ上映会」を開くなど、各施設の趣向をこらした体験学習やイベントが子どもたちの人気を集め、こうして月二回の学校週五日制が徐々に定着していった。

平成八年七月の中央教育審議会答申において、完全実施の方向が示され、同十四年（二〇〇二）からの導入が決まっている。

英語指導助 語学指導等を行う外国青年招致事業（英語指導助手）は昭和六十二年（八七）八月一日から導入さ
手の招致 された。これは地域レベルでの国際交流の進展をはかるため、自治省、文部省、外務省の三省が定める
「語学指導等を行う外国青年招致事業実施要綱」に基づき、外国青年を招致し地域住民との交流に活用するなど、道
及び道内市町村や民間国際交流団体が行う国際交流の推進に資することをその目的とした。

苦小牧市教育委員会では「英語指導助手の設置及び取り扱いに関する要綱」を定め、本市の中学校における英語教
育の改善・充実をはかり、国際理解教育を促進するため、市教育委員会
に姉妹都市（ネーピア市）のあるニュージーランドから英語指導助手を
招致し配置することにし、同六十二年八月一日にスタートした。なお、
道内では苦小牧市のほか滝川市、清里町、生田原町、新得町の二市三町
が英語指導助手を招致した。

同要綱では、語学指導等を行う外国青年の職名を「英語指導助手」と
すること、身分は特別職の地方公務員で教育委員会の非常勤嘱託職員と
すること、任用はニュージーランド「マッセイ大学日本学センター」か
ら斡旋を受けて任用し、任用期間は原則として一年間とすることなどを
定めた。同助手の職務内容は、①指導室長の指示による市教育委員会及
び学校における英語教育 ②中学校の英語担当教員の指示による英語の
発音指導など ③学校長の指示による課外活動への参加及び担当教員の
指示による指導 ④指導室長の指示による英語教材の作成、英語能力コン



英語指導助手の授業風景

テストの審査など ⑤その他、指導室長または学校長に指示された職務などとした。また、勤務条件として週休二日制とし毎週月曜日から金曜日までの勤務で、週時数は二〇時間程度とし休憩、休息、長期休業などの扱いは学校の日課に準ずるなど詳細な勤務規程を定めた。⁽⁶⁾

こうして、苫小牧市における英語指導助手の一番手として任用されたのは、フィオーナ・モーベン・キャンベル（一九六四・一〇・一生、二三歳）であつた。以下、歴代の英語指導助手は次のとおりである。

・ 第一年次	昭和六二・八・一	〃	昭和六三・七・三一	フィオーナ・モーベン・キャンベル
・ 第二年次	〃 六三・八・一	〃	平成 元・七・三一	シヨナ・マーガレット・サロメン
・ 第三年次	平成 二・八・一	〃	二・七・三一	〃
・ 第四年次	〃 二・八・一	〃	三・七・三一	〃
・ 第五年次	〃 三・八・一	〃	四・七・三一	ロクサン・メリー・スミス
・ 第六年次	〃 四・八・一	〃	五・七・三一	セラ・ジェン・クレア・スチュアート
・ 第七年次	平成 五・八・一	〃	平成 六・七・三一	アンドリュウ・デビットソン・マクラ克蘭
・ 第八年次	〃 六・八・一	〃	七・七・三一	〃
・ 第九年次	〃 七・八・一	〃	八・七・三一	ダンケン・ポール・ナイト
・ 第一〇年次	〃 八・八・一	〃	九・七・三一	〃
・ 第一一年次	〃 九・八・一	〃	一〇・七・三一	〃
・ 第一二年次	〃 一〇・八・一	〃	一一・七・三一	〃
〃	〃	〃	〃	キヤステーン・マイネット

※ 第二二年次から英語指導助手は二人制となる。

『英語指導助手に関する資料』 平成十年 苦小牧市教育委員会学校教育指導室

希望の鐘 「希望の鐘」は昭和四十六年（七一）に市政発展を期し苦小牧のシンボルとして、あるいは街並みの設置に情緒を持たせたいとし、そして次代を担う青少年の健全な育成に願いを込めて、新設間もない市民会館の屋上に設置されたのが始まりである。同年十一月三日午後一時から同会館大ホールで待望の完成披露を行った。大泉源郎市長が打ち鳴らしのスイッチを押すと同時に会場と市内に高らかなメロディーが流れた。以来毎日朝八時と夜十時の二回、定期的にメロディーが流されることになった。

希望の鐘の設置計画は同四十年（六五）に打ち出されていたが、同四十五年（七〇）六月になって具体化した。この年苦小牧民報社が創立二〇周年を記念して市に希望の鐘建設資金として一〇〇万円の寄付があり、不足分を市が支出して総額一四〇万円で建設することになった。メロディーは全道から一般公募した一〇四曲の中から苦小牧工業高専学生・三上博章の応募曲が選定された。苦小牧のシンボルとしてふさわしい曲を選択、チャイム音になおした吹鳴曲が一分二〇秒にわたって流された。これが苦小牧における「希望の鐘」の第一号であった。

その後、同六十二年（八七）十一月、苦小牧市PTA連合会や町内会連合会などから苦小牧全市で鐘の音が聞こえるようにとの要請もあり、市では同六十三年（八八）に設置した市民会館の鐘は周辺に高層建築物が建って聞こえなくなっているため、市役所庁舎の改築に合わせてその屋上への移設を検討しており、その中で全市的に聞ける方策を考えていることを明らかにした。

市は「鐘の鳴るまち・苦小牧」としてのイメージアップをはかるため市費による年次計画のもと、各中学校区ごとに「希望の鐘」併設の「ボール時計」を設置することとし、吹鳴時刻を朝八時と夕方五時、夜の八時の毎日三回とし



住吉公園の希望の鐘

て美しいメロディーが全市に流されるように事業化することになった。

「希望の鐘」は青少年の健全育成事業の一環として、昭和六十三年（八八）八月十八日までに勇払中学校と凌雲中学校に取り付けられた。両校校舎の屋根にトランペット型スピーカー三基を設置、IC（集積回路）を使った装置で鐘の音色の電子音楽をともに一日三回、一分二〇秒ずつ吹鳴することにした。音色は設置場所から半径約一キロメートルの範囲でさわやかなメロディーが聞こえるようになった。

同六十三年九月二十五日、市民会館の「希望の鐘」が市庁舎屋上に移設され、勇払、錦岡にも新設されたことを記念して市役所一階の市民ホールで吹鳴披露が行われた。

「希望の鐘」が平成元年（八九）十月五日に新たに澄川小学校、糸井小学校、開成中学校に設置され吹鳴式を行った。今回の設置で希望の鐘の設置は六カ所になった。市教委の設置計画では今後も希望の鐘がついたポール時計を市内の公園などに設置することになった。

市内双葉町の双葉一号公園に市内の公園としては初めて「希望の鐘」が設置された。平成元年（八九）十一月二十二日午後同公園で除幕式と吹鳴式が行われ、住民待望の鐘の音が高らかに地域に鳴りわたった。

同公園に設けられた希望の鐘は、ステンレス製のポール時計とセットで、半径約五〇〇メートルの地域一円に聞こえるものであった。また、同月二十四日には日新町の草笛公園に双葉一号公園に設置したものと

同様の「希望の鐘」が設置され、除幕式および吹鳴式が行われた。

平成二年（九〇）七月十七日、日新小学校で「希望の鐘」の吹鳴式を行った。鐘の設置は当初、夏休み中に予定していたが「苦小牧市子どもを守り、心を育てる」強調月間を盛り上げようと七月設置を決めた。希望の鐘は苦小牧市の発展と情緒あるまちづくり、青少年の健全育成を願い、同月十八日には大成小学校に、同十九日には沼ノ端小学校に、さらに住吉公園にも設置され二カ所となった。弥生中学校では同四年（九二）七月二十三日に「希望の鐘」の吹鳴式を行った。デジタルを内蔵し一日の始まる午前八時と帰宅時間を知らせる午後五時、同八時に鐘の音が響いている。同九年度（九七）には明野中学校に二〇カ所目の希望の鐘が設置された。一方、明野はんのき公園、宮の森二号公園、柏木四丁目公園にもボール時計が設置された。これらの設置費用は総額で希望の鐘は約一、四〇〇万円、ボール時計は約一、八〇〇万円が投じられた。

希望の鐘設置一覧表

昭和四十六年度 ①市民会館屋上（昭和六三年度市庁舎屋上に移設）

〃 六三年度 ①市庁舎、②勇弘中学校、③凌雲中学校

平成 元年度 ④糸井小学校、⑤澄川小学校、⑥開成中学校、⑦双葉一号公園、⑧日新草笛公園

〃 二年度 ⑨日新小学校、⑩大成小学校、⑪沼ノ端小学校、⑫住吉公園

〃 三年度 ⑬北光小学校、⑭樽前小学校、⑮植苗小中学校、⑯明野はんの木公園

〃 四年度 ⑰弥生中学校、⑱宮の森二号公園

〃 五年度 ⑲柏木四丁目公園

〃 九年度 ⑳明野中学校

吹鳴時間 一日三回

朝八時 今日も一日頑張ろう

夕五時 小学校の皆さんお家へ帰りましょう

夜八時 中学生・高校生の皆さん帰宅の時間です

〔希望の鐘について〕 平成十一年 苫小牧市教育委員会青少年課

青少年の 平成元年（八九）一月十日、竹下首相の提案により自治省は「自ら考え自ら実践する地域づくり」海外派遣 事業として全国各市町村に一律一億円の普通交付税を配分する、いわゆる「ふるさと創生」事業を行うことにした。苫小牧市では同年五月二十三日、「苫小牧市こども国際交流基金」を創設し「苫小牧市こども国際交流事業」を実施すると発表した。

これは一億円を基金とし運用果実（利息）で子どもたちの海外派遣・交流事業を行うというものであった。市が行う基金事業については「基金条例」が必要なため、同年六月定例市議会に「同条例設置案」を提案、全会一致で可決された。

苫小牧市こども国際交流基金条例

第一条（設置） こども国際交流事業に必要な経費（以下「事業費」という）の財源に充てるため、苫小牧市こども国際交流基金（以下「基金」という）を設置する。

第二条（積立て） 基金として積み立てる額は、予算で定める。

第三条（管理） 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により管理しなければならない。

第四条（運用益金の処理） 基金の運用から生ずる利益（以下「利益」という）は、一般会計歳入歳出予算に計上して、事業費に充て

るものとする。

2 市長は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、利益の全部又は一部を一般会計歳入歳出予算に計上して、基金に編入することができる。

第五条（繰返運用） 市長は財政上必要があると認めたときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

第六条（処分） 市長は、第一条に規定する目的のために基金の一部を処分することができる。

第七条（委任） この条例に定めるもののほか、基金の管理に関し必要な事項は、市長が定める。

付則 この条例は、公布の日から施行する。

理由

こども国際交流事業に必要な経費の財源に充てるため、基金を設置することとし、本条例を設定する。

（『第一三回 苫小牧市議会定例会議案等綴』平成元年六月 苫小牧市立中央図書館編）

ふるさと創生一億円事業で行う「こども国際交流事業運営委員会」（会長・苫小牧ニュージールランド協会松井郁夫会長、委員十五人）が平成元年（九八）十月に開かれ、同委員会は同二年度（九〇）に小学生のサッカーチームをニュージールランドへ派遣することを決めた。

平成三年（九一）一月十五日から十日間の日程で、市内のサッカースポーツ少年団一四チームから選抜された一八人（いずれも小学六年生）が、こども国際交流事業の第一弾となったサッカーチーム（団長・佐々木達雄教育長）一行（監督、コーチなど総勢二二人）がニュージールランドへ向けて出発した。

滞在期間中、オー克蘭ド、ネーピアの両市を訪問、現地の少年チームとサッカーの親善試合を行ったほか、ホー

ムステイなどを通して交流を深めた。

同事業の高校生海外派遣の一環として、市内の苫小牧中央高校、苫小牧高等商業学校、苫小牧総合経済高校の三校が海外の友好、姉妹校を訪問することになった。その第一陣となった中央高校の派遣団（一〇人）は、平成三年（九二）十月二十一日から四泊五日の日程で同校の姉妹校である韓国の三一（サミル）商業高校、三一工業高校を訪問し体験入学、交歓会、ホームステイなどを通して交流を深めた。

高等商業学校の派遣団（一〇人）は、同三年十一月三日から十日間にわたってニュージーランド・ネーピア市タラデル高校を訪問、現地での授業参加による学校生活体験や福祉施設の視察、ボランティアグループなどと交流を深めた。

総合経済高校の派遣団（一〇人）は、同年十一月四日から同校の友好校であるカナダ・アルバータ州ラコーム高校を訪問し八日間にわたって交流を行った。同校は友好校から姉妹校に正式に締結するほかホームステイによる生活体験などでさらに交流を深めた。

中学生力ナダ派遣団（団長・佐々木和夫苫小牧東中学校長）の一行一三人は、同四年（九二）八月六日から八泊九日の日程で友好親善の使者となり、ネーピア市と姉妹都市関係にあるカナダ・ブリティッシュコロンビア州の州都・ビクトリア市と同州最大の都市バンクーバー市及びラムサール条約登録地のアラクセンを訪問した。苫小牧の姉妹都市ネーピア市を含めた三都市間交流を目指し、中学生の国際的視野を広げ国際化に向けたまちづくりに生かしていく派遣となった。

国際交流小学生派遣団（団長・新谷昭一若草小学校長）一行の三〇人は、同五年（九三）十月九日から五日間の日程でシンガポールとマレーシアを訪問した。現地では観光施設や日本企業、小学校などを見学しシンガポールではジ

ンタイ小学校とシンガポール日本人学校を訪問、歌やリコーダー演奏などで友好を深めた。

高校生オーストラリア派遣団（団長・山内長市企画調整部参与）一五人は平成七年（九五）一月十日から十日間の日程でオーストラリアのシドニーやグリーン島を訪問した。現地ではシドニーの市内見学やボランティアサービス研修、三泊四日のホームステイなどの体験学習を行った。中学生アメリカ派遣団（団長・森下祐宏苦小牧東中学校長）一七人は、同八年（九六）一月四日から十日間の日程でアメリカ・アトランタで三泊四日のホームステイを体験したほか、オーランドのケネディー宇宙センターでスペースシャトル・エンデバーの打ち上げの様子などを見学した。

小学生カナダ派遣団（団長・小山侑美園小学校長）一行一五人は、同九年（九七）一月九日から六泊七日の日程でカナダ・バンクーバー市やビクトリア市を親善訪問した。現地では小学校を訪れて子どもたちと交流したほかホームステイで異文化を体験し実りある交流を深めた。このように同二年度（九〇）から始められた「苦小牧市子ども国際交流事業」は同九年度（九七）までに七回実施され、参加人員は延べ一四二人にのぼり子どもたちのおかげがえのない財産となった。



平成8年の中学生アメリカ・アトランタ等派遣

注(1) 『苦小牧市の教育』 平成十年 苦小牧市教育委員会

(2) 『現行法規総覧20く教育・文化1』 平成十年十月加除分 第一法規出版㈱

(3) 『現代用語の基礎知識く1999』 平成十一年 自由国民社

(4) 『苦小牧民報』 平成四年八月五日号 苦小牧民報社

(5) 『学校教育法施行規則の一部改正について』 平成六年 文部省通知(文部事務次官)

(6) 『英語指導助手の設置及び取り扱いに関する要綱』 平成五年 苦小牧市教育委員会

二、特殊教育の変遷

特殊学級 苦小牧市では、戦後の疲弊と混乱の続く中で特殊教育の研究や実践が進められていた。組織化され

の設置 たのは昭和二十七年(一九五二)三月設立の苦小牧市教育研究会の「ガイダンス部会」であった。このような動きの中で特殊教育の基盤が着々整備され、本格的に軌道に乗ったのは同三十五年(六〇)一月の「精神薄弱児育成会準備委員会」(佐藤玄一会長)の発足であった。

一方、山なみ学園(山なみ分校)は、こうした同育成会の会員を中心に組織された「道立養護学校設立期成会」の有志の力によって結成され、それが全市的な運動として盛り上がりをみせ、今日の「山なみ分校」の開設に結びついたのが同四十一年(六六)四月のことであった。

また、就学指導における判断基準は、①学校教育法施行令第二二条の二、②教育上特別な取り扱いを要する児童・生徒の教育措置(通達)により適切に行われている。就学指導の基本姿勢は、①障害の状態や発達段階に応じた指導、

②障害の程度・内容等の判断にあたつたは、医学、教育学、心理学等科学の成果を尊重し指導、③障害児教育全般の啓蒙を含めた指導に当たつてゐる。

特殊学級設置状況（平成十年度）

小学校名	障害	学級数	在籍数	中学校名	障害	学級数	在籍数
苦小牧東小学校	病弱	一	一	苦小牧東中学校	言語	一	四
苦小牧西小学校	精薄	一	三		病弱	一	五
	肢體	二	一〇		情緒	一	五
若草小学校	情緒	二	一〇	弥生中学校	肢體	〇	〇
	精薄	一	六		精薄	一	五
緑小学校	情緒	二	一	啓北中学校やまなみ分校	精薄	二	一六
	精薄	一	四		情緒	二	一〇
北星小学校	情緒	二	一	合 計		九	五三
	精薄	一	九				
澄川小学校	情緒	二	一	進級指導教室設置状況			
	精薄	一	六				
美園小学校	精薄	二	一〇				
	情緒	一	三				
合 計		二二	一一二	合 計			
		二	一一	小学校名	障害		在籍数
		一	三	澄川小学校	言語		二九
		一	一	苦小牧東小学校	言語		二〇

（『苦小牧の教育』 平成十年度 苦小牧市教育委員会）

・苦小牧西小学校情緒障害学級（はまなす学級）

同校の情緒障害学級は昭和六十年（八五）四月一日に開設された。これは市内の情緒障害学級への入級児童数が増加の傾向にあり、

既設の緑、北星両小学校では指導の限界を超える過密状態にまで膨張していた。さらに将来的展望の中で児童数の減少は考えられない状況下にあった。このため市教委は、緑、北星両小学校の情緒障害学級から一三人の児童を移籍し、二学級が認可となって四人の教員と介添人一人をもってスタートした。

・ 苫小牧西小学校肢体不自由児学級（たんぼぼ学級）

昭和四十九年（七四）五月一日、在宅訪問指導学級として病弱児五人を対象に開設した。同五十年（七五）七月七日に「肢体不自由児学級」として認可となった。肢体不自由特殊学級の教育は、各教材、道徳および特別活動の指導のほかに肢体不自由の状況に応じて、それらを改善するための運動機能や認知能力の向上等に関する指導が重視されている。また、指導にあたっては一人ひとりの障害の状況や発達段階に即した指導を行うよう教材・教具の工夫に細心の配慮がなされている。さらに、指導の改善に努めるとともに通常の学級の児童との交流等を通して社会性や集団への参加能力を高める指導にも十分配慮されている。

・ 若草小学校情緒障害学級（すずらん学級）

平成二年（九〇）四月一日、情緒障害学級（すずらん学級）が開設された。これは障害別に単独の特殊学級を設置するよりは複数の特殊学級を併設する方が、より充実した指導と教育効果を高めることができるという市教委の方針によるものであった。

この結果、緑小学校情緒障害学級の過密化が解消されることになり、しかも遠距離通学を余儀なくされていた子どもたちの問題が解決されて一段と特殊教育の発展、充実がはかれることになった。同月二十六日の開級式では情緒障害の児童六人と若草小学校の在校生四人、新入学の情緒障害児五人の計一五人編成で「すずらん学級」がスタートをきった。

・ 苫小牧東小学校・東中学校言語障害治療学級（ことばの教室）

昭和四十八年（七三）四月一日、苫小牧東小学校に言語障害治療学級（ことばの教室）が開設された。同五十一年（七六）四月一日には苫小牧東中学校言語障害治療教室が認可、苫小牧東小学校内に併設され学級規模は小学校四学級、中学校三学級となった。軌

苦小牧市史（追補編）

道に乗り出した同学級の実践は市の内外に強い反響を呼び、言語障害にかかわる教育相談件数も年々増加の一途をたどっていた。

・苦小牧東小学校、苦小牧東中学校病弱虚弱児学級（院内学級）

昭和五十四年（七九）一月、療養生活を通じ一人ひとりの特性及びその可能性をのびし、よりよい心身の健康回復をめざすことを目標に「院内学級」開設要綱案が市教育委員会と市立総合病院（矢倉安太郎院長）の協議によつてまとめられた。さらに同年二月には同病院と市教委による「院内学級開設に伴う確認事項」をとり交わし開設の準備体制が整えられた。

こうして同五十四年（七九）三月、「苦小牧東小学校院内分教室」として一学級が認可となり、同病院六階の屋上サンルーム、五・八一平方メートルが教室に改造された。通級児童は市立総合病院内に慢性疾患およびそれに準ずる疾患で三ヵ月以上入院している児童のうち医師が認めた者を対象とした。このことにより市内および市外からの児童五人が入級することになり同年五月十一日、開級式を行い院内学級がスタートした。

胆振、日高地区で唯一の院内学級ということもあつて開設以来、市内はもとより市外からの入級者が増加していった。手狭になりつづつた時に市立総合病院の新館病棟が完成した。同五十六年（八一）三月、新装なつた四階小児科病棟の隣接した教室に院内学級を移転し教育環境が整備された。子どもたちは病魔と闘いながらも新しい教室で学習に励んだ。開設当初は小学生のみであつたが、病棟には中学生もあり、同五十五年（八〇）四月からは苦小牧東中学校院内分教室も併置となつた。

・緑小学校情緒障害、精神薄弱学級（ひまわり学級）

昭和五十一年（七六）四月一日、緑小学校情緒障害学級の設置が認可された。当時の苦小牧市における特殊学級の設置概要は、精神薄弱学級が苦小牧西小学校（三五年開設）弥生中学校（三六年開設）、若草小学校（四三年開設）、山なみ分校（四七年開設）があり、肢体不自由学級が苦小牧西小学校（四九年開設）とされていた。

昭和五十年代初めころから情緒障害学級の設置についての緊急度が高まっていた。このため市教育委員会をはじめ関係機関で種々検討が加えられ緑小学校に、市内初的情緒障害学級二学級が認可となった。普通教室二教室を総工費約六〇〇万円で改造、同年十月十六日に工事が完了した。備品および教材教具費には約一六〇万円が充てられ開級準備が着々整えられた。同月十八日には入級判別会議が開かれ入級対象児一三人の決定をみた。同月二十二日からは指導が開始され、同年十一月八日に開級式が行われ同学級のスタートとなった。

・北星小学校精神薄弱、情緒障害学級（あかしあ学級）

苦小牧西小学校特殊学級の過密解消に伴って、苦小牧西部鉄北地区への特殊学級は、昭和五十七年（八二）四月一日、精神薄弱一学級、情緒障害一学級が認可となり、児童数一六人をもつて北星小学校に開設された。このことにより北光、豊川、日新、澄川、明德、錦岡の六小学校などの校区の児童を対象として開設された。普通教室三教室を総工費約七五〇万円で改修し作業室兼給食指導室、学習室、指導室（職員室）、個別学習室、観察室、無刺激室、生活訓練室、父母控室等が設置され新生のスタートを切った。

・澄川小学校言語障害学級（ことばの教室）

昭和六十三年（八八）三月までの市内の言語障害児は苦小牧東小学校の言語治療教室へ通級し治療および指導を受けていた。しかし、通級児が増加、新設の言語障害学級の開設が急務となった。このため市教育委員会は同年四月一日、市内を東西に分け西部地区の言語障害児は澄川小学校の言語障害学級（ことばの教室）へ通うこととし二学級設置認可となり、児童数一五人をもつて開設した。

・澄川小学校精神薄弱、情緒障害学級（つくし学級）

昭和六十三年度（八八）までの市内西部鉄北地区における精神薄弱、情緒障害学級は北星小学校に設置されている「あかしあ学級」のみであった。しかし、障害児学級入級対象児の増加傾向が強くなり、同学級は恒常的な過密現象が続いていた。このため市教育委員会はこれらの状況を緩和、解消するため平成元年（八九）四月一日、澄川小学校に精神薄弱、情緒障害学級の新設を決め二学級設置が

苦小牧市史（追補編）

認可となって児童数九人で開級した。当時、北星小学校は三学級規模の施設に情緒障害学級三学級、精神薄弱学級二学級の計五学級（児童数三三人）という市内で最も過密化の激しい特殊学級であった。

澄川小学校に特殊学級が開設されたことにより、周辺地区の各小学校の障害児が入級対象となり総工費約一、一〇〇万円を充てて普通教室を改修し開設に至った。

・美園小学校知的障害・情緒障害学級（このみ学級）

平成八年（九六）一月二十日、美園小に「情緒」と「知的障害」の二学級の特殊学級を設置することを決めた。緑小から分離する通学エリアは美園小のほか、明野、植苗の両小学校区も含めることになった。鉄北東部地区で人口増が著しいため「緑小の過密化解消対策として美園小に開設することにした」と市教委の方針を公表した。両学級とも定員一〇人で美園小では普通教室を特殊学級用に改装し、併せて理科室を転用したブレイルームを開設した。これで市内の特殊学級併設校は小学校が苦小牧東、苦小牧西、若草、緑、北星、澄川、美園の七校で、中学校は苦小牧東、弥生、啓北の三校となった。

「このみ学級」の開級式が同年四月三十日に同校で行われた。精神の発達に遅れを持つ児童や、情緒に障害の持つ児童五人が入級した。前年度末に校舎の改装工事を行い東側一階の普通教室、特別教室計五室を改装し、このみ学級の職員室、ホール、ブレイルームなどを設けた。

・啓北中学校山なみ分校

啓北中学校山なみ分校の前身は、昭和三十六年（六一）四月、苦小牧西小学校の精神薄弱学級に併設された弥生中学校精神薄弱学級であった。その後、同四十一年（六六）四月、全道的にもハイクラスといわれた啓北中学校山なみ学園の独立校舎が竣工し開校の運びとなった。同四十七年（七二）四月、啓北中学校特殊学級から分校に昇格して「山なみ学園」を「山なみ分校」と改称した。

同分校は建築後二五年を経て増改築を重ねながら経過してきたが、近年になり校舎の老朽化とともに狭隘化が著しくなった。さら

に、生徒の障害の多様化、重度化に対処するため苦小牧市は平成三年（九二）九月二十六日、松風町の同分校を有珠の沢町三丁目に移転改築する方針を固めた。

校舎は雨漏りや傷みなど老朽化が激しい上、重度障害児のための機能訓練室がなく普通教室も不足の状態であった。また、三角形の敷地のためグラウンドも十分に確保できず、さらに付近の道路も狭く交通安全上の問題などが指摘されていたため同分校父母の会は前年、市議会に校舎改築を陳情、採択されていた。

移転先は、現在地から有珠川を挟んだ西側の民有地で面積は約一万二、〇〇〇平方メートルで現在の用地の約一・七倍の広さとなり、建設費は移転費用含め八億五、〇〇〇万円を計上、一般財源のほか跡地の売却益などを充てるとした。

新校舎の工事は同四年（九二）八月十五日に始められ同五年（九三）五月七日、落成記念式典が行われ、新校舎の完成を祝った。とんがり屋根と丸みのある建物が新校舎のシンボルとなつて、生活訓練室など障害者用の施設や親子体育館を整えた近代施設が完備され、二四人の生徒と一六人の職員が一丸となつて新しい校舎での分校づくりを誓い合つたのである。

・ 弥生中学校精神薄弱、情緒障害学級

弥生中学校に精神薄弱学級・情緒障害学級の特設学級が開設されるまでは、市内の中学校の特殊学級は啓北中学校山なみ分校一校のみであった。ところがこの同分校の在籍生徒数は昭和六十三年度（八八）は三三人、平成元年度（八九）には三七人となった。この過密現象を解消すること併せて、山なみ分校校舎の狭隘化を緩和することになり平成二年（九〇）四月一日、弥生中学校に精神薄弱学級（生徒数三人）情緒障害学級（生徒数五人）の設置が認可された。

・ 苦小牧東中学校情緒障害学級（登校拒否生徒相談学級）

昭和五十年代後半から同六十年代にかけて、苦小牧市においても登校拒否生徒は著しい増加傾向をみせた。市内の各中学校ではこれら生徒の対応に最善の指導体制を確立し生活改善への方策を講じて臨んだが、その状況はますます深刻化し現場教師は苦境に立た

された。特に心因性によると思われる登校拒否生徒の指導には、医療機関や専門機関との連携による指導の必要性が急務となり、改善への具体的な手立てが重視されるようになっていった。

市教育委員会は昭和六十三年（八八）十二月、「苦小牧市特殊教育振興委員会」（委員長・佐々木登開成中学校長）を設置、「登校拒否生徒の指導改善について」諮問した。同委員会は同月二十日、第二次答申をまとめ佐々木達雄教育長へ提出した。このことにより苦小牧東中学校内に「情緒障害学級」通称「相談学級」を開設することとし道教育委員会に対し学級認可の申請を行った。こうして、平成元年（八九）四月一日、一学級の設置が認可となった。同中学校に設置された主な理由は、同中学校周辺には博物館、図書館、科学センター、文化会館、教育研究所などがあり社会教育施設を活用することによって教育効果をあげてをねらいとしたからである。同中学校の保健室を約四〇〇万円をかけて改修し二人の教員を配置して開級に至った。

・不登校生徒の適応指導教室（あおば学級）

市教育委員会は深刻化する児童、生徒の不登校対策として「適応指導教室」を開設することを平成八年（九六）二月三日決めた。使用されていない市内青葉町の市長公宅を活用するもので開設のための改修費として五〇〇万円の予算を計上した。道内の自治体でこの種の施設を持つのは苦小牧市は八番目であった。

これは、いじめなどを要因とする不登校問題は、全国的に社会問題化している。苦小牧でも年々増加傾向にあり、市教委では、市内の小中学校で七〇人程度はいるとみていた。市内では、不登校問題に悩む中学生が通う教室として、平成元年（八九）に苦小牧東中学校内に「相談学級」が開設されていた。市教委は学校内に開設されているだけに通学を敬遠する生徒もいるほか、小学生にも不登校が増えていることを重視し、市独自で「適応指導教室」（あおば学級）を開設することになった。

開設場所の旧市長公宅は木造平屋建てで延べ二〇四平方メートルあり、同六年（九四）十一月から入居者がなく空き家状態になっていた。このため市教委は公宅の有効利用、不登校の子どもたちを家庭的な雰囲気指導したいとして活用することになった。そし

て同八年（九六）六月三日から「あおば学級」の入級申し込みの受け付けを開始した。同年二月現在の児童、生徒の不登校調査では小学生で二〇人、中学生で七〇人にのぼった。市教委では同教室のスタッフとして専任指導員二人が教育相談や学習指導にあたることにし委嘱した。

あおば学級の開設準備も整い、社団法人・北海道家庭生活カウンセリングセンターの三級と二級の資格を持つ専任指導員を配置、平成八年（九六）六月十四日から五人の子どもたちを迎えて開級した。その後、専任指導員の異動はあったものの地道な適応指導は現在も続けられ成果を挙げている。

『苦小牧教育史』 平成五年 苦小牧市教育委員会、『苦小牧の教育』 平成十年度 苦小牧市教育委員会

注（一）『苦小牧の教育』 平成六年 苦小牧市教育委員会

三、教育の問題点

いじめ 苦小牧市教育委員会は、全国的に大きな社会問題となつている「いじめ」を防止、根絶対策を強化するため、平成五年（一九九三）七月三十日、全道的視野からいじめ問題に取れ組む「いじめ根絶対策特別委員会」（会長・佐々木達雄教育長）を発足させた。いじめ根絶に関する特別宣言を出し、緊急対策実施計画に基づき、根絶集中学習日の設定などに取り組むことになった。

同委員会の発足は、いじめを一因とする市内中学校生徒の自殺が二件発生したことが契機となった。構成団体は、中学校長会、生徒指導推進委員会、PTA連合会、学識経験者などで緊密な連携を取りながら、いじめ根絶意識の高

場と問題解決を図ることにし、平成六年（九四）三月までを任期とした。

緊急対策実施計画では、錦岡公民館に「子育て相談室」の開設や中学生主張発表大会の主要テーマをいじめ根絶とすること、小中学校の教員が一斉にいじめについて研修するなどとした。同委員会は二月二十四日の最終会議を開き、これまでの取り組みについて報告、情報交換を行った。

小中学校長会、市教育研究所、市教育委員会が中心となつて特別委員会を縮小した形で情報交換の場を設け、各団体の取り組みを確認した。また、「一番大事なのは子どもがいじめを憎み、正義感を持つこと、学校や教師がセレモニー（いじめ根絶集会など）だけで、子どもに思いやりが育つたと思ひ込むのは怖いことだ」「教師は従来の子どものすき間を埋める努力をしなければならぬ」「現代の子の考え方を父母や地域住民が知る場も必要」「学校に出来ない父母には積極的に声をかけたり家庭訪問すべき」など（¹）と活動に対する反省の声や意見が出された。

いじめ防止対策を強化することにした鳥越市長は平成七年（九五）一月、市内の学校を文部省が来年度予算に盛り込むスクールカウンセラー事業のカウンセラー派遣校として「積極的に手を挙げていく」考えを明らかにした（²）。スクールカウンセラー事業は、いじめの被害に遭った子どもや不登校の子どもとの相談役として、臨床心理士などカウンセリングの専門家を定期的に学校に派遣する事業である。スクールカウンセラー派遣校に凌雲中学が

いじめ根絶会議を報ずる新聞

決まり、平成七年（九五）四月一日より事業が開始された。

市教育委員会は「いじめ根絶対策事業」で同年四月二十七日に教員カウンセリング研修を実施した。さらに、同月二十八日からは市教育研究所に二台設置した子ども相談電話「いじめ一一〇番」をスタートさせるなど新たな取り組みを展開して、これまでの取り組みをさらに充実させていくことになった。対策事業としては、教育問題に経験豊富なスクールカウンセラー三人を配置、教員対象のカウンセリング研修、子ども専用相談電話開設と相談員の配置、さらに相談電話の番号を記載したカード、父母用パンフレットを作成して配布することにした。

子ども相談電話「いじめ一一〇番」は午後一時から五時まで受け付け、相談員は民間教育団体、国際スコーレ会員や民生・児童委員などの女性六人で悩みを聞き心を和らげることとした。「いじめ一一〇番」の電話番号を印刷した連絡カードは市内の小中学生約一万九、〇〇〇人全員に配布した。

苫小牧市は、同八年度（九六）以降も「いじめ根絶対策事業」に本腰を入れることにし、新年度予算案に事業費として七三〇万円を計上した。スクールカウンセラーの配置と専用電話相談「いじめ一一〇番」を事業の柱とした。さらに文部省の指定を受けた凌雲中学校のスクールカウンセラーも二年目に入った。減少傾向にあるものの潜在化するいじめ問題に、粘り強く取り組む姿勢を明らかにした。

市教育委員会が同五年（九三）秋から不定期に行っている「いじめ実態調査」によると、同年秋のピーク時に比べ、いじめ件数は三分の一まで減っていることが分かったが、しかしその反面、表面に浮上しないいじめの潜在化も事実とみて同七年（九五）創設した「いじめ根絶対策事業」を継続することにした。

不登校 教育相談を受けている市教育研究所は、昭和六十二年度（八七）の相談受理件数をまとめたが、この間 題 によると相変わらず中学生の相談が八三件（四六パーセント）と最も多く不登校（登校拒否）、学

校嫌い、いじめ、対人関係などの性格、行動に関する相談が全体の七四・七パーセントを占めた。同研究所では教職相談員六人のほか専任相談員一人を常駐、女性の特別相談員を配置し、電話や面談による教育相談対策を強化させた。増加傾向にある不登校の指導を強化するため市教委指導室、青少年課、教育研究所、生徒指導推進委員会が連携して「登校拒否指導特別委員会」（委員長・渡辺正教育研究所長）を昭和六十三年（八八）五月三十日に発足させ、不登校の実態の把握、現状の分析、資料の収集、指導経過の連絡、指導訪問など解決の糸口を探ることになった。

市教育委員会は平成元年（八九）四月から不登校生徒に対処するため、苦小牧東中学校内に情緒障害学級「相談学級」を開設した。これは昭和六十二年（八七）ごろから中学生を中心に不登校が急増、特に長期間において専門的な指導を必要とする生徒に対応するための相談学級とした。

同学級が発足して四年経過した平成五年（九三）四月現在、合わせて三〇人が在席、一七人が進学・就職して一応の成果を挙げた。心因性の不登校で五〇日以上長期欠席者らは昼夜逆転の生活、自室への閉じこもり、対人関係が持てないなどの生徒が同教室で指導を受けた。生徒に見られる症状は、極端な対人恐怖症、母子不分離、忍耐力の欠如などが要因とみられ、特に苦小牧の場合は極端な放任など子育てに対する親の誤った考えがその背景にあった。

同六・七年（九四・九五）ごろから中学生の不登校は減少傾向となったが、小学生の不登校は平成七年（九五）九月段階で過去四年間で四倍以上



旧市長公宅を改造したあおば学級

に急増、低年齢化した。市教育委員会は社会教育課と住吉児童センターの二カ所に生涯学習推進アドバイザーを配置し、家庭教育問題の相談業務（二人体制）を開始した。

教育研究所は不登校が依然なくならない事態を重視し、平成七年（九五）九月から市内すべての小中学校に所員のスクールカウンセラーを派遣し、登校を拒む子どもたちの実態調査を行った。不登校の原因は、学校嫌い、無気力、非行、精神不安などが挙げられ全道、全国的な社会問題ともなった。家庭、学校、社会のさまざまな問題が複雑に絡んで引き起こしている場合が多く、原因を一つに特定できないことが問題の解決を難しくさせていると考え、深刻な不登校問題の解決へ向けて本格的な取り組みを強めた。

市教育委員会は深刻化する不登校対策として同八年（九六）六月十四日から適応指導教室「あおば学級」を開設した。同学級は市内青葉町の旧市長公宅を活用、北海道家庭生活力ウツセリングセンターの三級と二級の資格を持つ二人を専任指導員として配置した。同学級は道内では七番目の開級となった。

男子中学生シン 平成元年（八九）七月一日午後七時ごろ、市内しらかば町二丁目の市が管理する旧下水道ポンプナ―中毒死事故。プ場の地下室で、市内の男子中学生三人が死亡しているのが見つかった。建物の中はシンナーの臭いが充満し、遺体の近くにシンナーの缶があったことから、苫小牧警察署では三人がシンナーを吸っていて中毒死したとみた。ＪＲ糸井駅に近い住宅街を目の前にした現場には、訃報を聞いた級友や学校関係者、父母、付近の住民らが大勢詰め掛け事態を重く受けとめた。

現場の建物は、かつて市の下水道中継ポンプ場として使われていたが、一〇年ほど前から市緑地公園課の資材小屋に使われていた。鉄筋コンクリートづくりで一階と地下室があって、一階には北側と南側にドアがあり、発見当時南側のドアは施錠、北側のドアは閉まっていたものの鍵はかかっていなかった。さらに南側の窓に打ちつけていた板が

外されていた。遺体のそばにはシンナーが若干残った一八リットル缶一個があり、一階にもラッカーシンナーの缶数個とシンナーを吸うのに使ったとみられるビニール袋数枚が散乱していた。

大きな衝撃を与えた中学生男子三人のシンナー中毒死事故で「本当に、中学生にシンナー遊びが流行していたのか」「大規模校ゆえに生徒が起こす問題行動も多く、迅速、適切な対応がとれなかったのではないか」といった疑問が生まれた。市教育委員会の補導統計によると中学生のシンナー乱用による補導者数は、昭和六十年（八五）をピークに急激に減少した。昭和五十九年度（八四）三一人、同六十年（八五）五三人、同六十一年（八六）一九人、同六十二年（八七）一六人、同六十三年（八八）一人と沈静化していた。^④

市議会文教経済委員会が平成元年（八九）七月十一日に開かれ、中学生三人のシンナー中毒死事故に関して佐々木達雄教育長が報告した。同教育長は事故発生について市民に深くおわびすると陳謝、事故の経過と今後の対策について、事故後市内の空き家やたまり場となりやすい公共施設の点検を進めていくほか、有機溶剤管理強化を業者に要請、非行や事故の防止を訴えるパンフレットを全戸に配布したいなどと説明した。また、シンナー取扱事業主に苦小牧警察署と市教育委員会の連名で文書を作成配布することにした。

苦小牧市青少年問題協議会（会長・鳥越忠行苦小牧市長）の臨時会が七月十四日、市社会福祉会館で開かれ、中学生三人のシンナー中毒死事故について市側から説明を受けるとともに今後の対応策について協議した。シンナーをはじめ、非行防止対策を強く推し進めるため、各中学校区別生徒指導連絡協議会の活動を活性化させ、父母や地域の青少年委員などと一体となつて情報収集を行い、市補導センターで集約、対応にあたり、家庭と学校、市教育委員会と地域の連携をより強め、生徒指導の強化・充実を図ることとした。

青少年の健全育成を図ろうと平成元年（八九）七月二十日、市教育委員会青少年課と苦小牧警察署は、青少年有害

環境点検を行った。同署防犯課をはじめ市職員、環境浄化推進委員や市から委嘱されている有害環境モニターなど三〇人が参加し、繁華街を中心に商店などで環境浄化の啓発を行った。JR苦小牧駅前から錦町、大町にかけての繁華街で商店やゲームセンター、パチンコ店などを訪問、チラシを配布して、青少年の健全育成と非行防止のために環境浄化に協力と呼びかけた。特にシンナーなどを販売する小売店に対しては、シンナー乱用防止のチラシを渡し、売ったり、盗まれたりしないよう協力をお願いすると訴えた。

平成元年（八九）七月二十九日、シンナー事故死から一カ月後、再発防止で啓発活動が活発化し、特に市内中学校区ごとの生徒指導連絡協議会が相次いで開かれた。この中で応急対策として重視されたのは地域の危険個所の点検、児童生徒や家庭へのシンナー事故防止啓発活動などであった。

市教育委員会はシンナーの恐ろしさを知らせる啓発活動を、ビデオや印刷物を使った学級指導、家庭への印刷物の配布、地域の懇談会でのビデオ上映などを行った。市青少年補導センターが用意しているシンナー事故防止ビデオテープの貸し出しも増えて利用度が高まり、家庭、教師と生徒の信頼関係づくりが強化されていった。

その他中学 平成時代（八九〜）に入って特に中学生による事件が多く発生し、市民に大きな衝撃を与えたので生の事件 ある。

先ず男子中学生の水死事故は、平成二年（九〇）四月二十九日午後二時一〇分ごろ、千歳市支笏湖畔の湖畔橋付近でトロツコに乗って遊んでいた市内の中学二年生男子三人が水死した事件があった。この事故後、市教育委員会は三十日付けで各小中学校長に対し、事故の再発を防ぐため命の大切さや休日の過ごし方などを徹底させる内容の文書を通達した。

男子中学生鉄道自殺事件は、平成四年（九二）十一月二十日午後四時四〇分ごろ、市内錦岡七一四番地のJR室蘭

本線で、苦小牧発東室蘭行き普通列車に中学校三年男子生徒が飛び込み、全身を強く打って即死した。この自殺事件では死亡した生徒にかなりひどいじめにあっていたことが分かった。市教育委員会は小中学校の臨時校長会を開き、佐々木教育長は緊張感、使命感、教育哲学を持つて学校経営をしてほしいと厳しく指導した。さらに、子どもの心にくい込む指導や職員の断層格差のない組織の確立を求め、再びこのようなことのないよう、問題行動に万全を期して取り組んでほしいと訴えた。⁵⁾

女子中学生自殺事件は平成五年（九三）七月八日昼過ぎ、市内錦岡のJR室蘭本線錦岡駅の手前で、前年の自殺事件と同じ中学校一年女子生徒が貨物列車に飛び込み自殺をした。この生徒が同じ学級の友だちに遺書めいた走り書きを渡していたことが明らかになり、一部の生徒からいじめを受けていたのである。

市教育委員会は女子生徒の自殺事件を重視し、七月九日、臨時校長会議を開いた。佐々木教育長は、自殺の一因とされるいじめの根絶と撲滅、子どもに命の尊さを認識させる指導を厳しく指示した。さらに、命の尊厳を子どもに徹底指導するよう再三指示していたのに、痛ましい事件が繰り返されて遺憾の極みと述べ、同元年度（八九）以降に起きた市内中学生のシンナー中毒死、水死、自殺を振り返って「これまでの教訓が生かされていたのか。緊迫感、使命感、責任感、教育哲学を踏まえて教育運営をしてほしい」と⁶⁾と厳しい口調で訓示した。

女子中学生の自殺事件で札幌法務局は同六年（九四）三月二十九日、同校前校長に「勧告」、市教育委員長と校長にいずれも書面による「要望」を行った。前校長に対する勧告は人権侵犯事件としては、犯罪性が認められる場合の「告発」を除き最も重い措置であった。

女子中学生の覚せい剤事件は平成七年（九五）九月八日に、札幌中央署と道警少年課が市内の暴力団幹部と市内の女子中学三年生二人を覚せい剤取締法違反（使用）の疑いで逮捕した。調べによると同幹部（容疑者）は同月上旬に

自宅や中学生宅で二人の腕に注射器で覚せい剤の水溶液を注射した。これ以外にも同容疑者から覚せい剤を注射してもらい、うち一人は約四〇回使用したという。二人は別々な中学校に通学しており、平成七年（九五）七月下旬ごろ暴走族グループを通じて知り合った容疑者の自宅に出入りしていた。二人のうち一人は同年六月に家族から捜索願が出されており、シンナーをやめるために覚せい剤を打ったなどと供述した。二人の女子中学生と札幌市内で交遊関係にあった仲間が別件で札幌中央署に事情聴取を受け、この調べから今回の覚せい剤使用事犯が浮かび上がり、同署などが捜査に乗り出していた。

この事件は市内の教育関係者に大きな動揺と衝撃を与えた。市教育委員会は緊急校長会議を招集するとともに、生命尊重の精神を子どもたちと呼びかける、児童生徒一人ひとりにとって学校を魅力ある場に、非行問題のある児童生徒には家庭訪問を実施するなど、より家庭との連携を深めるなど学校側の協力を求めた。

覚せい剤汚染は、主婦や未成年者など一般市民に広がっている現状にある。苫小牧署によると同七年九月末までに、覚せい剤取締法違反で二七人を逮捕、前年同期を四人上回った上、女子中学生の使用も発覚し、同署では汚染は市民層に深く浸透しているとして取り締まりに全力を挙げることにした。

中学生の殺人事件は、市内勇払六番地の書店経営者の妻が平成八年（九六）二月二十七日、自宅車庫内で殺害されるという事件であった。この事件で苫小牧警察署と道警本部刑事部の合同捜査本部は同年三月三日夜、殺人の疑いで市内に住む中学三年の男子生徒を逮捕した。事件は発生後五日目で解決した。

調べによると中学生は同年二月二十七日午前零時三十分ごろ同書店宅に侵入したが、これに気づいた経営者の妻の頭を車庫内で石のようなもので殴打し殺害した。主婦は前頭部を激しく殴られており、司法解剖の結果から同日午前一時ごろ死亡したことが分かった。

中学生逮捕の知らせに市教育委員会は三日深夜、佐々木教育長のほか幹部らが集合、大ショックを受けていた。重苦しい雰囲気の中、対応策を検討し四日午前九時から小中学校校長会議を緊急に招集することを決めた。

佐々木教育長は「苦小牧市にとって中学生が殺人容疑で逮捕されるのは初めてで大変な衝撃を受けている」と切り出し「殺人はあるまじき行為であり非常に残念でならない」と緊張気味に経過報告をした。

市内ではかつて「いじめ」を苦にした中学生の自殺が相次ぎ、「思いやり」や「命の尊さ」をはぐくむなど生徒指導がにわかに高まった時期があった。だが、いじめや不登校に限定せず、視野を広げた青少年の健全育成という部分での実践が不十分だったという教育機関内部からの意見もあった。また、女子中学生の覚せい剤事件、殺人事件にしても教育に関する問題だという痛烈な反省も込められ、実のある教育実践が今度こそ求められる重く、やりきれない教訓となった。

注(1) 『苦小牧民報』 平成六年二月二十五日号 苦小牧民報社

(2) 『苦小牧民報』 平成七年一月六日号 苦小牧民報社

(3) 『苦小牧民報』 平成元年七月三日号 苦小牧民報社

(4) 『新聞切抜綴—少年犯罪』 昭和五十年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

(5) 『苦小牧民報』 平成四年十二月八日号 苦小牧民報社

(6) 『新聞切抜綴—学校教育②』 昭和六十一年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

(7) 『苦小牧民報』 平成八年三月四日号 苦小牧民報社

第二章 教育施設の変遷と充実

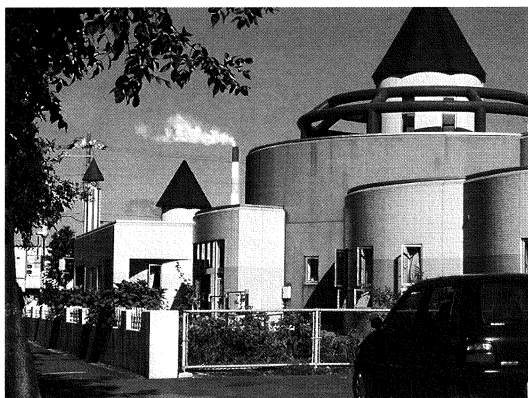
第一節 学校教育の編成と充実

一、市街地の拡大と幼稚園の新設

苫小牧市立は 苫小牧市立苫小牧幼稚園は昭和三十一年（一九五六）一月十八日に入園式を行い、三月十六日に
なその幼稚園 開園式並びに落成式を行った。場所は山手町四六番地（現北光町三丁目）であった。

その後、情勢の変化により新たな幼稚園を設置することになって、同四十八年（七三）四月、市内大成町二丁目
「市立幼稚園大成分園」が開園した。以来、本園と分園による幼稚園教育が進められ、教育目標および保育指導の実
施については共通した教育課程により、相互の交流や連携を深めながら運営されてきた。

同三十四年（五九）に開園した市立苫小牧幼稚園は、同六十年代（八五）になり老朽化が著しく狭隘となった。
そのうえ「新幼稚園教育要領」の改訂に伴い、今日的な幼児教育課題達成のため、一層の公立幼稚園教育のあり方が
求められるようになった。さらに従前、手がけられていなかった障害幼児の就園と、その指導等の問題のために、市
および教育委員会は本園、分園を閉園することにして、新幼稚園を新設する方針を打ち出した。同六十三年（八八）
六月、市教育委員会は「市立幼稚園教育検討委員会」を発足させ、新設幼稚園における幼稚園教育のあり方を諮問し



市立はなぞの幼稚園

た。平成元年（八九）三月、同検討委員会は「苦小牧市立幼稚園教育の振興について」の答申を行った。市教育委員会は、この答申を受けて市内花園町二丁目に約四〇〇平方メートルの用地を確保、面積九〇〇平方メートルの近代的新園舎を竣工した。同三年（九一）四月十二日、新装なった園舎で初の入園式が行われ、同年六月八日には関係者多数参加のもと、新生「苦小牧市立はなぞの幼稚園」（橋浦清司園長）の開園式並びに落成記念式典が盛大に行われ、新たな出発となった。なお、園名は所在地が花園町であることから「はなぞの幼稚園」と名づけられた。

私立 昭和五十年（七五）以降に開園した私立幼稚園は八園あり、幼稚園 既存園と合わせると苦小牧市には二〇園の私立幼稚園があり、それに市立幼稚園が一園である。平成十年（九八）の在園児は三、二三人、教員は二〇七人である。^①

次に新設園の沿革をあげれば次のとおりである。

▼エンゼル幼稚園 学校法人設立認可・昭和五十一年十二月十二日

昭和四十八年（七三）二月、糸井団地内に開設した坂本学園ビノキオ幼稚園（日新町）は定員二八〇人規模であったが、都市化が進み、この地区の人口は急激に増加した。同時に幼児教育に対する地域住民の関心は高く、就園希望となつて毎年定員を大幅に上回る応募数であった。一方、都市開発とともに交通整備も進み、同団地中央部にバイパスが通り住宅街が二分される形となつた。このため園児の安全通園の確保が急務となつていった。このような社会背

景の中、すでに取得していた糸井南地区（しらかば町）の幼稚園建設予定地約五、一〇〇平方メートルに、昭和五十一年（七六）十二月に坂本学園エンゼル幼稚園を設置することになった。

園舎は姉妹園であるピノキオ幼稚園とほぼ同じ造りで、子どもの生活を主体に考え近代的設備を完備した、鉄筋コンクリート建て約一、五〇〇平方メートルの園舎が完成、同五十二年（七七）四月、一二〇人の園児を迎えて入園式を行い開園の運びとなった。その後、同五十三年（七八）には園舎を増築して現在に至っている。

▼苦小牧第二中央幼稚園 学校法人設立認可・昭和五十二年二月二十八日

糸井地区が現在のように都市化が進展しない以前に、中央幼稚園は建設に必要な約一、七〇〇平方メートルの用地を取得していた。これは近接する小学校との連携を保つために適地であるとの立地条件を考慮して、市内桜木町一丁目に「苦小牧第二中央幼稚園」を建設するものであった。同五十二年四月、園舎面積約七一〇平方メートルを総工費七、五〇〇万円をもって竣工した。園舎は落ち着いた中にも子どもたちの夢を育むよう設計された。

▼勇払幼稚園 学校法人設立認可・昭和五十二年四月三十日

勇払地区における幼児教育の創始は、同三十一年（五六）に開設された国策パルプ（現日本製紙）の「会社立国策パルプ勇払幼稚園」であった。これは同社勇払工場従業員子弟の厚生施設として設置されたものである。この勇払幼稚園は厚生施設をも含めてみた場合には、苦小牧における戦後の幼稚園としては最も早い時期の設立であったが、同園は一年足らずで廃園になった。

同四十年代（六五）に入り、勇払地区にも公立の幼稚園が欲しいという声が強まっていた。住民代表が市に対し、幼稚園設置の要請を行ったが、諸般の事情で「市立幼稚園分園」の設置はその実現をみるまでには至らなかった。会社側は地元の強い要望に応えて、同四十九年（七四）に二教室を増設し、一般住民の幼児も入園できる措置を講じた。

その後も幾多の変遷を辿り、昭和五十二年（七七）四月、「学校法人勇払学園勇払幼稚園」の設置が認可となった。同時に会社所有地約三、八〇〇平方メートルを無償貸与とし、総工費約八、〇〇〇万円をもって園舎面積約六〇〇平方メートルが竣工した。こうして同年五月一日、定員一六〇人、四学級の「勇払学園勇払幼稚園」が正式に誕生した。現勇払幼稚園は前述のように「国策バルプ付属勇払幼稚園」を発展的に廃園とし「学校法人」として新生の幼稚園となった。

同五十三年（七八）には、勇払一四二番地に防衛施設庁の補助金を受けて新園舎が完成し、同五十四年（七九）に旧園舎より新園舎へ移転した。平成三年（九一）には三歳児学級を独立させ年齢別学級編制を導入、現在に及んでいる。

▼苦小牧青葉幼稚園 学校法人設立認可・昭和五十三年十二月十三日

青葉幼稚園は昭和五十二年（七七）四月、市内見山町四丁目に敷地約一、〇〇〇平方メートルを得て、総工費約二億五、〇〇〇万円をもって園舎を新築して開園の運びとなったが、正式な学校法人の設立認可を得たのは、翌五十三年（七八）十二月十三日であった。同五十八年（八三）には学校法人北海道徳風学園と青葉学園の合併が認可となり定員二〇〇人となった。同六十三年（九八）には文部省の幼稚園教育研究委囑園となり「生命を守り豊かな人間性をめざす」保育方針を掲げ、開園の精神を健康第一主義とし「健康は一生の宝」「習慣は第二の天性」「努力は天才に勝る」として今日に至っている。

▼ひかりの国幼稚園 学校法人設立認可・昭和五十四年三月五日

昭和四十三年（六八）三月、「原学園ひかり幼稚園」を設立し幼児教育が進められてきたが、同五十四年（七九）四月、国際児童年に意義づけて「ひかり幼稚園」の姉妹園として「ひかりの国幼稚園」が開園した。

市の鉄北系井地区は都市化による人口増加が急速に進む中、市内糸井三五三に約七万九、〇〇〇平方メートルの広

大な敷地に約九七〇平方メートルの園舎を建設、開園に至った。園の周辺は自然の森に囲まれた環境にあり、アカゲラ、カケスなどが巣立ち、クワガタ、シマリスなども生息しており、クリ、コクワ、野イチゴなどが採集でき、四〇株のミズバショウが育ち園児はもちろんのこと地域住民の憩いの場となっている。

▼苦小牧澄川幼稚園 学校法人設立認可・昭和五十五年二月五日

昭和五十年代（七五〇）に入り急増する人口定住化のための土地造成や区画整理事業は、市街地中心部から次第に周辺地区へ拡大していった。特にときわ町と隣接した澄川町一帯の発展は著しいものがあつた。

同五十五年（八〇）二月、浦島満寿夫が市内澄川町三丁目に約一、九〇〇平方メートルの用地を取得、約八三〇平方メートルの園舎を建設して、同年二月に学校法人浦島学園苦小牧澄川幼稚園を開園することになった。同五十五年（八〇）四月十日、三学級、一二人の園児を迎え開園式を行った。その後、同五十六年（八一）には五学級、一七六人となり、同六十年（八五）には六学級、定員二〇〇人が認可となって現在に至っている。

▼青空幼稚園 学校法人設立認可・昭和五十六年四月一日

昭和五十五年（八〇）十二月、「学校法人平館学園青空幼稚園」として設置認可を受けた。市の鉄北西部に位置する市内柏木町二丁目に約三、〇〇〇平方メートルの自然環境に恵まれた用地を取得、総工費一億一、〇〇〇万円をかけて建築面積一、〇〇〇平方メートルの明るくモダンな園舎が竣工した。同五十六年（八一）四月、三学級一二〇人の園児を迎えて入園式を行い開園の運びとなった。その後、同五十七年（八二）には五学級、定員一二〇人、同六十年（八五）には五学級、同一六〇人、同六十三年（八八）には七学級、同二〇〇人、平成二年（九〇）には八学級、同二四〇人の学級編制と推移し、現在は二八〇人の認可定員である。

▼はくちよう幼稚園 学校法人設立認可・平成三年二月十四日

苦小牧市の東部に位置する沼ノ端地区は、近年著しく活気を呈するようになった。特に沼ノ端中小企業団地は準工業地域で、平成二年（九〇）の時点で一七社の企業が進出し操業を開始していた。このことにより急速に人口が膨張した。同年の沼ノ端地区の戸数は約二、五〇〇戸、人口は約七、〇〇〇人となった。

このような状況のもと、住民の子どもの教育に寄せる期待は大きく、特に幼児教育に対する関心が高く、沼ノ端地区にも幼稚園が欲しいという要望が強まっていた。これは遠く市街地の幼稚園へバス通園する幼児の安全性と健康上の問題を憂慮した上のものであったが、何よりも沼ノ端地区における幼稚園教育充実の見地からの願望でもあった。これら住民の声を重視した同地区の有志らが「沼ノ端幼稚園設立期成会」を発足させ、強力な幼稚園設立運動を展開した。こうした地域ぐるみの努力が実って同二年（九〇）九月、沼ノ端二三〇番地に約三、五〇〇平方メートルの建設用地を確保、木造亜鉛葺き平屋約四六〇平方メートルの園舎建設に着手、同三年（九一）二月には設置許可となり、同年三月に総工費約五、五〇〇万円をもって園舎が落成した。

そして、同三年（九一）四月一日、地域住民待望の沼ノ端幼稚園の開園となつて二学級六七人の新入園児の歓声とともに自然体験型「沼ノ端はくちよう幼稚園」が市内二番目の幼稚園、平成年代（八九）初の幼稚園としてスタートした。「はくちよう」の園名はウトナイ湖に遊ぶハクチョウを表象し、自然のもつ豊かさや動物たちの限らない親愛の情を沸かせてくれる恵まれた環境に意義づけをしたものである。

苦小牧市内の幼稚園一覧表

幼稚園名	許可年月日	認可定員	所在地	平成七年五月実績		
苦小牧市立はなぞの幼稚園	S 33・8・31	一四〇	花園町2-11-15	学級数 四	園児数 一三三	教員数 六

注(1) 『苦小牧市統計書』平成十年版 平成十一年 苦小牧市企画調整部企画課
 (2) 『苦小牧教育史』 平成五年 苦小牧市教育委員会

『苦小牧市の教育』 平成十年		苦小牧市教育委員会、『市政概要16』 平成七年		苦小牧市議会事務局	
H		二二〇		五	
苦小牧中央幼稚園	S 35	一八〇	新中野町2	五	一〇
苦小牧聖ルカ幼稚園	36	旭町2	三	一〇	九
苦小牧藤幼稚園	36	双葉町2	七	一〇	一〇
苦小牧藤幼稚園	36	弥生町2	三	一〇	一〇
苦小牧ふたば幼稚園	38	王子町1	三	一〇	一〇
苦小牧聖母幼稚園	39	新富町2	三	一〇	一〇
苦小牧いずみ幼稚園	40	三光町5	八	一〇	一〇
ひかり幼稚園	40	光洋町3	四	一〇	一〇
ピノキオ苦小牧幼稚園	43	日新町3	八	一〇	一〇
錦岡幼稚園	48	明徳町4	三	一〇	一〇
駒沢苦小牧幼稚園	48	美園町1	六	一〇	一〇
苦小牧マーガレット幼稚園	49	清水町2	八	一〇	一〇
エンゼル幼稚園	51	しらかば町5	一〇	一〇	一〇
苦小牧第二中央幼稚園	52	桜木町1	三	一〇	一〇
勇払幼稚園	52	字勇払一四二	四	一〇	一〇
苦小牧青葉幼稚園	53	見山町4	二	一〇	一〇
ひかりの国幼稚園	54	字糸井三五三	八	一〇	一〇
苦小牧澄川幼稚園	55	澄川町3	七	一〇	一〇
青空幼稚園	55	柏木町2	一〇	一〇	一〇
はくちよう幼稚園	59	字沼ノ端二三〇	五	一〇	一〇

二、小学校の新設と廃校

昭和五十年以降に 苦小牧での小学教育施設は、明治九年（一八七六）六月に開設された苦小牧西小学校の前身新設された小学校である苦小牧仮教育所に始まる。同小学校は平成八年（九六）十月六日に開校一二〇周年記念式典を行っている。その後、苦小牧の発展とともに小学校の数も増え（別表苦小牧市の小学校一覧表参照）、昭和四十九年（七四）五月現在で、一五校、三三〇学級、児童数一万二、一三六人（男六、二三九人、女五、八九七人）、教職員四〇九人を数えていた。^①

同五十年（七五）国勢調査の苦小牧市の人口は一三万二、四七七人となり、郊外に新興住宅地の広がりを見せはじめていた。その後も旧糸井、錦岡地区の発展が著しく、同五十年（七五）に糸井小学校、同五十二年（七七）に北星小学校、同五十四年（七九）に澄川小学校、同五十六年（八一）に豊川小学校、同五十八年（八十三）に明德小学校、同六十年（八五）に泉野小学校が一年置きに次々と新設されていった。さらに、明野地区が住宅地化すると平成六年（九四）に明野小学校が新設された。苦東工業基地の開発や営林事業の改革により廃校となった小学校もあったが、同十年（九八）五月現在の苦小牧市の小学校は二一校である。

昭和五十年以降に開校した小学校について、その沿革をあげれば次の通りである。

▼糸井小学校

糸井鉄南地区は、本市の急速な発展に伴い市民の住生活を考慮した機能的なまちづくりの一環として、市は昭和四十三年度（六八）より五カ年計画のニュータウン建設に着手した。道路、排水、緑地の設定、歩道と車道の区分、さらに将来の交通災害に備えてのわが国初の試みであるラドバーン方式を取り入れて造成されていった。同四十四年度

(六九) から一般住宅、商業用地の分譲が開始され、年々住宅建設が進み住宅団地を形成するに至った。このため、この地域からの通学校である大成小学校は急激な膨張をみせ、昭和四十九年度(七四)には三二学級、一、四二八人の児童数となり市内最大規模のマンモス校となった。

そこで市は、あらかじめ予定していた市内日吉町四丁目の公共用地二万七〇〇平方メートルに市内一五番目の小学校の新設を決定した。校舎は鉄筋コンクリート造り三階建て、延べ面積二、九〇〇平方メートル、主体工事費約三億九、〇〇〇万円をもって体育館を除き、同五十年(七五)三月二十日に竣工した。なお、二期工事の体育館六五八平方メートルは工事費約七、九〇〇万円をもって同年(七六)九月十九日に完成をみた。

同五十年(七五)四月一日、「糸井小学校」が設置認可となり、初代校長に生玉建四良が就任、教職員二一人が発令され開校した。校名についてはもともこの地一帯を糸井(戦前は小糸魚…こいとい)と呼んでいたが、歴史的にも意義深い糸井の名を校名に託したいという強い要望により採用された²⁾。

開校式は昭和五十年四月七日、体育館が完成していなかったため、カギの手の廊下で行われた。こうして学校規模一五学級、児童数五一七人をもって「糸井小学校」が誕生した。なお、開校落成記念式典は体育館の完成を待つて十月二十六日に行われた。

糸井小学校児童数・教職員数一覧表 休職者含む、その他は事務補・給食・公務補

年 度		学 級 数		児 童 数		教 職 員 数	
普通	特殊	計	普通	特殊	計	普通	特殊
昭和50年度	一五	一五	五二〇		五二〇	一九	
56年度	一九		七五七		七五七	二三	
58年度	一八	一八	七五五		七五五	二四	
						養護	
						事務	
						その他	
						計	
						三	二四
						三	二八
						一	三一

苦小牧市史（追補編）

	昭和60年度	平成元年度	3年度	5年度	7年度	10年度
	一八	一七	一五	一三	一三	一二
	一八	一七	一五	一三	一三	一二
	七・三三	五・三三	四・九五	四・五八	四・一七	三・一〇
	七・三三	五・三三	四・九五	四・五八	四・一七	三・一〇
	二・三	二・一	一・九	一・七	一・七	一・四
	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一
	四	四	二	二	二	二
	二・九	二・七	二・三	二・一	二・一	一・八

〔苦小牧市の教育〕 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

糸井小学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

（代）	（氏名）	（在任期間）	（代）	（氏名）	（在任期間）
初	生玉建四良	昭和五〇・四～昭和五三・三	六	柿崎成基	平成四・四～平成五・三
二	宮口良作	" 五三・四～" 五八・三	七	細川勝紀	" 五・四～" 七・三
三	佐藤清一	" 五八・四～" 六二・三	八	熊谷敏則	" 七・四～" 一〇・三
四	三上豊	" 六二・四～平成二・三	九	金崎重彌	" 一〇・四～現在に至る
五	新谷昭一	平成二・四～" 四・三			

〔苦小牧市の教育〕 各年 苦小牧市教育委員会等より作成

▼北星小学校

苦小牧市勢の伸展とともに人口急増の著しい糸井団地を含めた鉄北地区の住宅建設は目を見張るものがあつた。昭和五十一年度（七六）の日新小学校は四一学級、一、六三三人の児童数となり仮設のプレハブ教室で急場を凌いできたが、この極限の飽和状態はプレハブ教室を建てるスペースさえ無くなりつつあつた。

このため市教育委員会は、市内糸井三三〇番地（現桜木町三丁目）に市内一六番目の小学校の新設を決定し、同五

十一年（七六）九月に学校建築の工事に着手した。校舎は約三万平方メートルの敷地に、校舎面積約三、五〇〇平方メートルの鉄筋コンクリート造り三階建て、プレハブ方式システム工法を採用、全国的にも珍しい設計で、暖房は電気暖房、明るく近代的な学校建築は各関係者の注目を浴びた。

体育館は本校舎建築より遅れて完成するというのが常例であつたが、本校は苫小牧市振興公社による先行整備が実現し、本校舎の主体工事と同時に着工した。新築工事は順調に進み同五十二年（七七）三月十一日、総工費約三億八、〇〇〇万円をもって竣工をみた。

同五十二年（七七）二月、市教育委員会是一般市民から市内一六番目の小学校の校名を公募した。応募数は二七一人、三四三点の校名候補が寄せられた。校名選考委員会では選考基準により「北星、柏木、啓明、曙」の四種を答申、同年二月十九日の市教育委員会において「北星」という名前は夢と希望がこめられており、子供にも親しめる名前^{（三）}と、正式に「北星小学校」と決定した。

昭和五十二年四月八日の開校式は新装なった体育館で行われ、体育館同時完成は教育上の効果が大きく望ましい前例となった。なお、同校の開校落成記念式典は同年十一月十三日に体育館で行われた。また、学校所在地の糸井三三番地は、同五十四年（七九）十一月の住居表示による町名設定で桜木町三丁目に変更となった。

北星小学校児童数・教職員数一覧表

年					
昭和 53年度	昭和 56年度	昭和 58年度	昭和 60年度		
普通	二四	二一	一九	学級数	
特殊	三	四			
計	二四	二四	二三		
普通	九三	八七	八六	児童数	
特殊	二	二	〇		
計	九三	八九	八七		
普通	二六	二八	二八	教職員数	
特殊	五	五			
養護	一	一	一		
事務	一	一	一		
その他	五	三	三		
計	三五	三八	四〇		

苦小牧市史（追補編）

平成元年度	3年度	5年度	7年度	10年度
二二	二二	二〇	一八	一五
三	三	三	二	三
二五	二四	二三	二〇	一八
七八八	七〇〇	六八六	六三三	五〇三
二四	二四	二二	一五	二二
八二二	七二四	七〇八	六三八	五二五
二五	二五	二七	二三	二〇
五	六	七	七	七
一	一	一	一	一
一	一	一	一	一
六	三	二	三	二
三八	三六	三八	三一	三一

〔苦小牧市の教育〕 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

北星小学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

（代）	（氏 名）	（在 任 期 間）	（代）	（氏 名）	（在 任 期 間）
初	秋山 信慶	昭和五二・四〇昭和五六・三	五	小崎 正司	平成 四・四〇平成 六・三
二	田村 康夫	" 五六・四〇" 六一・三	六	佐藤 英輔	" 六・四〇" 八・三
三	千葉 健三	" 六一・四〇平成 元・三	七	沼田 克弘	" 八・四〇" 一一・三
四	相馬 慶三	平成 元・四〇" 四・三	八	上原 俊昭	" 一一・四〇現在に至る

〔苦小牧市の教育〕 各年 苦小牧市教育委員会等より作成

▼澄川小学校

この地域は、市の中心部より約一二キロ離れた錦岡と呼ばれていたところで、昭和四十年代終わり（一九七三）ころから次第に宅地化が進み、あつという間に住宅地として変貌していった。小学生は錦岡小学校か、日新小学校へ通学していた。しかし、錦岡、日新両校ともに児童数の増加が著しく過密状態になっていてその対応に迫られていた。市教育委員会は過密解消のため市内一七番目の小学校の新設を決定した。

市内澄川町二丁目の学校用地に同五十四年（七九）三月、二万六、六五〇平方メートルの敷地に、主体工事費四億

九、六八〇万円をもって面積四、〇〇〇平方メートルの近代的校舎が竣工した。通学区域は東側は小泉の沢川、西側は通称高専通りとしていたが、宮の森地区は日新小学校に比べて二倍近い通学距離となることから編入反対の声が上がった。

また、その南側にある永沢団地地区は、新設小学校までは約二・二キロとなることから、従来通りとすることが不可能の場合は、区画整理により計画されている幅員一八メートル道路の早期完成と照明灯など通学路の防犯、交通安全施設の完備等を要望した。

こうした協議を経て最終的には日新、錦岡両小学校の過密緩和をはかるという見地から宮の森地区は日新小学校へ永沢団地地区は新設小学校の通学区域とすることが決定した。市教育委員会は新しい学校にふさわしい校名を公募した。この結果二六二件の応募があり昭和五十四年（七九）二月二日、「小糸魚川の澄んだ川の流れるように、清くおおらかな子どもに育つ願いが込められており、地名とも一致していて分かりやすい」として「澄川小学校」と決定した。⁽⁴⁾そして、昭和五十四年四月七日、十八学級、児童数七十一人をもって開校式を行い新しい船出となった。

澄川小学校児童数・教職員数一覧表

退職者含む、その他は事務補・給食・公務補

[illegible]

平成7年度	二九	五	三四	八八九	二九	九一九	三二	八	二	二	四	四七
10年度	二三	三	二六	八三一	三〇	八四七	三〇	七	一	一	二	四一

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

澄川小学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

(代)	(氏名)	(在任期間)	(代)	(氏名)	(在任期間)
初	岸本不五男	昭和五四・四〇昭和五八・三	五	菊地 義雄	平成 四・四〇平成 五・三
二	星川 元昭	〃 五八・四〇〃 六二・三	六	片山 敏之	〃 五・四〇〃 九・三
三	及川 和郎	〃 六二・四〇平成 二・三	七	品川 博之	〃 九・四〇〃 一一・三
四	沼澤 宰	平成 二・四〇〃 四・三	八	柏 征一	〃 一一・四〇現在に至る

各年 苦小牧市教育委員会等よの作成
（『苦小牧市の教育』）

▼豊川小学校

昭和五十五年（八〇）三月、市教育委員会は、北光、日新、北星小学校三校の過密緩和をはかるため市内糸井三四〇番地（現豊川町四丁目）に市内一八番目の小学校の新設に着手することを決めた。一方、同年一月には北星小学校において分離母体三校が分離にかかわる打ち合わせ会議を開き、具体的な業務にとりかかった。分離に伴う移籍児童は北星小学校六三〇人、日新小学校二八〇人、北光小学校九八人の計一、〇〇八人であった。なお、児童用図書、教材教具については北星六、日新三、北光一の比率で充当することにした。PTA会費の図書費として北星二〇万円、日新一五万円、北光三万円を搬出することも決めた。

新設校は校地面積二万六〇〇平方メートルに、鉄筋コンクリート造り三階建ての校舎本体五、四六二平方メートル

体育館一、二〇〇平方メートルの校舎が総工費八億一、七三〇万円をもって昭和五十六年（八一）三月竣工した。校舎はオレンジ、黄、緑、青、白の五色に外壁が塗られカラフルで明るい色合いの近代的な特色をもち、前例のない校舎が建築された。

校名は、市教育委員会が同五十五年（八〇）十二月、一般公募し応募件数一〇六件の中から校名選考委員会で三九点の候補名をあげ、同五十六年（八一）二月十八日、「豊川小学校」と正式に決定した。「知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と、おおらかな人間愛が尽きることがない川の流れるように満ちあふれる」と校名を意義づけた。⁽⁵⁾

同五十六年四月一日「豊川小学校」として認可され、同月九日に二五学級、児童数一、〇二六人をもって開校式を行い同校のスタートとなった。

豊川小学校児童数・教職員一覧表

休職者含む、その他は事務補・給食・公務補

年 度	普 通	学 級	数	普 通	児 童	数	普 通	教 員	職 員	そ の 他	数
昭和56年度	二五	計	二五	一、〇二六	計	一、〇二六	三〇	一	一	五	三七
58年度	二八		二八	一、二二四		一、二二四	三四	一	一	五	四一
60年度	三〇		三〇	一、二四八		一、二四八	三五	一	一	六	四三
平成元年度	三〇		三〇	一、一七一		一、一七一	三六	一	一	六	四四
3年度	二九		二九	一、〇七〇		一、〇七〇	三四	一	一	三	三九
5年度	二七		二七	九九七		九九七	三三	一	一	三	三八
7年度	二五		二五	八六六		八六六	三二	一	一	三	三七
10年度	二一		二一	七四〇		七四〇	二八	一	一	三	三三

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

豊川小学校歴代校長一覽（平成十一年度現在）

初	二	三	四	五	（代）（氏名）	（在任期間）	（代）（氏名）	（在任期間）
高橋 進	田中 正雄	前田登美一	野村 博	畑中 満	昭和五六・四〇昭和三三	六	福井 晋作	平成五・四〇平成七・三
	" 六〇・四〇 "	" 六二・四〇平成元・三	平成・元・四〇 "	" 三・四〇 "	六二・三	七	福島 正義	" 七・四〇 "
		六二・四〇平成元・三	三・三	五・三	八	上原 俊昭	" 八・一〇〇 "	一一・三
					九	丸谷繁太郎	" 一一・四〇現在に至る	

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会等より作成

▼明徳小学校

昭和五十年代（七五〇）に入り、苦小牧市西部の錦岡地区は宅地造成が急ピッチで進み人口が急増した。このため児童数も増加し、同五十三年度（七八）の錦岡小学校の児童数は三二学級、一、二七五人となった。翌五十四年（七九）には、この過密現象を解消するため新設校の「澄川小学校」が分離、開校した。

しかし、過密緩和をはかった錦岡小学校校下は、その後も道路整備と並行して宅地開発に一層拍車がかかり、同五十七年度（八二）には三五学級、児童数一、四〇〇人を超す大規模校となった。これはこの地区に住宅を建て永住しようとする住民が増加したことによるものであった。このような社会背景の中にあつて錦岡小学校の再分離問題は極めて緊急を要する問題となった。

同五十七年（八二）四月、市教育委員会は錦岡小学校の過密緩和と今後の人口増に備え市内一九番目の小学校を新設、一八学級規模で開校することの方針を明らかにした。同年七月十二日には、新設校の通学区区域の説明会が開かれ、

生協第二団地等を含む通学区域とすることの決定をみた。

一方、市教委は新設小学校の校名を一般公募した。その結果一〇九件、九一点の応募があり、昭和五十七年（八二）八月五日、校名選考委員会において校名候補を審査した。「共栄、栄、柏葉、若葉、明德」などの中から同年九月三日の市教育委員会において、「人間性豊かな児童を育成するためと、新しい道徳性を身につけ自主的に実践することのできる児童像を目指すため明德と決め」、正式に「明德小学校」と決定した。⁶⁾

同五十八年（八三）四月八日、一八学級、児童数六七八人規模の「明德小学校」が開校した。

明德小学校児童数・教職員数一覧表 休職者含む、その他は事務補・給食・公務補

年 度	学 級		数		児 童		数		教 職 員 数		
	普通	特殊	計	普通	特殊	計	普通	特殊	養護	事務	その他
昭和58年度	一八		一八	六八七		六八七	二二		一	一	四
60年度	一八		一八	六七二		六七二	二一		一	一	四
平成元年度	一四		一四	四八四		四八四	一八		一	一	四
3年度	一三		一三	三九一		三九一	一七		一	一	二
5年度	一二		一二	三六一		三六一	一五		一	一	二
7年度	一二		一二	三六五		三六五	一五		一	一	二
10年度	一二		一二	三五〇		三五〇	一七		一	一	二

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

明德小学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

（代）（氏 名）	（在 任 期 間）	（代）（氏 名）	（在 任 期 間）
初 山田 和男	昭和五八・四〇昭和六〇・三	三 昆 正之	昭和六二・四〇平成二・三
二 斎藤 定吉	六〇・四〇六二・三	四 松島 和幸	平成二・四〇四・三

苦小牧市史（追補編）

五	千葉 重利	平成 四・四〇	平成 七・三	七	山本 巖	平成 九・四〇	一一・三
六	武田 信昭	"	七・四〇	八	藤田 康	"	一一・四〇
			九・三				現在に至る

（『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会等より作成）

▼泉野小学校

元来、この地域は大部分が住居専用地域の指定で家屋の新築が無秩序、無計画に建設されていた。しかし、土地区画整理事業による環境整備が進められたことにより住宅建築は一段と高まり、昭和五十四年（七九）に開校した澄川小学校の児童数の増加は著しいものがあつた。

開校わずか五年後の澄川小学校は、同五十九年度（八四）には三六学級、児童数一、五五五人の超大規模校にまで膨張した。このため市は同校の過密解消をはかるとともに、将来の人口増を見越して事前に予定していた市内糸井二九九番地（現川沿町四丁目）の公共用地二万五、九〇〇平方メートルに市内二〇番目の小学校を建設することを決めた。

同五十九年（八四）五月より地質調査が始められ、校舎および体育館を含む四、六〇〇平方メートルの主体工事に着手、総工費五億三、六〇〇万円をもって同六十年（八五）三月、一部校地整備を残して完成した。校区は、小糸魚川と小泉の沢川の間の糸井北町第四町内会全域であつた。同年九月には住居表示が実施され川沿町、柏木町および通称はまなす団地が新しい校区となつた。

一方、市教育委員会は校名を一般公募とした。校名の応募数は一八三件、一七七点で「若葉、常盤、朝日、青雲、泉野」などであつた。市教委は「清涼な泉に源を発する小泉の沢川、小糸魚川の流れが自然に潤いを与えている地域の姿を表し清らかな心と愛情、寛容、平和のイメージを象徴している」として同五十九年（八四）六月十二日、「泉野

小学校」と決定した。⁷⁾

昭和五十九年四月八日「泉野小学校」の開校式が行われ、一七学級、児童数六二九人でスタートした。

泉野小学校指導数・教職員数一覧表 休職者含む、その他は事務補、給食、公務補

年 度	学 級 数		児 童 数		教 職 員 数			
	普通	特殊	普通	特殊	普通	特殊	養護	事務
昭和60年度	一八		二六九		二二		一	一
平成元年度	二六		九三七		三三		一	一
3年度	三〇		一、〇六八		三六		一	一
5年度	三〇		一、〇八七		三八		一	二
7年度	二六		九五四		三三		一	一
10年度	二七		九四六		三〇		一	三
								計
								三二六

〔『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成〕

泉野小学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

(代)	(氏 名)	(在 任 期 間)	(代)	(氏 名)	(在 任 期 間)
初	山崎 徹	昭和六〇・四～昭和六三・三	四	三上 保	平成四・四～平成 六・三
二	小泉 豊	〃 六三・四～平成 元・三	五	石坂 迪郎	〃 六・四～〃 九・三
三	高橋 功	平成 元・四～〃 四・三	六	板垣 晨	〃 九・四～〃 一二・三

〔『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会等より作成〕

▼明野小学校

市教育委員会は平成四年（九二）六月、市内明野地区の児童数増加に伴う市内二一番目の小学校の建設計画を明ら

かにした。この構想は同地区の区画整理事業によつて児童数が急増、既存の緑小小学校は三〇学級、美園小は三三学級となりマンモス校を解消するための新設校であつた。

市教委は市内明野新町六丁目に約八億三、〇〇〇万円の学校用地（約二万三、〇〇〇平方メートル）取得費と実施設計費を予算計上した。新設校は当面二二学級をめどにスタートさせたいと考えて校区決定を受けて、平成四年度内（九二）に実施設計に取り組み、同五年度（九三）早々に校舎、体育館の建築に着手して、同六年（九四）四月に開校予定というものであつた。市教育委員会は同四年（九二）十二月二十二日、新設小学校の校名を「明野小学校」と決定した。市教委は十月に校名を公募、一〇五件、五〇種が集まつた。校名選考委員会で校名候補を「明野、新明、明新、明園、明星、明和」にしぼつた。このうち「明野」は、応募数が二五件で一番多く、古くから字名として存在し、地域住民が親しめて分かりやすく、明朗で快活、のびのびしたイメージがあるとして採択した。⁽⁸⁾

ゆとりと潤いをメインテーマにした同校の最大の特徴は校舎の形で、外観を上空から見ると「いかり」や「ハクチョウが翼を広げた」ようにも見え、校舎の中は三階までの吹き抜けや、屋上に三角形のトップライト、大型のステンドグラスなどがあり、日光をふんだんに採り入れられるよう配慮されていた。また、内壁には「四季」をテーマにした森を感じさせるレリーフも施された。

校舎は鉄筋コンクリート造り三階建て六、〇八〇平方メートル、屋内体育館は鉄筋コンクリート造り二階建て一、二二七平方メートルで市内小学校としては二番目の小学校として、同六年（九四）四月七日、緑小と美園小の学区から児童が編入し二三学級・八二七人をもつて新生、明野小学校の歴史のページが始まつた。

明野小学校児童数・教職員数一覧表 休職者含む、その他は事務補、給食、公務補

年 度	学 級 数		児 童 数		教 職 員 数			
	普通	特殊	普通	特殊	普通	特殊	養護	事務
平成7年度	二六	二六	九五四	九五四	三三二	一	一	一
10年度	二七	二七	九四六	九四六	三四	一	二	三
								四〇
								計

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

明野小学校歴代校長一覧 (平成十一年度現在)

(代) (氏 名) (在 任 期 間) (代) (氏 名) (在 任 期 間)

初 柿崎 成基 平成 六・四〇平成一〇・三 二 伊藤 憲司 平成一〇・四〇平成一二・三

『北海道教員関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

静川小学校と柏 苦小牧市の静川、柏原地区は明治末期から開拓者の入植や、炭焼きの入地があつて、静川は二原小学校の廃校 ナルカ、柏原は勇弘遠浅、北松田と呼ばれ、部長(後に区長)が置かれ一つの集落が出来上がつていた。静川には大正四年(一九一五) 九月に設置された二ナルカ特別教授場を経て、仁成花国民学校、昭和二十二年(四七)に静川小学校となつていた。

一方、柏原には大正五年(一六) 遠浅特別教授場が設置されたが、間もなく廃校となり、沼ノ端小学校の通学区になつていた。昭和二〇年(四五) 十一月に政府の緊急開拓事業実施要項により、柏原・弁天への入植者があり、就学児童も三〇人を数えたので、苦小牧町は同二十三年(四八) 二月に沼ノ端小学校柏原分校を設置し、四月一日から柏原小学校として独立した。

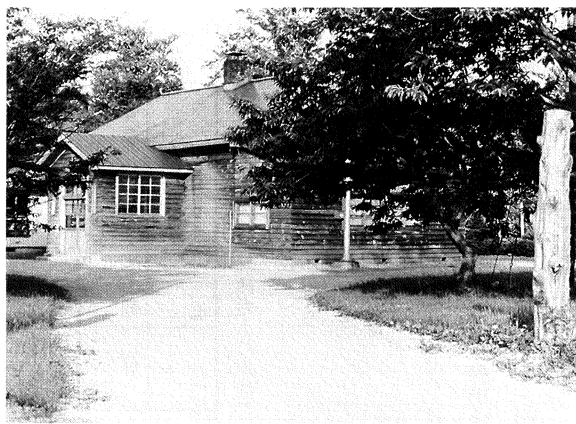
ところが、昭和四十三年（六八）になって道開発庁は第三期北海道総合開発計画において、苦小牧東部大規模工業開発計画を樹立した。いわゆるナショナル・プロジェクトとして国の開発計画が進められることになり、同四十四年（六九）十月から用地買収が開始されたのである。当初は買収に対する反対の動きもあったが、年を重ねるにしたがい一戸、二戸と立ち退きが始まり、児童数も減少していった。

このため市教育委員会は、同四十六年（七一）三月二十一日に静川小学校、三月二十三日に柏原小学校の閉校式を行い、それぞれの学校の歴史を閉じたのである。（※苦小牧市史下巻く第八編社会・文化史参照）

丸山小学 丸山地区は旧営林署の苗圃等に従事する人々で賑わいを校の閉校 見せた時期があった。昭和二十二年（四七）四月から九月にかけて丸山地区に樺太からの引揚者四〇戸の入植があった。このため集落の戸数は一挙に七三戸となった。小学校の児童は三〇余人であったが、丸山地区に小学校がないため約四キロ離れた千歳町烏柵舞小学校（のちの水明小学校）への通学を余儀なくされていた。

毎年冬期間になると約一・二メートルの積雪となり、かつ樽前山ろく特有の猛吹雪に見舞われた。このため唯一の交通機関であった「王子山線」は不通となって通学で全く完全に陸の孤島となった。

このため住民は、丸山にもぜひ小学校を設置しようという気運が高まり、同二十三年（四八）十一月に部落民一同は分校設置に関する陳情書を市及



廃校となった丸山小学校

び市議会に提出した。苦小牧市議会は分校設置を議決し、十二月には道教委の設置認可となった。苦小牧営林署の好意もあつて同署丸山事業所自動車庫(約一〇〇㎡)を借用して仮教室に改造し、苦小牧東小学校丸山分校として昭和二十四年(四九)二月十八日、一学級、児童数三人で、初代分校主任に宮脇公巖が発令され開校式が行われた。同二十六年(五一)四月一日には苦小牧東小学校から分離、独立して丸山小学校に昇格した⁽⁹⁾。

広大な国有林で森林事業に従事していた苦小牧営林署職員は国の行政改革に伴い、その機構が逐次整理統合されていった。丸山事業所もその例外ではなく大幅に縮小された。同五十七年(八二)四月には「たった一人の入学生」とマスコミでも話題になるくらい児童数が減少、マイカーによる通い職員が増加して、児童はわずか四人となった。さらに林野庁行政改革にともなう他へ配置転換もあり、将来的にみても丸山地区の人口増は絶望的となり廃校することになった。

同五十三年(七八)には開校三〇周年記念式が盛大に行われたが、その四年後に丸山小学校の灯は消えた。閉校式および惜別の会は、同五十七年(八二)三月二十七日に行われ、苦小牧市唯一の山間の複式校「丸山小学校」は永遠に消え去ったのである。

丸山小学校児童数・教職員数一覧表 その他は事務補

年 度	学 級 数		児 童 数		教 職 員 数		
	普通	特殊	計	普通	特殊	養護	その他
昭和50年度	二		二	一〇	三		一
53年度	二		二	七	三		一
56年度	二		二	四	三		三
							計
							四 四 四

(『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会、『議会要覧く市政編』 各年 苦小牧市議会事務局)

苦小牧市史（追補編）

丸山小学校歴代校長一覧

（代）（氏名）	（在任期間）	（代）（氏名）	（在任期間）
初 宮脇 公巖	昭和二六・四～昭和二三・九	六 潮 武敏	昭和四七・四～昭和四九・三
二 幅田八十吉	” 三三・一〇～” 三八・三	七 宮口 良作	” 四九・四～” 五三・三
三 奥山 俊光	” 三八・四～” 四一・三	八 阿部 良孝	” 五三・四～” 五五・七
四 木谷 利雄	” 四一・四～” 四五・三	九 入谷 壽一	” 五五・八～” 五七・三
五 木下紀久雄	” 四五・四～” 四七・三		

（『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会等より作成）

注（１）『議会要覧～市政編』 昭和五十年年度版 苦小牧市議会事務局

（２）『開校二〇周年記念誌 糸井』 平成六年 糸井小学校

（３）『新聞切抜綴—学校教育①』 昭和四十八年～同六十年 苦小牧市史編集事務局編

（４）『開校二〇周年記念誌～澄川小学校』 平成十年 澄川小学校

（５）『開校落成記念誌～躍進』 昭和五十六年 豊川小学校

（６）『苦小牧民報』 昭和五十七年九月四日号 苦小牧民報社

（７）『苦小牧民報』 昭和五十九年六月十三日号 苦小牧民報社

（８）『新聞切抜綴—学校教育②』 昭和六十一年～平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

（９）『ああ母校丸山』 昭和五十七年 丸山小学校閉校記念協賛会



特認校樽前小学校

三、特認校の指定と特殊分校

樽前小学校の特認校指定年度（九三）の樽前小学校の全校児童数が一二人まで減少したことについて、越境入学で他地域から児童を受け入れる、通学区域特別認可学校（特認校）とするよう市教育委員会に陳情した。

同小学校は、厳しい第一次産業の情勢に伴い、廃業や後継者流出で児童数が昭和三十三年（五八）のピーク時一四八人から一一人（平成六年現在）まで激減し今後も増加の見通しは極めて薄い状況下にあった。このため住民やPTAで協議会を結成、学校存続と児童数増加策の活動を展開していくことにした。

市教委を訪れた同会長らは「認定校に向けて市の特段の協力を」と陳情書を佐々木達雄教育長に手渡した。同教育長は「全校児童が少なくと集団での修練に欠けるが、高い教育効果が期待できる。豊かな自然環境に恵まれた学校なので廃校は一切考えていない¹⁾との考えを示した。

地域をあげて自然と接する環境の充実をと樽前小で平成六年（九四）九月四日、校舎周辺の自然林約二万五、〇〇〇平方メートルにPTAや地域住民らが幅二・三メートル、延長約三五〇メートルの遊歩道を造成した。同校は豊かな自然の特色を生かした教育環境づくりに地域ぐるみで取り

組、遊歩道ができたことでジョギングや森林浴、動植物の観察など自然教育に役立てることになった。特認校認可に向けて同小では「一人一坪畑」の「たるまえつ子農園」を設け、児童が一区画ごとに名前をつけてトウモロコシなど栽培しているほか、小動物の飼育も計画するなど、より一層、自然豊かな教育方針を打ち出し、特認校の実現に向けて学校と地域が一体となった協力体制がとられた。

樽前小学校は平成七年度（九五）から市内で初めての特認校としてスタートすることになった。地域の過疎化から同校の児童が減少をたどるなか、樽前住民の強い要望が市教育委員会に受け入れられたことになった。同校は開校七十年を越す伝統校で、一学年三〇人近い在籍を数えた時期もあったが、少子化や地域の過疎化から児童数が減少、五十年後には現在の半数にまで落ち込むことが予測されていた。

年度	昭和50年度	56年度	60年度	平成元年度	3年度	5年度	7年度	10年度
学 級 数	普通	三	四	三	三	三	四	四
	特殊							
	計	三	四	三	三	三	三	四
児 童 数	普通	四一	三七	二九	二六	二七	二一	四一
	特殊							
	計	四一	三七	二九	二六	二七	二一	四一
教 職 員 数	普通	五	六	五	五	四	六	六
	特殊							
	養護	一	一	一	一	一	一	一
そ の 他 計	事務					一	一	
	その他	二	二	二	三	二	二	二
	計	七	九	八	九	九	八	〇

794

適正な集団教育という観点から、父母の間で不安が広がり、中には七十年余りにわたり地域の精神的なよりどころとしていた同校の衰退を心配する住民もあつた。しかし、市および市議会は「特認校」の陳情を採択、学校側は指定の条件整備に着手した。学校や地域住民の取り組みが実り、市教育委員会は樽前小学校を特認校に指定、きめ細かな指導で個性豊かな児童を育成する教育実践を支援していくことになった。

平成七年度（九五）から市内在住の入学希望者二人程度を受け入れ、地域の豊かな自然や小規模校・少人数、複式学級の特徴を生かした教育活動を推進、野鳥観察や野菜の栽培、動物の飼育、老人福祉施設との交流、農業見学など授業に取り入れ、豊かな人間性を育てていく方針を明らかにした。

永光学園 永光学園は社会福祉法人「緑星の里」の精神薄弱児施設が開設され、この施設の子供たちをどこで分校の廃止 教育するかという問題が起こった。近くの学校は植苗小中学校であつたが、通学ということになれば、いろいろと面倒な問題があることから、この福祉コロニー中の施設の一部を借り受けて、植苗小中学校の特殊学級を開設することになった。

永光学園分校の設置は、昭和四十五年（七〇）四月一日に特殊学級として認可になった。しかし、担当教員がなかなか決まらず、開設出来ないでいた。たまたま、緑星の里の管理者夫人である森岡誼子が養護学校一級免許状を所持していることがわかり、市教育委員会は本人及び緑星の里の承諾を得て、嘱託教員に発令して学級を担当してもらい、同四十五年（七〇）五月一日に植苗小中学校の特殊学級として開級となった。

同四十六年度（七一）には小学部に二人、中学部に一人の正式教員が配属されて、翌四十七年（七二）四月一日には特殊学級から植苗小中学校永光学園分校に昇格し、本格的な校務活動を開始した。一時は小学部四学級、五〇人、中学部三学級、三四人を数えたこともあつたが、他地での養護学校の開校もあつて、同五十五年度（八〇）以降児童・

苦小牧市史（追補編）

生徒の減少が続ぎ、小学部は昭和五十六年（八一）三月三十一日、中学部は同五十九年（八四）三月三十一日をもって閉校となった。

植苗小中学校永光学園児童・生徒数、教職員数一覧表 教職員その他は用務員

年度	学級数	児童生徒数	教頭	教職員数	その他	計
昭和47年度	小学部 一	小学部 二	一	三		三
48年度	小学部 一	小学部 二	一	三		三
50年度	小学部 一	小学部 二	一	三		三
52年度	小学部 一	小学部 二	一	三		三
54年度	小学部 一	小学部 二	一	三		三
56年度	小学部 一	小学部 二	一	三		三
58年度	小学部 一	小学部 二	一	三		三

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会、『議会要覧く市政編』 各年度版 苦小牧市議会事務局
苦小牧市の小学校一覧表（昭和四十六年三月まで存在した学校）

学校名	開校年月日	所在地	児童数
苦小牧西小学校	明治9・6・10	矢代町3ノ7ノ16	昭和40年 一、一九六 昭和60年 五八〇 平成一〇年 三五九
錦岡小学校	23・4・1	宮前町2ノ30ノ2	二二六 七〇〇 六五四
勇弘小学校	28・10・1	勇弘一四九	六七四 五二二 一九〇
植苗小学校	36・12・11	植苗五〇	五七 八五 八五
沼ノ端小学校	37・4・15	沼ノ端五一九ノ四八	二三六 六〇七 七七〇
静川小学校	大正4・9・1	静川	一一

明野小学校	泉野小学校	明徳小学校	豊川小学校	澄川小学校	北星小学校	糸井小学校	日新小学校	永光学園分校	美園小学校	清水小学校	大成小学校	緑小学校	北光小学校	若草小学校	丸山小学校	柏原小学校	樽前小学校	苦小牧東小学校
平成6・4・8	60・4・8	58・4・8	56・4・9	54・4・7	52・4・8	50・4・7	48・1・19	45・5・1	43・4・6	40・4・6	35・9・1	33・10・1	32・4・5	27・8・1	24・2・18	昭和23・2・2	11・6・12	大正7・9・5
								昭和56・3・31							"	昭和46・3・27		
明野新町6・3・1	川沿町4・5・1	明徳町3・10・3	豊川町4・7・14	澄川町2・4・6	桜木町3・8・6	日吉町4・12・6	日新町3・1・7	植苗一二・一	美園町4・26・2	清水町4・26・2	大成町2・3・2	三光町2・6・5	北光町3・8・2	若草町1・4・5	丸山	柏原	樽前一〇二	旭町3・3・4
									五〇〇	八一三	一、四一四	一、〇一一	一、〇一一	一六	四九	一、六四一	二九	七九八
六二九	六二九	六二九	一、〇〇七	一、〇〇七	九〇七	七一八	一、二五三	一八六	五九九	三九九	六三三	八二〇	五三八	五八九				三九六
九四六	八一〇	三五〇	七四〇	八四七	五〇三	三二〇	七九七	五四二									四一	

※勇払小学校において一時廃校となった時期もあつたが、最初の創立年とした。

〔『苦小牧市の教育』 平成十年度版 苦小牧市教育委員会、『市勢要覧』 各年 苦小牧市より作成〕

注(1) 『苦小牧民報』 平成六年三月二十四日号 苦小牧民報社

(2) 『新聞切抜綴—学校教育②』 昭和六十二年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

四、中学校の新設

昭和五十年以降に 戦後の教育改革により六・三・三・四の新学制が確立して、昭和二十二年（一九四七）五月新設された中学校 一日に義務教育部分の三年制の新制中学校が設置された。しかし、戦後の混乱と食糧難や物資不足により、直ちに新制度への移行には幾多の困難があった。このため、苦小牧において新制中学校が開校したのは、同年六月一日であった。

当初は独立した校舎もなく、小学校や旧制中学校の一部を借用してのスタートであった。当初は苦小牧町立東中学校（勇払分校、沼ノ端分校、植苗分校）と苦小牧町立西中学校（錦岡分校、樽前分校）であったが、その後、苦小牧西中学校は弥生中学校と改称し、分校もそれぞれ独立して単独の中学校になった。

同三十六年（六三）四月十日に和光中学校、同三十七年（六四）四月七日に啓北中学校と光洋中学校、同四十七年（七二）四月五日に開成中学校がそれぞれ開校し、同四十九年（七四）五月現在で、一〇校、一四三学級、児童数五、四九三人（男二、八二五人、女二、六六八人）、教職員数二四四人を数えていた。¹⁾

同五十年（七五）以降において苦小牧市は旧糸井、錦岡地区が住宅地として発展し、また、平成年間（八九〜）に入って明野地区が住宅地となり、昭和五十三年（七八）に明倫中学校、同五十九年（八四）に啓明中学校、平成四年（九二）に明野中学校、同十年（九八）に緑陵中学校が新設された。

昭和五十年以降に開校した中学校について、その沿革をあげれば次の通りである。

▼明倫中学校

昭和三十七年（六二）四月、啓北中学校の開校をみたが、当時糸井地区に散在していた農家の中学生は草原の広が

る悪路を自転車通学をしていた。昭和四十年代（六五）に入り苦小牧市の人口は急激に膨張し、糸井地区では苦小牧市ニュータウン五カ年計画に基づき土地分譲が始まった。このことにより各企業の社宅や一般住宅、商店などが次々に建設され、同四十三年（六八）には戸数六、〇〇〇戸、人口は二万人を超す大団地に変貌した。

このため啓北中学校は同五十年（七五）には二七学級、生徒数一、一二五人のマンモス校となり、同校PTA等より新設中学校の陳情書が提出された。そこで市は日新町三丁目の糸井鉄北地区に市内一番目の中学校を同五十二年（七七）において新設することを決めた。

主体校舎は同五十二年七月二十五日に着手、総工費四億二、〇一四万円で鉄筋コンクリート三階建て、面積三、四二八平方メートルの近代的施設をもつ校舎が、同年十二月二十日に完成した。また、鉄筋造り平屋建て一部二階建ての体育館は、総工費一億二、八八二万円をもつて面積一、〇五一平方メートルが本体工事と同時に完成した。^③

校名は一般公募により一五九件、二二〇点の応募があつた。校名選考委員会では明倫、北陵、北辰の候補名を選定し、同五十三年（七八）一月三十日の市教育委員会において中学校で最も大事とされている人間形成を意味する「明倫中学校」と正式に決定した。^②

同五十三年（七八）四月七日、糸井団地内に明倫中学校が誕生した。

明倫中学校生徒数・教職員数一覧表 休職者含む、その他は事務補・給食・公務補

年度	学級数		生徒数		教職員数		その他	計	
昭和53年度	普通	特殊	普通	特殊	普通	特殊	養護	事務	その他
56年度	一六	一六	六六七	六六七	二五	一	一	一	二
58年度	二四	二四	九九六	九九六	三九	一	一	一	二
60年度	二六	二六	一、〇九二	一、〇九二	四二	一	一	一	二
									四六

苦小牧市史（追補編）

平成元年度	二七	二七	一、一三	一、一三	四三	一	一	五	五〇
3年度	二六	二六	一、〇二〇	一、〇二〇	四二	一	一	三	四七
5年度	二六	二六	九七〇	九七〇	四〇	一	二	三	四六
7年度	二三	二三	八八三	八八三	三九	一	二	三	四五
10年度	二〇	二〇	七四〇	七四〇	三六	一	一	三	四一

〔苦小牧市の教育〕 各年 苦小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

明倫中学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

（代）（氏名）	（在任期間）	（代）（氏名）	（在任期間）
初 渡 辺 正	昭和五三・四〇昭四五五・三	六 古 川 春 朗	平成 五・四〇平成 七・三
二 栗 井 善 市	〃 五五・四〇〃 五八・三	七 原 田 稔	〃 七・四〇〃 八・七
三 宮 野 久 幸	〃 五八・四〇〃 六三・三	八 嶋 原 福 三 郎	〃 八・九〇〃 九・三
四 加 藤 弘 治	〃 六三・四〇平成 三・三	九 河 田 英 雄	〃 九・四〇〃 一〇・八
五 石 田 昌 平	平成 三・四〇〃 五・三 一〇 坂 本 雅 昭	〃 一〇・九〇〃 一二・三	

〔苦小牧市の教育〕 各年 苦小牧市教育委員会等より作成

▼啓明中学校

苦小牧市の急激な発展による鉄北西部地区の児童の急増に対処するため、昭和五十四年（七九）には澄川小学校が開校したが、開校二年目で一、〇〇〇人を超す激増ぶりであった。同校卒業の中学生は、明倫および凌雲の両中学校へ進学していたが、父母、地域住民は澄川地区に中学校の新設を強く要望していた。

市は、明倫と凌雲中の中間点である錦岡四三九番地（現はまなす町二丁目）の通称「はまなすゴルフ場」跡地に

三万三、〇〇〇平方メートルの用地を得て、昭和五十七年度（八二）に市内において一二番目の中学校を新設することを決定した。中学校用地は樽前山麓に位置し、小糸魚川の清流に面し自然に恵まれた閑静な環境にあり、校下は新興住宅地域で、澄川町、ときわ町地区は新築ラッシュで住宅新築に伴う生徒数の増加は著しいものがあつた。

同五十七年（八二）四月、主体工事総額六億二、〇〇〇万円をもって鉄筋コンクリート三階建て、延べ面積約三、五〇〇平方メートルの近代的校舎が完成した。同五十九年四月七日、開校式および入学式を行い、新生の「啓明中学校」が誕生した。生徒は明倫、凌雲両中学校から移籍してきた二、三年生と新一年生の一二学級、四九六人、教職員二十七人のスタートであつた。⁽⁴⁾

校名の「啓明」の意味は、「明けの明星」を目指して飛翔する翼（希望・努力）と書物を開いた形（真理の探求）をダブルイメージさせたもので、希望の星を目指して飛ぶ過程を大切に考えたものである。⁽⁵⁾

啓明中学校生徒数・教職員数一覧表 休職者含む、その他は事務補・給食・公務補

年度	学級数		生徒数		教職員数		その他	計
	普通	特殊	普通	特殊	養護	事務		
昭和57年度	一二		四九六		一一	一	二	二六
60年度	一九		七七五		一一	一	一	三五
元年度	二六		一、〇五七		四二	一	一	四九
3年度	二八		一、一〇五		四四	一	一	四九
5年度	三〇		一、一〇七		四八	一	二	五四
7年度	二六		九七二		四四	二	三	五〇
10年度	二一		七六七		三六	一	二	四〇

（『苫小牧市の教育』各年 苫小牧市教育委員会、『北海道教育関係職員録』各年 北海道教職員組合より作成）

啓明中学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

（代）（氏名）	（在任期間）	（代）（氏名）	（在任期間）
初野宮 俊一	昭和五七・四～昭和六一・三	五 磯部 篤男	平成 六・四～平成 八・三
二 溝江 敏勝	六一・四～平成 元・三	六 松下 正彦	八・四～一〇・三
三 井川 克巳	平成 元・四～四・三	七 川越 俊隆	一〇・四～現在に至る
四 安田 勝	四・四～六・三		

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会等より作成

▼明野中学校

平成三年（九一）九月現在、明野地区と呼ばれる幌内川以東は一、二〇〇戸、五、七〇〇人の人口を数えるまでに発展した。このことにより、この地域の中学生の通学校である和光中学校は同三年五月末には二九学級、生徒数一、一〇〇人のマンモス校となっていた。⁶⁾

このため市は、この過密状態を解消するため既に同地区に市内における一三番目の中学校の新設を決めていた。しかし、この年選挙が行われるため実質的な作業は五月以降に行われた。

同三年五月には市教育委員会は地域住民説明会を開催して校区を、幌内川以東の明野新町、新明町、あけぼの町、柳町、明野元町の六町と決定した。校舎建設場所を市内明野新町三丁目で、敷地三万四一三平方メートル、鉄筋コンクリート造り三階建て延べ四、三一四平方メートル、総工費約七億三、〇〇〇万円で六月に着工した。また、体育館は建築面積一、二〇〇平方メートル、延べ面積一、二〇〇平方メートルで総工費約二億八、〇〇〇万円の総額一〇億一、〇〇〇万円の近代的建築技術を駆使した豪華な学校建築となった。一方、グラウンドは面積一万七、〇〇〇平方

同四年（九二）四月一日「明野中学校」の設置が認可となり、同月八日、一二学級、生徒数四五三人、教職員数二五人の学校規模で開校式を行い、鉄北東部地区初の中学校が誕生した。

明野中学校生徒数・教職員数一覽表

平成4年度	一二	普通	学級数	計	普通	生徒数	計	普通	教員数	養護	事務	その他	計
6年度	一四	特殊			四五三			四五三					
8年度	一六				四八三			四八三					
10年度	一七		六〇二	六〇二	三〇			一一				二二	三四

『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成

明野中学校歴代校長一覽（平成一一年度現在）

(代)	(氏名)	(在任期間)	(代)	(氏名)	(在任期間)
初	森下 祐宏	平成 四・四～平成 七・三	三	中原 照幸	平成 九・四～平成 一一・三
二	山岡 一基	" 七・四～" 九・三	四	柳澤喜美雄	" 一一・四～現在に至る

『苦小牧市の教育』 平成十年 苦小牧市教員委員会

▼緑陵中学校

平成九年度（九七）において錦岡地区の啓明中学校が三一学級、生徒数一、一六四人、凌雲中学校が一四学級、生徒数五二一人となった。市教育委員会はこの過密状態を解消するため、市内一四校目の新設校をのぞみ町に建設することを決めた。

建設工事は同九年六月から始められ同十年（九八）三月に完成した。苦小牧南高校北側の市有地三万二、六八〇平方メートルに鉄筋コンクリート造り三階建て、延べ四、七七〇平方メートルの校舎と、鉄骨造り平屋建て、延べ一、二三七平方メートルの体育館が建設された。総工費は約一七億円であった。校舎内には普通教室一二室、特別教室一二室、管理諸室一〇室などを設置、一階にギャラリーや生徒がくつろげる多目的ホール一一〇平方メートルを設けたほか、障害者用のエレベーターも市内の中学校としては初めて設置したのが特徴となった。また、廊下の両サイドに教室を配置する「中廊下方式」を採用し、廊下は採光性を高めた構造で明るいイメージの校舎となった。⁹⁾

校名は市民からの公募した一七一点の中から地域町内会や校長会代表でつくる校名選考委員会から推薦された中から同九年四月九日の市教育委員会で、緑豊かな丘陵を背景に、明るい心でさわやかに中学校生活を送ってほしいとの願いが込められた「緑陵中学校」と決定した。¹⁰⁾

同十年（九八）四月八日、市内初のブレザー制服を採用した「緑陵中学校」の開校式と始業式が行われ、新しい歴史と伝統づくりのスタートを切った。また、同十年十一月八日には開校落成記念式典が行われ新しい校歌が披露され落成を祝った。

緑陵中学校生徒数・教職員数一覧表 その他は事務補・公務補

年度	学級数		生徒数		教職員数				
	普通	特殊	計	普通	特殊	計	普通	特殊	職員
平成10年度	一一	一一	二二	四二一	四二一	八四二	一一	一一	二二
11年度	一一	一一	二二	四〇〇	四〇〇	八〇〇	一一	一一	二二
									計
									二五
									二四

（『北海道教員関係職員録』 平成十年・同十一年 北海道教職員組合より作成）

緑陵中学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

（代）（氏名）（在任期間）

初 嶋原福三郎 平成一〇・四く現在に至る

（『苫小牧市の教育』 平成十年 苫小牧市教育委員会）

▼山なみ分校の移転と新築

啓北中学校山なみ分校の前身は、昭和三十六年（六一）四月、苫小牧西小学校の精神薄弱学級に併設された弥生中学校精神薄弱学級であった。同四十一年（六六）四月松風町に啓北中学校山なみ学園として独立校舎を新築して移転して、同四十七年（七二）四月に特殊学級から分校に昇格した。

しかし、同校舎は建設から二十五年経過したため、老朽化が著しく、敷地も湿地帯とあって雨水がたまりやすく、父母や学校関係者からは劣悪な教育環境であるとして改築の強い要望が出ていた。

そこで市教育委員会は、平成四年（九二）四月、苫小牧の障害児教育の拠点、啓北中学校山なみ分校の移転改築を明らかにした。

新建設場所は市内有珠の沢町三丁目で、松風町の校舎から北西に約八〇〇メートルの地点に移転することになった。敷地は約一万二、〇〇〇平方メートル、旧校舎の一・六倍の広さを確保し、日常生活に必要な技術を身につける生活訓練棟を併設するほか、グラウンドとは別にアスレチックやあずま屋などを配置した運動広場も開設するなど、屋外 of 教育環境の整備に力を入れた施設規模が計画に盛り込まれた。

同分校の移転改築工事は平成四年（九二）八月に着手されたが、新校舎は鉄筋コンクリート造り二階建て延べ一、二〇〇平方メートルで、管理部門のほか普通教室、情緒教室、特別教室（木工、音楽、視聴覚、家庭科）、体育館などが建設され、建設費約八億七、一〇〇万円であつた。^①

山なみ分校はトンガリ屋根と丸みのある建物がシンボルで、同五年（九三）三月に完成した。落成記念式典が同年五月七日同分校で行われ、生徒とその父母、職員、旧職員、卒業生、教育関係者ら約一〇人が出席し、新校舎の完成

啓北中学校山なみ分校生徒数・教職員数一覧表

その他は事務補・用務補・技職・介添

昭和47年度	普通	学級数
50年度	特殊	
53年度	計	生徒数
	普通	教員数
	特殊	
	計	職員数
	普通	
	特殊	事務員数
	計	
	その他	その他
	計	



移転改築の啓北中山なみ分校

学 校 名	開 校 年 月 日	閉 校 年 月 日	所 在 地	生 徒 数
苦小牧東中学校	昭和22・6・1		旭町1〓7〓10	一、五六六
弥生中学校	22・6・3		弥生町1〓9〓11	一、二二三
勇弘中学校	24・4・1		勇弘一三二	四四九
凌雲中学校	24・4・1		青雲町2〓15〓3	二二一
樽前中学校	26・4・1	昭和31・9・31	樽前	四九
植苗中学校 (併)	26・4・1		植苗50	四九
沼ノ端中学校	36・4・7		沼ノ端五一〓九〓五	一七四
和光中学校	37・4・10		双葉町1〓11〓3	九一
啓北中学校	37・4・7		啓北町2〓12〓11	六六〇
光洋中学校	47・4・5		光洋町2〓5〓2	四九三
開成中学校	47・4・10		清水町2〓9〓2	三三八
山なみ分校	53・4・7		有珠の沢町3〓9〓7	二二
明倫中学校	57・4・9		日新町3〓5〓13	一、〇九二
啓明中学校			はまなす町2〓2〓2	七七五
				七六七

苦小牧市の中学校一覽

(『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成)

昭和55年度	昭和58年度	平成60年度	平成元年度	3年度	5年度	7年度	10年度
四	三	三	五	三	四	三	四
四	三	三	五	三	四	三	四
一六	二一	二一	三五	二五	二四	二七	二六
一六	二一	二一	三五	二五	二四	二七	二六
八	七	一〇	九	九	〇	〇	〇
一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	四	四	二	二
一〇	一〇	九	四	四	一五	一四	一四

苦小牧市史（追補編）

明野中学校 緑陵中学校	平成4・4・8 " 10・4・8	明野新町3〜13 のぞみ町3〜10 1	六〇二 四一〇
----------------	---------------------	---------------------------	------------

※弥生中学校は昭和二十二年六月三日苦小牧西中学校・同二十三年四月一日弥生中学校と改称、凌雲中学校は昭和二十二年六月四日苦小牧西中学校（弥生中）分校・同二十四年四月一日錦岡中学校・同三十一年十月一日凌雲中学校、樽前中学校は昭和二十二年六月四日苦小牧西中学校（弥生中）分校・昭和二十六年四月一日樽前中学校・同三十一年九月三十日凌雲中学校に吸収合併して閉校となる。

（『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合より作成）

- 注（1）『議会要覧』市政編 昭和五十年度版 苦小牧市議会事務局
- （2）『新聞切抜綴―学校教育①』昭和四十八年〜同六十年 苦小牧市史編集事務局編
- （3）『苦小牧民報』昭和五十三年四月八日号 苦小牧民報社
- （4）『苦小牧民報』昭和五十七年四月九日号 苦小牧民報社
- （5）『開校十周年記念誌 啓明』平成三年 苦小牧市立啓明中学校
- （6）『北海道教育関係職員録』一九九一年度版 北海道教職員組合編
- （7）（8）『苦小牧民報』平成三年八月十二日号 苦小牧民報社
- （9）『苦小牧民報』平成九年三月二十九日号 苦小牧民報社
- （10）『新聞切抜綴―学校教育②』昭和六十一年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編
- （11）『苦小牧民報』平成五年四月十一日号 苦小牧民報社

五、高等学校の新設

昭和五十年以降

戦後の教育改革により義務教育としての新制中学が新設され、旧制中等学校、実業学校、女学

に新設された高校

校は新制の高等学校に改められた。昭和二十三年（一九四八）四月一日に北海道立の苫小牧高等

学校、苫小牧女子高等学校、苫小牧工業高等学校が新たに設立された。同二十五年（五〇）四月に男女共学及び学区制

が実施され、苫小牧高校が苫小牧女子高校を吸収合併して苫小牧高等学校一本になった。しかし、本市の高校入学者の

増加に伴い、同二十八年（五三）四月から再度分割されて、苫小牧東高等学校と苫小牧西高等学校に分かれた。

同二十三年十一月に苫小牧高校に定時制高校（夜間高校）が併設され、同二十八年四月には勇払中学校内に市立の

北海道勇払高校が設置され、その後苫小牧工業高校と苫小牧西高校にも定時制課程が設けられた。

一方、私立高等学校では、同三十六年（六一）四月に苫小牧女子技芸学校が苫小牧女子高等学校となり、同四十八

年（七三）四月から男女共学の苫小牧中央高等学校と改称した。駒澤大学付属苫小牧高等学校は、同三十九年（六四）

四月十八日に東小学校を仮校舎で開校し、同年十月に美園町の新校舎に移った。

苫小牧工業高等学校は同五十六年（八一）五月に高丘に校舎を新築して移転し、平成二年（九〇）四月には西高校

の商業科が分離独立して苫小牧総合経済高等学校が新設され、同十年（九八）五月末現在で道立高校五校（うち定時

制有二校）、私立高校二校で、生徒数は六、〇二七人である。^{（一）}

昭和五十年（七五）以降に開校した高等学校について、その沿革をあげれば次の通りである。

▼苫小牧南高等学校

苫小牧港の開港に伴う臨海工業地帯の造成により、苫小牧市の都市化が進み、昭和五十年（七五）十月の国勢調査

で一三万二、四八〇人に達した。この人口増加は高校進学希望者の増加にも拍車がかかり、既存の高校の学級数では対応しきれない状態となり、公立高校の新設が急務となった。

苦小牧市ではこうした状態を打開するためすでに高校新設運動を展開しており、昭和五十年（七五）一月八日には市議会文教厚生委員会が道教育委員会に対して高校新設についての陳情書を提出していた。苦小牧市にとって高校進学者が急増する中で、「苦小牧に公立高校新設を進める会」が署名運動を行うなど、この問題は全市挙げての悲願でもあった。この結果、道教育委員会は同五十年十一月十一日、同五十一年度（七六）の公立高校適正配置計画を発表し、苦小牧市に道立高校を新設することになった。そして、同月二十八日には「北海道苦小牧南高等学校」との仮称が決



苦小牧南高等学校

定して、十二月一日付けで喜茂別高校校長の木下勝市と苦小牧西高校校長の田村博司（兼務）が開校事務取扱者に発令された。

苦小牧市は一〇学級規模の高校を希望したのに対し、僅か三学級が認められただけだった。大泉市長は、本市には炭鉱離職者など第二の人生を求めて落ち着いた者が多く、経済的にも苦しい家庭なので、もう一学級の増口を要求したが、諸情勢の厳しい中では開校時は三学級編成のままだった。道内でただ一校だけの新設が認められたことは、厳しい財政状況下において、それなりに苦小牧側の事情が理解されたものであった。

同五十一年四月一日、北海道苦小牧南高等学校の創立が公布され、木下校長以下の教職員の発令があった。ただ、校舎の方は同五十一年度に調査費が計上されていたが、場所は未定のまま新入生一三五人をもって苦小牧東中学校の旧

校舎を借りて、昭和五十一年（七六）四月十日に同中学校体育館で開校式と入学式が行われた。

しかしながら、新校舎建設用地で土地価格で折り合いがつかず、教育内容がどんどん前進しているものの、校舎の方は土地問題でなかなか進展せず、生徒や父兄にも大きな不安を与えるものであった。当初道教委と市は錦岡地区の旧はまなすゴルフ場跡地を校地として選定していた。しかし、両者の取得価格と鑑定価格の間に大きな差があつて、この土地は白紙に戻された。その後、苦小牧市農協の土地が候補地にあがつたが、これも価格問題でくずれ、道教委は独自交渉を行い、同五十一年十一月になって錦岡の民有地五万四、〇〇〇平方メートルを取得した。²⁾

同五十二年（七七）六月二十三日に起工式が行われたが、全生徒は感激を新たに遠足を兼ねながら式典に参列した。翌五十三年（七八）三月十五日には新校舎の第一期工事が完成し、月末にかけて引越しが行われた。四月十日には新校舎での入学式を行い、十二月二日には待望の校舎落成記念式典が行われた。

開校当時何もなくた原野には建物がびっしり建ち、あらためて苦小牧市の発展を感じるが、初々しいと言われた苦小牧南高等学校も平成八年（九六）四月には、創立二〇周年記念を迎えたのである。

苦小牧南高等学校生徒数・教職員数一覧表 その他は時講・実助・事務・業務・公務等

年 度	普 通	定 時	普 通	定 時	計	普 通	定 時	計
昭和52年度	学級数	生徒数	学級数	生徒数	教 諭	養 護	その他	計
54年度	一六	二七〇			一六	一	七	二四
56年度	一八	二六六			三一	一	一〇	四二
58年度	二二	八二三			四一	一	一〇	五二
60年度	二八	九四二			四六	一	一三	六〇
63年度	三〇	一、二七四			五七	一	一四	七二
平成2年度	三〇	一、三六六			五九	一	一八	七八
		一、三五九			六〇			七一

苦小牧市史（追補編）

平成4年度	二八	一、二〇四			五七				
6年度	二七	一、〇七七			五六	一	二四	七二	
8年度	二六	一、〇三五			五六	一	二五	七二	
10年度	二四	九五五			五二	一六	六九		

（『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合等より作成）

苦小牧南高等学校歴代校長一覽（平成十一年度現在）

（代）	（氏名）	（在任期間）	（代）	（氏名）	（在任期間）
一	木下 勝市	昭和五一・四～昭和五四・三	六	澤井 弘司	平成 三・四～平成 五・三
二	伊藤 浩	〃 五三・四～〃 六〇・三	七	西山 政俊	〃 五・三～〃 七・三
三	井上 昭二	〃 六〇・四～〃 六二・三	八	松田 健治	〃 七・四～〃 一〇・三
四	源 一夫	〃 六二・四～平成 元・三	九	小竹 克幸	〃 一〇・四～
五	能登 将	平成 三・四～平成 三・三			

（『二十年史』 平成八年 北海道苦小牧南高等学校創立二十周年記念事業実行委員会）

▼苦小牧総合経済高等学校

昭和五十五年（八〇）四月十四日に苦小牧市の人口は一五万人に達した。このため高校進学希望者は年々増え続け、特に普通科に集中する傾向が顕著であった。従前から普通科の間口増の要請は繰り返されてはきたが、苦小牧東高校および苦小牧南高校はともに一学年一〇間口となつて限界に達していた。

そこで道教育委員会は、同五十五年度に苦小牧西高校の家政科と保育科を普通科に学科転換させ、同校の学年規模を普通科六、商業科四として対応してきた。しかし、同六十年（八五）に入り普通科希望がますます増大し、同年

四月には「道立商業高等学校建設促進期成会」（会長・鳥越忠行市長）が設立され、昭和六十年（八五）六月には「苦小牧西高等学校校舎改築および商業科分離独立に関する陳情書」を道、道議会、道教委に提出した。

その結果、同六十一年（八六）四月「苦小牧西高等学校校舎改築および仮称苦小牧地区高等学校調査設計費」が道予算に計上され、同年九月には正式に「苦小牧地区高等学校分離独立の件」として道教育委員会で決定された。こうして地元の要望を担った新設の商業高校は、国際化、高度情報化に対応する人材の養成と流通経済の進展、変化に対応できる新しい商業高等学校としての性格を帯びることとなった。^③

同六十一年十二月、道教委は苦小牧西高校内にプロジェクトチームを設置し、新設商業高校の教育計画に基づく学校経営の検討を指示した。さらに平成元年（八九）四月十日、新設高校準備室を設置し苦小牧西高校長三上信迪ほか四人を発令、同年十月には妹背牛商業高校長木崎盛一郎ほか三人が苦小牧地区高等学校開校準備事務取扱者に発令され開所式を行った。

一方、校舎建築については鉄北東部地区の新興住宅街として急速な伸展をみせている市内新開町四丁目に四万四、二〇〇平方メートルの学校用地に、昭和六十三年（八八）十一月から、鉄筋コンクリート三階建て、延べ五、七〇〇平方メートルで一学年四学級規模となる建設工事に着手した。教育課程も地元要望に沿う形ではば固まり「流通経済」「情報処理」「国際経済」の三課程四間口とする方針が打ち出された。新設校舎は平成元年十一月末にはほとんど完成し、入学希望者の体験入学を実施した。同年十二月の道議会において「北海道苦小



苦小牧総合経済高等学校

苫小牧市史（追補編）

牧総合経済高等学校」と校名を可決決定した。

苫小牧西高校では平成二年（九〇）三月二十四日、商業科の二年、三年生が新設の総合経済高校へ移ることになり、修了式とともに苫小牧総合経済高校との分離式を行った。これにより同校は、昭和二十八年（五三）から設置されていた商業科と大正十三年（二四）から続いた女学校としての長い歴史に幕を閉じ、普通高校として新たな歴史と伝統を築くことになった。

平成二年（九〇）四月一日、苫小牧総合経済高校（木崎盛一郎校長、五三〇人）の開校式と第一回入学式が新開町の新校舎で行われ、同校長は式辞の中で初期の目的を達成するため、至誠創意の校訓のもと、よりよき伝統と校風をと呼びかけた。約十年越しの市民ぐるみの新設校設置運動が実を結び同高校が誕生した。当初は西高校から二年、三年生と総合経済高校として入学した一年生の混淆学級であったが、同四年（九二）三月にはこれら商業科の生徒は卒業して、同年度からは流通経済六学級（各学年二学級）、情報処理三学級（各学年一学級）、国際経済三学級（各学年一学級）の一二学級となった。

苫小牧総合経済高等学校生徒数・教職員数一覧表 その他は時講・技助・事務・公務等

年 度	学 級			生徒数		教 職 員	
	通 信	情 報	国 際	商 業	計	教 諭	そ の 他
平成2年度	二	一	一	八	五三〇	三四	八
4年度	四	二	二		五二九	三四	九
6年度	六	三	三		四七四	三五	一三
8年度	六	三	三		四八二	三五	一五
10年度	六	三	三		四七六	三五	一八
							計
							四二
							四三
							四八
							五〇
							五三

（北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合等より作成）

苦小牧総合経済高等学校歴代校長一覧（平成十一年度現在）

（代）（氏名）	（在任期間）	（代）（氏名）	（在任期間）
初 木崎盛一郎	平成二・四～平成四・三	三 鈴木敏彦	平成七・四～平成一〇・三
二 古村雅昭	四・四～七・三	四 坂本弘幸	一〇・四～現在に至る

『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合、苦小牧総合経済高校より電話取材により作成

▼苦小牧工業高等学校の移転

苦小牧工業高校（苦工高）は大正十二年（一九二三）四月に北海道庁立苦小牧工業学校として創設され伝統を誇る学校である。同校校舎は昭和二十二年（四七）九月十四日の火災で校舎を焼失したが、同二十四年（四九）五月に第一期、七月に第二期復旧工事が完成した。同二十八年四月には定時制課程が設けられた。

しかしながら、校舎は終戦後の資材難時の建物であり、建築年限も相当経過していて老朽化が目立ち、危険校舎になっていた。同四十七年（七二）三月には苦工校舎改築期成会が結成され、校舎改築の陳情が市長、市議会、市教育委員会に提出された。これが具体的な改築運動の始まりとなり、同年九月には当時の市議会文教厚生委員会で陳情案件が採択となった。市は高丘への移転改築計画を掲げていて、市議会、同期成会も高丘への移転を含めて道、道議会への陳情も行っていたのである。

ところが、PTAを軸とする現在地改築論が強まり、道、道教委に独自の陳情運動を展開していた。道教委も同五十年（七五）十月には現在地改築での考え方を示したが、市と学校関係者の対立運動も影響して一週間後には現在地改築を引つ込め地元の意思統一を理由に、地元にゲタを預ける形で態度を保留した。

市議会では大泉源郎市長のいう、苦工高の跡地を市民の森として緑豊かな憩いの場にするには都市計画上理解

できるが、現在地改築推進者がいる以上、問題のないように話し合い調整をという意見も出された。その後も市理事者の移転論とP T Aの現在地論が対立したまま推移、ついに市理事者は定例市議会に高丘地区移転のための用地造成費を提案するに至った。

これに対し同校P T A（松原沢光会長）と苫工高教職員一同（村上十四雄代表）は昭和五十年（七五）十二月十一日に現在地改築の陳情書を市議会に提出した。採決の結果賛成多数で、高丘地区用地造成事業が盛り込まれた同五十年度市土地造成事業会計補正予算案が可決され、陳情案件は不採択となった。これにより移転改築の方向が議会で意思決定されたのである。⁽⁴⁾

一方、同校校舎改築期成会（西田信一会長）はすでに同年十二月六日の総会において現地改築で運動することを決めており、二十日にはP T A、定時制後援会の総会でも現地改築の方針が再確認され、今後も道、道教委に対し積極的に陳情、要望活動が続けることになった。

こうした背景を踏まえた道教育委員会は、同五十一年（七六）一月二十一日に苫工高の移転改築問題で五十一年度内の設計を断念したと発表した。

苫工高の移転問題が解決したのは、同五十四年（七九）七月二十七日のことであった。この日、市と同校P T A会とのトップ会談が行われ、バス通学の利便を図るなどでの市の提案に対してP T A側も譲歩し、移転改築の線で話し合いがついた。

道教委は同五十六年度（八一）の苫工高建築事業費一億一、六〇〇万円を計上し、五月二十三日に待望の起工式が高丘の現地で行われた。新校舎は高丘六番地に建設され、鉄筋コンクリート造りで管理諸室、普通教室のある四階建ての管理棟と、実習室のある産業教育振興棟三棟で、合わせて一万九、四三七平方メートルで、他に屋内体育館、



移転改築した苫小牧工業高等学校

格闘技場など一、七四三平方メートル、このうち昭和五十六年度（八二）に建設されたのは一万二、九一七平方メートルであった。

高丘の新校舎は同五十八年（八三）九月三十日に完成し、十月四日に全面移転した。総額六〇億円を投じた施設、設備とも工業高校としては東北以北随一の学校となった。なお同年十月二十二日には新装なった新校舎で創立六〇周年、定時制三〇周年及び新校舎改築落成記念式典が盛大に行われ新しい時代の歴史が始まった。

市内末広町の市民文化公園に建立された「苫工発祥の地記念碑」の除幕式が同六十三年（八八）十月二日に行われた。苫工高の旧校舎跡地は市民文化公園として整備され、同公園内には博物館、図書館、サンガーデンが建設されている。

また、時代の変化や要請に伴い科も見直され、同五十七年度（八二）から設備科一学級を新設し、建築科を二学級から一学級とした。コンピュータの発達により平成八年度（九六）から電子機械科を新設して、同十年（九八）には機械科を廃止し、電子科も廃して同九年度（九七）から情報技術科を新設した。現在は二八学級になっている。

昭和五十八年（八三）八月二十二日には創立六〇周年記念式典を挙行し、平成四年（九二）四月には創立七〇周年記念『会員名簿く平成四年版』（北海道苫小牧工業高等学校同窓会編）を発刊している。

苫小牧工業高等学校生徒数・教職員数
その他は時講・技助・事務・公務・給食等

年 度	学 級	数	生徒数	教 職 員 数
昭和50年度	土木	六	一、一六四	七五
同定時制	建築	六	二、四八	二二
57年度	機械	四	一、二四八	七八
同定時制	電氣	四	一、二四九	二二
58年度	工化	四	一、一六五	二〇
同定時制	電子	三	一、一四〇	二〇
59年度	電機	二	一、一七五	二〇
同定時制	情技	一	一、一四〇	二〇
平成8年度	設備	三	一、一八〇	二〇
同定時制	計	三	一、一八〇	二〇
9年度		三	一、一四〇	二〇
同定時制		三	一、一三六	二〇
10年度		四	一、〇九〇	二〇
同定時制		二	一、〇八七	二〇
同定時制		二	一、〇八七	二〇

『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合等より作成

▼苫小牧西高等学校の校舎改築と商業分離

老朽化した苫小牧西高等学校の校舎改築運動を進める同高校校舎改築期成会（会長・橋浪蔵）が昭和五十七年（八

二）十二月六日、設立総会を開いて発足した。

陳情書の審議では、①校舎の腐朽、土台沈下のため維持管理に支障がある、②特別教室が不足し、教育上大きな支障がある、③校地の効率的利用、④全面改築は地域住民の宿望などの理由をあげ、早い機会の校舎改築実現を目指し

て運動を進めることになった。⁽⁵⁾

苫小牧西高校校舎は昭和二十八年（五三）十二月に旧校舎（矢代町）が焼失後、同三十年（五五）十月に現在地（青葉町）に移転再建した。しかし、建築当時の資財不足や、地盤が湿地であったことなどから老朽化が急速に進んだ。また、間口増や職業科の新設により同三十三年（五八）十二月から毎年、小規模な増改築が続けられ、鉄筋、ブロック、木造校舎が混在し、部分的な増改築では措置し切れない状況となった。

また、同三十一年（五六）四月に設置された定時制課程は生徒数の減少から同五十七年度（八二）から募集停止となり、同六十（八五）年二月二十四日に最後の二人の卒業生を送り出して閉校式を行った。⁽⁶⁾

苫小牧西高校の老朽化に伴う現地改築と商業教育の充実を図るため、苫小牧市に新しい道立商業高校が必要と「苫小牧市道立商業高校建設促進期成会」（会長・鳥越忠行市長）を設置し陳情活動を続けていた。こうした中で商業科分離独立の問題が第二次ベビーブーム世代の高校受験期と重なるため、道教委は同校の現地改築と分離独立の方針を固めることになった。同六十二年（八七）六月の定例道議会に政策予算案として設計調査費を計上したのである。

予算案には苫西高の現地改築が他の道立三校改築と合わせて二億一、九〇〇万円、商業科分離独立については四、一九〇万円のいずれも設計調査費であった。

道教委は同六十三年（八八）四月二十二日に、平成三年度（九一）までの四カ年で完成を目指す苫西高の校舎改築計画の概要をまとめた。初年度の昭和六十三年度は約一億七、〇〇〇万円で新体育館を建設、平成元年度（八九）、同二年度（九〇）の二カ年で校舎を、最終の同三年度で外構工事を行うというものであった。全面改築される新校舎は総事業費約一八億円をかけ、鉄筋コンクリート四階建て延べ六、八五三平方メートルであった。⁽⁷⁾

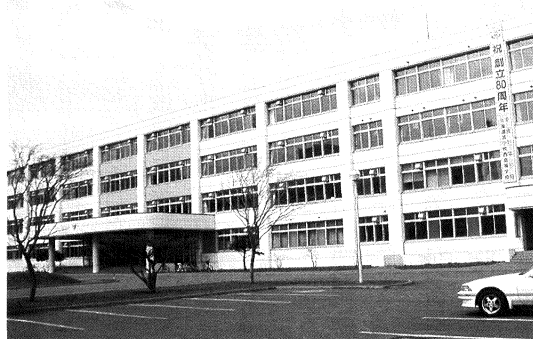
昭和六十三年八月一日には苫小牧西高校の全面改築第一期工事に着手、屋内体育館が新築された。平成元年十一月

十三日には苦西高校舎改築期成会を解散し、新たに「創立七〇周年校舎新築落成記念事業協賛会」を設立した。平成三年（九一）二月二十一日には第二期工事に着手し、校舎、渡廊下が完成した。また、同工事によってグラウンド（陸上競技場造成、ネットフェンス取付け）も終了した。さらに第三期工事により校舎、渡廊下、弓道場、柔剣道場、物置、自転車置場が完成、同工事ではグラウンド（野球場）造成、バックネット、アイスホッケーリンクが完成した。第四期工事では外構（前庭整備、門柱、国旗掲揚塔、テニスコート、フェンス）が完備され、同年十一月三十日をもって全工事が完了し待望の新校舎が落成した。この総工費は一八億四、二〇〇万円であった。⁽⁸⁾

開校以来、二万人に及ぶ卒業生を社会に輩出してきた苦小牧西高等学校の高まる伝統とその校風が継承され「心常清新」を教育目標とした同校は創立七〇周年・校舎改築落成記念式典を同三年十月二十七日、盛大に行われた。また同日午後、市内のホテルで祝賀会が行われ、新校舎での新しい歴史の一ページを飾ったのである。

苦小牧西高等学校生徒数・教職員数の変遷 教職員その他は用務員等

年 度	学 級					生 徒 数		教職員数全日制			職員数定時制		
	普通	商業	家政	保育	計	定時商	全 日 制	定時制	教諭	その他	計	教諭	その他
昭和50年度	一三	一一	三	三	三二	四	一、四〇一	九八	六四	二二	八六	八	五
59年度	一八	一一			三〇	一	一、三三四	二	六四	一九	八三	五	三
													一三
													八



現地で改築した苦小牧西高等学校

昭和60年度	一八	一一				一、三三五	六二	一六	七八		
平成2年度	一八					七九七	四二	一一	五四		
7年度	一八					七二七	四二	一一	五三		
10年度	一八					七二八	四三	一二	五五		

（『北海道教育関係職員録』 各年 北海道教職員組合等より作成）

苦小牧市の高等学校一覧表

学 校 名	開 校 年 月 日	所 在 地	生	徒	数
苦小牧工業高等学校（道）	大正12・4・22	高丘6ノ22	昭和四〇年 一、二〇〇	昭和六〇年 一、一七九	平成五年 一、一九〇 平成一〇年 一、〇九〇
同定時制	昭和28・4・1	〃	三三四	一一四	一三八
苦小牧東高等学校（道）	昭和12・4・22	清水町2ノ12ノ20	一、五八五	一、三三八	一、三二四
同定時制	昭和22・11・1	〃	二二六	一一九	一〇三
苦小牧西高等学校（道）	昭和28・4・1	青葉町1ノ1ノ18	一、四九六	一、三三五	七四四
同定時制	〃	〃	一七七		七二八
苦小牧南高等学校（道）	〃	のぞみ町2ノ1ノ2		一、二七四	一、一一九
苦小牧総合経済高等学校（道）	平成2・4・11	新開町4ノ7ノ2			四九五
苦小牧中央高等学校（私）	昭和36・4・1	光洋町3ノ13ノ16	八四八	四八三	六〇三
駒大付属苦小牧高等学校（私）	〃 39・4・18	美園町1ノ9ノ3	九〇八	一、一五一	一、〇六六

（『苦小牧教育史』 平成五年、『苦小牧史の教育』 平成十年 苦小牧市教育委員会より作成）

※苦工高は大正十二年四月二十二日北海道庁立苦小牧工業学校・昭和二十三年四月一日北海道苦小牧工業高等学校、苦東高は昭和十二年四月二十二日町立北海道苦小牧中等学校・同十六年四月一日北海道庁立苦小牧中等学校・同二十三年四月一日北海道苦小牧高等

苫小牧市史（追補編）

学校・同二十八年四月一日北海道苫小牧東高等学校、苫西高は大正十三年四月八日苫小牧町立高等女学校・昭和二年四月一日北海道庁立苫小牧高等女学校・同二十三年四月一日北海道苫小牧女子高等学校・同二十五年四月一日北海道苫小牧高等学校・同二十八年四月一日北海道苫小牧西高等学校、苫中央高は昭和三十六年四月一日苫小牧女子高等学校・同四十八年四月一日苫小牧中央高等学校となる。

注（１）『北海道教育関係職員録』一九九八年版 北海道教職員組合編

（２）『苫小牧民報』昭和五十一年十二月二十日号 苫小牧民報社

（３）『苫小牧教育史』平成五年 苫小牧市教育委員会

（４）『新聞切抜綴―学校教育①』昭和四十八年～昭和六十年 苫小牧市史編集事務局編

（５）『苫小牧民報』昭和五十七年十二月七日号 苫小牧民報社

（６）『苫小牧民報』昭和六十二年六月二十七日号 苫小牧民報社

（７）『新聞切抜綴―学校教育②』昭和六十一年～平成十二年 苫小牧市史編集事務局編

（８）『苫小牧民報』平成三年十二月一日号 苫小牧民報社

六、高専・短大・大学の新設

苫小牧高専と駒 苫小牧工業高等専門学校（苫小牧高専）は昭和三十九年（一九六四）四月二十日、弥生中学校澤大苫小牧短大 を仮校舎にして開校した。同四十年（六五）三月に第一期工事の校舎および寄宿舎が完成、新校

舎に移転し、昭和四十五年（七〇）までに第四期工事が完了した。

同校の位置はJR錦岡駅より二・八キロの地点にあり、秀峰樽前山麓の雄大な自然環境に恵まれ、敷地面積約一三万平方メートルは全国工業高専の中では最大規模である。この恵まれた環境のもと充実した教授陣容で三階建ての校舎、近代的図書館、新鋭の電算機室、最新学術の粋を駆使した研究実験設備、完備された体育施設等二万八、八一一平方メートルの総面積は高等教育機関にふさわしい威容を誇っている。

開校当初は電気工学科・機械工学科・工業化学科で、定員は各四〇人の一二〇人であったが、同四十四年度（六九）に土木工学科を新設した。また、高度情報化社会や環境問題への対応のため、平成三年度（九一）から情報工学科、同七年度（九五）には環境都市工学科を新設し、同十年度（九八）には物資工学科・工業化学科を物資工学科に統一して、開校以来の工業化学科が消えることになった。

駒澤大学苫小牧短期大学は、昭和四十年（六五）四月十七日に女子だけの苫小牧駒澤短期大学として美園町の付属



苫小牧工業高等専門学校



駒澤大学苫小牧短期大学

高校隣地に開学した。当初は国文科と英文科の二科であったが、昭和四十二年度（六七）に食物栄養科が新設された。平成元年（八九）四月一日に駒澤大学の建学精神をより一層鮮明にし、地域に根ざした大学として発展することを祈念して大学名を駒澤大学苫小牧短期大学に改称した。⁽¹⁾また、同七年度（九五）から男女共学とし、二五人の男子学生を迎えた。平成十年（九八）四月には駒澤大学苫小牧短期大学の四年制への転換をベース、苫小牧駒澤大学が開校し、国文科と英文科は廃止となり、食物栄養科だけが錦岡のキャンパスに移り、駒澤大学苫小牧短期大学食物栄養科として（定員五〇人）残っている。

苫小牧駒澤 駒澤大学が苫小牧の四年制大学開設に向けて、内部組織である「苫小牧駒澤大学設置準備委員会」大学の開学 を平成八年（九六）四月十一日に設置した。同事務局を駒大苫小牧短大内に置き開学準備に入った。用地譲渡問題、財政支援問題、短大改組問題等の難関はあったものの同大学と苫小牧市との間で精力的な折衝、交渉、話し合いが進められ協定書の調印が行われたのは同年八月六日であった。⁽²⁾

翌九年（九七）一月十四日、苫小牧駒澤大学の地鎮式が錦岡の錦西ニュータウン内の建設現場で行われた。胆振東部、日高地区で初の四年制大学が創設されることになった。国際化が各方面に広がりを見せる中、新しい時代に柔軟に対応する人材の育成や二一世紀のまちづくりの起爆剤として、地域の期待を担いながら建設工事が本格的にスタートした。一方、同大学の認可申請を審査してきた文部省の大学設置・学校法人審議会は、法人の経営内容と教育内容（カリキュラム）についての第一次審査を通過した旨の通知が平成九年（九七）二月十三日にあった。これを受けて同大は教職員スタッフを主とする第二次開学認可申請の手続きに入った。また、建設中の苫小牧駒澤大学の文部省現地審査が同年九月二十六日に行われた。校舎建設工事は、この時点で進捗率約六〇パーセント、一五・二ヘクタールの広々とした敷地、校舎面積も設置基準の二倍以上という北海道らしさが大きな特徴となった。

平成九年（九七）十月一日、苦小牧駒大の上棟式が現地で厳かに行われた。建設工事は一月中旬の地鎮式で始まり、基礎工事、鉄骨立ち上げを経て、九月中旬までに主要施設のコンクリート打ち込み作業が終了し、十二月中の完成を目指して内外装を仕上げ、工事は順調に進んでいた。

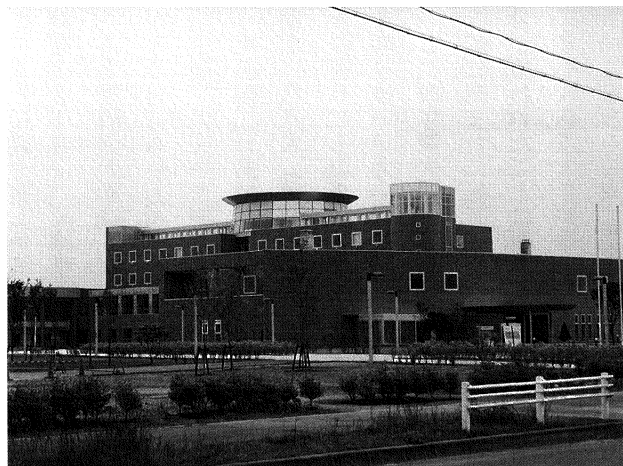
苦小牧駒澤大学は、大学設置・学校法人審議会の答申をもとに、文部省から同年十月十九日に設置が認可された。このことで同十年（九八）の開学が正式に決まり四年制大学が実現することになった。同大は同日から本格的な学生募集に乗り出し、入試要項の発送を始めるなど開学準備は一層慌ただしくなっていた。

苦小牧駒澤大学は、同十年三月十一日に校舎完成を祝って「定礎式」を行った。玄関入口横に御影石で作った銘板が取り付けられたが、幅四五センチ、高さ三〇センチの大きさに、蔵山大典理事長の書をコンピューター処理した「定礎」の文字を刻み込んだものであった。

東胆振、日高地区で初めての四年制大学となった苦小牧駒澤大学（大久保治男学長）は同十年四月九日に開学、一期生二八八人（留学生七人）を迎えて晴れの第一回入学式が同大体育館で行われた。苦小牧駒大は短期大学の改組転換を基本にした新設大学で、苦小牧市が開学費用の一部を財政支援する公私協力方式により、実に二十二年間にわたる粘り強い努力の誘致活動の末、実現したのである。

この四年制大学の実現は苦小牧市民長年の悲願でもあったが、ここに至るまでの道程は余りにも長く、時には大きな壁に阻まれ二転三転し、関係者の苦労は計り知れないものがあった。しかし、苦小牧駒澤大学の開学によってその労が報われたことは極めて意義深いものがあり、苦小牧教育の歴史に輝いたページを印した。

苦小牧駒澤大学が開学し当初の目的を達成したため、同大学実現の推進母体となった苦小牧大学誘致期成会（会長・中村光雄 苦小牧商工会議所会頭）は、同十年六月十二日の総会で解散することを正式に決めた。同期成会は昭和五十



開学した苦小牧駒澤大学

一年（七六）五月、苦小牧国立大学誘致期成会の名称で発足、市内の事業所や市民代表が構成メンバーとなり、市民ぐるみの大学誘致運動を展開してきた。同五十八年（八三）八月にターゲットを私立大学にも拡大したのに伴い、現行の名称に変更した経緯があった。平成元年（八九）七月には「苦小牧の求める大学像」をまとめるなど市民運動を盛り上げてきた。

苦小牧駒澤大の開学が決まった同九年（九七）二月以降、市の大学誘致基金拡充に協力、企業、団体への要請活動を展開し、短期間のうちに総額二億円余を集める原動力にもなった。

同十年（九八）七月二十五日午前十時から、苦小牧駒澤大学と駒澤大学苦小牧短期大学（大久保治男学長）の開学・落慶記念式典が同大学屋内体育館で厳かに行われた。本学はじめ市内外の教育関係者、周辺町内会代表など約四〇〇人が出席、苦小牧初の四年制大学の新校舎落成と併合した短期大学の一層の発展を盛大に祝った。

苦小牧駒澤大学は同年十月、学内の長期計画委員会内に学内改善、新学部、短期大学問題の三検討委員会を設置した。また学長の諮問機関として市民代表で構成する「苦小牧駒澤大学懇話会」（二二人）を発足させ、大学の在り方について市民の意見を吸収し、より地域に密着した大学運営に取り組む方針を決めた。

注(1) 『駒澤大学苦小牧短期大学の三十年』 平成六年 駒澤大学苦小牧短期大学

(2) 『苦小牧民報』 平成八年八月六日号 苦小牧民報社

七、専修学校・専門学校と各種学校

昭和五十年以 苦小牧市における昭和五十年（一九七五）五月末の各種学校状況については、洋裁・和裁・編物降の各種学校 関係が四校・五五八人、看護婦養成が三校・二二四人、自動車学校が一校・八一人、商業・タイプが一校・二五二人、理容・美容が一校・一七〇人であった。また、設立母体別では公立が二校、学校法人が一校、準学校法人一校、財団法人一校、社団法人一校、その他の法人一校、個人三校であった。⁽¹⁾なお、別表の生徒数ではその見方によって若干異なっている。

各種学校一覧表

種別	学 校 名	所 在 地	校 長 名	科 程 数	生 徒 数	教 員 数
公立	苦小牧市立自動車学校	矢代町2-1	小田桐末吉	一	八一	三〇
公立	苦小牧市立総合病院付属高等看護学院	本幸町1-2	矢倉安太郎	一	八九	四
私立	苦小牧高等理容美容学校	糸井二九九	矢嶋 潔	一	八九	四
私立	苦小牧文化服装学院	本幸町1-3-21	小池 久子	一	九五	五
私立	王子総合病院付属看護学院	表町18	佐久間三八	一	四八	三
私立	苦小牧みどり技芸学院	表町18	田中八枝子	五	一五〇	八
私立	苦小牧ドレスメーカー女学院	錦町2-4-16	藤平 久子	二	一四五	六
私立	クローズメーカール女学院	栄町3-1-2	黒澤みつゑ	二	一四九	六
私立	苦小牧高等商業学校	若草町5-4-6	山本 彦一	二	二一七	六
私立	苦小牧市外二郡医師会付属看護学院	旭町2-4-20	飛舖洋二郎	一	八二	二

『苦小牧市の教育』 昭和五十年度版 苦小牧市教育委員会

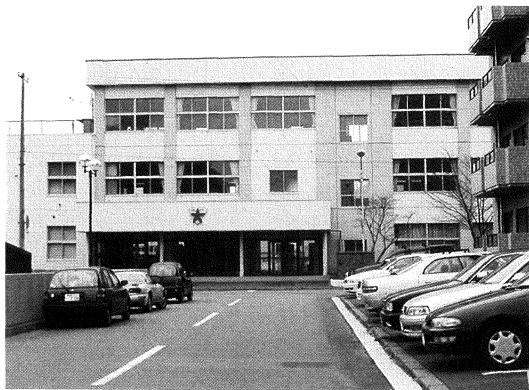
昭和五十一年（七六）一月十日に施行された学校教育法の一部改正で、正規の学校以外の学校で、職業や實際生活に必要な能力を育成したり、教養の向上を図るために、修業年限が一年以上で授業時数が文部大臣の定める授業時数以上であること、常時四〇人以上収容している教育施設を専修学校とした。入学資格は高等課程の中学卒対象者、専門課程の高校卒対象者、一般課程は学歴不問とした。その基準に達しないものは各種学校とした。²⁾

これにより現在本市では、準学校法人苫小牧高等商業学校、財団法人苫小牧美容専門学校、苫小牧市立総合病院付属高等看護学院、社団法人苫小牧医師会付属看護専門学校、医療法人王子総合病院付属看護専門学校、学校法人駒澤大学苫小牧専門学校が専修学校として、クローズメーカー女学院が各種学校として活動している。なお、苫小牧市立自動車学校は昭和六十年（八五）十一月に廃校した。（※第一編政治・行政編の市立自動車学校参照）

苫小牧高等商業学校 苫小牧高等商業学校は昭和二十八年（五三）五月に苫小牧編物専門学校として設立されたと苫小牧美容専門学校 した。その後、苫小牧タイピスト専修学校を経て、同四十五年（七〇）三月に苫小牧高等商業学校と改称した。同四十五年（七〇）には商業科技能教育施設として文部大臣の指定を受け、北海道有朋高等学校との技能連携校となり、地域社会との連携を深めながら時代に即応した職業教育を一貫して行ってきた。同五十年（七五）十月、市内若草町五丁目の旧苫小牧東高校跡地五、六三二平方メートルを買収、新校舎建設に着手、同五十年（七六）十月、総工費二億八、二七六万円をもって建物面積二、九九八平方メートルの校舎が竣工した。

国際化時代に対応してニュージーランド・ネーピア市のタラデル高校と同六十年（八五）四月、姉妹校提携の盟約を結び、交換留学生制度を実施、広い視野に立った教育実践の展開を開始した。

開校以来、女子教育一本できた苫高商は、女性の社会進出や男女平等の社会基盤が整ってきた中で、男女そろった人間関係に適応する人材づくりが課題となり、平成十一年度（九九）から男女共学制をスタートさせた。



苫小牧高等商業学校



苫小牧美容専門学校



駒澤大学苫小牧専門学校

苫小牧美容専門学校は昭和三十六年（六一）四月十六日に苫小牧高等理容美容学校として市内浜町で開校した。同十四年（六九）八月には、市内糸井二九番地（現川沿町四丁目）に四、五九四平方メートルの校地を取得、校舎新築工事に着手、同年十二月、校舎面積一、四六五平方メートルが総工費約一億円をかけて竣工した。

同五十五年（八〇）二月には苫小牧理容美容専門学校と改称、さらに同六十年には専修学校として苫小牧理容美容専門学校の認可をうけた。理美容学校は開校以来四十余年の歴史を刻み、多くの理容師、美容師を送り出し、地域の理美容文化の発展に寄与してきた。

しかしながら、景気の低迷と社会背景の変化もあって理容師志望者が激減し、平成十年（九八）四月の新年度から理容科を廃止、校名も苦小牧美容専門学校と改称した。

駒澤大学苦小 昭和六十年代（八五）に入って情報化社会の進展に伴い、その担い手となる人材の養成機関の
牧専門学校 設置は、全国各地で急速に進んでいた。苦小牧地区でもこうした要望に應えるため、平成元年（八九）四月十二日に学校法人駒澤大学苦小牧コンピュータ専門学校を苦小牧駅南口に開校した。第一期生は情報システム、OAビジネス二科合わせて五〇人で、高度情報化時代の中で即戦力となるべく人材育成を開始した。

同専門学校とニュージラランド・ネーピア市郊外タラデルのホークス・ベイ・ポリテクニック（総合技術専門学校）は同六年（九四）十月七日、市内のホテルで行われた調印式で、中西道瞻校長とブルース・マーチン学長が姉妹校協定を結んだ。調印式では、同七年（九五）四月から改称される新校名「駒澤大学苦小牧専門学校」で協定書に署名、両校の生徒や教職員が互いに協力し合うことになり、海外留学コースを設け、国際性と学習意欲をより高めることとなった。

東胆振圏初の同専門科として産業・経済界では新時代に向けた人材育成の機関として大きな期待が寄せられ、その要請に応えながら推移してきたが、生徒の職業観や価値観の多様化に伴い、生徒の入学が年々激減したため、同十一年（九九）四月からの生徒募集は取り止めとなった。

注（１） 『市勢統計書』 昭和五十一年版 苦小牧市

（２） 『全国専修・各種学校案内』 一九九四年版 晶文社出版

第三章 生涯学習

第一節 生涯学習と青少年問題

一、生涯学習推進計画

生涯学習 生涯学習は乳幼児から老人までの教育の在り方を、家庭教育、学校教育、社会教育という分け方への移行はなく、教育的機能と作用を人間の発達と成熟の過程、段階に応じて統合し、教育の組織化を進める教育観である。この考え方はユネスコでも論じられ、わが国では昭和四十六年（一九七二）以降に急速に関心を高めていった。同五十六年（八一）に中央教育審議会が「生涯学習について」、同六十一年（八六）に中曽根首相の臨時教育審議会が「生涯学習への移行を主軸とした教育再編成の基本方針」を答申し、生涯学習論は公教育政策の基本理念にまで成長した。⁽¹⁾

文部省はこの答申に基づき、同六十三年（八八）にこれまでの社会教育局を廃止し、生涯学習局を筆頭局として設置して、生涯学習政策を推進することになった。この措置は地方自治体にも波及し、北海道においては平成元年（八九）四月十日に北海道教育委員会（道教委）が国の生涯学習方針、新教育長期総合計画に基づき学校教育部と社会教育部を合体して新たに生涯学習部を設置した。⁽²⁾

苦小牧市では機構改革ではやや遅れをとったものの、平成元年（八九）四月には生涯学習基本構想への取り組みに入り、同二年（九〇）四月に生涯学習推進準備室を新設し、同十年（九八）四月一日にはスポーツ生涯学習部を設置した。ただ、これは学校教育部が入っており、従来の体育部と社会教育部を統合しただけで、生涯学習の狙いとする乳幼児から老人までの家庭教育、学校教育、社会教育という枠をこえた総合的な教育の在り方ではなかった。この点で国や道教委の示した教育観とは異なるものであった。

生涯学習推進 苦小牧市における生涯学習の取り組みは平成元年（八九）四月、苦小牧市教育委員会（市教委）

検討委員会 が社会教育委員会議に「苦小牧市生涯学習推進基本構想」を諮問したのが発端であった。同会議では第一部会（学習プログラム検討）、第二部会（施設・情報検討）、第三部会（学社連携・推進体制検討）を構成、協議、検討を加え同年九月に次のような答申に取りまとめた。

苦小牧市生涯学習推進基本構想について（答申）

【前文】 市民の学習意欲が高まりつつある現在の時期こそ、生涯学習推進の好機であることを再認識した。早急に具体案の着手に期待する。

1、社会教育の立場から見るかぎり、人生はすべて学習期間に含まれる。すなわち、市民が例外なく生涯教育の対象者で、年代、性別、それぞれに異なった学習要求を持つているはずである。この要求を生涯学習意欲としてとらえ、組織的、有機的に推進できる環境を生涯学習社会と呼ぶべきであろう。

2、生涯学習は、社会教育ないしは生涯教育の読み替えではない。即ち、市民の自発的な要求を組織して、生涯学習社会に参加することを助成し、要求に先んじて環境を整備することが、教育行政に課せられた任務である。

3、既存学習組織の整理と新分野の開発、既設の施設設備と補充には、行政組織内での英断を含む改革拡充を必要とする。

4、生涯学習社会における学校教育との連携については、慎重な配慮のもとに推進されるべきである。

(1) 生涯学習推進体制の確立

- ① 市民の手による生涯学習を体系的に推進するための組織体制の整備
 - ② 生涯学習にかかわる諸施設の活用・充実及び学社連携
 - ③ 生涯教育における学校教育との連携・検討及び行政と民間の教育機能の連携促進
 - ④ 優れた技能や特技を持った人材の発掘・活用
 - ⑤ 各種団体・グループ等の生涯学習を支援するための相談コーナー等の設置
- (2) 市民の主体的な学習活動の推進

- ① ふるさと苦小牧の明日を担う子どもたちの健全育成と、よき生活習慣や豊かな人間性を育むための家庭教育の充実
- ② 幼児から高齢者までのライフステージに応じた学習機会の拡充
- ③ ボランティア活動等、温かく社会連帯感に結ばれた地域活動の推進及び生きがいや充実した生活、また郷土愛に満ちた地域づくり等の社会参加活動の推進

- ④ 心豊かでゆとりや、うるおいを深める文化活動等の推進
 - ⑤ 余暇の活用など楽しく幸せな暮らしを支えるためのスポーツ活動や食生活を通じ健康な生活の促進
 - ⑥ 国際化時代に対応した組織及び職員体制の整備
- (3) 生涯学習推進のための行政施策

- ① 生涯学習に対応した組織及び職員体制の整備
- ② 機能的で心なごむ魅力的な施設の整備及び施設間の連携

③ 生涯学習社会を展望した長期的視点に立った行政計画の策定

(4) 生涯学習を推進するための財政措置

① 市は生涯学習推進に必要な財源措置を早急に講ずべきである

【結び】 以上、生涯学習を推進するために必要不可欠な基本事項として、市民が学習の主体者になって積極的に活動し、自己実現をめざすとともに生涯学習社会を自らの力で生きぬく意欲を喚起する方策等について提言した。

この提言事項を具体化し、さらに新たな課題に発展させるためには、現行の行政組織機構を再検討し、生涯学習推進の機能をもつ体制づくりが急務である。

以上の趣旨をふまえて早急に対処されるよう強く期待し答申する。

平成元年九月十四日

（苫小牧市生涯学習推進基本計画） 平成三年 苫小牧市教員委員会

この答申を受けた市教委は平成二年（九〇）四月から生涯学習推進準備室を設け専任スタッフを配置し答申の構想を策定する作業に取り組み、同二年度末に「苫小牧市第一次生涯学習推進基本計画」を策定した。

この計画は、同三年度（九一）から同九年度（九九）までの七カ年を見込んだもので、本市における生涯学習の取り組みの草創期、助走期として基盤づくりの役割を果たした。具体的には、

① 学習機会の整備については、行政の各担当部局が企画実施している生涯学習関連事業を毎年掌握し、市民が参加できるさまざまな学習機会を基本計画に基づく七領域で体系的に分類整理して、事業全体を一覧表にまとめ可能なところから調整を進めてきた。

② 学習環境の整備に関しては、生涯学習に対する関心を高めることが何よりも肝要と考え、情報提供を重視して取

り組んできた。教育委員会の各施設が行う事業はもとより、市長部局のコミュニティ施設や福祉施設の事業案内など、幅広い情報を一元化し「生涯学習だより」として毎年二回全世帯に配布してきた。

③推進体制の整備については、学社連携事業を重視し平成四年度（九二）から、一期二カ年、四小中学校を学社連携実践委嘱校として指定し、学校と家庭、地域が協力し合って教育効果を向上するための先導的な実践活動に取り組んできた。⁽³⁾

これまで三期六年間にわたり、延べ一二校が先進的に取り組む中で、市内の全小中学校においても連携事業に対する関心と意欲は年を追うごとに高まり、毎年度末の調査結果によると、この四年間の連携事業の取り組み件数は三倍に増加した。⁽⁴⁾

今後の課題と方向性については、このような経過と現状をふまえた上で同十年度（九八）以降の一〇カ年はこれまでの基盤の上に立って、本市における生涯学習を展望、発展させていく第二のステップであると位置づけた。社会が大きく変化する中で、市民の意識も学習ニーズも一層、多様化かつ高度化することが予測され、次の事項に留意し推進することが大切であると考えられた。

留意事項

- ①すべての市民がいつでも、どこでも学習活動に取り組むことができるような多様な学習機会を準備すること
- ②学校教育の見直しや学校週五日制が進む中で、学社連携や融合の促進や学校開放の拡大を図ること
- ③生涯学習社会への移行に伴い、学習活動に取り組む市民と取り組まない市民に二極分化する傾向があり、啓発を意図した情報提供を推進すること
- ④これまで培ってきた経験や学習した成果を適切に評価し、人材登録などにより活用する方策が必要になること

⑤行政組織や官民のワクを越えた人・施設・情報のネットワーク化の推進とそれぞれの機能や役割分担を明確にすること

〔苦小牧市生涯学習推進基本計画〕 平成三年 苦小牧市教育委員会

第二次生涯学習

苦小牧市第二次生涯学習推進基本計画は、平成十年度（九八）から始まる苦小牧市総合計画第推進の基本方針 四次基本計画に合わせて作成された。本市は勇払原野の砂丘に世界で初めての内陸掘込式人造港を造り、西部工業地帯を実現させ、さらに、東部工業地帯の開発に取り組んできた。この間、昭和四十八年（七三）には基本構想を定め「人間環境都市」の創造を目指してまちづくりを進めてきた。この第四次基本計画は、基本構想をふまえ人口一九万人の福祉都市、文化都市、健康都市、開発都市を基本にすえ策定していた。^⑤

第二次生涯学習推進計画は「人間環境都市」の創造をめざして、市民一人ひとりが個性を生かし「いつでも」「どこでも」「だれでも」学習し、生きがいをみつけ、自己実現を図ることをねらいとしていた。また、市民の多様化・高度化するニーズに応え、支援していくことを念頭におき二一世紀初頭の生涯学習社会の構築に努めることとした。

生涯学習推進の基本方針は、本市の豊かな自然と先人が築きあげてきた文化に根ざし、市民一人ひとりが生涯にわたって充実した生きがいを求め、いつでも、どこでも、だれでも、なんでも自ら意欲的に学び続け、明るく住みよい生涯学習社会の実現を目指して

- 1、個性の伸長と健康で心の豊かな市民生活を目指し、自己教育力の育成につとめる。
- 2、ふれ合いや語らいの深まる学習社会と潤いに満ちた活力ある地域づくりにつとめる。
- 3、郷土を愛し、国の内外に友好の輪を広げ、国際感覚豊かな市民意識の育成につとめる。^⑥

学社連携実践委嘱事業指定校

一期二カ年とし、四校指定、年度ごとに一校当たり一〇万円補助

地域の分散と小学校、中学校のバランスを考慮

本事業と並行し全校を対象に学社連携実践事例集を作成

学校指定から地域指定へ発展させる構想

○第一期 平成四・五年度 苫小牧西小、清水小、豊川小、啓北中

○第二期 “ 六・七 苫小牧西小、沼ノ端小、明德小、明野中

○第三期 “ 八・九 糸井小、明野小、勇払小、弥生中

○第四期 “ 一〇・一一 泉野小、樽前小、苫小牧東小、開成中

（『苫小牧市学社連携実践委嘱校研究実践報告書』 平成十年） 苫小牧教育委員会

注（１）『現代用語の基礎知識』 平成十二年 自由国民社

（２）『北海道年鑑・一九九〇』 平成二年 北海道新聞

（３）（５）（６）『苫小牧市第二次生涯学習推進基本計画』 平成十年 苫小牧市教育委員会

（４）『苫小牧市学社連携実践委嘱校研究実践報告書』 平成十年 苫小牧市教育委員会

二、生涯学習施設

昭和五十年以前に設置 苫小牧市には昭和五十年以前に設置された生涯学習施設（社会教育施設）は苫小牧市史
された生涯学習施設 下巻で述べたとおり、昭和二十二年（一九四七）三月十五日に設置された苫小牧市公民館

苦小牧市史（追補編）

（苦小牧町公民館・苦小牧市文化交流センター）、昭和四十年（六五）十二月二十七日勇払地区公民館（同六十年十二月二日改築）、同四十八年（七三）四月一日錦岡地区公民館がそれぞれ開館、同二十六年（五一）四月一日開設の市立苦小牧図書館（苦小牧市立中央図書館）、同四十三年（六八）十二月二十四日開館の苦小牧市婦人ホーム（市女性センター）、同四十四（六九）十月二十七日開館の苦小牧市勤労青少年センター、同四十五年（七〇）一月十五日開館の苦小牧市青少年センター（市科学センター）の五施設・七館であった。これらについては一覧表にて掲載する。設立経緯、運営等については『苦小牧市史』下巻を参照されたい。

なお、市民部所管の文化施設でもある苦小牧市民会館は同四十三年（六八）十月十八日に竣工し、当時としては東北以北随一といわれた施設であった。

昭和五十年以降に設置 苦小牧市は港湾整備と臨海工業地帯の造成により著しい発展を遂げ、市街地も郊外、丘された生涯学習施設 陵地へと広がり、人口も急速な伸びを示していた。一方、教育面でも学校をはじめ、社会教育施設の充実も図っていった。これらは学校解放を含め、今や生涯学習施設として市民の利用に供している。本編においては昭和五十年以降（七五）において設置された生涯学習施設（社会教育施設）及び関連施設（地域文化施設等）について記述した。それ以前については苦小牧市史や各施設沿革誌、要覧などを参照されたい。

苦小牧市の生涯学習施設一覧表（平成十一年七月現在）

名	称	設置年月日	所在地	延面積 ㎡	所管	館長名	備	考
苦小牧市文化交流センター		平成10年11月1日	本町1・6・1	四四九九	市教委	間山 光代	昭和21年10月25日苦小牧町公民館として創立。	
勇払地区公民館		昭和60年12月2日	勇払三三	一、三六二	市教委	長谷川 聰	昭和40年12月27日に旧公民館開館。	
錦岡地区公民館		昭和48年4月1日	青雲町1・23・12	四九二二	市教委	深津 幸夫		

苦小牧市立中央図書館	昭和63年11月3日	末広町3・1・15	四四一九	市教委	君嶋 龍郎	昭和26年4月1日苦小牧市立苦小牧図書館として創立。
苦小牧市サンガーデン	昭和63年11月3日	末広町3・1・15	二、三九三	都市建設部	島 敏夫	
苦小牧市文化会館	昭和45年11月3日	旭町2・8・19	三六〇五	市教委	北島 博	
苦小牧市科学センター	昭和60年11月1日	旭町3・1・12	二、四九六	市教委	杉山 光二	昭和45年1月15日苦小牧市青少年センターとして創立。
苦小牧市勤労青少年ホーム	昭和44年12月7日	旭町3・1・12	一、〇五二	市教委	河上 良子	昭和52年4月15日に勤労者体躯センター開館。
苦小牧市女性センター	平成6年10月23日	若草町3・3・8	一、三九〇	市教委	遠山 恭子	昭和43年12月24日働く婦人の家『婦人ホーム』として創立。
苦小牧市博物館	昭和60年11月3日	末広町3・9・7	三、二九四	市教委	佐藤 一夫	
市埋蔵文化財調査センター	昭和60年4月1日	末広町3・9・7	一、六四九	市教委	佐藤 一夫	
西弥生児童センター	昭和56年1月10日	弥生町2・2・12	七二四	市教委	高屋 仁	
住吉児童センター	平成6年4月8日	住吉町2・5・17	四四一	市教委	高屋 仁	
大成こども交流館	平成8年4月1日	大成町2・3・8	三七九	市教委	高屋 仁	
日新児童センター	平成9年4月1日	日新町3・6・15	四四一	市教委	高屋 仁	
沼ノ端児童センター	平成11年4月1日	沼ノ端六二五	三八〇	市教委	高屋 仁	
苦小牧市民会館	昭和43年10月18日	旭町3・1・16	八九二	市民部	押切 隆	
豊川コミュニティセンター	昭和56年5月1日	豊川町3・4・21	二、五三二	市民部	森 隆雄	
住吉ライブラリーセンター	昭和63年12月22日	住吉町1・3・20	二、一五六	経済部	委託業務	苦小牧勤労者総合福祉センターが正式名称。
沼ノ端コミュニティセンター	平成4年10月10日	沼ノ端六二六	二、二二六	市民部	菅原 公男	
植苗ファミリーセンター	平成9年6月7日	植苗四〇一五五	一、二五六	市民部	粕谷 英男	平成9年8月10日全館オープン

『苦小牧市の教育』 平成十年 苦小牧市教育委員会、『苦小牧市職員録』 平成十一年 苦小牧市

▼苦小牧市文化会館

苦小牧市の市民文化施設としては、市民館と市民会館があったが、公民館大ホールは収容人員一五〇人、市民会

館大ホール一、八〇〇人であり、文化団体にとっては帯に短したすきに長しの状態であり、市民会館は有料であり自由に使える施設ではなかった。このため、文振連からも五〇〇人収容の多目的ホールを持つ文化会館新設の要望書が提出されており、大泉市長三選の選挙公約でもあったから、その気運も一気に高まり、昭和五十年（七四）七月に大泉市長は旭町の職安跡地に建設すると発表した。市教委は同五十一年（七六）六月三十日に文化団体代表による文化会館建設懇話会を設けて先進施設の視察を含め調査研究を重ね、利用者の立場で提言を行った。

文化会館は設計上の問題で予定より着工が遅れることになったが、苫小牧市の新しい文化の殿堂として同五十三年（七八）十月十二日に起工式が行われた。鉄筋コンクリート造り地下一階地上四階の延べ面積約三、六〇四平方メートルで、総工費約八億四、〇〇〇万円であった。

同五十四年（七九）十一月三日、新しい地域文化創造の場として文化会館は落成開館式を行いオープンした。市民の旺盛な創造意欲を育て、郷土に根ざした独特の文化活動を推進するとして設立されたが、その趣旨は、
①芸術・ふれあいの場 市民の優れた芸術の鑑賞を通して交流を深め文化活動を進める。
②うるおい、郷土文化創造の場 市民が創造活動の成果を発表し郷土文化の創造を進める。
③学習の場 市民が教養を高め学習を進めるなどである。^②

一階には間口一五メートル、奥行一二メートルの舞台を備えた五〇〇人収容の大ホールのほか、市民ロビーや展示室、美術陶芸室が設けられ、二



苫小牧市文化会館

階に研修室、三階に中小会議室、練習室、和室、四階に教育研究所、視聴覚室、研修室などがある。なお、市教育研究所は平成六年（九四）六月十二日に移転し、会議室等になっている。

苦小牧市文化会館利用者数（単位人）

年 度	総 数	ホ ー ル	楽 屋	展 示 室	美 術 室	練 習 室	和 室	会 議 室 四 室	研 修 室 1	視 聴 覚 研 修 室
昭和54年度	一六、一三七	六、〇九三	四〇	四、八四〇	一五	三九五	二四六	三、七三三	一四〇	五八
55年度	九九、七一九	四〇、二一〇	四〇二	一四、九五〇	三、〇〇五	八、五四一	三、二一〇	一六、五四九	四、五六五	二、八三〇
56年度	一一、五七七	四三、三〇八	一四一	一二、六〇〇	三、七五六	一三、六九九	四、七八二	二二、八七三	七、三三七	六、六七〇
57年度	一一、五九六	三七、七〇七	一五五	一四、三七七	四、七三三	一五、八六三	四、三三七	二三、五八三	六、三九六	四、七七五
58年度	一〇、五四二	三七、七〇八	六七二	一〇、九五五	四、八六一	一四、六五二	三、一五一	二一、六五四	五、七五八	六、〇一七
59年度	一〇、七三九	四二、六四〇	九五三	一二、三三五	四、四七〇	一一、一四一	三、一〇七	一九、〇三二	五、三三三	八、四一九
60年度	一〇、九七五	四四、一一六	一、五三〇	一二、七八〇	三、四二二	九、〇六九	三、五六二	一九、〇二九	五、六五一	一〇、五七八
61年度	九九、九九六	四三、八九五	一、八〇八	八、九七〇	三、五八〇	八、五一九	三、七六七	一七、四〇一	五、四二一	六、六三五
62年度	一〇、二九九	四七、八〇二	一、六七九	六、九五〇	三、九三八	七、七七八	四、〇七七	一七、三二四	四、三三二	六、五二九
63年度	一〇、六七二	五四、二九八	一、八五二	一一、二六〇	三、九八一	七、四七六	三、一七〇	一三、二五一	四、三〇八	七、一九六
平成元年度	九四、五六五	四六、四三〇	九六三	八、三六〇	三、八四四	八、四六五	三、〇〇七	一一、八七五	四、七四六	六、八九五
2年度	九四、三九八	五一、九八五	八二七	四、三三〇	三、八三四	八、六八六	二、八七四	一一、七九九	四、五九三	五、四六〇
3年度	九四、六四九	四九、五六一	九八四	四、四一〇	四、〇五	九、六九二	三、五〇六	一三、七八〇	四、〇六一	四、九一〇
4年度	九五、七一	五〇、〇七七	七九一	五、三二一	二、五八三	九、四五三	二、八一	一四、五〇六	四、二六〇	五、九一九
5年度	九一、六三〇	四九、七〇五	九五一	二、〇一八	二、〇〇	八、八七三	二、八九六	一五、三七二	四、〇三三	五、六八二
6年度	九一、三四七	五二、八四〇	六四	二、七〇〇	一、八九三	八、七九四	二、三八	一三、八一〇	三、九〇九	四、四六九
7年度	九六、九九九	五〇、二六	五八〇	八、三三〇	一、六七六	九、三四〇	二、四一九	一六、八九三	四、四四	三、五八一
8年度	八七、二五二	四九、七三三	六七八	三、〇七〇	三、六四一	九、五〇四	二、三七六	一五、二二五	四、三三四	二、七一一
9年度	九六、五〇〇	四九、三三七	六二八	五、三三〇	三、六六二	九、九二〇	二、七四一	一四、九九〇	五、五八八	四、三四四

（『苦小牧市統計書』 各年版 苦小牧市企画調整部企画課）

▼苦小牧市博物館・苦小牧市埋蔵文化財調査センター

昭和三十年（五五）十二月、旧職業安定所（王子町・そうご電器付近）の建物から旭町に新図書館を建設して移転した際、図書館が収集していたアイヌ民族資料を中心にして新館に郷土博物室を開設した。これが苦小牧における博物館の嚆矢であった。

同四十五年（七〇）一月十五日に市青少年センター（現市科学センター）が開館し、同センター内に博物展示室が併設され、図書館内の博物資料はここに移された。

苦小牧市は同四十八年（七三）十一月に苦小牧百年事業として郷土博物館建設の方針を決定した。しかしながら、財源的裏付けや建設用地問題もあつて実質的な進展が見られなかったが、同五十一年（七六）二月になって大泉源郎市長は同五十五年度（八〇）以内に完成させたいと発言した。³⁾市教委では同年七月六日に郷土博物館建設懇話会（門脇松次郎代表幹事・会員一〇人）を設置して広く意見を求めてその建設準備に入った。

その後、具体的な進展はなく博物館建設懇話会も有名無実化していたため、同五十二年（七七）四月に苦小牧郷土文化研究会を中心にした民間の苦小牧博物館資料収集委員会（昭和四十八年十二月結成・門脇松次郎会長）が市博物館準備委員会の早期設置と専門職の配置を訴える意見書を市教委に提出した。だが、財政難からこの問題はなかなか実現しなかった。

同五十五年（八〇）になって博物館について大きな動きがあった。同年七月二十三日になってほとんど機能をしていない建設懇話会に代わり、より専門的な人材を集めた新たな苦小牧市郷土博物館建設懇話会（門脇松次郎会長・会員一八人）を設置し、博物館の性格、規模、内容などの基本構想を固めることになった。同懇話会は同五十六年（八一）十一月に博物館の基本構想をまとめ、市内末広町の苦小牧工業高校跡地に造成が予定されている文化公園の一角

に建設しようという構想案であつた。

昭和五十七年（八二）一月二十八日には専門家の意見を反映させるため顧問二人を入れた、苦小牧市博物館建設準備委員会（門脇松次郎会長・委員一人）を発足させ、専門的な角度から研究、検討を行った結果、博物館に埋蔵文化財センターを併設させることになった。一方、市議会でも同五十八年（八三）八月三十一日に博物館・埋蔵文化財調査センター建設特別委員会が設けられ、同年九月二十六日に博物館と埋文センター建設について「①公共施設の建設に当たっては、今後諸要件を整備の上、提案すべきである。特に用地の取得については、不信任を持たれることのないよう十分留意すべきである。②建設に当たっては地元企業を最優先に活用すべきである。③博物館使用条例の設定に当たっては、特別委員会の管理・運営に関する意見を十分考慮すべきである」と三項目の要望意見を付して、原案通り可決した。

本市初の本格的な博物施設となる苦小牧市博物館と市埋蔵文化財調査センターの起工式が同五十八年十二月十六日、市内末広町三丁目の建設現場で行われた。

博物館と埋文センターが一体となり、延べ四、八〇八平方メートル、総建築費は一七億六、四七〇万円（博物館一三億二、五四〇万円、埋文センター四億三、九三〇万円）であつた。工事は三年計画で郷土の考古、民俗資料が収蔵・展示され、胆振・日高管内では最大規模の博物館が建設されることになった。

埋蔵文化財調査センターの落成開所式が同六十年（八五）四月一日、同センターで行われた。センターは鉄筋コンクリート地下一階地上二階建てで延べ床面積一、六四九平方メートル、地階に収蔵庫、一階に整理室や復元室、保存処理室、二階に記録保存室、図面整理室、研究室が完備された。

同四十八年（七三）の苦東埋文調査開始以来、同五十九年（八四）まで発掘された遺跡は三五遺跡、出土した遺物



市博物館 市埋蔵文化財調査センター

は一一五万点、遺構は二、六九六件に達した。^⑤

昭和六十年（八五）四月一日に開館した同センターが同月十二日に一般開放され市民らの来訪で賑わった。職員らの指導を得ながら縄文時代の土器片を実際に接合させる土器の復元や石器の形や大きさを実測するなど考古学調査の一部を体験、先史時代に思いを馳せていた。

苦小牧市博物館と苦小牧市埋蔵文化財調査センターの落成記念式典が同年十一月一日、文化会館で行われた。博物館は同四十八年（七三）に建設方針を決めて以来の一大事業であったが、式典には同施設の建設に携わった市民、団体、業者ら関係者約二七〇人が参列して落成を祝った。

同六十年十一月三日の文化の日にオープン、当日は市民に無料公開された。待ち望んだオープンに朝から市民が続々と詰めかけ夕方までに八、〇〇〇人を超える入場者で賑わった。開館を記念した特別展「苦小牧地方の有形文化財」は江戸時代末期の勇武津（勇弘）場所の隆盛を物語る文化財が展示された。

博物館が公募（応募数一、〇八六点）したシンボル展示・マンモス親子の愛称が同年十二月十四日、母マンモスは「クイーン・ト・マンモス」、子マンモスは「チビモス」と決まった。名付け親となったのは、ともに苦小牧東小三年生の庄子敏行と磯部英之であった。

博物館に対する理解を深め、各地の博物館友の会と交流することによって知識を広めようと昭和六十三年（八八）七月三十一日に苦小牧市博物館友の会（中澤啓次会長）が設立された。

博物館では特別展を開催しており、その主なものはニュージーランドの先住民マオリ族の民俗資料「マオリ文化展」が平成五年（九三）に、苦小牧一二〇年記念の「苦小牧一二〇年の歩み展」が同五年（九三）に、苦小牧港と中国・秦皇島港との国際友好港締結十周年を記念して「兵馬俑」（へいばよう）が同七年（九五）に、また、海外での資料展示として姉妹都市ニュージーランド・ネーピア市のホークスベイ博物館で「二つの島のかけはし」苦小牧市博物館秘蔵品展」が開かれ、苦小牧のアイヌ民族資料などが展示された。

入場者が一〇万人に達したのは同九年度（九七）末で三五万五、一六七人となり、考古資料四万四、四九一点、歴史資料四万二、七九三点、自然資料四万一、四八三点、民俗資料一、七八七点、芸術資料九二〇点を数え、郷土苦小牧の文化の向上にその役割を果たしている。⁽⁶⁾

苦小牧市博物館入館者数（単位）

年 度	総 数	個 人					団 体		
		小・中学生	高 校 生	一 般	幼 児	小・中学生	高 校 生	一 般	
昭和60年度	一一、六六三	四、六〇六	一、三六	六、六七六		五、〇七		七、三八	
61年度	二〇、九一八	五、七三三	一、五一	八、〇九八		三、五〇三	六、四	三、三七九	
62年度	二二、七一四	四、四四四	一、九一	六、七〇三		六、九三六	二、六一	三、一七九	
63年度	二九、四〇〇	四、八七〇	二、八五	一、三、六一四		七、六六五	二	二、九六四	
平成元年度	二九、八六五	五、七四〇	三、五七	一、一、二四九		九、六八八	一、七	二、八二五	
2年度	三〇、五二一	四、九四五	三、八七	一、二、七三〇		八、九二七	四、五〇	三、〇八二	
3年度	二八、六一九	四、二二	三、〇九	九、六五六		一〇、五三	一、二七	三、七九三	

苦小牧市史（追補編）

平成4年度	三二、二七八	五、九五六	三九一	一、八九六	九、九九一	一	三、〇四三
5年度	二八、八七〇	五、八三六	二二三	八、九九一	一一、〇二〇	一五	二、七八六
6年度	二九、八七九	五、二七〇	二二六	八、六九二	一一、九八六		三、七一五
7年度	二八、一〇一	五、二七〇	一九九	八、〇六四	一二、三三二		三、二四七
8年度	二六、九二四	四、一九九	一五五	六、四三四	一二、〇九七	三七	三、四一五
9年度	二七、四二九	四、四五三	二五五	八、七九四	一、四六二 二、一七六	七	二、八六六

『苦小牧市統計書』 各年版 苦小牧市企画調整部企画課

苦小牧市博物館資料数（単位・個）

年 度	考 古 資 料	歴 史 資 料	自 然 資 料	民 族 資 料	芸 術 資 料
昭和60年度	四三、九二七	一六、〇二八	三三、四一八	一、六七四	四七五
61年度	四三、九五〇	一六、九〇九	三四、五九一	一、六七四	四七五
62年度	四四、〇七五	一八、一六〇	三四、七八二	一、六七五	四九二
63年度	四四、五七四	二〇、一五八	三五、〇〇六	一、六七五	四九四
平成元年度	四四、五七四	三三、二一六	三五、一四一	一、六八九	五一八
2年度	四四、七二七	三五、三四二	三五、二〇八	一、六九六	七〇三
3年度	四四、七四四	三六、九六〇	三五、二八九	一、七三二	七五四
4年度	四四、七五〇	三八、〇三五	三五、七六三	一、七三二	七五九
5年度	四四、四八六	四〇、五三〇	三九、三〇四	一、七五七	九〇二
6年度	四四、九八九	四一、一二三	四〇、七九三	一、七八一	九〇三
7年度	四四、四九〇	四一、三九二	四〇、九八一	一、七八二	九一〇
8年度	四四、四九〇	四一、九三五	四一、一一六	一、七八四	九一七
9年度	四四、四九一	四二、七九三	四一、四八三	一、七八七	九二〇

『苦小牧市統計書』 各年版 苦小牧市企画調整部企画課

▼苦小牧市立中央図書館

苦小牧市立中央図書館は昭和二十六年（五一）四月一日に設立された苦小牧市立苦小牧図書館をその前身とするが、決まった建物はなく、空き家を求めて点々と移転する放浪図書館時代があった。同三十年（五五）十二月、旭町に新図書館が完成して移転し、ようやく落ち着いたのである。しかも、当時としては近代的な建物であったから日本図書館協会から全国の模範中小図書館として調査を受けるほどであった。しかし、年数が経過するにつれ次第に老朽化が進み、雨漏りや破損箇所が出てくるようになった。特に閲覧者が多く、常に混雑が続くようになった。図書館としては移動図書館（ブックモービル）や分室を設置して、利用者の要望に応えてきたが、同五十五年（八〇）には人口も一五万人を超え、新図書館建設の要望が高まっていった。

市教委と市立図書館では新図書館建設に向けて先進都市の視察を含めながら調査、研究を行っていたが、現図書館の地（旭町）での改築を行う方向を決めていた。そして、同五十七年（八二）五月に市社会教育委員会（図書館協議会委員兼務）に対して新図書館の建設を含めて「図書館の在り方について」を諮問した。

約一カ月に及ぶ調査、研究、先進図書館視察を行った市社会教育委員会議は同五十八年（八三）三月に市教育委員会に対し「図書館の運営の在り方について」の答申書を提出した。この答申は市立図書館の目標、目的、図書館ネットワーク、新館建設、運営など六項目にまとめられた。特に新図書館建設については、中央図書館は三五万冊の蔵書を収容できる四、〇〇〇平方メートル規模とし、さらに市内の二地区に分館（一カ所五〇〇平方メートル）を早急に建設する必要があるとし、文化的な香りのする生涯学習の施設とするというものであった。⁷⁾

こうして図書館の狭隘化が取り沙汰されるようになり、改善要望の声が高まった同六十年（八五）二月、市は新図書館建設の検討に入った。建設候補地は、現在地は土地も狭く、高層図書館は好ましくないと除外され、若草町

のお祭り広場、王子球場隣接地、旧東高校跡地などが挙げられたが、そのいずれも不適であったり、土地所有者との折り合いがつかず見送りとなった。しかし、最終的な結論として市民文化公園が最もふさわしいということに落ち着いた。

昭和六十年（八五）九月の市議会で図書館改築補正予算二、四〇〇万円の設計費が追加計上され可決をみた。同年十二月にはサンガーデン（当初サンルーム）と中央図書館の設計コンペによる基本設計が決まり、三カ年計画をもつて建設に着手することになった。同六十年（八六）十月二十一日、中央図書館とサンガーデンの起工式が建設地の市民文化公園で行われた。

建設される中央図書館は地上二階一部地下一階、総面積四、四一九平方メートル、サンガーデンは図書館と棟続きで二階建て、総面積二、三九三平方メートル、総事業費は約一九億二、〇〇〇万円（図書館一三億二八〇万円、サンガーデン五億九、七二〇万円）で主体工事は本州大手建設一社と地元建設二社による共同企業体が当たった。

建設工事が順調に進み同六十三年（八八）十一月二日、市立中央図書館とサンガーデンの落成記念式典が同館で行われた。関係者約二〇〇人が出席、文化と憩いの殿堂の完成を祝った。新設図書館の蔵書能力は四五万冊（開館当時二〇万冊）のほか、ロボット操作のビデオ、音楽や落語が聴ける音声システムなどのある視聴覚サロン、図書等のコン



市立中央図書館とサンガーデン

ピューター管理システムが登場した。併設のサンガーデンは土木部緑地公園課の管理で、鉄筋コンクリート造り二階建てのガラス張りの大温室で、苫小牧では見られない常緑樹などが植えられ、市民に通年緑と花を提供することになり、レストラン、緑化相談コーナーもある憩いの場となった。これらの二施設は翌日の文化の日である昭和六十三年（八八）十一月三日にオープンした。

市立中央図書館の貸し出し冊数は平成二年（九〇）十二月二十一日に一〇〇万冊を突破した。同六年（九四）十一月九日に三〇〇万冊を突破し、同十年（九八）の年間貸し出し冊数は過去最高の七八万一、六四〇冊を記録した。一方、苫小牧市内を巡回し図書を貸し出す移動図書館の「はまなす号」が同六年二月に三代目として中型バス改良車（三、五〇〇冊積載）に更新された。だが、一時は二二万冊の貸し出しのあった移動図書館も、新図書館の開館と分室の開設により年々利用率が低下し、同十年度には五万三、九四一冊に止まり、移動図書館の役割も極めて小さいものとなり、同十一年度（九九）からマイクロバス型移動図書館車を廃止し、一台・二三ステーション・月二回巡回をもって運用している。⁹⁾

また、中央図書館は開館と同時に錦岡、勇払の地区公民館にある図書コーナー（分室）に中央図書館と電話回線によるコンピューターバッチ処理システムを導入し、その後も住吉ライブラリー、沼ノ端コミセン、植苗ファミリーセンタ―、豊川コミセンの図書室ともオンラインシステムをとり、利用者検索端末機一五台、CD-ROM検索機二台、道立図書館・札幌市中央図書館蔵書検索器各一台を設置している。

同図書館は同七年（九五）十一月十日から電子出版物（CD-ROM）の利用サービスを開始した。自然科学や経済、観光など各種情報のCDを自由に見られるパソコンを設置し、従来の活字資料だけでなくマルチメディア時代へ対応した取り組みが進められており、また、同十一年十月からインターネットのホームページを開設して利用者への

中央図書館は市内の各図書施設とのオンラインシステムで結ぶことにより、地域住民に密着した生涯学習施設の拠点として利便性がより高まることになった。「親切でやさしい、市民のための図書館」を目指して、また、高度情報化社会へ対応出来る図書館を目指して活動を展開している。なお、本館は平成八年度北海道文化奨励賞を受賞した。

年 度	中 央 館	移 動 圖 書 館	勇 弘 図 書 コ ー ナ	錦 岡 図 書 コ ー ナ
昭和63年度	入館者数 一五〇、九三三	利用者数 二八三、七五五	貸出冊数 一一九、五四四	利用者数 一三、三八〇
平成元年度	二四一、一一三	四四五、二九八	一一一、〇八九	九八、七六六
2年度	二二二、七四一	四六二、八七九	一二〇、〇四五	一〇、四六五
3年度	三七五、九二九	四九一、〇五二	一〇五、六二五	八五、五三三
4年度	三八一、九八七	五一九、二八八	九七、五八八	五七、六九九
5年度	四一一、一〇五	五二八、一三六	八五、三〇六	五、六七一
6年度	四三四、三六一	五七二、八二九	九五、三三八	四四、四六六
		二三、〇七一	一一、三五九	二、六一一
				貸出冊数 一六、一二二
				一一、二〇九
				一一、三三八
				一〇、八二三
				一一、五七八
				一一、一五七
				九四、八五

平成7年度	8年度	9年度	10年度	年 度	昭和63年度	平成元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
三九、九六七	三九、六七五	四〇、〇六三	四一、〇〇九	住吉図書館コーナー 利用者数	一〇、〇〇九	一〇、二七五	九、七八一	一〇、五五三	一〇、二七五	九、七七二	三、四七六	三、三三八	三、三六〇	三、三六〇	三、三六〇
五五、三六九	五五、二九八	五五、〇九六	六一、六八五	貸出冊数	九、〇二二	九、六六五	九、五五三	九、五五三	九、六六五	九、七九五	二、九五九	二、七四四	二、七四四	二、七四四	二、七四四
二一、七二〇	二〇、四四四	一五、六七四	八六、二二	沼ノ端図書館コーナー 利用者数	二、九五九	三、一三六	三、一三六	三、一三六	三、一三六	三、一三六	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇
九三、七三〇	八九、〇八一	七〇、四三五	五三、九四一	貸出冊数	二、九五九	三、一三六	三、一三六	三、一三六	三、一三六	三、一三六	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇	一、二五〇
一、二二三	九四、二	一、二二四	一、二二〇	植苗図書館コーナー 利用者数	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九	四、〇四九
三、六六六	三、一一〇	三、六六七	三、九四九	豊川図書館コーナー 利用者数	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三
三、二二四	二、七七六	二、九八一	二、二九二	貸出冊数	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三	二、〇三三
一、一、一一二	九、九一一	一〇、五九〇	一一、二七六	総貸出冊数	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四	四四、三八四

※移動図書館、各図書コーナーの利用者数の欠落は、統計の取り方の違いでデータなし。

『苦小牧市統計書』 各年版 苦小牧市、『とまこまい図書館要覧』 各年 苦小牧市立中央図書館

苦小牧市立図書館の蔵書冊数・所蔵数一覧(単位冊・本・枚)

年 度	総 記 哲	学 歴	史	社会 科学	自然科学	技 術 産 業	
昭和63年度	一、一六九七	六、三二九	一七、八三七	二六、六五九	一三、四一一	一一、九二五	三、九一六
平成元年度	二、一八二七	五、五七六	一七、八五五	二九、六一三	一六、一二〇	一三、〇二九	三、九五七
2年度	六、六三七	六、一七四	一九、五六八	二八、五五六	一八、五五一	一六、八六八	六、〇四四
3年度	七、七五九	六、五二五	二二、一八八	三二、七四二	一九、五五七	一九、九四九	六、八九三

苦小牧市史（追補編）

年 度	芸 術	語 学	文 学	絵 本 紙 芝 居	合 計	テ レ ビ ・ ビ デ オ	雑 誌 種 類 数
平成4年度	七、一〇八	五、七五六	一九、七六一	二九、五六〇	一七、〇六九	一八、一六二	六、六四七
5年度	七、九五八	六、四七〇	二二、〇七五	三三、二三八	一九、〇二二	二〇、一八九	七、四一六
6年度	九、〇七五	七、四三五	二四、三三三	三六、四八三	二一、一一七	二三、四五三	八、二四〇
7年度	九、六八五	七、九九四	二五、六四七	三八、八二七	二三、二六一	二三、一七一	八、六八七
8年度	一〇、一五四	八、四一八	二六、五九四	四〇、七四七	二四、六五四	二四、〇五〇	九、三三四
9年度	一〇、八二五	九、〇一七	二八、一五〇	四二、七九三	二六、〇九七	二五、四七二	九、八二九
10年度	一一、〇六四	九、四〇九	二八、八七四	四四、四三〇	二七、二五二	二五、七五四	一〇、二八八
昭和63年度	一四、六八三	二、二五九	八一、三七八	九、五三三	一九九、六〇七		
平成元年度	一六、五二八	五、五七六	八九、九二七	一〇、七二四	二二一、六二二		
2年度	一八、〇一九	二、六八九	一〇七、九六三	一六、二七七	二四七、三四六		
3年度	一九、〇二一	二、八三〇	一一四、〇四三	一七、五六〇	二六八、〇六七	七、九九五	
4年度	一六、七二三	二、四七三	一〇〇、三九七	一九、八一七	二四三、四七三	八、一四二	
5年度	一八、七五九	二、七八四	一一二、二一六	二三、三五〇	二七二、四七七	八、六九〇	二二三
6年度	二〇、九九〇	三、〇八四	一二六、三二二	二六、九九八	三〇六、五一〇	九、四五一	二二四
7年度	二二、七六三	三、二一九	一三四、二三〇	二八、六〇一	三三六、〇八五	八、七二九	二二二
8年度	二四、四〇一	三、三六四	一三九、六五三	三〇、一五〇	三四一、四一九	一〇、一三〇	二三三
9年度	二五、九四六	三、五九〇	一四六、七九四	三一、八九六	三六〇、四〇九	一〇、四五七	二三九
10年度	二六、八七七	三、七四〇	一五四、七〇六	三三、六二九	三七五、〇二三		二四七

『苦小牧市統計書』 各年版 苦小牧市企画調整部企画課

▼苦小牧市女性センター

苦小牧市女性センターは昭和四十三年（六八）十二月二十四日に旭町の市営改良住宅一階に開設された婦人ホームをその前身とする。当初は福祉事務所所管であったが、同五十五年（八〇）七月に市教委の所管となった。勤労婦人



苫小牧市女性センター

及び勤労者家庭主婦の福祉の増進と教養の向上を図り、併せて憩いの場とすることを目的に設立され、全国で一六番目、道内では最初の婦人ホームであった。

同ホームは築後二十数年を経過し建物は老朽化、狭隘となつて働く女性の活動や運営にも支障をきたすことになった。このため各種女性団体やサークル等から改築要望の声が高まつていった。市は社会福祉会館・婦人総合センター（仮称）の併設施設として、平成五年（九三）二月十七日基本設計をまとめた。同センターの建設予定地は、若草町の

王子製紙社有地五、二〇五平方メートルと決まつた。

複合施設は鉄筋コンクリート造り五階建て延べ約四、五三〇平方メートルで、一、二、三階が社会福祉協議会関係、四、五階は婦人団体が利用することになり、総事業費約二〇億三、二〇〇万円を投入することとなり、同五年九月一日に複合施設基本設計が出来上がり「苫小牧市民活動センター」として工事に着手した。そして、愛称も「ふれあい三・三」と決まり市民活動センターは、同六年（九四）八月二十二日に竣工した。婦人ホームの名称は既婚者のイメージが強く、時代の流れもあり、「女性センター」と改称して同年十月二十三日に開館した。女性センターの専有面積は約一、三九〇平方メートルのスペースを占有し、事務室をはじめ相談室、講習室、音楽室、茶室、和室、図書資料室、交流学习室、美術工芸室、陶芸室、料理実習室、プレイルーム、談話コーナー等女性の活動施設としては設備の完備されたセンターとなった。

苦小牧市史（追補編）

婦人ホームから女性センターと改称した記念の「第一回女性センターフェスティバル」が平成六年（九四）十一月十八日から二十日までの三日間、華やかに開かれた。テーマを「輝いて、楽しく、豊かに」とし作品展示やステージ発表などのイベントで、新たなスタートにふさわしくお祝いムードで大いに盛り上がりを見せた。

同センターは、女性各層の生涯を通じた学習や交流の場として自主的活動を助長育成するとともに、教育文化を推進する専門施設としてその充実を図り、苦小牧の女性活動及び福祉の積極的展開に努めようとするものである。

平成九年度（九七）における事業内容は、勤労女性に対し、①職業人としての知識や技術に関する相談・各種講座、講演会、②家庭にある女性に対しては、再就職に必要な相談、講習会等を実施した。第一期講座では、フィットネス体操、家庭料理など一五講座が実施され、延べ約四六〇人が受講した。

また、第二期講座では、ツール・ペインティング、やさしい英会話など二六講座を実施、延べ約四四〇人が受講し日常生活に役立つ知識や能力を身につけた。このほか暮らしの中の消費生活講座やセンスアップ講座、保育サービスク講習会なども開かれ、多くの現代女性のニーズに応えるものである。

一方、女性センターサークルは各種各様の広範囲にわたっている。文芸六、華道三、茶道七、和裁・洋裁七、書道二、ペン字一、絵画七、手芸三、手工芸一一、料理は四、舞踊二、音楽七、軽運動一〇、暮らし工夫二となっており、総数では一四部門、七二サークルが活動し、会員数は一、〇五四人である。^①

苦小牧市女性センターの利用状況（単位人）

年 度	講座研修会等	サークル活動	講演会展示等	貸館事業	その他	合 計
平成2年度	五、四六八	一五、二八一	一、二二九	三、二二八	三、三六五	二八、五六一
3年度	四、二八六	一六、一五八	一、五〇五	四、八七〇	四、六八六	三二、五〇五
4年度	五、〇七二	一七、四六七	一、八三六	三、一八〇	四、三三三	三一、九〇八

平成5年度							
6年度	四八一九	一六八九二	二、六三六	三、三七七	四〇〇五	三二、七二九	
7年度	五九五四	一七、二二八	三、四四四	六、四七六	三、九三〇	三七、〇〇二	
8年度	七、七三三	二八、六一七	三、九五一	一三、六四一	五、三三〇	五九、二六二	
9年度	八、七二七	三〇、五六七	四、二三四	一四、〇七八	六、八三八	六四、四三四	
	七、七三三	三〇、四七六	五、二〇八	一五、四一一	八、〇二一	六六、八二九	

『苦小牧市統計書』 各年 苦小牧市企画調整部企画課

▼苦小牧市文化交流センター

苦小牧市文化交流センターは昭和二十二年（四七）三月十五日に設置された苦小牧町公民館をその前身とする。当初は旧軍人会館などの建物を利用していたが、同二十八年（五三）六月には本町に労働会館兼用の公民館を建設して落ち着いた。

苦小牧市公民館は本道でも最も古い公民館として社会教育活動を展開し、同五十二年（七七）十一月には全国優良公民館として文部大臣表彰を受けた。

しかしながら、築後四十数年を経過し、この間しばしば改修工事を行ってきたが、狹隘のうえ、老朽化も激しく、利用者をはじめとし、市議会、運営協議会、マスコミなどからも改築の要望が高まっていた。

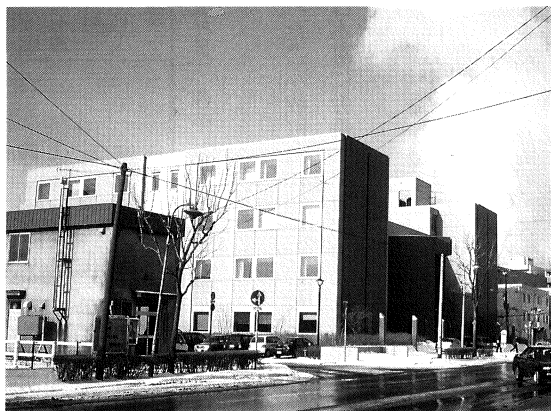
こうした中で平成五年（九三）十一月四日に公民館の利用者団体である同館サークル連盟（八一団体・六、一二三名）が市に対して全面改築を訴える署名簿を提出した。これを受け苦小牧市は、同六年（九四）八月二十九日に利用者や有識者から成る公民館改築調査検討委員会（遠藤満男会長）を設置し、生涯学習機能を兼ね備えた芸術文化の拠点となる施設を建設するため、先進地視察を含めて調査検討を重ね、翌七年（九五）六月五日に調査検討結果の報告書を鳥越忠行市長に提出した。

市は市総合計画第三期実施計画（平成六〇八年度）に用地取得や基本・実施計画を盛り込み、平成八年度（九六）から実施計画に着手することにした。場所は北側の本町ショッパーズ跡地とし、共同店舗付き市営住宅の解体作業が同八年十一月十一日から始まった。

当初は文化・芸術の生涯学習機能と市教育研究所を併せた複合施設を考えたが、起債の関係から市教育研究所は除外されることになり、規模も五階建てから四階建てに計画縮小となった。

公民館の増改築を目指す苫小牧市は基本設計を策定し、同年六月五日に市公民館改築検討委員会に示した。新公民館の名称は「文化交流センター」（仮称）とし、当初予定の五階建てから四階建てに縮小された設計であった。

文化交流センターは鉄骨・鉄筋造り地下一階、地上四階建ての延べ面積四、四八九平方メートル、一階にはフロアの一部を三階まで吹き抜けとした多目的ホールを設置、ステージやロールバック式椅子と呼ばれる移動式の観客席を三六〇席備えたホールであった。さらに図書・雑誌、情報のコーナーが設けられる交流ひろば（二八八平方メートル）も開設され、芸術作品の展示会も開けるギャラリー（二五七平方メートル）と作品保管室、大道具置場、楽屋、事務室などが配置される。二階には学習室（二室）や講習室、談話コーナーなどを開設、三階には学習室（二室）、プレールーム、音楽練習室などを配置、四階には美術室、視聴覚室、工芸室、和室などを



苫小牧市文化交流センター

設け、地階はボイラー室などである。総事業費は約二億八、〇〇〇万円であった。¹²⁾

苦小牧市文化交流センター（愛称・アイビープラザ）が平成十年（九八）十一月一日、新館一階ロビー（交流広場）で落成式が行われ、本市の新しい生涯学習施設がオープンした。

愛称名のアイビーは「ツタ」を意味し、旧公民館の名物でもあり、その伝統を引き継ぎ、ツタのように地面に根付いた旺盛な文化活動を期待しての命名であった。

一方、地区公民館は勇払と錦岡にあり、勇払地区公民館は昭和四十年（一九六五）十二月二十七日に開設されたが、同六十年（八五）十二月二日に新しい建物を得て移転した。両地区とも地域性を生かした事業に取り組み、地域文化の拠点になっている。なお、市交流センターはまだ利用データがなく、旧公民館の利用状況とした。

苦小牧市公民館利用状況（単位回・人）

館	年	区分	主催事業	サークル活動	貸館事業	社会教育事業	展示その他	合計
本館	平成7年度	回数 人員	六八七 五三、六二八	二、七二五 三九一九七	六一九 五四七二	〇 〇	一三 八、八四七	四、〇四四 一〇七、一四四
町館	8年度	回数 人員	七二六 四八、一二八	二、六四九 三六、五九六	六一七 五四八四	〇 〇	二〇 一三、八二二	四、〇〇二 一〇四、〇二九
民館	9年度	回数 人員	六七三 四三、一九一	二、四四六 三三、五九六	五五〇 四八九五	〇 〇	一三 八、九一九	三、六八二 八九、六〇〇
公館	平成7年度	回数 人員	一六九 一、六三八	一、一三五 九、八三三	一六一 九、〇六〇	二四二 一、一二二	六 三六二	一、七二三 二二、〇一五
私館	8年度	回数 人員	一八三 二、三六〇	一、一七三 九、二二七	一四一 六、五五九	二四四 九四二	五 二四〇	一、七四六 一九、三二八
民館	9年度	回数 人員	一六四 一、五四二	一、〇八七 九、〇一四	一九一 三、八五八	二四六 一、二七一	八 一、三八三	一、六九六 一七、〇六八

館 民 公 岡 錦		平成7年度							
		9年度	8年度	人員	回数	人員	回数	人員	回数
		人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数
		三、八六四	二七八	一五、九二三	四、一〇五	三、四三四	二八五	三、六六二	二八八
		二七八	二七八	一五、九二五	二二四	一五五	二八八	一、九八〇	五
		三、九八八	二七八	一五、九二五	二二四	五、四九一	三、三〇八	二、七〇〇	三、四〇二
		三、八六四	二七八	一五、九二三	四、一〇五	三、四三四	二八五	二、〇六八	二七、三三六
		三、八六四	二七八	一五、九二三	四、一〇五	三、四三四	二八五	二、〇六八	二七、三三六

『苦小牧市の教育』 各年 苦小牧市教育委員会

▼ミール展示館

苦小牧市は岩倉建設から平成十年（九八）十月に寄贈された旧ソ連製宇宙ステーション「ミール」と実験モジュール「クバント」（同二年十二月取得）を市科学センター隣接地に展示していた。

ミールは旧ソ連が昭和六十一年（八六）二月にバイコノール宇宙基地から打ち上げた宇宙ステーションの基幹モジュールで、同六十二年（八七）四月に天体観測用のクバントが打ち上げられ、ミールにドッキングした。宇宙飛行士の三六五日間宇宙滞在記録を達成し、平成二年（九〇）十二月四日に日本人で初めて秋山豊寛宇宙飛行士が搭乗した宇宙船「ソユーズTM11」とドッキングし、人類の夢に大きく近づいた宇宙ステーションとして多くの実績と話題を集めた。

苦小牧市に寄贈されたのは、これと全く同じに製作された予備機である。ミールは全長一三メートル、直径四・二メートル、重さ一三・五トン。クバントは全長六メートル、直径四メートル、重さ六トンで軌道修正エンジンや船内のコンピューター類は外されているが、内外装の形状や素材、船内の基本的な装備は飛行中のものと同一である。現在も飛行中の宇宙ステーションミールの予備として世界でただ一つ現存するもので、ロシアはミールの乗組員の引き上

げを行い、事実上の放棄を決めており、やがては消える運命にあるだけに極めて貴重なものと言えるのである。

このミールは科学センター隣接地に展示されていたが、野外のため、侵蝕や腐食の恐れがあることから市議会でも取り上げられ、市はこれを保護すると同時に、常時船内を一般公開するためにミール展示館を建設することになった。ミール展示館は通産省の補助事業として約一億二、〇〇〇万円をかけ、約四九三平方メートルの鉄筋二階建てで平成十一年（九九）十二月十二日にオープンした。

▼苦小牧市豊川コミュニティセンター

苦小牧市における初の地域総合施設である苦小牧市豊川コミュニティセンターは、苦東の石油備蓄交付金を主な財源として昭和五十五年（八〇）七月三十一日に市内豊川町の建設現場で起工式が行われ、本格的に工事を開始した。

このセンターは中心地域に集中した公共施設を、地域分散型という市民の要望に依って建設された。同センターには、図書室、プレールーム、料理室、講堂、ステージなどを備えており、延べ面積一、三六六平方メートルのセンターと、床面積一、〇五〇平方メートルの体育館、トレーニング室等からなるものであった。

同五十六年（八二）一月に発足し、地域活動は関係住民により運営しようとコミュニティセンター運営協議会が設立された。この協議会は市、町連役員、町内会、学識経験者など一七人で構成され、市が建物を直接管理し、同協議会に事業運営を委託するというものであった。いわゆる住民主体の運営が基本方針であった。



ミール展示館の開館式風景

苦小牧市豊川コミュニティセンター（豊川コミセン）は総事業費六億八、八五八万円をかけて、ふれあいのある地域づくりを目指して昭和五十六年（八一）五月一日にオープンした。

豊川コミセンは運営協議会の下に、専門部会（総務、文化、厚生、体育）が設けられ運営に当たるもので、公共施設の住民運営は市内では初の試みとなった。

コミュニティセンターの事業（豊川・沼ノ端とも）については条例により次のとおり定められている。

- ① コミュニティ活動のための場の提供に関すること
- ② 各種講習会、講演会等開催等の文化活動に関すること
- ③ 児童・老人等の福祉活動に関すること
- ④ 体育・スポーツ及びレクリエーション活動に関すること
- ⑤ その他コミュニティ活動に関すること

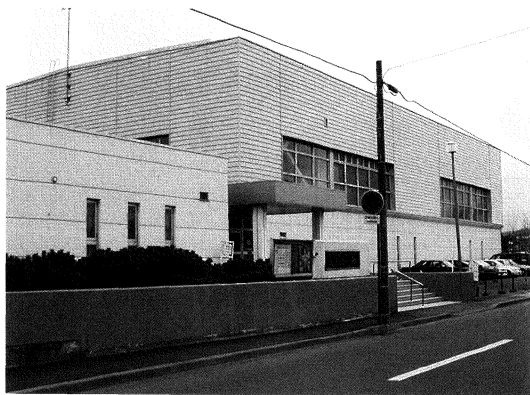
（『苦小牧市例規類集』 平成十年十月加除分 苦小牧市）

長い間の懸案であった図書室の電算化は、平成十年（九八）十一月一日から苦小牧市立中央図書館の分室に組み入れられることによった実現し、中央図書館とのオンラインシステムによって結ばれ、極めて便利となった。

▼沼ノ端コミュニティセンター

沼ノ端コミュニティセンターの実施計画が平成三年（九二）四月十六日にまとまったが、これは昭和五十六年（八一）五月に開館した豊川コミュニティセンターに次ぐ市内二番目のものであった。市は前年から地域住民との話し合いを進め、防衛庁補助を受けて実施設計に取り組んでいた。

沼ノ端コミセンの建設が平成三年（九二）九月五日から沼ノ端六二五番地の鉄南地区で始まったが、体育館を併設



苦小牧市豊川コミュニティセンター



苦小牧市沼ノ端コミュニティセンター



植苗ファミリーセンター

した複合施設となり、敷地面積が五、一〇〇平方メートル、建物は鉄筋コンクリート造り平屋建て一、三五二平方メートルのコミセンと八六四平方メートルの体育館を建設し、総工費は約八億二、〇〇〇万円で、このうち二億一、二九〇万円を防衛庁から助成を受けることになった。

体育館はバスケットボールコート一面がとれるアリーナのほか、トレーニングルーム、シャワー室を完備、コミセン部分は談話室と集会室、和室、料理室、図書室などを設け、建物の外周には四四台収容の駐車場も設けられた。

平成四年（九二）十月十日、沼ノ端コミュニティセンターの落成式が同センターで行われ、盛大に完成を祝った。

▼植苗ファミリースセンター

コミュニティセンター機能と町内会館を併設した植苗ファミリースセンターの建設工事が平成八年（九六）九月十六日、市内植苗四〇番地の現地で始まった。同センターは国際エアカーゴ基地形成を目指して同六年（九四）、新千歳空港を二四時間運用とする道と住民合意に基づき、苦小牧市が建設することになったものである。

同センターは、敷地面積約五、二九〇平方メートル、建物は鉄筋コンクリート造り平屋建てで、二五六平方メートル、五四台収容の駐車場も整備された。総工費は四億九、六八〇万円で、このうち道が九割を助成した。コミセン部分は多目的ホールや事務室、図書室、研修室、工芸室のほか、老人室、和室、男女浴室を整備、町内会部分には通年保育所の役割を果たす幼児・遊戯室のほか、集会室、料理教室、和室三室が完備された。これにより現行の植苗総合福祉会館は取り壊されることになった。また、地区住民による運営協議会が発足し、事業内容は豊川、沼ノ端コミセンと殆ど同じで、市職員も常駐し効率的な利用促進を図っている。

苦小牧市植苗ファミリースセンターが平成九年（九七）八月十日、全面オープンした。同日落成記念式典及び祝賀会が行われ、完成を心待ちにしていた地域住民など関係者七五人が完成を祝った。町内会館機能ゾーンは六月七日にすでに完成し一部オープンしていたが、同日で全面開館となった。

苦小牧市コミセン・ファミリースセンター利用状況（単位人）

館	年	開館日数	老人室	図書室	トレーニング	体育館	その他	合計
豊	平成5年度	二九五	四一、五二二	一七、八六八	六、八九五	四一、三七五	四九、〇六五	一五六、七二五
	6年度	二九五	四〇、六一七	一六、二九八	六、三〇四	四一、五七五	四九、五三八	一五一、三三二
	7年度	二九四	三九、五五六	一五、九八一	五、六〇三	三七、〇九三	四九、九八〇	一四八、二二三

川	沼	ノ	端	植	苗
平成8年度	平成5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
二九五	二九五	二九五	二九四	二九五	一八九
四〇、七八四	四、四二二	三、九〇二	三、七九六	三、九五〇	二、二四五
一六、一八四	八、〇七三	八、三七五	九、一七三	九、六二四	一、四八九
六、一一六	三、〇八四	二、六七九	二、六八四	二、四二七	八〇三
三七、二一一	二、二四七	一九、五四八	二五、〇三五	二二、四七四	八五五
五二、〇〇七	二、一三七	二、三八五七	二、〇四六	二、七七九	一、七五一
一五、一八〇八	六〇、一六三	五八、三六一	六、七三四	六〇、二五四	七、一四三

『苦小牧市統計書』 平成十年版 苦小牧市企画調整部企画課

- (1) 『苦小牧市史―下巻』 昭和五十二年 苦小牧市
- (2) 『苦小牧教育史』 平成五年 苦小牧市教育委員会
- (3) 『苦小牧民報』 昭和五十一年二月十八日号 苦小牧民報社
- (4) 『第四回定例苦小牧市議会会議録』 昭和五十八年九月 苦小牧市議会事務局
- (5) 『苦小牧東部工業地帯埋蔵文化罪分布調査』 昭和五十二年 苦小牧市埋蔵文化財調査センター
- (6) 『苦小牧市の教育』 平成十年度 苦小牧市教育委員会
- (7) 『苦小牧市立中央図書館建設誌』 平成二年 苦小牧市立中央図書館
- (8) 『移動図書館二〇年の歩み』 平成三年 苦小牧市立中央図書館、『とまごまい図書館要覧・一九九八』 平成十年 苦小牧市立図書館

（9）（10）『とまこまい図書館要覧・一九九九』平成十一年 苫小牧市立中央図書館

（11）（12）『公民館四五年の足跡』平成十年 苫小牧市公民館

三、青少年問題

青少年 苫小牧市では青少年が良い環境のもとで心身ともに健やかに、のびのびに成長することを願い、市対策 教委に青少年課を設置して、関係機関や団体と連携して健全育成対策や非行防止対策に取り組んできた。

中期社会教育計画や生涯学習推進基本計画の中にもその展望がみられ、さらにまた、各年度ごとに青少年対策の基本計画を掲げており、その主な年度の推進目標は次のとおりであった。

・推進目標及び重点事項

昭和五十二年度（一九七七）

1 地域活動体制の整備

① 青少年委員制度の強化、② 少年団リーダー養成確保。

2 家庭における健全育成意識と責任の強調

① 家庭機能の理解、② 家庭機能の回復。

3 勤労青少年の福祉の推進、

① 職場外生活の充実、② 勤労青少年のスポーツ活動の強化、③ 職業生活の動向とその安定。

4 非行防止体制の強化と非行対策の充実

- ① 地域補導体制の充実、② 非行少年対策の強化

昭和五十四年度（一五七九）

1 家庭教育の振興

- ① 健全な家庭づくりの促進、② 家庭教育学習の充実、③ 老人パワーの有効活用

2 地域社会における育成活動の促進

- ① 団体活動の促進、② 指導者の養成確保と地域指導体制の充実、③ 青少年委員制度の強化、④ 青少年のボランティアの促進。

3 勤労青少年の福祉の増進

- ① 健全な余暇活動の充実、② 勤労青少年のスポーツ指導の振興、③ 職場生活の安定。

4 非行防止活動の充実

- ① 補導体制の強化充実、② 多発非行の防止対策の強化、③ 青少年相談。

昭和六十二年度（一九八七）

1 健全育成対策

- ① 健全な家庭づくり、② 地域活動の活性化、③ 子ども会活動の充実。

2 非行防止対策

- ① 地域ぐるみによる非行防止、② 社会環境の浄化、③ 関係機関・団体等との連携強化

3 勤労青少年対策

- ① 文化趣味活動への参加促進、② 研修事業促進、③ 交流事業促進

平成五年度（一九九三）

1 青少年の健全育成の推進

- ① 団体・グループなど育成団体活動推進、② 地域活動の活性化、③ 芸術文化活動の奨励、④ 自然環境の活用と科学知識の涵養、⑤ 学校、行政など関係機関の施策の充実と各団体に対する支援、⑥ 国際交流の促進、⑦ 生涯学習の推進、⑧ 学校週五日制の支援
- 2 青少年のための環境の整備

- ① 健全な家庭づくりのために積極的支援、② 街づくりに対する意識の高揚と社会参加の促進、③ 雇用の促進と福祉の増進、④ 交通事故防止対策の促進、⑤ 有害環境浄化活動の促進、⑥ 各種施設の整備充実、⑦ 児童生徒指導の積極的支援。

3 青少年非行の防止

- ① 非行防止体制の充実と指導活動の促進、② 非行少年の指導並びに援助、③ 広報活動の強化、④ 地域活動、団体活動の推進。

（『市政概要』 昭和五十二年・五十四年度・六十二年・平成五年度 苦小牧市議会事務局）

このように本市の青少年対策は毎年推進目標、推進項目、推進内容が設定されて根強い活動が続けられている。平成十年度（九八）には「青少年をとりまく環境の浄化を図るため、親の意識を変える学習の場の拡大」¹を重点に進められたが、大項目では平成五年度のものともあまりかわらず、マンネリ化の傾向にある。

青少年問題は教育、福祉、労働、保健等あらゆる分野にわたり、その対策は各領域の基本施策の中で進められているが、実施の機関の連絡調整の役割が重要である。

苦小牧市青少年 青少年問題協議会は、昭和二十四年（四九）に総理府（現総務省）に中央青少年問題協議会問題協議会の設置 が設置され、その設置法により都道府県、市町村においても地方青少年問題協議会を置くことが出来る²とし、会長は当該地方公共団体の長をもつて充てるとされた。

地方青少年問題協議会は、①青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき必要な重要事項を調査審議する。②青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関の連絡調整を図ること、③当該地方公共団体や区域内の関係行政機関に対し意見を述べることが出来る^②とある。

苫小牧市青少年問題協議会は昭和三十一年（五六）九月一日に「苫小牧市青少年問題協議会条例」を交付して設置した。

苫小牧市青少年問題協議会条例（昭和31年9月1日 条例第16号）

（設置）

第1条 青少年問題協議会設置法（昭和28年法律第83号）に基づき、苫小牧市青少年問題協議会（以下「協議会」という）を設置する。

（委員）

第2条 協議会の委員は次に掲げる区分により任命する。

- ① 市議会議員 3名以内
- ② 関係行政機関の職員 11名以内
- ③ 学識経験者 15名以内

2 前項第3号の委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。但し再任を妨げない。

（会長及び副会長）

第3条 会長は会務を総理する。

2 協議会に副会長1名を置き、会長が委員の中から指名する。

苦小牧市史（追補編）

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

（補則）

第4条 法令及びこの条例に定めるものの外、協議会の運営に関し必要な事項は会長が定める。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

『苦小牧市例規類集』 平成十年十月加除分 苦小牧市

苦小牧市の 苦小牧市には青少年団体及び関連団体は、こども会、ジュニアリーダー会、海洋少年団、ボーイス
 青少年団体 カウト、ガールスカウト、こども会支援団体などがある。このうち、昭和五十六年（八一）現在の市
 補助団体を挙げれば次の通りであった。

苦小牧市の青少年育成団体一覧（単位人）

名 称	設 立 年 月 日	会 員 数	目 的
苦小牧市子ども会育成連絡協議会	昭和42年7月1日	一四〇	地域子ども会相互の連携を密にし、育成者、指導者の資質向上を図り、子ども会の健全な活動の促進を図る
苦小牧市つみきの会	昭和43年8月1日	二五	地域子ども会の育成強化を図り、組織的な子ども会活動を促進するため相互連携及び研修を行う。
苦小牧海洋少年団	昭和43年2月2日	一四七	海に親しみながら二つのちかい、一〇のおきてを通じて海を訓練の場とし、規律、活動を通し社会人の育成
苦小牧BBS会	昭和41年1月16日	二三	愛と奉仕の精神に基づき、非行少年の更正、明朗な青年社会の建設に役立てる。
ボーイスカウト苦小牧第一団	昭和48年5月6日	八八	「そなえをつね」に標語に奉仕の精神を身につけ、グループ活動を通し、社会に役立つ青少年を育てる。
ボーイスカウト苦小牧第二団	昭和52年10月23日	九二	"
ガールスカウト北海道第二〇団	昭和52年10月23日	四九	少女一人一人の豊かな可能性を開発し、品性、知性、能力をもって社会に役立つ市民になるよう育成する。

（『議会要覧 昭和五十六年版』 昭和五十六年 苦小牧市議会事務局）

苦小牧市少年 苦小牧市少年指導センターは昭和三十五年（六〇）六月一日に苦小牧市青少年補導センターとして設置された。同五十二年度（七七）には一九八人の補導委員が委嘱され、市、警察、学校などの関係機関や民生委員、保護司等の関係団体と密接な連携、協力をとりながら、組織的計画的に補導活動を展開してきた。

主な活動は、駅、映画館、喫茶店、デパート、遊技場、公園、ダンスホール、盛り場などの街頭補導、列車添乗補導、少年相談、継続補導、各種実態調査を行った。

平成五年（九三）には苦小牧市少年指導センターと改称し、少年を非行から守り、不幸な少年を出さぬように日夜努力している。

刑法犯少年補導数（単位人）

区 分	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年
全 体 数	三三〇	三六七	三三六	三〇六	二四七	一八八	一五九	一四三	一一四
内 女 子 数	三九	七四	七九	五六	一三三	四三	三六	三三	四六

（『市政概要 各版』平成元年・同三年・同五年・同七年 苦小牧市議会事務局）

注（１）『苦小牧市の教育』平成十年度 苦小牧市教育委員会

（２）『現行法規総覧４ 行政一般』平成十年十月加除分 第一法規

四、児童施設

児童館 苦小牧市に西弥生児童館が設置されたのは昭和三十九年（一九六四）一月五日のことである。これの新設は児童福祉法に基づく児童厚生施設として、健全な遊びや運動を通じて、本市における児童の健康を増進し、及び情緒を豊にするための施設であつた¹。また、その目的は次のとおりである。

- ① 健全な遊びを通した児童の指導に關すること
- ② 運動に親しむ習慣の形成及び体力増進のための児童の指導に關すること
- ③ 児童の遊び及び運動の場の提供に關すること
- ④ 子ども会、母親クラブ等の地域組織活動の育成助長及びその指導者の育成の養成に關すること
- ⑤ その他市長が第一条の目的達成に必要なと認める事業

〔苦小牧市例規類集3〕 平成十年十月加除分 苦小牧市

西弥生児童館は老朽化が進んだことから同五十五年（八〇）秋に改築されることになり新築工事を進めていたが、新児童館は同五十六年（八一）一月十日に完成した。同館は軽量鉄骨ブロック造り平屋建て約二八〇平方メートルで約一・八倍に拡大された。工事費は四、六〇〇万円で、このうち四、〇〇〇万円は通産省の工業再配置促進補助を受けた。定員六〇人で募集地区は矢代、新富、青葉、大成、白金、弥生の六町内の四、五歳児で、小中学生にも開放し利用拡大を図ることにし、充実した児童館として運営されている。

住吉児童センターは市内二番目の児童館として平成六年（九四）八月八日に住吉町二丁目にオープンした。市消防署住吉出張所北側にあり、敷地二、〇〇〇平方メートル、建物の床面積は三六三平方メートル、木造一部鉄骨造り、

平屋建てで室内体育館、遊戯室、図書室、集会室がある。

緑、明野、清水小学校区の一〇町内会の青少年委員等で、住吉児童センター運営協議会が平成六年（九四）四月二十六日発足した。子どもたちの自由なコミュニケーション、ふれあいのある地域社会づくりを目指すこととした。さらにその下に運営委員会の「ふれあい部会」「お楽しみ部会」「遊・ゆう部会」「児童クラブ部会」の四部会が設けられ、年間行事計画への助言、文化活動の促進、母親クラブの育成、児童の体力増進、留守家庭児童会の運営などに参画することにし、より親しまれる施設となるよう懸命な努力が積み重ねられている。

日新児童センターは市内三館目の児童館として平成九年（九七）四月一日に日新町三丁目にオープンした。同館は木造一部鉄骨造り平屋建て、延べ三六三平方メートル、図書コーナー集会室を兼ねたミニホール、運動室、児童クラブ室、事務室、器具室、調理室などを設置、総工費は約一億二、〇〇〇万円で、このうち三分の一は厚生省の補助を受けた。本館には児童厚生員の四人の職員が常駐、家庭教育相談を実施する専門指導員も配置されており、同館の特徴となっている。

沼ノ端児童センターは市内東部地区初の児童館として平成十一年（九九）十一月一日、沼ノ端コミセンに隣接した地域にオープンした。建物は木造一部鉄筋造り平屋建て、延べ面積三八〇平方メートルで、運動室、集会室、図書室、調理室、集会室、児童クラブ室等を設け、総工費は約一億二、〇〇〇万円であった。屋根のある公園として活用され、児童厚生員四人の職員が常駐し、地域の子どもたちに解放するほか、沼ノ端小学校の留守家庭児童学級の子どもクラブも利用している。

西弥生児童館、住吉児童センター、日新児童センター、沼ノ端児童センターの四館は「苫小牧市児童館条例」の適用館である。

大成こども 大成こども交流館は昭和四十七年（七二）建築の旧苦小牧第二幼稚園（大成分館）を改築したもの
交流館であつた。大成分館が廃止になつてから大成小学校の留守家庭児童学級がその一部を使用していたから、改築にあつても留守家庭学級の使用が前提にあつた。このため、他の児童福祉法による児童館とは異なり、苦小牧市大成こども交流館条例に基づく社会教育施設である。

改築工事は平成八年（九六）三月十六日に完了したが、バスケットボールのゴールネットや一輪車の練習用手すりを設けた遊戯室を開設、さらに留守家庭児童会が主に使用する集会室や図書室などのほか和室の休憩室も設けられた。集会室と図書室にはメルヘン調のジャンボ壁画も飾られ、全体的に明るいイメージの内装となつた。

同交流館は遊びや運動を通してこどもの交流を助長し、こどもの健全育成を図るためであり、事業内容は次の通りであつた。

- ① 遊びや運動の場の提供に関すること、
- ② 遊びや運動の指導、研修等に関すること、
- ③ 遊びや運動を通して生活指導等に関すること、
- ④ その他教育委員会が前条の目的の達成のために必要と認める事業、

（『苦小牧市例規類集3』平成十年十月加除分 苦小牧市）

このように児童館は市長の所管であつたのに対し、こども交流館は社会教育施設であり、教育委員会の所管であつた。苦小牧市大成こども交流館は同八年四月一日に四人の常駐職員を配置してオープンした。

苦小牧市児童館、児童センター・こども交流館利用状況（単位人）

区 分	西弥生児童館					
	幼	児	二、二五三	一、八八七	二、一一八	一、二三九
			平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
						平成9年度
						平成10年度
						一、五六〇
						一、三七五

873

第二節 文化振興

一、文化振興と文化財

苦小牧市の 近年は生涯学習時代、高度情報化時代と呼ばれ、著しい社会の変動と共に人びとの持つ価値観も変文化振興策 わつてきた。この社会変化に主体的に対応して、生きがいのある生活や住みよい地域づくりを目指す、市民の自発的な学習・文化活動が年々活発化している。本市においても自ら学ぼう、楽しもうという気運が高まり、この市民の学習活動を支援するため、生涯学習推進基本計画を策定して、体制の整備、充実に努めてきた。また、郷土文化財を保護し、地域に根ざした芸術・文化の振興を図る施策の推進に努めている。

市民文化の振興では、①地域に根ざした豊かな芸術・文化を育む施策の実施、②優れた芸術・文化の鑑賞機会の拡充、③市民の創作・発表活動の機会、場の提供、④芸術・文化団体等への助成と活動の推進、⑤文化財の保護、整備、活用の促進、⑥郷土芸能の育成、支援を方策として挙げていた。その推進内容は、市民文化ではゆとりとうるおいのあるまちづくりを進めるため、優れた芸術・文化鑑賞の機会を提供するとともに、市民の芸術・文化活動を促進し郷土文化創造気運の高揚に努めるとしていた。文化財の保護の推進内容では、先人の文化遺産の調査研究活動とその保存に努め、文化財の周知を図り郷土理解の促進に努めることを推進方針としている。¹

苦小牧市の行っている文化事業には、市民の文化・創作活動の成果を発表する場の拡充を図ることを目的に開催されている「苦小牧市民文化祭」がある。同文化祭は昭和二十四年（一九四九）十一月に第一回文化祭を行い、平成十

一年（九九）には第五十一回目を迎えており、毎年文化の日を中心に展示部門、ステージ部門、文芸部門、地域文化祭、（五地区）などが多彩に繰り広げられている。

第五一回 苦小牧市民文化祭（平成十一年）

総合展示発表 十月三十一日～十一月三日 市総合体育館

手芸展、ちぎり絵展、西洋陶芸アラカルト展、工芸展、写真展、陶芸展、郵便切手展、ペン字展、書道展、小中学校書道展、華道展、教育美術展、美術協会受賞者選抜展、お茶展

菊花展 十月三十一日～十一月三日 市サンガーデン

市民俳句大会 九月二十六日 アイビー・プラザ

市民川柳大会 十月 十七日 市文化会館

小中学校音楽発表会 十月二十三日 市民会館

小中学校演劇発表会 十月二十四日 市文化会館

苦小牧市民文芸誌 十一月 三日 発行

（『広報とまこまいNo.一五四〇』平成十一年九月二十五日号 苦小牧市）

苦小牧市教育委員会では、昭和二十九年（五四）から社会教育功労者及び同団体表彰を行ってきたが、同六十二年（八七）から苦小牧市文化賞、同文化奨励賞と改めた。なお、表彰者については第一編第一章の「各種表彰」を参照のこと。

苦小牧市文化振 昭和四十四年（六九）十二月、胆振管内二市一三町村が胆振地域の統合文化団体として「胆振興連絡協議会 文化振興協議会」が結成された。これを機に苦小牧市には各種の文化団体が組織的に活動するた

めに、何らかの形で統一することが急務となった。

折しも文化団体の活動を一層充実、発展させるための連絡機関を設置しようという気運が熟していたこともあり、昭和四十五年（七〇）二月、苫小牧市文化振興連絡協議会（文振連）設立準備委員会が発足した。同準備委員会と市教育委員会は各団体に対し設立趣意書を配布し賛同を募ることにした。この結果、加盟回答を寄せた団体は一八団体、一、五〇〇人であったが、さらに趣旨の浸透を図って勧誘を続けた。こうした経過の中で同四十五年四月二十五日、設立総会が開かれ、苫小牧市文化振興連絡協議会（矢嶋潔会長）が設立されたのである。

その後、苫小牧市の文化団体は年々増加の一途をたどり同五十年（七五）の文振連加盟団体は二七団体、各団体傘下数は一七五団体、会員総数は七、八〇〇人となった。このため文化団体にとって最大の悩みは会場難であり、どの団体にとっても深刻な問題であった。このため文振連は会場難解消に乗り出し、同五十一年（七六）三月、文化会館建設推進委員会を設置して、市に対して建設の要望書を提出する一方、文振連会員による文化会館建設推進募金運動を行い、約一三〇万円の建設基金を寄付した。

文振連提案の要望が概ね採択された市文化会館は、同五十四年（七九）十一月三日オープンした。この文化会館の誕生は文振連二〇年余の足跡の中でも歴史に残る最大の業績であったといえる。

創立二五周年を迎えた平成七年（九五）七月現在、文振連への加盟団体等は次のとおりである。なお、加盟団体名



文振連創立 10 周年記念式典

の文化団体の内容は『文振連二五周年記念誌』や『苦小牧市公共施設サークル名簿』を参照されたい。

苦小牧市文化振興連絡協議会加盟団体一覧（平成七年現在）

連 合 会 名 称	設 立 年 月 日	加 盟 年 月 日	所 属 数	会 員 数	所 属 団 体 名
苦小牧詩吟団体連合会	昭和51年6月1日	昭和51年6月15日	三	八一七	日本詩吟学院岳風会苦小牧支部、日本国風流詩吟舞会苦小牧支部
苦小牧謡曲同好会	昭和51年5月1日	昭和51年5月10日	二	四二	龍聖吟蝦夷流龍聖会苦小牧支部 苦小牧観世流謡曲同好会、室生流謡曲苦小牧喜雲会
苦小牧三曲会	昭和45年4月1日	昭和45年4月20日	一一	一五四	生田流正派四方の会、生田流正派秋庭社中、生田流正派西村社中（若草会）、生田流日本当道会琴榮社中、生田流日本富道会菊永社中、生田流当道楽友連盟絲音会、琴古流尺八、都山流尺八、山田流藤井社中（寿恵美会）、山田流桜井社中（寿恵美会）、筑紫琴葉会
苦小牧民謡連合会 北海道民謡連盟苦小牧地区連合会	昭和46年4月10日 昭和45年6月30日	昭和46年4月10日 昭和46年4月10日	二 八	六四二 四二六	照繁民謡連合会、観昇民謡会、孝章民謡三絃会、ちどり民謡会、正伸民謡連合会、みどり民謡会、絃声会、孝信民謡連合会
北海道民謡協会苦小牧支部地区連合会	昭和51年6月20日	昭和55年4月1日	一一	二二六	苦小牧民謡協会、民謡花水会、民謡声友会、国翁民謡会、民謡恵会、民謡春美会、民謡はまなす会、民謡謡新会、民謡巴会、民謡公声会、民謡孝瑶会、
苦小牧琵琶同好会	昭和24年6月1日	昭和46年4月10日	一	五	苦小牧琵琶同好会
苦小牧創作舞踊連盟	昭和51年10月1日	昭和52年4月1日	三	二四八	ジャズワークスタジオ、苦小牧バレエ研究所、向井バレエシアター
新舞踊むつみ会	昭和51年4月22日	昭和51年4月22日	四	六六	舞踊同好会、愛和会、舞踊みどり会、舞踊劇会
苦小牧邦舞協会	昭和46年6月1日	昭和46年8月1日	一一	一三八	北願会、鯉こま会、緑扇会、鐘和会、藤とし会、藤余美会、藤照美会、扇勝会、藤之会、若梅正流吉樹会、奏の会、

苦小牧市史（追補編）

苦小牧演劇協議会	昭和48年4月1日	昭和48年9月1日	四	一、一八六	苦小牧市教育研究会演劇教育研究部会、高文連苦小牧支部演劇部会 演劇集団「群73」、苦小牧演劇鑑賞会
苦小牧邦楽協会	昭和62年12月1日	昭和63年4月1日	四	三五	弥栄朝会、弥栄昌会、七美裕会、弥兵衛会
苦小牧音楽連盟	昭和29年11月7日	昭和45年4月25日	一〇	二八二	苦小牧市民管弦楽団、苦小牧市合唱団、苦小牧マンドリン合奏団、 苦小牧うたこえサークルよたぼうし、ギター同好会、フロイディッ ヒ・コール、苦小牧音友会、フルートアンサンブル「アマール」 苦小牧ジュニアアンサンブル、苦小牧ウインド・アンサンブル
苦小牧吹奏楽連盟	昭和44年2月1日	昭和45年4月25日	一八	六八五	苦小牧市民吹奏楽団、王子製紙吹奏楽部、苦小牧工業高等学校 吹奏楽部、苦小牧東高校吹奏楽部、苦小牧西高校吹奏楽部、苦小牧 南高校吹奏楽部、苦小牧工業高校吹奏楽部、苦小牧総合経済高校吹 奏楽部、駒大苦小牧高校吹奏楽部、苦小牧東中学校吹奏楽部、明倫 中学校吹奏楽部、啓北中学校吹奏楽部、和光中学校吹奏楽部、啓明 中学校吹奏楽部、緑小学校スクールバンド・バトン同好会、苦小牧 東小学校ブラスバンド・バントウリング同好会、豊川小学校吹奏 楽同好会、苦小牧チェンバロブラス
苦小牧軽音楽協議会	昭和54年4月10日	昭和54年4月20日	二	七一	苦小牧軽音楽連盟、苦小牧軽音楽界
苦小牧軽音楽連盟	昭和39年4月2日	昭和45年4月25日	四	五三	グルービー、ジョッピン、キング・ソロモン、T A K E ・ O F F（ テイク・オフ）
苦小牧軽音楽界	昭和51年10月2日	昭和54年4月20日	三	一八	カントリーワゴン、ゴールデンベガサス、ペーバームーン
苦小牧書道連盟	昭和35年10月1日	昭和45年4月25日	八	三五〇	鵬陽会、玄洋書道会、溪臨書道会、書道はちす葉会、恵心書道会、 鶴心書道会、書道榮心社、書道誠心会
苦小牧写真連盟	昭和50年10月21日	昭和50年11月1日	六	一四三	北海道写真協会苦小牧支部、全日本写真連盟苦小牧支部、王子製紙

苦小牧華道連合	昭和50年10月19日	昭和51年4月11日	七	一、五一〇	写真部、たるまエフォトクラブ、フォトグラフィーズクラブ「トライアングル」、苦小牧フォトファミリィ
苦小牧陶芸協会	昭和59年3月28日	昭和59年4月6日	五	八〇	小原流苦小牧支部、池坊苦小牧支部、草月流草の会、草月流草秋会 華道末生会、華道末生流、七彩
苦小牧手工芸連盟	昭和50年12月7日	昭和51年1月23日	五	九六	どろんこ陶芸会、陶炎会、楽焼会、縄文人陶芸サークル、ななかまど陶芸会 ヴォーグアートいなべ会、現代（創作）押し絵真木の会、デコバール ジュ、パッチワークキルトアメリカンドリームクラブ、黒はら会木彫教室苦小牧支部
苦小牧茶道連合会	昭和50年1月29日	昭和50年4月1日	二	五〇〇	表千家苦小牧和敬会、茶道裏千家淡交会苦小牧支部
苦小牧美術協会	昭和14年9月1日	昭和45年4月25日	一	八二	苦小牧美術協会
日本郵趣協会苦小牧支部	昭和38年4月1日	昭和48年4月20日	一	一三	苦小牧郵趣協会苦小牧支部
苦小牧文芸くらぶ	昭和50年4月18日	昭和51年4月21日	四	六六	苦小牧文学の会、童話を楽しむ会、鑑地詩会、いずみ同人会
苦小牧短歌協会	昭和51年5月17日	昭和51年5月20日	一四	一六八	苦小牧短歌会、ヌプリ短歌会、苦小牧群帆短歌会、木曜短歌会、白楊短歌会、北方短歌苦小牧支部、アドーネス園短歌クラブ、はなし ようぶ短歌会、はまなす短歌会、つりふね草短歌会、はるにれ苦小牧支部、銀河短歌会、にしき短歌会、原始林苦小牧短歌会
苦小牧俳句協会	昭和51年4月1日	昭和51年4月26日	五	八二	苦小牧やまなみ俳句会、アカシヤ俳句会苦小牧支部、葦牙俳句会
苦小牧川柳社	昭和43年11月24日	昭和48年4月26日	一	二八	苦小牧川柳社
苦小牧郷土文化研究会	昭和35年4月23日	昭和45年4月25日	一	六八	苦小牧郷土文化研究会
苦小牧公民館サークル連盟	昭和43年6月14日	昭和45年4月25日	四〇	二、〇四八	苦小牧エスベラント会、苦小牧木彫会、苦小牧民舞白寿会、苦小牧

苦小牧市文化振興連絡協議会歴代会長一覽

(代氏名)	(在任年度)	(代氏名)	(在任年度)
初矢嶋 潔	昭和四五	三三上 徳博	昭和六三
二炭谷 肇	五六		現在に至る

苦小牧市文化振興基金は昭和五十二年（七七）十二月、当時、菱中興業（株）（現菱中建設）相談役で

化振興基金 あつた中村清一郎が同社の創業七〇周年記念事業の一環として、市内に点在していた同氏の所有地約一万三、〇〇〇平方メートル、時価総額四億一、〇〇〇万円を市に寄付し、文化振興にあてることを目的に設立され

ペン習字クラブ、苦小牧山居会、日舞歩吏の会、苦小牧七宝焼き研究会、苦小牧子ども劇場協議会、中国語会話サークル、日本野鳥の会、苦小牧支部、ヨガサークル、苦小牧書友会、水曜会（絵画サークル）、苦小牧カラオケ同好会、大正琴同好会、ダンスインク999サンデー歌謡サークル、はまなす会コーラス、水彩会、ハタヨガサークル、赤い靴サークル（フォークダンス）、雪輪会、水曜会（水彩画）、『むらさきの会』源氏物語を読む会、ハンゲル文化サークル、さわらび会、切り絵同好会、インテリヤ木彫サークル、シルバードانس同好会、苦小牧書道もえぎ会、ジャズダンスス波特、切り絵園の会、和歌朗吟会、漢文を読む会、太極拳ひまわり、蘭書会、カウンセリング学習会、文学を楽しむ会

たものである。

寄付の目的を文化振興のためとしたのは、工業開発で発展する苫小牧市を文化的な面でもその振興を図りたいとする念願からであった。市ではこの意思に報いるため、これらの土地の賃貸料や収益による果実（基金の運用金）を市民の行う自主的な文化事業に補助することとし「苫小牧市文化振興基金事業」を設けた。⁽³⁾

基金事業には市民が自主的に行う事業を補助事業といい、基金が主催し又は他と共催する事業を主催事業とした。

①美術、書、工芸作品等の展示会、②音楽、演劇、舞踊等の公演会、③文化に関する講演会、④文学碑、彫刻、壁画等の設置、⑤郷土にゆかりがあり、文化の功績を広く認められる者の顕彰、⑥地域文化の創造及び育成事業、⑦その他文化の振興に必要な事業などであった。⁽⁴⁾

文化振興基金の設立を記念した第一回事業は、昭和五十三年（七八）六月の劇団文化座の公演及び札幌交響楽団の演奏会が開催され、同基金による市民文化振興の新しい幕開けとなった。

なお、近年における文化振興基金は極めて幅広く使われており、その審査は市文化振興基金運営委員会（一五人・会長市教委教育長）により行われている。

平成十年度苫小牧市文化振興基金創設二〇周年記念主催・補助事業一覧

主催事業

分野	事業名	主催・共催団体外	実施日	場所	補助金額	補助率
音楽	札幌交響楽団小中学生音楽教室	文化振興基金・北海道新聞社外	平成10・10・31	市民会館	二八〇万円	一〇〇%
演劇	劇団四季公演王子とこじき 星屑の会公演星屑の町	文化振興基金・四季の風実行委員会 文化振興基金・星屑の町実行委員会	10・4・25 10・8・27	市民会館 文化会館	五〇万円 一五〇万円	一一% 四〇%

年（七二）四月二十八日に三〇団体を擁する「苫小牧市婦人団体連絡協議会」（藤枝ひで子会長）が発足した。昭和四十九年（七四）八月、苫小牧市民会館と苫小牧東小学校の両会場に全道各地から一、六〇〇人の婦人が集まり、苫小牧では初の第二五回北海道婦人大会が開かれた。

同五十二年（七七）六月、苫婦連協は主婦を中心とした「苫婦連協人材銀行」を設立した。これは婦人による新しい活動の展開を望み婦人活動有志指導者を登録、フルに活用させようとするものであった。政治、経済、教育、家政、簡易技術、医療、芸術、文化、体育、ボランティアなどあらゆる分野での指導者を登録し、苫婦連協が行う研修や学習活動、講座、講習会に適切な指導・助言を受けようとする初めての試みであった。

婦連協傘下の各婦人団体の活発化と数が増すにつれ、公民館や婦人ホームだけでは活動の場が手狭となり、制限されることから、婦人会館建設の要請が高まった。同五十六年（八一）六月には市に対して情報機能を備えた同会館の建設要望書を提出した。これは平成六年（九四）十月の女性センターとしてその実現をみた。

また、新しい取り組みとして苫小牧では初めての「おもちゃライブラリー」が昭和五十七年（八二）に開設し、ボランティア部を設立させた。

苫婦連協は設立四〇周年記念事業の一環として、苫小牧の女性史『勇払原野の女たち』を平成四年（九二）十月に発刊した。同女性史は①開拓と労働、②生活と医療、③教育とスポーツ、④団体活動、⑤ひとすじの道、

婦連協の活動状況を報ずる新聞

⑥記念座談会、⑦女性史年表の七章で構成され、まちの発展を支えてきた女性の姿が克明に綴られ苦小牧初の女性史となった。^⑤

苦小牧市婦人団体連絡協議会創立四〇周年記念式典が平成四年（九二）十月十六日、市内のホワイトパーク・サンシャインで行われた。四〇周年記念事業の一つとして出来上がった苦婦連協の歌「りんどうの藍深く」が披露され、四〇年の歩みを振り返るとともに一層の前進を誓い合った。

苦小牧市婦人団体連絡協議会歴代会長一覧（昭和五十年年度以降）

（代）	（氏 名）	（在 任 年 度）	（代）	（氏 名）	（在 任 年 度）
一二	西村 陽子	昭和五〇年度～昭和五三年度	一五	吉田登美子	昭和六三年～平成 二年度
一三	高田百合子	五四年～五七年度	一六	高田百合子	平成 三年度～ 六年度
一四	三浦美智子	五八年度～ 六二年度	一七	及川 小春	七年度～現在に至る

国・道・市指定 文化財は昭和二十五年（五〇）に制定された文化財保護法によって一般的に用いられるようにの文化財なり、歴史や文化の正しい理解と文化向上発展の基礎をなす貴重な国民的な遺産と定義されている。有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物及び伝統的構造物群に分けられている。これらは国、都道府県、市町村が選び出し、法律、条例により指定・保護することになっている。

①有形文化財（国指定で特に重要なものを重要文化財・国の宝たるものを国宝）

建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で歴史上又は芸術上価値の高いもの、並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料。

②無形文化財（国の指定で特に重要なものを重要無形文化財）

演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で歴史上又は芸術上価値の高いもの。

③民俗文化財（国の指定で特に重要なものを民俗資料を重要有形民俗文化財・重要無形民俗文化財）

衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能及びこれに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で生活の推移の理解のため欠くことのできないもの。

④記念物（国の指定で重要なものを史跡、名勝、天然記念物、特に重要なものに「特別」を付ける）

貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他で歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で芸術上又は鑑賞上価値の高いもの並びに動物、植物及び地質鉱物で学術上価値の高いもの。

⑤伝統的建造物群（国指定で特に重要なものは重要伝統的建造物群保存地区に指定）

周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの。

（『現行法規総覧25 教育・文化6』平成十年十月加除分 第一法規出版）

苫小牧市においても昭和三十年（五五）八月十九日に「苫小牧市文化財保護条例」（条例第一七号）を施行し、市内に存在し、市にとって重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、文化的遺産のいん滅を防止し、市民の郷土に対する認識を深めるとともに教育文化の向上に資することを目的とした。また、北海道においても昭和二十八年（五三）に「北海道文化財条例」を制定している。⁶⁾

現在、苫小牧市内での指定文化財は、国指定文化財一件、北海道指定文化財三件、苫小牧市指定文化財六件である。

苦小牧市における指定文化財一覧

指定区分	種別	名	称	指定年月日	所有者
国	史跡	静川遺跡		S 62・1・8	株式会社苦東
北海道	史跡	開拓使三角測量勇払基点 樽前山溶岩円頂丘		S 42・3・17	苦小牧市
	天然記念物	アイヌ丸木舟及び推進具		S 42・3・17	国
	有形文化財	勇払会所の跡		S 42・6・22	苦小牧市
苦小牧市	史跡	蝦夷地開拓移住隊士の墓		S 31・3・10	苦小牧市
	民俗文化財	勇払恵比須神社奉納品21点		S 36・10・4	勇払恵比須神社
	有形文化財	林重右衛門墓碑		S 54・7・4	苦小牧市
	民俗文化財	錦岡樽前神社円空作樽前権現像及び奉納品7点		S 54・12・28	円空保存協力会
	民俗文化財	勇武津不動及び奉納品7点		S 59・4・6	不動明王奉賛会

（『市政要覧 第16版』 平成七年 苦小牧市議会議事務局）

注（1）『苦小牧市の教育』 平成十年 苦小牧市教育委員会

（2）『苦小牧文振連創立二〇周年記念誌』 平成二年 苦小牧市文化振興連絡協議会

（3）『苦小牧市文化振興基金規約』 昭和五十三年 苦小牧市教員委員会

（4）『苦小牧市文化振興基金補助基準』 平成三年 苦小牧市教育委員会

（5）『女性史・勇払原野の女たち』 平成四年 苦小牧市婦人団体連絡協議会

（6）『苦小牧市例規類集く苦小牧市文化財保護条例』 平成十年十月加除分 苦小牧市

第四章 スポーツ都市苦小牧

第一節 スポーツ都市宣言と施設

一、スポーツ都市宣言と協会・連盟

スポーツ 苦小牧市のスポーツ都市宣言は昭和四十一年（一九六六）十月三日に苦小牧体育協会（市村修平会
都市宣言 長）と苦小牧商工会議所（岩倉春次会頭）の連署をもって「スポーツ都市宣言に関する陳情書」を市
議会に提出し採択となった。市はこれに基づいて検討した結果、同年十月十日に「スポーツ都市宣言準備委員会」を
設置し、その準備に入った。そして十一月八日の臨時市議会に「議案第一号・スポーツ都市宣言について」を提案、
出席議員全員賛成で全国初のスポーツ都市宣言を可決した。

同四十一年（六六）十一月十二日、苦小牧東小学校グラウンドにおいて大泉源郎市長が「私たち苦小牧市民はスポー
ツを愛し、スポーツを通じて健康でたくましい心と体をつくり、豊かで明るい都市を築きます」とスポーツ都市宣言
を行い、全市民挙げてスポーツ都市づくり に力強い第一歩を踏み出したのである。

宣言の目的は、全市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて生活を健康で豊かなものとし、次代を担う青少年に
は躍進都市に相応した、たくましい成長を期待しこの宣言を契機として、市民全てがスポーツに参加し、一段と心身



苫小牧市スポーツ都市宣言 30 周年記念式典

を鍛練して明るい郷土の街づくりを目指すものであった。

昭和四十二年（六七）六月にこれまでのスポーツ都市宣言実行委員会をスポーツ都市推進委員会と名称を変更し、関連事業の推進に当たることになった。

そして、毎年九月十日から十月十日をスポーツ月間とし、秋分の日（二十三日）には宣言文を高らかに斉唱してスポーツ都市の市民としての自覚を高めるとともに、市民各層参加のアトラクションを行う「市民スポーツの日」とした。また、このスポーツ月間を第一回市民スポーツ祭として各種のスポーツ大会が実施されてきた。同四十四年度（六九）から第一回市民卓球大会と第一回市民バドミントン大会が開催された。また、平成四年度（九二）からは記念式典を五年毎に実施し、同八年度（九六）には宣言三〇周年記念事業が行われた。^①

なお、昭和五十年（七五）以降のスポーツ都市推進事業について挙げれば次のとおりであった。

▼昭和五十年 第九回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園鼓笛バンド・苫工高プラスバンド・正心館剣道スポーツ少年団）

▼昭和五十一年度 第一〇回市民スポーツ祭

宣言一〇周年記念の年、式典には約一、〇〇〇人の出席があった。なお、事前に募集した記念絵画・記念標語の優秀作品を式典の中で表彰した。アトラクション（中央幼稚園鼓笛バンド・婦人有志創作舞踊・婦人リズム体操サークル・消防音楽隊）

宣言一〇周年を記念して第一回市民地域別体育大会を開催した。後年、市民スポーツ祭地区体育大会・八地区体育大会と改称した。第1回地域別大会には、延べ三、六四九人の参加があった。

この年より第一回苦小牧バレーボール祭り始まる。

▼昭和五十二年 第一回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園鼓笛バンド・婦人団体フォークダンス・北星小集団演技・剣道集団演武・苫東高プラスバンド）

▼昭和五十三年 第二回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園鼓笛バンド・苫工高プラスバンド・剣道スポーツ少年団集団演武・婦人教室リズム体操）

▼昭和五十四年 第三回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・婦人サークルリズム体操・凌雲中道民体操・空手協会演武・苫工高プラスバ

ンド）

▼昭和五十五年 第四回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・剣道スポーツ少年団演武・婦人体操サークルどさんこ体操・緑小棒体操・凌

雲中ダンス・苫工高プラスバンド）

▼昭和五十六年 第五回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・和光中組み体操・婦人団体リズム体操・剣道スポーツ少年団演武・苫工高プ

ラスバンド・少林寺拳法集団演武）

▼昭和五十七年 第一六回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・豊川小組み体操・婦人団体モダンダンス・老人クラブ連合会市民踊り・ラジ

苦小牧市史（追補編）

オ体操連盟ラジオ体操・和光中フォードダンス）

市民大会（マラソン・卓球・バドミントン）の種目に、新たに第一回市民軟式テニス大会が加わる。

▼昭和五十八年度 第一七回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・苦西小どさんこたいそう・剣道スポーツ少年団演武・婦人有志フォークダンス、日新小リズムダンス・明倫中組み体操・苦東高ブラスバンド・老人クラブ連合会市民踊り）。この年、第一八回目を迎え、昭和四十一年に第一回として実施した港一周市民マラソン大会が発展的解消し終わる。

▼昭和五十九年度 第一八回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドレミの歌・苦東小ダンス・勇弘中祭り太鼓・婦人有志ジャズダンス・若草小樽前神輿・清水小組み体操・少林寺拳法演技・老人クラブ連合会市民踊り）

第一回苦小牧マラソン大会、第一回市民フェンシング大会を開催する。

▼昭和六十年 第一九回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園聖者の行進・北光小バタパタ・空手道連盟集団演武・美園小草原のかちどき・弥生中体操・婦人有志ジャズ体操・老人クラブ連合会市民踊り）

▼昭和六十一年度 第二〇回市民スポーツ祭

宣言二〇周年の記念の年、市総合体育館で行われた記念式典に一、五〇〇人の参加のもと盛大に行われた。アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・婦人有志フォークダンス・老人クラブ連合会市民踊り）

記念特別講演会 「長島茂雄氏と共に」、記念ポスター展 「写真作品展」 トピア四階。

▼昭和六十二年 第二一回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・札幌静修高新体操・国体道選手団フェンシング・苦東小バトントワリング・道連盟空手・太極拳）

▼昭和六十三年 第二回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（中央幼稚園ドリル演奏・集団演技ジャンピングロープ・苦東中吹奏楽・道連盟空手・太極拳）
川治公園体育館オープン記念第一回婦人ミニバレー大会開催。

▼平成元年度 第三回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（マーガレット幼稚園集団演技・苦東中吹奏楽・苦東小同好会プラスバンド・創価学会音楽隊）

▼平成二年度 第二回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（青葉幼稚園集団演技・苦東中吹奏楽・駒大苦小牧高チアリーダーズ・スタジオフィットエアロビックス）

▼平成三年度 第二五回市民スポーツ祭

記念式典、アトラクション（苦東中吹奏楽・駒大苦小牧高チアリーダーズ・子供ジャズダンスクラブ）

苦小牧市スポーツ都市推進委員会の計画のもと第二五回市民スポーツ祭が行われた。これまで毎年開催してきた記念式典及びアトラクションは今後五年毎に開催することになった。

※以下市民スポーツ祭は省略

▼平成八年度 第三〇周年記念市民スポーツ祭

宣言三〇周年の年、九月二十三日に市総合体育館で記念式典を行った。会場に集まった一、六〇〇人がスポーツ都市宣言文を唱和し、西田善夫（NHK解説委員）の基調講演「放送席から見た世界スポーツ見聞録と日本の現状」、次いで引木孝夫（市スポーツマス

ター）、鈴木秀太（同）、堀井学（五輪選手）に西田を加えての生涯スポーツの大切さの公開フォーラムが行われた。

第三〇回苦小牧スポーツ都市宣言三〇周年記念事業実行委員会が設置され、苦小牧体育協会と共に記念事業が計画され、第三〇回市民スポーツ祭として次のようなものが行われた。

第二八回市民卓球大会、第二八回市民バトミントン大会、第二一回苦小牧バレーボールまつり、第一五回市民ソフトテニス大会、第一三回とまこまいマラソン大会、第一三回市民フェンシング大会、第九回市民ミニバレーボール大会、平成八年度八地区スポーツフェスティバル（錦岡・糸井・沼ノ端・勇弘・中央東・中央西・中央南・中央北）など全市的に行われた。

『四〇年のあゆみ』 平成四年 苦小牧体育協会、『苦小牧民報』 平成八年九月各号 苦小牧民報社

財団法人苦小

苦小牧体育協会は昭和二十七年（五二）六月に設立されたが、これは二年後の第九回国民体育大会
牧市体育協会 会柔道競技招致の受け皿となるためであった。設立当時は柔道、バレーボール、剣道、弓道、陸上

競技、スケート、軟式野球、軟式庭球、卓球の九団体であったが、昭和二十八年（五三）四月に北海道体育協会に加盟し、市、柔道連盟、体協の三者は同二十九年（五四）八月開催の柔道競技の誘致に成功したのである。

同三十九年（六四）五月、同協会は会則を定めたことにより、市は体育協会に加盟している一三団体に対し五〇万円の助成を決め、同四十年（六五）には一〇〇万円に増額した。さらに、同四十一年（六六）には、体育施設建設を促進するための「体育施設専門委員会」を設置し、総合グラウンド、市民体育館、屋外パイピングリンク等の施設建設を市に要請した。

また、同協会は施設の充実とともに市民スポーツの普及にも取り組み、スポーツ人口の底辺拡大のため「スポーツ振興基金」を創設し、永久積立金約三、八〇〇万円、運用額約二〇〇万円となり、各競技大会の援助に重要な役割を果たしてきた。⁽²⁾

今日の社会体育活動の基盤を固めた体育協会は、事業の増大から専任職員を配置しスポーツ振興基金の募金活動、屋内アイスホッケー場の建設陳情、市民スポーツの日制定など特筆すべき活動を展開してきた。苦小牧では過去五回の国体を開催しているが、平成元年（八九）の「はまなす国体」では軟式庭球とフェンシングの会場となった。また、スケートの街・苦小牧を象徴する恒例行事の「スケート祭り」も同協会の一大行事の一つとなっている。

平成四年（九二）に苦小牧体育協会設立四〇周年を迎えたのを機会に、従来の任意団体から法人化とし二一世紀へ向けて財政の確立と組織の強化につとめ、幅広く市民スポーツと競技力の向上を目指すことを目的に、同年十一月に「苦小牧体育協会」は「財団法人苦小牧市体育協会」（木下克彦会長）として認可、新生体育協会の発足となった。

財団法人苦小牧市体育協会加盟団体一覧表（平成十一年五月一日）

団 体 名	設 立 年 月 日	代 表 者	会 員 数	備 考
苦小牧陸上競技協会	昭和9年7月 日	岩瀬久春	二七二	
苦小牧スケート連盟	" 62年8月11日	永井庄吉	四八三	大正14年1月に苦小牧スケート協会、分離独立。
苦小牧アイスホッケー連盟	" 62年8月11日	西田理	二、五五六	
苦小牧軟式野球連盟	" 21年8月 日	谷沢康郎	一、三三〇	
苦小牧ソフトテニス連盟	" 11年 月 日	喜多保男	三二二	
苦小牧卓球連盟	" 年 月 日	木村寿治郎	五七五	
苦小牧地区バスケットボール協会	" 32年 月 日	阿部喜朗	二、七七五	
苦小牧バレーボール協会	" 25年 月 日	八杉嘉照	一、一六一	
苦小牧柔道連盟	" 2年 月 日	石田勝克		
苦小牧剣道連盟	" 21年 月 日	小林洋一	五三二	
苦小牧弓道連盟	" 8年 月 日	帰山次正	一六八	

苦小牧市史（追補編）

苦小牧地区バトミントン協会	昭和29年	橋	一〇七九
苦小牧サッカー協会	41年	松井	三一〇
苦小牧スキー連盟	40年	森田	四一〇
苦小牧相撲協会	年	橋浪	八五
苦小牧水泳協会	42年7月	三上	四三四
苦小牧ソフトボール協会	42年7月12日	矢嶋	七〇
苦小牧体操連盟	43年	中村	四二〇
苦小牧アーチェリー協会	48年	森田	五一
苦小牧テニス協会	49年10月	岩倉	一〇二
苦小牧地区空手道連盟	49年	小柳	一二九
苦小牧山岳会	30年10月23日	藤田	七〇
苦小牧山岳連盟	年	森田	三三〇
苦小牧ラグビーフットボール協会	52年	松井	一〇
苦小牧漕艇協会	55年10月	宮田	二五
苦小牧ゲートボール連盟	61年4月1日	戸部	一〇
苦小牧フェンシング協会	61年11月	関寺	二六
苦小牧ヨット協会	56年	岸本	二五
苦小牧トライアスロン協会	62年5月	吉津	二五
苦小牧パワーリフティング協会	52年	矢嶋	二五
苦小牧少林寺拳法協会	47年	木村	二五
苦小牧カールリング協会	55年2月	沖田	二五
苦小牧スポーツ少年団	42年8月	太田	二五
苦小牧合気道連盟	年	市村	二五
苦小牧武術太極拳連盟	年	田龍	二五

苦小牧山岳会より分離。

苦小牧スポーツチャンバラ協会	平成9年6月 日	吉岡透	五九
苦小牧ボーリング協会	" 10年6月 日	中村儀美	六四
苦小牧ボールルームダンス連盟	" 11年6月 日	青木憲隆	三〇
苦小牧バークゴルフ連盟	" 11年6月 日	佐藤和弘	四四九

『四〇年のあゆみ』 平成四年 苦小牧体育協会を修正、財団法人苦小牧市体育協会事務局の報告により作成

スケート連盟とアイス ホッケー連盟に分離 ケート協会に統一されていて、これは長野県諏訪、札幌に次ぐ三番目の協会であった。一方、日本スケート連盟は昭和四年（二九）にスピード・フィギア・アイスホッケーの三部門を統一して発足した。ところが、同四十七年（七二）に開催された第一回冬季オリンピック札幌大会で、ISU（国際スケート連盟）とIIHF（国際アイスホッケー連盟）に分かれていて、一組織の日本スケート連盟では事務手続きの点で支障があったこと、またこの五輪大会でのスケートの不成績もあって役員総辞職もあり、機構改革が内部から起こっていた。こうした中でアイスホッケー分離問題が表面化し、連盟に機構改革委員会を発足させて検討し、同年八月十五日の全国代表者会議で分離を決め、九月十三日の日本スケート連盟理事会で日本スケート連盟（スピード・フィギア）と日本アイスホッケー連盟とに分離することを決定した。これによりアイスホッケーの新連盟はIIHFに加盟して日本国内のアイスホッケー競技を統括するとともに、全日本選手権、日本リーグなどの主要事業を行うことにした。正式には同四十七年十月十八日の日本体育協会の理事会で日本アイスホッケー連盟の新規加盟が満場一致で承認され、三八番目の体協加盟競技団体となった。⁽³⁾

このアイスホッケー部門の分離独立によって、いわゆる下部団体である地方組織も急がれることになったが、長年

にわたってスピード・フィギア・アイスホッケーが一体となった組織であり、急速な分離だっただけに、下部への浸透も不十分であったから、すんなりと分離出来ない地方組織もあった。

北海道でのスケート連盟の分離は昭和四十八年（七三）七月二十七日で、北海道スケート連盟（久保信会長）、北海道アイスホッケー連盟（西田信一会長）であった。

苫小牧スケート協会は（西田信一会長）三部門がお互いに助け合ってきただけに、過去の長い歴史のしがらみもあり、分離には踏み切れず、日本、北海道の各連盟にはそれぞれ振り分けて登録するが、苫小牧ではスケート協会一本の時代が長く続いたのである。

苫小牧での分離問題が本格的に動き出したのは、創立六〇周年を契機に分離する方向が打ち出され、昭和六十一年（八六）八月九日に分離検討委員会（西浦清輝委員長）を設置してからであった。この委員会では一年に及ぶ検討が行われ、国際的な競技会で活躍出来る選手の育成には分離して専門的な体制で運営するのが望ましいとの結論に達し、同六十二年（八七）八月十一日の代表者会議で、同協会を発展的に解散し、苫小牧スケート連盟と苫小牧アイスホッケー連盟の設立を正式に決定した。これにより苫小牧スケート協会は実に六一年という歴史に幕を閉じたのである。

設立当初の競技団体では、苫小牧スケート連盟はスピードとフィギアの競技選手団体で構成され、王子製紙苫小牧工場、早来スケート協会、鶴川スケート協会、穂別スケート協会、厚真スケート協会が加入し、小学校一



ハイランドスケートセンター

八校、中学校一校、高校六校が加盟した。

その後、苦小牧スケート連盟（永井庄吉会長）は主催・主管事業の拡大とともに、会員数も増加し、平成九年度（九七）現在の加盟団体は登別スケート協会、白老スケート協会、早来スケート協会、厚真スケート協会、穂別スケート協会、鵠川スケート協会、静内スケート協会、浦河スケート協会、王子製紙スピードスケート部、苦小牧臨床検査センタースピードスケート部、駒大苦小牧高スケート部、苦小牧工業高スピードスケード部、苦小牧中央高スケート部、たるまえスピードスケート少年団、苦小牧スピードスケート連合少年団、澄川・豊川スピードスケート少年団の一六団体、個人会員数九三人、特別会員五二社を数えている。⁽⁴⁾

一方、苦小牧アイスホッケー連盟は王子製紙苦小牧工場、山陽国策バルブ勇払工場、苦小牧市役所福利厚生会、岩倉組、日軽苦小牧、岩倉組土建、菱中興業、日通苦小牧支店、王子工営、苦小牧港開発、苦小牧埠頭、苦小牧栗林運輸、三星などが加入し、小・中・高・高専の各学校が加盟した。

平成八年度における加盟団体、人数はA級一団体・四九人、B級三団体・八六人、C級一六団体・三二七人、D級四〇団体・七九七人、高専一団体・二五人、高校五団体・一五一人、中学校一三団体・二七九人、クラブ二団体・二八人、小学校二〇団体・五〇五人、女子四団体・八三人の合計一〇五団体・二、三三〇人という大所帯になっている。⁽⁵⁾

苦小牧婦人スポー 国際婦人年の昭和五十年（七五）から同五十一年（七六）にかけて苦小牧市内での女性スポーツ団体連絡協議会 ポーツ活動の台頭が目ざましく、ママさんバレーを中心に急激に活発化していった。さらに市主催のスポーツ教室や地域でのスポーツ活動に参加する女性が増加していった。

こうした中で各種スポーツ団体の横の連絡を蜜にし、協力しながら女性スポーツの視野を広げようと、テニス同好会、バドミントン同好会、バレーボール連絡協議会、健康体操サークル、卓球同好会の五団体により、同五十一年

（七六）三月十日に市体育課の後押しもあつて、苦小牧婦人スポーツ団体連絡協議会が発足した。

同協議会は婦人レクリエーションの集い、婦人スポーツの集い等を開催して、婦人スポーツ技術の向上と婦人スポーツ指導者の育成を行い、スポーツ界でのウーマンパワーを発揮してきた。平成三年度（九二）から理事長制度を発足させて自主運営を行い、同八年（九六）十一月十三日に設立二〇周年記念式典を市内のホテルで開き、さらなる飛躍を誓い合つた。また、この年十一月三日に苦小牧市文化奨励賞を受賞し、二重の喜びを味わつた。

同八年十一月現在の加盟団体はバレーボール（二〇チーム・一二九人）、バドミントン（二四チーム・一一〇人）、卓球（三サークル・二五人）、ミニバレーボール（二〇チーム・一一一人）、太陽クラブ（健康体操・五七人）、モダンダンス（二八人）、太極拳（一四サークル・一六六人）、フォークダンス（二〇サークル・二五〇人）で、第二〇回婦人レクリエーションの集い、第二〇回道新杯アトラクション、講習会（生涯スポーツセミナー）、全道大会出場団体補助、中学駅伝・市民マラソン協力、二〇周年記念事業等を行つた。⁶⁾

歴代会長名

①昭和51・52・53・54年度

吉 鶴 美枝子

②昭和55年度

垂 石 郁 子

③昭和56・57年度

水 野 サ キ

④昭和58・59・60・61年度

山 田 洋 子

⑤昭和62・63・平成元年・2年度

菊 地 浩 子

⑥平成3・4・5・6・7・8年度

佐久間 淳 子

（『あゆみ・二〇周年記念誌』 平成八年 苦小牧婦人スポーツ団体連絡協議会）

注（一）『市政要覧 第16版』 平成七年 苦小牧市議会事務局

（二）『四〇年のあゆみ』 平成四年 苦小牧体育協会

- (3) 『新聞切抜綴 スポーツ②』 平成四十八〜六十二年 苫小牧市史編集事務局編
- (4) 『連盟創設一〇周年記念誌』 平成九年 苫小牧スケート連盟
- (5) 『苫小牧アイスホッケー連盟一〇周年記念記録集』 平成九年 苫小牧アイスホッケー連盟
- (6) 『あゆみ・二〇周年記念誌』 平成八年 苫小牧婦人スポーツ団体連絡会議

二、スポーツ施設の充実

スケートリンク 苫小牧市は昭和四十一年（一九六六）十一月十二日のスポーツ都市宣言式以来、スポーツ施設と野球場の歴史の充実につとめてきた。そこで施設の変遷について述べておく。

先ずスケート場であるが、昭和六年（三二）に樽前山神社横沼を改修して周囲二五〇メートル、内側にホッケーリンク一面を持つ苫小牧スケート協会専用リンクを造ったのが、本市における正式リンクの始まりであった。同十二年（三七）になって苫小牧町は、現矢代町にあった有珠川の沼状の地を利用して周囲四〇〇メートルの町営によるスケートリンクを初めて造ったのである。

一方、王子製紙でも従業員の間で年々スケートが盛んになり、全日本選手権での活躍もあつて会社専用リンクを造ることになり、同十二年春には工場構内にあつた陸上競技場をつぶして、掘込式のリンクとし、工場内に引き入れた苫小牧川の残水を流すことにした。このリンクは周囲四〇〇メートルのスピードコースを幅一〇〜一五メートルで掘り込み、内側にホッケーリンク二面を掘り込んで、スピードリンクとホッケーリンクの間に四つの中島を残して造られ、同十四年（三九）に完成をみた。^①

ところが、昭和十六年（四一）に苦小牧において紀元二六〇〇年奉祝明治神宮大会（国体前身）が開催されることになり、王子製紙はこの大会を有意義なものにするため大金を投じて大リンクに仕上げることにした。当時の王子製紙は好景気で、町に納める税も多額に達していて、苦小牧町は現在の市民税に相当する戸数割税を町会の議決を経て廃止していたほどであった。そこで神宮大会までに西側に木造の階段式観客スタンドを挟んで役員室、選手控室、東側に記録掲示室ができ、盛大に明治神宮氷上大会が開催された。当時としては東洋一と言われたスケートリンクであった。

しかしながら、苦小牧市の都市化と温暖化が進み、町中の天然リンクであるため結氷状態、氷質が悪化して利用価値がなくなり、王子スケートリンクは同三十六年（六一）にはその使命を終えて埋め立てられ、新しい工場が建った。

町営リンクは王子リンクの完成により存在価値がなくなり、同十六年（四一）には有珠川改修もあって埋め立てられ町営陸上競技場となり、戦後苦小牧市立自動車学校が建った。

苦小牧市では、比較的結氷が早く以前から大学や高校スケート選手によって利用されていた緑ヶ丘公園下の大沼（方マの穂リンク）を、同二十七年（五二）に市営リンクに指定し、秋には滑走に妨げとなるヨシ類の刈取を行っていた。同三十五年（六〇）に全道氷上大会が行われるのを機会にブロック造りの選手控室や周囲の整地が行われた。しかし、同四十二年（六七）に札幌オリリンピックの補助リンクが高丘の火葬場・墓地跡に出来てその役目を終え、この市営リンクは埋め立てられて現市営オーロラ球場となったのである。

室内スケート場は王子製紙が、同三十三年（五八）十月に旧王子球場跡に福利厚生施設の一環として本市初のパイピングリンクである王子スポーツセンターをオープンさせ、アイスホッケーの国際試合、日本リーグ、全日本選手権大会などが行われてきた。



若草町にあった旧王子球場



市営緑ヶ丘スケートリンク



市営ハイランドパレス

一方、岩倉組はアイスホッケー部の専用リンクとして昭和三十八年（六三）九月、三光町に市内二番目のパイピンリンクを造った。同アイスホッケー部は会社の不況により、同五十七年（八二）六月に解散となり、リンクは岩倉土地開発の管理となった。その後も市の補助を受けて、低料金をもって市内のアイスホッケー同好会や幼稚園から高校までのチームの練習の場として開放されてきたが、築後三〇年を経過しており冷凍・配管施設の痛みがひどくなり、市との契約で白鳥アリーナの開設までという条件で運営されてきたが、平成八年（九六）三月三十一日をもってスケー

トリリンクとしての使命を終え、商業施設に改造された。^②

市営の室内リンクは昭和四十五年（七〇）一月十四日にスケート・温水プール兼用のハイランドパレスがオープンし、夏場にプールに切り替わる点で、アイスホッケーだけを目的とした王子製紙、岩倉組のリンクとは少し事情が違っていたといえる。次いで同五十四年（七九）十二月にはスケート・温水プール兼用の錦岡スポーツセンターが開業、現在は通年リンクとなっているし、沼ノ端に新スケートリンクが平成十二年（二〇〇〇）三月二十日にオープンしたが、これらは別項で述べる。

さて、野球場についてはどうだったのだろうか、戦前には電気化学工場空地、苦小牧西小学校裏地で行われて来たが、いずれも正式な球場ではなかった。

昭和二十四年（四九）六月に末広町に市営球場を新設し、軟式野球部ができて王子製紙も表町に専用球場を造った。王子製紙ではこの球場で工場をあげての部対抗大運動会も行っていた。市営球場は木造のスタンドもあつて各種全道大会、プロ野球二軍戦なども行われたが、この地に総合体育館が建つことになり取り壊された。新しい市営球場は同四十七年（七二）から同四十八年（七三）にかけて清水町の旧市営リンクを埋め立てられて新しい市営球場（現オーロラ球場）を造ったのである。

王子球場の地には同四〇年に王子病院が建つことになり、同球場東側の旧木造社宅を撤去して新球場とした。この球場もまたまた王子病院の敷地となつたので、平成七年（九五）八月に清水町に移転した。

なお、同五十年（七五）現在のスポーツ施設には屋外スピードスケート場一、室内アイスホッケー場三、野球場二などがあり、その概要は次のとおりであるが、詳しい内容については『苦小牧市史下巻』を参照されたい。

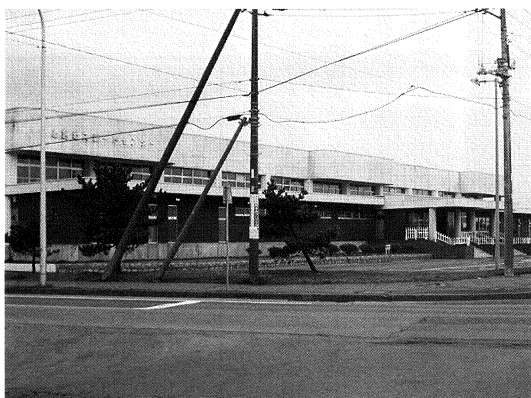
苫小牧市内の主なスポーツ施設（昭和五十年十二月現在）

施 設 名	設置者	所在地	敷地面積㎡	備 考
苫小牧市営球場	苫小牧市	春日町	二〇、七六六	野球場
苫小牧ハイランドスケートセンター	苫小牧市	字高丘	四〇、五〇〇	スピードスケート場
ハイランドパレス	苫小牧市	字高丘	三、〇一七	アイスホッケー兼温水プール
ハイランドスポーツハウス	苫小牧市	字高丘	五一五	合宿所
苫小牧市総合体育館	苫小牧市	末広町	七、八〇五	総合体育館
公認陸上競技場	苫小牧市	旭町	三九、四〇〇	苫小牧東中学校グラウンド
王子球場	王子製紙	若草町	二〇、〇〇〇	野球場
王子スケートセンター	王子製紙	表町	八五〇	アイスホッケー場
岩倉組体育館	岩倉組	三光町	五〇〇	アイスホッケー場

〔苫小牧市勢要覧〕 昭和五十一年版 苫小牧市、『新聞切抜綴 スポーツ①』 昭和四十八年〜同五十八年 苫小牧市史編集事務局編より作成

スケート場の新設と 苫小牧市は糸井・錦岡地区が住宅地として発展する一方で、年々盛んとなるアイスホッ

白鳥アリーナの新設 ケー熱の中でリンク不足が表面化した。特に、既存のリンクは市内中心街と東北部に集中し、西側には無く市民チームの間から、西部アイスホッケー場の新設を望む声が強くなっていった。こうした折りに苫小牧市では昭和五十五年（八〇）一月に、三十年振りで第三五回国体冬季大会スケート競技会が開催されることになった。そこで市は同五十四年（七九）四月に国体開催の目玉として総工費九億三、二〇〇万円をもって、字錦岡四二七番地にアイスホッケー場の建設に着手した。この西部アイスホッケー場は鉄筋鉄骨一部二階建て、延面積三、三三〇平方



ときわスケートセンター

メートルで、夏期間は温水プールを兼ねる、ハイランドパレスと同様の形式であった。

このスケート場は条例設定により「錦岡スポーツセンター」と正式に命名され、昭和五十五年（八〇）一月十八日にオープンした。この日式典の後、一般開放され、この時を待ちわびていたチビっ子約三〇〇人が初滑りを楽しんだ。同月二十三日からは氷都苫小牧入りした国体選手団の練習、試合の場に活用された。一方、プールの方は同年五月二十三日にオープンし、同月二十五日まで記念行事が行われ、一部は無料開放された。このように錦岡スポーツセンター（ときわスケートセンター）は夏は温水プール、冬はスケート場として利用されてきたのである。

ところが、同六十三年（八八）八月になって日新町に通年温水プールが出来ることになったことから、アイスホッケーファンから要望が強かった通年リンク化が問題化され、鳥越市長は「アイスアリーナ建設計画はあるものの、実現までには時間がかかるため、当面は錦岡スポーツセンターを通年リンクに改造していく」と延べ、新しい局面を迎えることになった。

そこで市は平成二年度（九〇）において一億一、〇〇〇万円をもって冷凍機を夏の期間でも耐えられる二〇〇キロワットの大型機への改修を行い、同年十月の住居表示の実施によりときわスポーツセンターと改称し、通年リンクとしてスタートした。また、翌三年（九一）七月末までに可動式の二九〇人用観覧席を設けて現在に至っている。

白鳥アリーナの開設までには長い道程と紆余曲折があった。もともと本市には王子製紙と岩倉組という全日本選手

権や日本リーグで優勝を争うチームがあり、それぞれが専用室内リンクを持っており、市にはハイランドパレスと呼ばれる市営室内リンクがあった。しかし、公式戦が行えるのは王子リンクのみで、他の二つは練習用リンクであった。

昭和四十七年（七二）二月に札幌冬季五輪の開催があつて真駒内、月寒リンクの完成、釧路市の春採アリーナ、帯広市の帯広の森アイスアリーナも建設されることになり、数だけ多い苦小牧としても国際規定を満たすリンクの必要性に迫られることになった。その具体的な行動となったのは同五十八年（八三）八月二十六日に苦小牧スケート協会が市議会に提出した陳情書であつた。

この陳情書は文教経済委員会に付託されて継続審査となつたが、同年十月二十五日の本会議で委員長より採択となつたと報告があつた。

しかしながら、アイスアリーナの建設には莫大な費用を必要とし、苦小牧スケート協会、或いは分離後の苦小牧アイスホッケー連盟と苦小牧スケート連盟により文教経済委員会のメンバーが代わる度に「通年アイスアリーナの早期建設に関する陳情」が提出されていたが、オイルショック以来続く経済不況により、市財政も苦しく、アイスアリーナの建設問題は一向に進展しなかった。

この問題が市民側の考え方として大きく動きだす切っ掛けとなつたのは、同六十一年（八六）十月十六日に市教委野々垣教育長の私的諮問機関として「苦小牧市アイスアリーナ建設検討委員会」（岩倉賢周議長）が設置され、具体的な問題として検討を開始し、翌六十二年（八七）十一月三十日に「行政、民間あげて早期建設に向けて努力するよう望む」という答申書を提出してからであつた。

これを受けて苦小牧市は同六十三年（八八）年度予算において一、〇〇〇万円をアイスアリーナ建設基金として設け、四月一日には「アイスアリーナ建設基金条例」を施行した。これにより菱中興業が三〇〇万円の指定寄付に応じ、

官民一体による協力体制が確立していった。

平成元年（八九）八月には市体育部を中心に土木部、建築部、財政部のほか、苦小牧アイスホッケー連盟、苦小牧スケート連盟の役員などによるアイスアリーナ建設調査委員会が発足し、建設場所、構造、規模、管理運営などについて検討することになった。

建設場所については、①広い用地、②交通も含めた利便性、③スポーツ施設にふさわしい環境、④市のシンボル施設の四つの条件を打ち出し、①緑ヶ丘総合運動公園西側、②明野土地造成所有地、③錦西ニュータウン、④清水町市営球場駐車場、⑤若草町王子野球場、⑥入船町石炭ヤードの六ヶ所がその候補地として挙げられていた。そして市は、この中から緑ヶ丘総合運動公園西側の用地に特定して所有者と取得のための折衝を行っていた。ところが、この地は王子製紙が産業廃棄物処理場として利用していることから、その活用には道の厳しい内容の指導があり、取得が難しい状態となった。

そのため市は新たな用地探しに入り、若草町の中央公園北側の地について王子製紙に提供を申し入れたのである。

王子製紙は本社とも協議をし、同三年（九一）十二月二十八日になって木下克彦工場長代理が記者会見して、若草町の社宅用地二・三ヘクタールを市に提供する方針を固めたと発表した。価格は二一億円相当といわれ、一〇億円分を市有地と等価交換し、残りの一一億円分は市に寄付するという内容であった。二転三転した建設用地は王子製紙の英断により、市内中心部の一等地に決定し、関係者は市民へのビックなお年玉として喜び、感謝したのである。

鳥越市長はアイスアリーナの土地に関して市議会に報告し、寄付採納と交換用地について承認を得るため、平成四年（九二）一月十四日に臨時市議会を召集し、用地問題について次のように説明した。

アイスアリーナの建設は、市民要望の強い長年の懸案事業でありますので、これまでの経緯と今後の取り組みについて私から御説

明申し上げたいと思います。

アイスアリーナの建設場所につきましては、利用者の利便や町の活性化などの観点から、六ヶ所の候補地を上げて選定作業を行い、このうち当初は緑ヶ丘運動公園に隣接いたします清水町四丁目の王子製紙社所有地を第一の候補地として交渉を進めてまいりました。しかし、この土地については、現在も王子製紙さんが、産業廃棄物処理場として使用中であり、この解除に当たっては、監督官庁の厳しい指導、規制があることから、最終的には断念せざるを得なくなりました。

その後、引き続き他の候補地について検討してまいりましたが、この度王子製紙さんの特段の御理解とお計らいによって、中央公園北側に隣接する若草町二丁目の土地を建設地として内定することができました。

この用地は、面積およそ二、三〇〇平方メートルで、時価二〇億円を超す市内中心部の一等地ではありますが、このうち四六％に当たる約一万六〇〇平方メートルを市有地と交換し、残りの五四％に当たる約一万二、四〇〇平方メートルを王子製紙さんの御好意による寄付によって取得するものであります。

用地を心よく御提供していただきました王子製紙さんを初め、これまで御協力をいただいた関係者の皆さんに感謝を申し上げる次第であります。

この上は、多くの市民にこたえるためにも、今議会で御同意をいただき次第、市民有識者による建設検討委員会を発足させ、スポーツ都市宣言三〇周年の一大記念事業として平成八年までには水都苦小牧にふさわしいアイスアリーナを完成すべく精力的に準備を進めて参りたいと考えております。

〔第六回臨時苦小牧市議会会議録〕 平成四年一月十四日 苦小牧市議会

アイスアリーナの建設予定地は若草町二丁目四番で地積は二万三、〇五七平方メートルで、その価格は約二〇億八、〇〇〇万円で、土地所有者は王子製紙であった。この取得内容については一部交換が一万六三〇平方メートル、一部

寄付が一万二、四二六平方メートルであった。市では市有地の若草町五丁目一四番三号三、九八二平方メートル、柳町三丁目一番二号の二など二万九、八八〇平方メートルとの等価交換をすることにし、交換地は平成四年度（九二）、寄付地は同五年度（九三）に取得する考えを示し、同市議会で承認を得たのである。^①

アイスアリーナ建設までの道程は、財源的に厳しく、意志決定までは非常に長いものであったが、一旦ことが進むと、矢継ぎ早に決まり、建設に向けて邁進するだけであった。同四年一月二十九日には「苦小牧市アイスアリーナ建設規模等検討会議」（中澤啓次委員長）を発足させ、氷都苦小牧にふさわしいアイスアリーナの建設規模、仕様と性格などの検討に入った。

苦小牧市アイスアリーナ建設規模等検討会議委員名

西浦清輝（体協理事長）、榊川順司（アイスホッケー連盟理事長、栗橋誘子（岩倉ペリグリン主将）、北村昭（スケート連盟会長）、小野真理子（同副理事長、垂石郁子（婦人スポーツ団体連絡協議会理事長、貝塚博之（小学校長会長）、渡部恒治（中学校体育連盟会長）、下野益雄（高体連スケート専門部長、滝場陽一（PTA連合会副会長、岩倉賢周（商工会議所副会頭）、阿部明弘（青年会議所理事長、小沢キシ子（町内会連合会婦人部長、小保方一雄（観光協会会長、森本光彦（元市建築部長）

『アイスアリーナ建設関係資料』 平成八年 苦小牧市史編集事務局編

アイスアリーナ建設規模等検討委員会では五回の会合と札幌、旭川、盛岡の各リンクを視察し、五カ月というスピードで調査検討を終え、同四年五月二十六日に鳥越市長に答申書を提出した。その性格はアイスホッケーを主体とする一方で、四月から六月までの三カ月をリンクの機械・整備期間とし、その間を使って多目的に利用できるように考慮することを求めていた。建設規模は過去の国際試合、全国大会などの観客動員数を参考にしながら観客席は固定三、〇〇〇人、立見席一、〇〇〇人の計四、〇〇〇人規模とし、選手控室、シャワー室、医務室、トレーニング室、資料

室、メモリアルスペースなども設置、国際試合に対応出来る設備の充実などを盛り込んだものであった。

これを受け鳥越市長は、建設面積約七、〇〇〇平方メートル、観客席四、〇〇〇人（固定・立見席）、総工費約四二億円とし、設計はコンペとすることにし、平成四年（九二）八月二十四日に設計競技審査会（太田実委員長）を設置し、アイスアリーナ設計に経験を持つ道内外の七社を指名し、三十一日に設計コンペ説明会を行った。

この結果、施設の躍動感の表現に重点を置き、氷都の新しい顔にふさわしい重圧さ、スケートのシャープな動きと白鳥の飛翔を曲線のスカイラインで表現した久米設計（東京）の作品を採用することに決定した。

こうして、極めて敏速のうちに進んだ苦小牧市アイスアリーナの建設は同六年（九四）八月二十三日に競争性、透明性を高めるため公募型指名競争入札を試行的に導入して行われ、次のような工事契約を結ぶことになった。

苦小牧市アイスアリーナ（仮称）新築工事契約

工 事 名	請 負 代 金 額 (円)	契 約 方 法	契 約 業 者
新 築 主 体 工 事	二、八九四三〇〇、〇〇〇	指名競争入札	代表者・戸田建設株式会社札幌支店 構成員・岩倉建設㈱苦小牧本店 " 菱中建設㈱苦小牧本店
電 気 設 備 工 事	二〇七、〇三〇、〇〇〇	指名競争入札	代表者・株式会社きんでん北海道支社 構成員・阿部電気工事株式会社 " 株式会社電気工事西川組
衛 生 設 備 工 事	一六四、八〇〇、〇〇〇	指名競争入札	代表者・三機工業株式会社北海道支店 構成員・株式会社成友設備 " 株式会社富士企業

暖房換気設備工事	三〇二、八二〇、〇〇〇	指名競争入札	代表者・国策機工株式会社 構成員・株式会社大気社北海道支店 ・株式会社朝日工業社北海道支店
冷却設備工事	一六六、八六〇、〇〇〇	指名競争入札	三菱重工業株式会社北海道支店

（『第六回臨時苫小牧市議会議案綴』平成六年八月 苫小牧市立中央図書館編）

苫小牧市アイスアリーナは平成六年（九四）九月十二日に安全祈願祭が現地で行われ、同八年（九六）秋までに完成することになった。また、同八年一月八日に鳥越市長は記者会見で、建設中のリンクの名称を「苫小牧市白鳥アリーナ」とすると発表し、その理由として①苫小牧市の鳥が白鳥であること、②アイスアリーナの建設デザインが白鳥の羽ばたきをイメージしていることなどを挙げ、アイスを入れなかったのは夏場の三カ月間程度、スケート競技以外の利用も考えた⁽⁵⁾と説明した。

同年八月一日には主体工事が完成し、その後外構工事も急ピッチで進められ、モニメントや築山が設けられ、一、八〇〇本の木が植えられ、一四台分の駐車場もでき、スポーツの殿堂にふさわしい建物となっていた。

工事開始から約二年間を費やして進めてきた市民待望の白鳥アリーナは同八年八月二十九日に華やかにオープンしたが、苫小牧市がスポーツ都市



新設された苫小牧市白鳥アリーナ

宣言三〇周年に完成時期を合わせ、総工費は外構工事を含め約五十一億円を投入しての完成であった。

建物は素材そのものを生かしたコンクリート打ち放し仕上げを外装に採用、内部の一階に国際規格のアイスリンク（六〇m×三〇m）の外に選手控室（六室）、会議室（四室）などを設け、さらに最新のマシンをそろえたトレーニング室、ゴールキーパーをゲーム感覚で体験できる資料展示室、売店などが開設された。二階には電気ヒーターを内蔵した三、〇〇〇人分の固定席、一、〇〇〇人の立見席、一〇人の車イス専用の観客席も設けられた。

オープンの日には、午後二時四〇分からリンク上でセレモニーが行われ、鳥越市長ら六人の関係者、市民代表によりテープカットをし、オープンを祝った。その後こけら落としで招かれたプロフィギュアスケーターの伊藤みどりが華麗なアイスショーを披露した。続いてコクド対マルイEF（スウェーデン）、新王子製紙対クリリアソビエトフ（ロシア）のアイスホッケーの国際試合が行われ、すり鉢状の観客席を埋めつくしたファンから熱い声援が送られた。

なお、白鳥アリーナの管理については財団法人化された苫小牧市体育協会が当たり、オープンして一カ月が経過した平成八年（九六）十月四日までに九、五九一人が一般滑走を楽しみ、アイスホッケー練習の専用貸切を含めて早くも一万人を突破、国内外のスポーツ団体、経済団体、行政関係者などの視察も相次ぎ脚光を浴びる殿堂となった。同年十一月二日には落成式が行われ、来賓、関係者等約二五〇人が新しい施設の完成を祝い、二階ロビーで記念祝賀会が行われた。

白鳥アリーナの誕生はやや低迷するスケートメッカ苫小牧市にとって、ソフト、ハードの両面で一つの起爆剤になったことは確かであった。

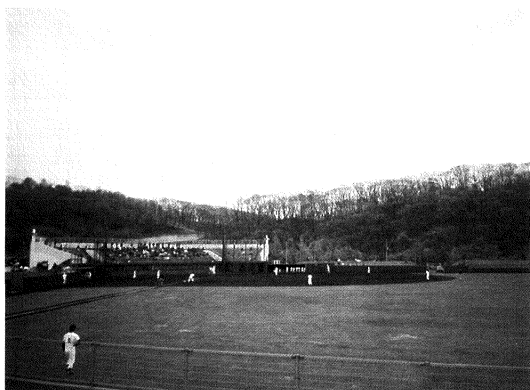
野球場の 昭和五十年（七五）現在の野球場については、既に記したように清水町の市営球場と若草町の王子新設と移転 球場であった。市営球場の方はそのまま残り、市営オーロラ球場となったが、王子球場の方は平成六

年（九四）七月に市内中心部の社有地の活用計画の一環として球場跡地に王子病院が新築されることになり、他地への移転が余儀なくされた。王子工場では白金町の社宅跡地と清水町の埋立地を候補にあげていたが、周辺への影響も少なく、緑ヶ丘運動公園にも近い清水町に新設することになった。

新王子球場は平成七年（九五）八月三十一日に完成したが、総面積は一万三、二七〇平方メートルで、両翼九五メートル、中堅一二〇メートルで旧球場とほぼ同じであった。天然芝、水はけなどに配慮しているものの、あくまでも練習用グラウンドであった。



苦小牧市営オーロラ球場



苦小牧市営緑ヶ丘球場



苦小牧市営少年野球場

伝統を誇る朝野球などの影響もあって本市の野球人口も年々増加し、職場チーム、同好会等による球場確保は極めて困難な状態にあった。このため、野球愛好家から市営第二球場の設置を望む声が高まった。このため市は、緑ヶ丘運動公園の苦小牧東高校のすぐ隣に、一億四、四〇〇万円を投じて第二市営球場を設けることになった。新球場は昭和六十二年（八七）五月に完成したが、これで二つの市営球場、しかも五〇〇メートルしか離れていないこともあって、これらを区別するため市民から愛称を募集し、同六十二年度から第一球場（現球場）をオーロラ球場、第二球場（新球場）を緑ヶ丘球場と呼ぶことに決まった。なお、オーロラは戦前に苦小牧にオーロラという硬式クラブチームがあったことに由来し、緑ヶ丘は緑ヶ丘運動公園の中にあることから名付けられたものであった。

緑ヶ丘球場は同年五月二十日から使用開始となったが、記念式典は当初は二十四日に行う予定であったが、雨で延期され、六月一日にオープン式典が行われた。

さらに、高校野球で甲子園に出場した鳥越忠行が市長に当選するや、当選初年の施政方針の中で、「子どもたちの健全育成と体力づくりのために、少年専用野球場とサッカー場を緑ヶ丘総合運動公園に新設します⁶⁾」と述べ、少年野球場は九六〇万円をもって同六十三年（八八）四月末に完成した。球場面積は七、三〇〇平方メートルで、両翼七メートル、中堅八七メートル、本塁からバックネットまで一五メートルとやや小型だが、少年野球場としては道内で初めてラバーフェンス材を使った立派なものであった。少年野球場のオープン式は同年五月三日、鳥越市長を迎えて盛大に行い、スポーツ少年団二六チームが参加して記念交換試合を行った。これで苦小牧市として三番目の市営球場を持つことになった。

サイクリングロードとサイ 苦小牧・支笏湖間のサイクリングロード（自転車道路）計画は、昭和四十七年（七）クリングターミナルの開設 二）の夏ころから市や観光協会などの働き掛けにより、国道二七六号線の管理者であ

る道開発局室蘭開建苦小牧道路事務所で路線などを検討してきた。その結果、国道に沿って旧山線軌道の跡地を利用することになり、路線を高丘―モーラップ間一九・一キロと決定し、昭和五十年（七五）までに関係機関から計画の了承を取り付けていた。

このサイクリングロードは幅員三メートルとし、山線軌道を利用するため両サイドがグリーンベルトとなり、自然環境を十分に生かしたサイクリングロードにしたいとし、同五十一年度（七六）から同五十五年（八〇）の五カ年計画で完成させるものであった。

サイクリングロードは同五十一年七月から約四、〇〇〇万円をもって丸山地区の用地確保と約二キロの道路舗装を行ってこの事業をスタートさせた。さらに工事は苦小牧側に向けて計画的に進められ、同五十二年（七七）に三キロ、同五十三年（七八）に四キロが完成した。同五十四年（七九）にはサイクリングロードとしては珍しい立体交差・丸山地下道がほぼ中間地点に設けられ、国道と交差する部分で上を国道、下をサイクリングロードが走ることにし、約三・七キロが完成し、これで一二・七キロがサイクリング道路となり、約三分の二が出来上がったのである。同五十五年（八〇）には二キロが出来上がったが、当初予定の年度内の完成は成らず、さらにもう一年延長し同五十六年（八一）六月に着工して、九月十四日に残り二・七キロが完成し、これで市街地から丸山まで一七・四キロのサイクリングロードが建設されたのである。

周辺は国有林にすっぽりと包まれ、ワインカラーの舗装道路がひときわ目立ち、起点となる高丘高速道路陸橋下にはサイクリングを楽しむ人たちの集合場所となる広場、案内板が立ち、途中の四キロと一四キロ地点に休憩所が設けられた。そして、同五十六年九月二十日から一般開放されたのである。総工費は約一〇億円であった。⁷⁾

計画では市内高丘からモーラップまでの全長一九・一キロであるが、丸山からモーラップ・支笏湖畔までの区間は

札幌開建の受け持ちであり、この方の完成が待たれた。

一方、サイクリングターミナルは道内ではすでに四市町村で設置されており、サイクリングロードの開通に合わせて苫小牧市が財団法人自転車道路協会に対して誘致運動を行っていた。

これはサイクリングによる青少年の健康増進などを目的に建設され、自転車の貸し出しや宿泊施設、研修施設などが設けられ、事業主体は自転車道路協会だが、建設から完成後の運営などは一切地元の自治体に委託され、最終的には施設もそっくり移管されるものであった。

市は字高丘のハイランド選手強化合宿所横を建設地に予定したが、これは支笏湖サイクリングロードの入口に当たり、ハイランドのプール、スケート場に隣接して環境面が整っていることを挙げていた。

サイクリングターミナルは昭和五十九年（八四）一月下旬に正式に決定し、苫小牧市は同年度予算に五億七九二万円を計上したが、歳入では受託事業収入二億九、六九五万円（協会負担分一億円、市負担分一億九、六九五万円）、起債一億四、七七〇万円、一般財源六、三三〇万円であり、歳出では建設負担金一億九、六九五万円、建設費二億九、



苫小牧市ハイランド合宿所



苫小牧市サイクリングターミナル

苦小牧市史（追補編）

六九五万円、市単独事業（外構工事外）一、四〇五万円で、いわゆる総工費は約三億一、一〇〇万円であつた。⁽⁸⁾

サイクリングターミナルは延面積一、四八八平方メートル、鉄筋コンクリート造二階建て、客室一二、研修室、食堂、ロビー等、宿泊定員八〇人、研修者五〇人、貸自転車七〇台の規模で、管理運営は苦小牧振興公社に全面委託とし、管理人一人、フロント二人、調理師二人をもつて昭和六十年（八五）一月十日にオープンした。なお、当初の利用料は小学生から一般までの段階があり、二食付きで二、五〇〇円から四、一八〇円、自転車一台（四時間）四〇〇円から五〇〇円であつた。

サイクリングターミナル利用状況

年 度	宿 泊 者				研 修 室	貸 自 転 車
	小 学 生	中 学 生	一 般	計		
昭和59年度	六一	一五二	三九六	六〇九	八三	—
" 60年度	四四一	三八一	三、〇二四	三八四六	七七三	一、〇四四
" 61年度	七三二	一四七	三、三四二	四、二二〇	七一四	一、一三五
" 62年度	三三二	一三七	三、七六七	四、三二五	一九九〇	九〇六
" 63年度	三六八	二七九	四、三五一	四、九九八	一、六九三	八二〇
平成元年度	六一八	三二五	四、二三八	五、一七一	二、一〇二	九三三
" 2年度	四一八	三〇九	四、五五一	五、二七八	三、九五四	九四八
" 3年度	五五七	三九四	四、八二五	五、七七六	三、〇二一	一、三二六
" 4年度	五七〇	四四五	四、八四〇	五、八五五	五、二八〇	六七八
" 5年度	七四九	三六三	六、〇八七	七、一九九	四、一三五	六一六
" 6年度	五六三	五二四	六、二九四	七、三七一	三、八九〇	七九四
" 7年度	四四七	四四五	四、二一六	五、〇一八	三、六三六	六〇七

平成8年度	六三一	六二二	四、五五九	五八二一	三、八四六	五四一
" 9年度	五七七	五六五	四、六九二	五、八三四	五、一二五	四六八
" 10年度	六九五	五五四	三、五五四	三、九五四	四、八〇三	四二八

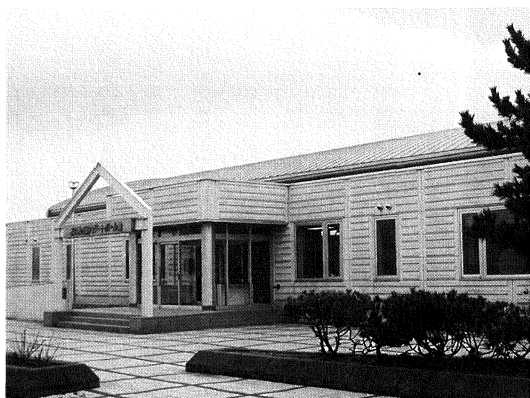
『苦小牧市統計書』 各年 苦小牧市より作成

ゲートボールの普及と ゲートボールは昭和二十二年（四七）に鈴木和伸がクリケットをヒントに考案されたと室内ゲートボール場 言われている。T字型のステックで定められボールを打ち、二〇メートル×二五メートル（二五メートル×二〇メートル）のコート内の三つのゲートを通過させて争うゲームである。

同二十八年（五三）に日本ゲートボール協会、同四十八年（七三）に日本ゲートボール協議会が設立され、急速に老人等の間で普及していった。複数のボールを同時に操ることで作戦に多彩なバリエーションが生まれ、また技術も高度化するなど、近年では若年層や外国人たちにも親しまれ、同五十九年（八四）には組織の統一とルールの一本化を図るたる財団法人日本ゲートボール連合が誕生し、翌六十年（八五）九月に世界ゲートボール連合が設立されて、ゲートボールも世界的な発達を遂げたのである。

さて、苦小牧市においては同五十五年頃（八〇）から町内会老人クラブや老人福祉施設の間で盛んになり、公園や空地を利用して専用コートを作って活動が始まった。同五十九年七月二十七日に苦小牧ゲートボール協会（鳥越忠行会長）が設立され、九月にはお祭り広場で第一回苦小牧ゲートボール大会が開催された。

その後、ゲートボール協会、市教委、市老人クラブ連合会がそれぞれの立場で活動してきたが、すでに我が国の組織が一本化されていることから、本市のゲートボール団体間においても統一を計ろうという気運が高まり、同六十年十一月に連盟設立準備委員会が設けられ、検討を重ねた結果、四二団体・六二四人が加盟して新団体を結成すること



矢代ゲートボールセンター

になった。そして、昭和六十一年（八六）三月二十四日に苦小牧ゲートボール連盟（中村重信会長）が発足し、新年度より苦小牧市長杯、樽前山神社杯など一四の大会を主催、協賛、後援し、審判員育成、指導者の養成などを行うことになった。なお、苦小牧ゲートボール連盟は現在財団法人苦小牧市体育協会に加盟している。

このようにして苦小牧のゲートボール団体の組織も出来上がり、益々盛んになっていった。そして、冬場に体育館などの建物の中で行われることになったが、土の感触がないため満足するゲームが出来なかった。そのため、市長との地域懇談会で、老人クラブの代表者から、すでに新冠町や陸別町にある室内ゲートボール場の新設を望む声が各地から出された。鳥越市長は以前に苦小牧ゲートボール協会の会長を務めた経験もあり、この問題に理解を示して「高齢者の健康保持と市民の交流の場として、旧自動車学校跡地に室内ゲートボール場を建設いたします」と、平成元年度施政方針の中で旧市立自動車学校跡地の一角に建設することを明らかにした。

苦小牧市の室内ゲートボール場は平成元年（八九）七月に着手され、同年十二月五日にオープンしたが、愛称を矢代ゲートボールセンターとした。敷地は約三、三七〇平方メートル、鉄骨造り平屋建て約一、一八二平方メートルで、公式コート二面、懇談のできる和室、観戦できるロビーなどがあり、総工費は約一億九、七〇〇万円であった。

五日の開会式では市長、連盟会長などにより始球式の後、オープン記念ゲートボール大会が六九チームが参加して

年	平成	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	年	度	開館日数	ゲートボール	テニス	その他
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	一〇一	六二〇六	五四七	九
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	七六一三	三、九五	二七三
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	七七一三	五八〇〇	二二四
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	六九五九	七〇七八	六三
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	五五五一	七〇七二	二一
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	六〇〇九	六二三四	二五
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	六七八一	七二二九	一〇
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	五〇三六	六六二八	五
年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	年	度	三三五	四四五三	五四〇六	二

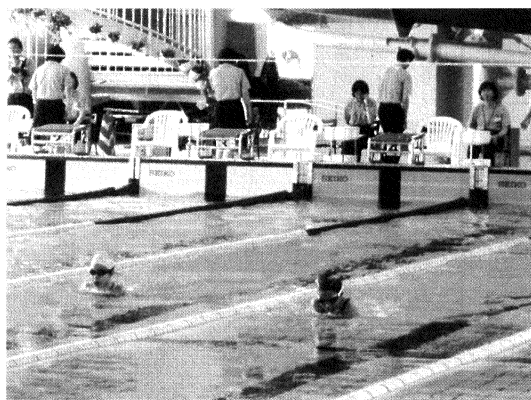
苦小牧市室内ゲートボール場（矢代ゲートボールセンター）利用者数

日 新 温 水 苦小牧市の市営プールには、昭和四十五年（七〇）に開設されたハイランドパレスの温水プール、プールの新設 同五十四年（七九）に開設された錦岡スポーツセンター（ときわ）温水プールがあった。しかし、この二つはいずれもアイスホッケー場との兼用であつたから、夏場（五月一日〜九月十日）だけが室内温水プールとなり、冬場（十月一日〜三月三十一日）はアイスホッケー場となつていた。したがって本市には、冬場の温水プールは無かつたのである。

このため、市内の水泳愛好者から通年楽しめるプールが欲しいとの要望が同六十年（八五）頃から高まつていた。市は字系井にある市清掃センターの余熱を利用して温水プールを造ろうと、同六十一年度において二、五〇〇万円の設計調査費を計上し、温水プール建設検討委員会を設けて検討を続けてきたのである。

ところが、市清掃センター近くに建設した場合、温水プールに通う市民の足確保や道路など周辺整備に約一四億円の建設費が必要となることが判明した。このため建設検討委員会としても、利用する市民の利便性を考えた場合、日新町の日軽グラウンド近くに建設した方がより多くの市民に利用されるのではないかと判断にたち、建設地の見直しと、余熱利用の是非についても再検討することになったのである。

市の試算では日軽グラウンドへの余熱導入には配管するだけで、六億円の費用が必要であることから、ここに至り余熱とは切り離す考え方が浮上したのである。



苦小牧市日新温水プール

昭和六十三年（八八）に入ると市は日軽グラウンドをその用地と決め、日軽金との交渉を持ち九月には市土地開発公社が約一万平方メートルの用地を先行取得していた。そして、市は平成元年度予算に建設費を盛り込み、平成二年（九〇）七月にオープンさせるとし、鳥越市長は「かねてから市民要望のありました通年温水プールについては、今年度着工し、二カ年の予定で日新町に建設します。これにともない、錦岡スポーツセンターでは、通年リンク化に向けて準備をすすめます」とし、日新町に通年温水プールを新設すると共に、錦岡（ときわ）スポーツセンターの通年スケートリンク化も明らかにしたのである。

これにより市建築部を中心に実施設計の作成作業が進められ、鉄筋コンクリート造り一部二階建てとし、建築面積二、四五六・二平方キロメートル、公認プール（二五m・八コース・水深一・二m）、中プール（水深〇・九m）、幼児プール（水深〇・六m）、ジャグジープール（水深〇・八五m）、ウォータースライダー（らせん型滑り台、延長四四・六m）が設けられ、ロッカールーム（男女各二〇〇名）、身障者用更衣室（八名）、サウナ、採暖室、シャワー室、喫茶室、ランニングデッキ、トレーニング室、見学スペース、会議室、管理室が設けられることになった。

平成元年（八九）七月十七日に着工し、総工費約一億七、七〇〇万円をもって、二年計画により翌年七月二十二日にオープンした。この日、午前十時から鳥越市長ら関係者による記念式典が行われ、古式日本泳法、幼児水泳、水中エアロビックのアトラクションの後、正午から市民に無料開放されたが、四〇〇人を超える市民の長い列ができ、午後四時まで入場制限を行うという人気ぶりであった。初日は一般入場者二、三〇〇人、見学者と式典参加者を入れたと三、〇〇〇人もの市民で賑わったのである。¹¹⁾

これにより苦小牧市は日新温水プールとハイランド温水プールの二つの市営プールを有することになったが、ときわスポーツセンターは通年アイスホッケーリンクに変更となり、ハイランド温水プールの方は夏期間（五月一日〜九

月十日）であるのに対して、日新温水プールの方は通年であり、夏期間（五月一日～十月三十一日）が午前九時三〇分から午後八時一五分、冬期間（十一月一日～四月三十日）が午前十一時から午後七時一五分までとなっている。

苦小牧市の温水プール利用者数（昭和五十一年以降）

年 度	日新温水プール				ハイランド 温水プール	錦岡 温水プール
	小 人	中 学 生	高 校	一 般		
昭和51年度					九三、三三一	
52年度					一一五、七五九	
53年度					一三二、七五三	
54年度					一〇八、二三一	
55年度					八六、四三六	
56年度					九〇、五二五	六八、二四八
57年度					九一、八二四	七六、〇六五
58年度					七七、〇〇六	九四、二〇九
59年度					九六、八二九	一〇四、五三八
60年度					九〇、六三六	一〇六、四三九
61年度					七八、八四八	九六、五〇〇
62年度					七七、六四八	八九、一七六
63年度					六五、〇六七	七六、一六七
平成元年度	九〇、九二七	九六、六〇	三、六六八	六一、一八四	七二、四九二	七七、七一二
2年度	八五、七九四	八〇、八四	六〇、三五	八二、四五八	六八、五四七	七四、五三〇
3年度	七六、五八九	六一、三八	六〇、七一	七七、七五三	三八、五七六	
4年度	七八、〇〇〇	六一、〇五	六一、三九	七五、五五八	三四、七九六	
5年度	六九、八〇六	六三、三二	六二、三九	七五、二五九	三八、六七九	
6年度	五八、五八一	五五、一六	四八、九七	七一、五三四	三〇、九三一	
7年度						



緑ヶ丘公園陸上競技場



緑ヶ丘公園庭球場



緑ヶ丘公園サッカー場

緑ヶ丘運動公園
の各施設の整備

この地一帯はかつてアイヌ語でオテーネ（股下まで濡れるところの意味）と呼ばれていた湿地帯であった。この地が運動公園化されていく切っ掛けとなったのは、昭和四十二年（六七）に火

（『苫小牧市統計書』 各年 苫小牧市企画調整部企画課）

平成8年度	五二、五六四	三、七九九	四、二八四	六一、〇五三	一二一、七〇〇	二五、三六九
9年度	五一、六四五	四、〇七〇	四、三二八	六〇、八〇九	一二〇、八四二	二六、二六〇
10年度	五二、五七三	三八七六	四五〇八	六二、七四九	一二二、七〇六	二六、三五一

葬場、墓地を取り壊して札幌冬季五輪スケート大会の補助リンクとしてハイランドスポーツセンターが設置され、昭和四十七年（七二）七月に市営リンク（大沼）が埋め立てられ、市営球場（オーロラ球場）になったことが挙げられる。同四十九年（七四）三月に緑ヶ丘公園マスタープランが樹立され、これは動的施設区と静的施設区に分け、動的区には野球場のほか、テニス、バレーボール、サッカー、サキットコーナーなどを設け、静的区は自然観察公園の性格を持たせるものであった。

一方、森林公園の性格のもと金太郎の沢周辺の整備も進められ、これは一足先に同五十五年（八〇）七月二十七日に全面開放された。さらに、同年八月には運動公園の整備が打ち出され、翌五十六年度（八一）から陸上競技場、テニスコート、サッカー場、野球場の各施設の入ることになった。

先ず、同五十七年（八二）五月に陸上競技場、同五十八年（八三）八月に庭球場、同六十二年（八七）五月に市営野球場（緑ヶ丘球場）、同六十三年（八八）五月に少年野球場、六月にサッカー兼ラクビー場が完成した。

また、平成元年（八九）九月に苦小牧市においてはまなす国体秋季大会の軟式庭球とフェンシング競技が行われることになり、軟式庭球会場となる緑ヶ丘総合運動公園の道路網や芝生の整備が進められ、あの湿地帯だった一帯が大運動公園として見事な変身を遂げたのである。

その他のスポーツ 苦小牧市では昭和四十八年（七三）八月に建築面積約七、八〇〇平方メートルの市総合体育館ツ施設の新設を設置したが、これは市内のほぼ中央部に位置していた。その後本市は急速な発展を遂げ、市街地の拡大に伴い、各地区からスポーツ施設の要望が高まった。

本市の地形的な特徴として東西に長く発展していることであるが、同四十年（六五）以降は糸井、錦岡を中心とする西地区の発展があり、同六十年（八五）以降は明野地区の東側が発展し、さらに東西に長い街並が出来上がっている。

た。これに合わせるように体育施設も建設されていたが、その先頭をきつたのは昭和五十六年（八一）五月に開設されたトレーニング室を持つ豊川コミセン体育館であった。さらに、同六十三年（八八）一月に日吉体育館、十月に川治体育館が相次いで開設された。

一方、東地区では同六十三年十二月に勤労者総合福祉センター（住吉ライブラリーセンター）体育館が開設され、平成四年（九二）十月に沼ノ端コミセン体育館が開設された。

このほか、市の施設で付属して建てられた体育館もあり、昭和五十二年（七七）四月に開館した市勤労青少年ホーム体育館、同五十七年（八二）四月の市中心障害者福祉センター体育館がある。

民間施設ではスイミング・エアロビックスのピープル苦小牧（昭和五十五年十二月開設）、同じくスポーツアリーナブロス（平成元年十一月開設）があり、乗馬クラブのノーザンホースパーク（昭和六十三年八月）が特異な存在として知られており、障害馬術競技の道内大会や国際大会が行われている。

苦小牧市内における主なスポーツ施設（平成十年現在）

施設名	設立年月日	所在地	建築 競技面積	施設・事業内容
市総合体育館	昭和48年8月3日	末広町3・2・16	七、八〇五㎡	主競技場40×60m、剣道、柔道、卓球、弓道、サークル室
日吉体育館	63年1月15日	日吉町3・4・3	五九六㎡	競技場32×17m
川治公園体育館	63年10月2日	川治町4・6・1	一、八三四㎡	競技場34×34m、トレーニング室、シャワー室
勤労青少年ホーム体育館	52年4月15日	旭町3・1・12	八八九㎡	アリーナ、シャワー室、サークルトレーニング室
豊川コミセン体育館	56年5月1日	豊川町3・4・21	九四三㎡	各種体育施設
住吉ライブラリー体育館	63年12月22日	住吉町1・3・20	九五〇㎡	各種体育施設
沼ノ端コミセン体育館	平成4年10月10日	字沼ノ端626の2	八六四㎡	各種体育施設
ハイランドスポーツセンター	昭和42年12月10日	字高丘四一	四〇、五〇〇㎡	一周四〇〇mのスピードスケートコース、クラブハウス

苦小牧市史（追補編）

ハイランドパレス	昭和45年1月14日	字高丘四一	五八〇〇㎡	60×28m、夏期間温水プール、冬期間アイスホッケー場
ときわスケートセンター	" 55年1月18日	ときわ町3・8・5	三、三七五㎡	60×28m、通年アイスホッケー場
白鳥アリーナ	平成8年8月29日	若草町2・4・1	八、四八〇㎡	60×30m、室内リンク、四く六月は多目的に利用
沼ノ端スケートセンター	" 12年3月20日	字沼ノ端一八七の三	三、一八一㎡	60×28m、通年アイスホッケー場
王子スポーツセンター	昭和33年10月 日	表町4・2・35	王子製紙専用アイスホッケーリンク	
サイクリングターミナル	昭和61年1月10日	字高丘19の1	一、四八八㎡	宿泊研修施設、12室80人収容、研修50人、貸自転車70台
スポーツハウス	" 44年11月1日	字高丘二六	二、一〇〇㎡	合宿施設、14室（洋室12・和室2）56人収容
矢代ゲートボールセンター	平成元年12月5日	矢代町2・1・12	一、一八二㎡	22×17mのゲートボールコート2面、他にテニスに利用
日新温水プール	" 2年7月22日	日新町2・2・41	二、四六五㎡	25m×8コース、中プール、幼児プール、遊戯施設等
市営オーロラ球場	昭和47年7月19日	清水町1・47・1	二、一五〇〇㎡	両翼九〇・五m、中堅一二六m、夜間照明六基、スタンド等
市営緑ヶ丘球場	" 62年5月20日	清水町3・3・26	二、四〇〇㎡	両翼九一m、中堅一二〇m、スタンド、シャワー室等
市営少年野球場	" 63年5月3日	清水町3・3・26	七、三二五㎡	両翼七七m、中堅八七m、ラバーフェンス、芝生スタンド等
王子球場	平成7年8月31日	清水町4・	二、一〇〇㎡	王子製紙専用球場
陸上競技場	昭和57年5月16日	清水町3・3・26	三、六九〇〇㎡	第三種公認グラウンド、一周四〇〇m
緑ヶ丘公園庭球場	" 58年5月19日	清水町3・3・26	三、六九〇〇㎡	クレイコート12面、全天候型コース8面、夜間照明48基
緑ヶ丘公園サッカー場	" 63年6月13日	清水町3・3・26	二、六三〇六㎡	競技場二面、管理棟・ラクビー場は平成九年五月に完成
ビーブル苦小牧	昭和59年12月3日	木場町1・10・13		スイミングコース、エアロビック、ジャズダンス
スポーツアリーナーアブロス	平成元年11月 日	明野新町5・18・30		スイミングスクール、エアロビックス、トレーニングジム
ノーザンホースパーク馬場	昭和63年8月30日	字美沢一四の七		乗馬、障害馬術等

（『苦小牧の教育』 平成十年版 苦小牧市教育委員会などより作成）

注（1） 『苦小牧市史―下巻』 昭和五十一年 苦小牧市

（2） 『苦小牧民報』 平成八年四月十四日号 苦小牧民報社

（3） 『新聞切抜綴―白鳥アリーナ』 昭和五十七年〜平成八年 苦小牧市史編集事務局編

- (4) 『第六回臨時苦小牧市議会会議録』 平成四年一月十四日 苦小牧市議会
- (5) 『苦小牧民報』 平成八年一月八日号 苦小牧民報社
- (6) 『昭和六十年年度施政方針』 昭和六十二年二月 苦小牧市
- (7) 『21世紀へ駆ける―苦小牧道路路事務所の歩み』 平成六年 道開発局室蘭開発建設部苦小牧道路路事務所
- (8) 『昭和59年度苦小牧市各会計予算説明書』 昭和五十九年 苦小牧市
- (9)(10) 『平成元年度施政方針』 平成元年二月 苦小牧市
- (11) 『苦小牧民報』 平成二年七月二十三日号 苦小牧民報社

第二節 スポーツ育成と各賞の受賞

一、スポーツ育成活動

スポーツマ スポーツマスターは鳥越忠行市長が初当選した昭和六十二年（一九八七）以来、積み残された選挙スター制度 公約であり、市教委を中心に長年にわたって検討してきたが、全国の自治体に前例のないものであっただけに、どのようなシステムにするかで時間がかかり、この制度の実施を明らかにしたのは平成六年（九四）十二月の市議会で佐々木教育長が今年度中に作業を終え、来年度から実施したいとしてからであった。^①

市教委では同七年（九五）七月に「スポーツマスターに関する要綱」を策定し、学識経験者、スポーツ関係団体代

表ら一〇人のメンバーによる「スポーツマスター選考会議」を発足させ選考作業に入った。同要項ではスポーツマスターについて、「スポーツ活動で輝かしい活躍をした人の功績と榮譽をたたえ、青少年に夢を与え市民スポーツの向上に役立てる」を目的に掲げた。

鳥越市長は平成八年（九六）九月二十五日、初めて設けた「苦小牧市スポーツマスター」を発表した。同マスターは五輪など国際大会や全国大会レベルで活躍した苦小牧市民、かつて苦小牧に在住していた人に対し、市が称号を贈り市内で講演会や各種スポーツの講習会、実技指導などの講師として協力してもらうものであった。また、同年に苦小牧市はスポーツ宣言都市三〇周年を迎えることもあり、全国の自治体では初めて創設したものであった。

市では「人格、技術、識見を備え市民へのスポーツ普及振興に寄与してもらえ」として、次の三人をスポーツマスターに決定した。同マスター称号授与式が十月九日、市内のホテルで行われ鳥越市長からマスター三人に対しブレザーと盾が贈られた。

初のスポーツマスターに選ばれたのは、引木孝夫、鈴木秀太、高沢秀昭の三人であった。引木は釧路工業高校卒業後、同三十八年（六三）に王子製紙苦小牧工場に入社し、アイスホッケー部の名フォワードとして活躍、同五十六年（八一）に現役を退くまで日本リーグのベスト6などに数多く選ばれたほか、五輪に一回、世界選手権に七回出場、同五十三年（七八）から平成元年（八九）までは同社アイスホッケー部監督として日本リーグで八回、優勝に導くなど指導者としても手腕を発揮した。鈴木はバスケットボールの全日本ナショナルチームの総監督で、苦小牧東高校から日大を経て、同四十三年（六八）にトヨタ自動車へ入社、同社バスケットボール部の現役として全国実業団リーグで活躍し、同五十二年（七七）から同社バスケットボール部監督となり、日本バスケットボール界のリーダーとして手腕を発揮し、平成六年（九四）には全日本ナショナルチームの監督、総監督を歴任している。高沢は苦小牧工業高

校、王子製紙の野球部で活躍し、昭和五十四年（七九）にドラフト二位でロッテオリオンズに入団、広島そして再びロッテと移籍し、平成五年（九三）に現役を引退、現在ロッテの一、二軍の打撃コーチを務めている。現役時代は昭和六十三年（八八）にパ・リーグの首位打者に輝いたほか、パ・リーグのベスト9を二回、ゴールデングラブ賞を三回それぞれ受賞した。²⁾

平成七年（九五）十月二十九日の苦小牧地区バスケットボール協会三〇周年記念式典でスポーツマスターの鈴木が記念講演を行い、同マスター制度の活動第一号となり、本市のスポーツマスター制度が本格的に活動を開始した。一方、高沢は同年十二月九日、総合体育館で市内野球少年団二六チームの「少年野球教室」の指導に当たり、キャッチボールの基本動作やティーボールを使用しての打撃指導を行った。また、引木は同月二十五～二十七日まで三日間、ときわスケートセンターで「ちびっ子アイスホッケー教室」の指導に当たるなどスポーツマスターによる事業が相次いで開かれた。

同八年（九六）十二月二十六日、鳥越市長は苦小牧市スポーツマスターとしてスピードスケートリレハンメル五輪銅メダリストの山中宏美（旧姓山本、元王子製紙）を新たに選任した。女性第一号になった山中は、駒大苦小牧高校から王子製紙に入社、スピードスケートの女子中長距離選手として活躍し、同六年（九四）のリレハンメル五輪に出場、女子日本長距離勢としては初の銅メダルに輝いた。苦小牧市スポーツマスターの称号授与式は、同九年（九七）一月十七日、苦小牧市役所で行われ、鳥越市長からブレザーと記章が贈られた。

苦小牧市スポー 苦小牧市が昭和四十一年（六六）十一月、全国に先駆けスポーツ都市宣言を行い、翌四十二年
少年団の活躍 （六七）五月に青少年の健全育成を目標に岩倉春次を初代本部長として「苦小牧市スポーツ少年
団」を結成した。発足当時は三八団体、団員数二九三人、指導者は九一人であった。

昭和四十二年（六七）八月には新たな一団、団員二九八人、指導者二五人の追加登録があつて総勢四九団体、団員一、二六一人、指導者一一六人となつてスポーツ少年団のスタートが切られた。当時の運営形態は地域型の活動に主体を置き、スポーツ種目も野球、スケートなどを中心にソフトボール、ドッジボール、サイクリング、卓球、テニスなど多種目にわたつていて、現在の登録には見られない種目団体が記録に残っている。

同少年団結成以来、すでに三三年を経過した平成十二年（二〇〇〇）の登録数は七五団体、団員二、二〇〇人、指導者三三〇人を数え、一〇種目のスポーツを地域の施設を活用しながら年間を通じて活動が展開されている。また、実技のみならず研修育成事業としても、団員、指導者、母集団を対象とした研修会を実施し、全道規模の研修会にも派遣を行っている。

しかしながら、近年になつて団員数の伸び悩みや、同四年度（九二）より導入された「学校週五日制」への対応も加わり、指導者の確保、資質の向上、母集団組織の拡充と活動の資質向上、活動の場の確保など数多くの課題が山積している。スポーツ少年団活動の本質である「青少年の健全育成」に主眼を置きながら、苦小牧におけるスポーツ活動の底辺拡大とともに、さらにその役割が大きなものとなつて今後の活動に期待が寄せられている。

北海道スポーツ少年団表彰受賞

昭和六二	石田 巖（野球部会長）	昭和六三	齊藤 政市（正心館ＳＣ）
"	高橋 一男（たるまえＳＣ指導者協議会）	"	加藤千代吉（正心館ＳＣ）
"	相沢 威（苦小牧ＳＣ指導者協議会）	"	伊藤 惇（苦小牧市ＳＣ野球部会）
"	広島 忠雄（正心館剣道ＳＣ）	"	阿部 清（苦小牧市ＳＣ野球部会）
"	佐久間福松（沼ノ端剣道ＳＣ）	"	苦小牧剣心館スポーツ少年団（団体）
昭和六三	苦小牧正心館剣道スポーツ少年団（団体）	平成 元	及川 和親（苦小牧柔道ＳＣ）

平成 元 神田 峻一（苦小牧市SC野球部会）

平成 元 今

政人（苦小牧市SC野球部会）

” 斉藤 進（苦小牧柔道SC）

『四〇年のあゆみ―苦小牧体育協会創立四〇周年記念誌』 平成四年 苦小牧体育協会

注（１）『苦小牧民報』 平成六年十二月十三日号 苦小牧民報社

（２）『新聞切抜綴―スポーツ③』 平成元年～平成十年 苦小牧市史編集事務局編

二、各 賞 の 受 賞 ・ 表 彰

スポーツ各 スポーツに関する賞は全国、全道、苦小牧市とあり、またその種類についても表彰、記念賞、受賞の受賞者 スポーツ賞、郷土貢献賞などがあり、特にスケート関係では全国的なレベルにあり、表彰、受賞者も多いのが本市の特徴の一つでもある。なお、郷土貢献賞、社会教育功労者、同功労団体、市文化賞、同文化奨励賞については、すでに第一編政治・行政の各種表彰の中で挙げており、省くのでこれを参照されたい。

苦小牧市史の関係から本稿では昭和五十年（一九七五）以降における全国、全道的な賞、表彰についてのみ挙げることにする。全国的なものとして文部大臣表彰については体育功労者としてスケートの運営、指導、選手などで活躍した人たちであり、友成真七（スポーツ振興、スケート・陸上競技の運営・昭和六十年年度、西浦清輝（アイスホッケー指導、育成・平成元年度）、川渕務（アイスホッケー指導、国際交流・平成三年度）があり、また、平成八年（九七）四月に文部省が堀井学（スケート）、西村政司（同指導者）にスポーツ功労者として表彰した。栄誉賞としては昭

和六十年（八五）に第四回北海道榮譽賞として橋本聖子（駒大苫小牧高出）、同じ年に陸上界の榮譽賞である春日弘賞を山内ともこ（苫小牧中央高出）がそれぞれ受賞した。^①

北海道スポーツ賞には、①スポーツ振興に寄与、②優秀な成績を収めた、に分けて受賞しており、すでに道内スポーツ賞として定着している北海道新聞スポーツ賞、南部忠平記念賞、南部忠平記念奨励賞及び苫小牧市体育協会スポーツ賞などがあるが、受賞者については省略する。

注（１）『新聞切抜綴—スポーツ②』 昭和五十九年〜同六十三年 苫小牧市史編集事務局編

第三節 各種大会の開催

一、全国大会の開催

国民体育 苫小牧市において昭和五十年以降に開催された国民体育大会は、昭和五十五年（一九八〇）一月の大会の開催 第三五回国民体育大会冬季大会スケート競技会と、平成元年（八九）九月の第四四回国民体育大会秋季大会軟式庭球、フェンシング競技の二回であった。

第三五回国民冬季大会スケート競技会が本市で行われるのは、昭和二十五年（五〇）一月に王子リンクで開かれた第五回大会以来、実に三十年ぶりのことであった。

スピードスケートはハイランドスポーツセンターの屋外リンクで、アイスホッケーとフィギュアは王子スポーツセンター、岩倉体育館、ハイランドパレス、錦岡スケートセンターの四室内リンクで行われた。

同大会は昭和五十三年（七八）九月五日に苦小牧市開催が決定し、十三日には国体実行委員会（会長、大泉源郎市長）が発足して本格的な準備に入った。開催日は同五十五年（八〇）一月二十六日から四日間と決まり、「氷上の華、友情と飛躍と」をテーマにし、参加選手、役員を地元民の熱意で歓迎、接待しようと国体苦小牧協賛会（会長・藤田隆一商工会議所会頭）が同五十四年（七九）九月に設けられ、一、一五〇万円の予算も計上して、総務・歓迎・接待・事業の四委員会を設置し、市民挙げて歓迎体制を整えたのである。

第三五回国体スケート競技会は同五十五年一月二十六日、常陸宮殿下・同妃殿下のご臨席のもと、四三都道府県から二、〇七九人の精鋭を迎えて苦小牧ハイランドスケートセンター屋外リンクに二万人の観衆を集めて開会式が盛大に行われた。

この日、苦小牧地方は絶好の好天にめぐまり、氷都の空に高らかに鳴り響くファンファーレを合図に競技役員、選手団が入場、堂垣内尚弘知事の開会宣言、一〇発のカラータ花火が打ち上げられた。小学生鼓笛隊の先導で国旗・大会旗が入場、スポーツ少年団親子によって大会旗、都道府県旗がセンターポールに掲げられた。天皇杯、皇后杯の返還があり、日体協、文部省の代表からあいさつがあつて、常陸宮殿下のおことばがあつた。参加選手を代表してスピードスケートの大山三喜雄（王子製紙苦小牧工場）が力強く選手宣誓、開会式を終えた。この後遠来の選手たちを歓迎して、地元勇払千人隊御会所太鼓と登別の北海太鼓の勇壮なバチ捌きによる太鼓の音が響いた。⁽¹⁾

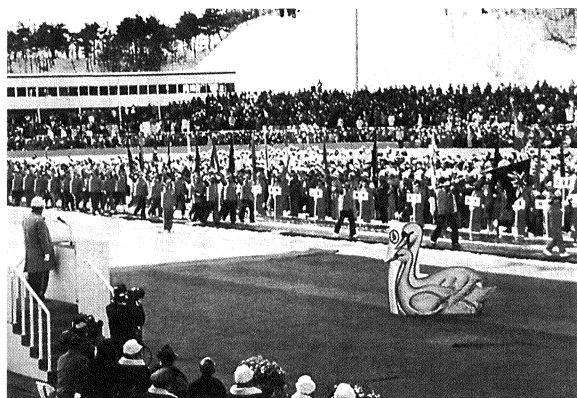
銀盤にはばたけ苦小牧国体の競技は、美と力を競い合った。ハイランドパレスのフィギュア規定を皮切りに、屋外リンクのスピードスケートでは好レースが展開され、新装なった錦岡スケートセンターなどでアイスホッケーの熱戦

が繰り広げられ、苦小牧のまちは国体一色に塗りつぶされた。三〇年ぶりの苦小牧国体ということで参加選手団の数も史上最高となり、四日間の観客数も史上最高で銀盤の闘いのかげでは、選手団と市民の交流も活発に行われ、氷都苦小牧を舞台にした友情の輪は全国に大きく広がり、同月二十九日には成功裏のうちに閉幕したのである。

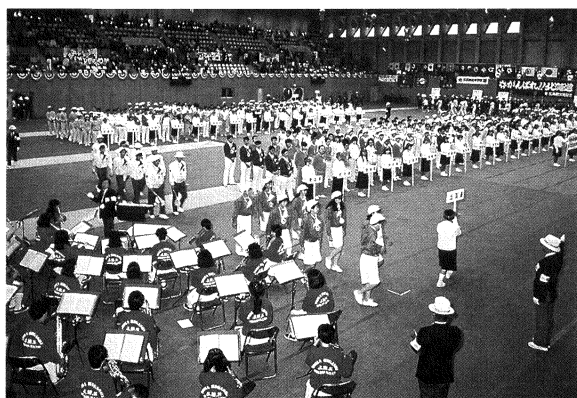
秋の国民体育大会の競技が本市で行なわれるのは、昭和二十九年（五四）八月の第九回国民体育大会秋季大会柔道競技会（若草小体育館）が行なわれて以来のことであった。

同六十一年（八六）七月に第四回国民体育大会（はまなす国体）が本道を会場として行うことが決まり、三五市町村で四二競技が行なわれることになった。そのうち苦小牧市では、軟式庭球とフェンシングの二種目と決まり、日程について気象条件を考慮して九月十七日から二十二日までと決まった。

苦小牧市は、64はまなす国体に備え同六十二年（八七）十一月二十四日に国体苦小牧市実行委員会（委員長・鳥越忠行市長）を発足させた。



第 35 回国体スケート大会開会式



第 44 回はまなす国体苦小牧開会式

地元苦小牧は施設面で緑ヶ丘公園庭球場に一二面のコートを整備し、ナイター施設（八基）も据え付けられた。また、なじみの薄かったフェンシングは地元選手を養成するため、フェンシングクラブを発足させた。

「君よ、北の大地の風となれ」をスローガンに、第四回国体秋季大会は平成元年（八九）九月十七日、札幌市厚別公園陸上競技場で総合開会式が行われ、六日間の大会の幕が開いた。苦小牧会場では翌十八日から軟式庭球とフェンシング競技が行なわれたが、開会式前夜の雨のため、会場や時間の一部変更があった。それでも昼までに青空も顔を出し、子どもたちの集団演技も華やかに行なわれ、その後の競技が始まった。

総合体育館を会場とするフェンシング競技会には、全国の剣士四〇一人が出場し熱気あふれるプレーを展開した。一方、軟式庭球競技には七八一人の精鋭が参加、北海道は成年二部で優勝し、男女総合七位となった。フェンシングは惜しくも入賞を逃したが、少年男子フルーレで四位になるなどよく健闘した。

汗と感動とふれあいの祭典、はまなす国体は二十二日で全日程を終了したが、熱戦の陰で黙々と仕事をこなした市民が多く、両会場合わせて約二〇〇人の高校生が競技補助員として参加した。休息時には苦小牧市町内会連合会婦人部など約一五〇人のボランティアが樽前なべ、ブタ汁、石狩なべなど延べ一万一、〇〇〇食の北海道の秋の味覚を提供、心温まるもてなしが選手たちを勇気づけた。期間中大会に携わった市民は延べ七万七、〇〇〇人にのぼり地域を越えた応援に大きな感動を与え、まさに市民が支えたはまなす国体でもあった。

注（１）『苦小牧民報』昭和五十五年一月二十六日号 苦小牧民報社

二、インターハイ・インカレの開催

全国高校スケート選手権大会（インターハイ） 一月の第三回大会であったから、同五十三年（七八）一月十四日から五日間、開催された第二十七回全国高校スケート選手権大会アイスホッケー競技会は実に二十四年ぶりのことであった。

同大会には全国の精鋭二一校・三八七人の若い力を氷都苦小牧に結集したが、大会名のとおりアイスホッケーだけの大会だった。この時期スケート連盟、アイスホッケー連盟の分裂もあって、アイスホッケー競技は苦小牧市で、スピード競技は盛岡市で、フィギュア競技は埼玉県横瀬村で行なわれた。ただし、この分裂大会は二年間^{（1）}だけで、同五十四年（七九）一月の第二八回大会から再び統一大会になった。

初日は王子スケートセンターで史上初の氷上開会式が華やかに行われた。競技は、王子スケートセンター、イワクラ体育館、ハイランドパレスの三会場で熱戦が繰り広げられ、銀盤に若いエネルギーが炸裂した。この大会で四年連続全国一を目指している駒大苦小牧高をはじめ今季全道チャンピオンに輝いた苦小牧工業高をはじめ苦小牧東高、道日大校の地元勢が予想通りの活躍をませてベスト八に進出、スタンドにつめかけた母校の応援団やファンを熱狂させた。

地元苦小牧の伝統校同士の対決となった苦東―苦工の決勝戦には、会場の

第42回インターハイスケート競技大会

王子スケートセンターに約三、二〇〇人の観衆がつめかけ、足のふみ場もないほどのすずなりとなつて超満員にふくれあがつた。試合開始早々から好ゲームが繰り広げられ、最終ピリオドまで両軍死力をつくしての息詰まる攻防で予断を許さなかったが、苦工が終盤逆転劇を演じ8-7の末、四年ぶり七回目の全国優勝を飾った。

苫小牧市で三度目となる第四十二回全国高校スケート選手権大会は「走れ闘え舞え」のスローガンのもと、平成五年（九三）一月十九日市民会館で開会式が行われ、二十三日までスピード、フィギュア、アイスホッケーの熱戦がハイルンドスポーツセンターなど五会場で青春の一大ビッグイベントが華やかに開幕した。

開会式には全国から二七八校、参加選手、監督・コーチ、競技役員ら約一、六〇〇人が集い、ハイルンドスポーツセンターなど各会場でスピードスケート、フィギュア、アイスホッケーの三競技が行われ熱い闘いを繰り広げた。

フィギュア女子Aフリー、Bフリーなどが行なわれ、本州勢の活躍が目立った。スピードスケート女子五〇〇メートル決勝で香川真由美（駒大苫小牧高）が初優勝を果たし、最終日の二十三日は晴天、微風の絶好のリンクコンディションとなったスピードスケートの女子二、〇〇〇メートルリレーでは、駒大苫小牧高がリンク新で二年連続一四度目の総合優勝を飾った。アイスホッケーは連覇を目指す駒大苫小牧高が決勝戦で釧路江南高と激突、熱戦を繰り広げて釧路に凱歌があがつたが、熱烈な市民の声援があつた。

各会場に設けられた歓迎コーナーでは、市町内会連合会婦人部、苫小牧総合経済高校の女子生徒が接待役として活躍、野外の寒さにもめげず、明るい応対で会場を訪れる人たちを温かく迎えた。ハイルンドスポーツセンターの歓迎広場など各競技会場には、コーヒーや牛乳などの飲み物、ふかしイモなどの無料サービスコーナーが設けられて、選手・役員など大会参加者への接待が行われ、ここでも苫小牧の女性パワーが発揮された。

全国高校 昭和六十二年（八七）の全国高校総合体育大会夏季大会は八月一日から二十日までの間に、二五

総 体 種目が道内二五市町村で行われることになり、このうち苦小牧市が会場となったのは軟式庭球とフエ
ンシングであった。このため同六十年（八五）七月三十日には苦小牧市高校総体実行委員会を発足させ、事務局体制
を強化するなど本番に向けて準備作業を進めたが、同大会には軟式庭球で選手、役員合わせて約二、〇〇〇人、フエ
ンシングでは約一、二〇〇人の参加が見込まれた。同委員会は同六十二年一月二十九日、大会のポスター、プログラ
ム表紙に使う図案を高校生から募集して決定したほか、これまで一〇人体制だった事務局に一月から新たに高校教員
二人が加わるなど能力アップすることにした。

「はばたけ若人 北の大地に」をスローガンに昭和六十二年（八七）八月一日、札幌市の厚別公園競技場に四七都道
府県約六、八〇〇人の代表選手により開会式が行われた。

苦小牧市では、軟式庭球が男子は一日に開会式、二日から緑ヶ丘総合運動公園庭球場と苦東高テニス場で試合が始
まり、三一八組がエントリーした個人戦、四八校出場の団体戦が行われた。また女子は五日開会、個人戦は三二〇組、
団体戦は四八校が参加した。

一方、フエンシングは総合体育館で四日に開会式を行い、参加は男子フルーレ八五人、女子フルーレ八三人、男子
のエペ、サーブルはそれぞれ四二人ずつ、団体戦は男子四三校、女子四二校により八日まで行なわれ、開会式では駒
大苦小牧高の林崎千夏が響き渡る声で選手宣誓を行った。また、軟式庭球女子の開会式では苦西高の斉藤、瀧沢組の
二人が力強く選手宣誓を行った。

軟式庭球、フエンシングとも道内勢は上位に食い込むことは出来かったが、市民は遠来の選手に惜しめない拍手を
送った。

日本学生氷上競技選手

第六十二回日本学生氷上選手権大会が平成元年（八九）十二月に開催されたが、苦小牧

権大会（インカレ）

市での開催は実に二一年ぶりであった。同大会は十三年前から日光市を会場に開催されてきたが、三度に一度は地方で開催をしたいと日本学生氷上競技連盟から苦小牧市に打診があり、市はこれを受けて開催が決定した。

この大会は四日間の日程で全国各地の大学生が氷都苦小牧に集まり、選手、役員らは約一、〇〇〇人以上と見込まれ、苦小牧の年末を飾るビッグイベントとなった。

苦小牧市では同元年十月十三日にはインカレ実行委員会（会長・鳥越忠行市長）を発足させ、具体的な取り組みに入った。同大会は王子スケートセンター、イワクラ体育館、錦岡スケートセンター、ハイランドスケートセンターの四会場で、スピードスケートは男子が六種目、女子が五種目、フィギュアは男女一部、二部とアイスダンスなど、アイスホッケーは十二月二十一日一斉に開幕した。

地元出身選手の多いスケート競技だけに有力大学には苦小牧の高校で活躍した選手が顔を揃え、開会式では三笠宮寛仁殿下が同妃殿下と共にご出席され、励ましのお言葉を述べられた。

スピードスケート競技には二二校、二一人が参加、注目の男子学校対抗では日大が十三年ぶり一九回目の優勝、女子では部員九人の中京短大が二連覇を飾った。駒大苦小牧高出身の楠瀬志保（日体大）が五〇〇メートル・一、五〇〇メートルで会心の滑りをみせ二冠に輝いた。アイスホッケーは六八〇人の選手のうち、地元高校出身者は約一〇〇人と多く連日熱心なファンが会場を訪れ、熱気あふれる雰囲気をもし出した。一方、フィギュアは女王伊藤みどりの欠場で精彩を欠いた大会となったが、苦小牧フィギュアスケートティングクラブの父母などが陰で支え、円満に運営が行われた。

平成七年（九五）一月六日、第六七回日本学生氷上競技選手権大会が七年ぶりに苦小牧市を会場に開幕された。同大会には全国から九五校、一、二三人の選手が参加、九日までスピードスケート、フィギュア、アイスホッケーの三競技が行われた。インカレ開会式には三笠宮、同妃殿下がご出席され、選手の健闘を祈ってお言葉を述べられた。

アイスホッケーは、ときわスケートセンター、新王子スケートセンター、イワクラ体育館の三会場で二九校が熱戦を繰り広げた。このほかフィギュア、スピードスケートの競技とも地元出身の選手が多く、大会関係者やファンなどの熱狂的な応援で、どの会場も熱気のあふれた盛り上がりを見せた。同大会の閉会式が九日、新王子スケートセンターで行われ、四日間にあたる熱戦が閉幕、選手はそれぞれの青春のページを胸に刻み苦小牧を去った。

第七〇回日本学生氷上選手権大会が平成十年（九八）一月四日、苦小牧市で開幕した。市民会館での開会式では全国七六校からエントリーした一、三〇〇人の選手が出席、スピードスケート、フィギュア、アイスホッケーの三競技が七日までの四日間、ハイランドスポーツセンターなど四会場で氷上の精鋭が技を競った。

苦小牧としては、同七年（九五）以来三年ぶり五回目のインカレで市制施行五〇周年の年の幕開けにふさわしいビッグな大会となった。

スピードスケート女子五〇〇メートルで原田季世子（日体大―駒大苦小牧高）が実力通りの力走をみせ初優勝するなど、地元出身選手が上位に入賞し、市民の熱烈な声援をうけながら、四日間にわたり熱い闘いを繰り広げ七日夕閉幕した。

注（一）『氷上の闘魂譜―苦小牧東高校アイスホッケー部五十年史』昭和六十二年 田中 正著 マルコ出版

第四節 アイスホッケー

一、実業団アイスホッケー

王子製紙の連勝記 王子製紙アイスホッケー部は大正十五年（一九二六）に結成された王子イーグルチームをそ
録と岩倉組の廃部 の前身とし、昭和六年（三一）に正式に王子製紙チームと改称した。そして、翌七年（三二）
には第三回全日本氷上選手権大会アイスホッケー競技に初参加、初優勝を飾った。同十年（三五）には二回目の優勝
を遂げたものの、その後は大学チームや満州チームに敗れはしたが、道内では殆ど敵なしで、全道大会では苦小牧中
学校に一度敗れただけで、九回の優勝を遂げていた。

終戦を迎えると二年間のブランクを取り戻し、王子リンクも整備され同二十二年（四七）一月に八戸で行なわれた
第一五回全日本氷上選手権大会で三度目の優勝を遂げたのをはじめとし、同二十五年（五〇）から同二十七年（五二）
まで三連覇、同二十九年（五四）から同三十三年（五八）まで五年連続優勝（但し同三十二年（五七）の二五回大会
は岩倉組と優勝分ける）、通算一〇回の優勝を飾ったのである。

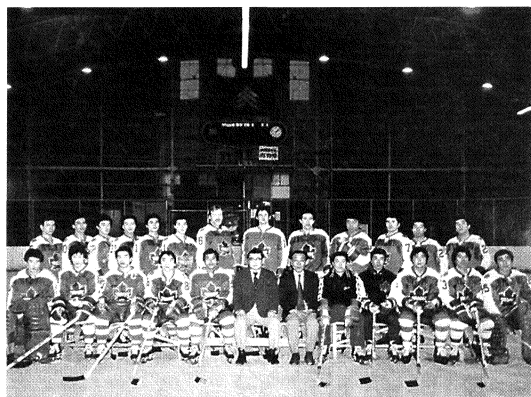
王子製紙は同三十三年にパイピングリンクを完成させたが、王子製紙アイスホッケー部にとって誠に不幸な出来事
が起こった。これは同年七月十八日の一四五日に及ぶ王子製紙無期限ストへの突入であった。このため、アイスホッ
ケー部をはじめ各部は休部となってしまった。この間、岩倉組の台頭があり、古河電工のチーム強化があつて、王子
チームはなかなか立直ることが出来なかった。再び全日本選手権で優勝するには実に六年の歳月を要したのである。

王子製紙は昭和三十九年（六四）三月の第三二回全日本氷上選手権大会に優勝すると、同四十一年（六六）の第三四回大会、同四十三年（六八）の第三六回大会、同四十四年（六九）の第三七回大会、同四十八年（七三）の第四一回大会にそれぞれ優勝し、同四十九年度までに四二回中一六回の優勝を遂げたのである。^①

また、昭和二十二年度（四七）以降、同四十九年度までの全道氷上選手権大会においては一九回の優勝を飾り、通算すると四八回中二八回の優勝であった。同四十一年（六六）から始まった日本リーグでは、同四十三年（六八）の第三回、翌四十四年（六九）の第四回、同四十八年（七三）の第八回リーグで優勝を飾っていた。

一方、岩倉組は同二十一年（四六）秋に創部されたが、部員七人のスタートであった。しかし、王子製紙の壁は厚く、なかなか勝てなかった。ようやく一矢を報いたのは同二十九年（五四）一月の第二五回全道氷上選手権大会で3対2の接戦で二十五年にわたり君臨した王子製紙を敗ったのである。

昭和三十年代に入り全道選手権、全国実業団選手権と連覇し、同三十六年（六一）二月には全日本選手権で遂に宿敵王子を破り、悲願の日本一の座を獲得した。同三十八年（六三）九月にはホームリンクの岩倉体育館が完成、同三十九年（六四）一月の第九回インスブルック五輪（Bクラス）には岩倉組主体のナショナルチーム（河渕務監督）として出場、四勝二敗一分で三位となった。まさに岩倉組の黄金時代となったが、その後の成績は次のとおりであった。全道氷上選手権大会では昭和三十四年（五九）から同三十七年（六二）まで四連覇、同四十三年（六八）から同四十四年（六九）の二連覇、



岩倉組アイスホッケーチーム

同四十六年一月と同年十二月の二連覇、同四十八年（七三）の第四十五回大会まで一〇回の優勝を成し遂げていた。また、全日本氷上選手権大会では同三十二年（五七）の第二五回大会で王子製紙と優勝を分けたが、同三十六年（六一）の第二九回大会、同三十八年（六三）の第三一回大会、同四十年（六五）の第三三回大会、同四十二年（六七）の三五回大会にそれぞれ優勝し、日本リーグでは同四十一年（六六）の第一回と同四十二年（六七）の第二回リーグで連続優勝を飾っていた。

しかしながら、岩倉組の多角的企業への進出が裏目に出て、経営不振に陥り同五十五年（八〇）四月一日に不良資産の生産会社になった。このため、その前年である同五十四年（七九）五月九日廃部を発表、同月十五日、雪印乳業に移籍が決定した。短い年月ではあったが、その栄光の歴史に幕を引いたのである。

昭和五十年以降の王子
アイスホッケー部の成績
や西武鉄道等に移籍していった。これにより本道では王子製紙、十條製紙と新生雪印のA級実業団チームがあったが、暫らくは王子製紙には勝てず全道選手権大会では昭和五十一年（七六）一月まで王子の連勝が続いていた。

一方、本州勢では古河電工（日光）、福德相互銀行（大阪）があったが、札幌オリンピックに備えるため実業団氷上選手権大会を発展的に解消して、同四十一年（六六）十一月に日本アイスホッケーリーグが誕生した。この年四月に西武鉄道チーム（東京）が結成され、第一回リーグには王子製紙、岩倉組、古河電工、福德相互銀行、西武鉄道の五チームが参加し、岩倉組の絶頂期であり、翌年のリーグも勝って二連覇した。

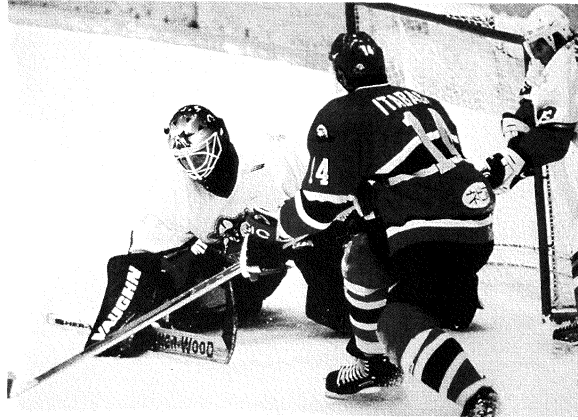
福德相互銀行は企業上の都合により昭和四十七年（七二）三月に解散したが、これに代わって西武の姉妹チームとして国土計画が同四十七年十一月の日本リーグから加わり、王子製紙、岩倉組、古河電工、西武鉄道、国土計画の五

チームとなった。同四十九年（七四）十一月には十條製紙が新たに日本リーグに加わり、王子製紙、岩倉組、古河電工、西武鉄道、国土計画、十條製紙の六チームで争われることになった。同五十四年（七九）五月の岩倉組の解散、雪印への移籍により、同四十七年十一月からの第一四回日本アイスホッケーリーグの参加チームは王子製紙、古河電工、西武鉄道、国土計画、十條製紙、雪印の六チームとなり、王子製紙は一時新王子製紙となったが再び王子製紙に戻り、十條製紙は企業合併により日本製紙クレインズとなり、古河電工は企業不振から廃部となり平成十一年（九九）から日光アイスバックスとして初のクラブチームとして日本リーグに出場している。

この日本アイスホッケーリーグチームの中で最も古い伝統と栄光に輝く王子製紙チームは、すでに前稿で述べた通り、昭和初期から同四十年代までも輝かしい記録を残していた。そして、この記録は現在も引き継がれており、本稿では紙面の関係上、全道選手権、全日本選手権、日本リーグの三大会の成績にしぼって挙げることにする。なお、同四十七年（七二）十一月に日本アイスホッケー連盟、同四十八年（七三）七月に北海道アイスホッケー連盟、同六十二（八七）四月に苦小牧アイスホッケー連盟が発足し、新しく全日本アイスホッケー選手権大会、北海道（全道）アイスホッケー選手権大会として行われることになった。

近年になって企業スポーツの見直しも進められており、本市においてもアイスホッケーでは岩倉組、日軽金の廃部があり、王子製紙野球部の春日井工場への合併による廃部もあり、企業スポーツに波紋をもたらししている。

さて、王子製紙アイスホッケー部の成績であるが、全日本アイスホッケー選手権では同五十一年（七六）の第四四回と同五十二年（七七）の四五回大会での二連覇、同五十五年（八〇）の第四八回大会と同五十六年（八一）の第四九回大会での二連覇があった。この期にはインスブルグ五輪があり、日本もBグループに出場し三勝二敗で三位となり王子から舩川順司監督以下七人、岩倉組から岡島徹コーチ以下五人が出場した。また、この期より外国人選手の入



王子製紙チームのアイスホッケー試合

部があり、王子は同五十年（七五）からスタルシノフ、シャドリ、ペロウソフなど、岩倉組も昭和五十二年からダグ・ジョンソン、ウイリー・デジャーデン、ダル・サターの活躍があった。この期において活躍した選手は京谷佳明、東毅、浦辺秀男、本間貞樹、江刺家清、若狭浩嗣、粒来敬詞、大坪利満（王子）、桜井秀男、伊藤実、外崎一馬、梅内政彦（岩倉組）などであった。

同五十八年（八三）の第五一回大会から同六十一年（八六）第五回大会まで二度目の五連覇、昭和年代（七八）までに二五回目の優勝を飾っていた。この間に世界アイスホッケー選手権大会にも選ばれて出場した選手も多く、当時の各大会での最優秀選手、ベスト6から名を挙げれば、新谷和夫、若狭浩嗣、本間貞樹、東毅、高橋啓二、引木浩、菊池巖弘、矢島敏幸、小館正利、中里正彦、鈴木宣夫、中里修一、平野克典、寺尾清隆、百井修治、ワレリー・ペロウソフの王子選手と元岩倉組で雪印の外崎一馬などの活躍が光った。

平成年間に入るや、まず同元年（八九）一月の第五七回大会で二六回目の優勝を遂げ、同三年（九二）の第五九回大会から同七年（九五）の第六三回大会まで三度目の五連覇を成し遂げ、一発勝負の全日本選手権大会での強さを発揮した。この期での活躍した選手を各大会の最優秀選手、ベスト6から挙げれば、鈴木宣夫、平野克典、高木英克、成田登、百井修治、矢島敏幸、本間康弘、引木浩、杉沢明人、桜井邦彦、山中武司、大沢広利などである。

しかしながら、平成九年（九七）からコクドにその王座を奪われ、三年間優勝がなかったが、同十二年（二〇〇〇）一月に東京で行なわれた第六七回大会に四年ぶりで三三回目の優勝を飾っている。この大会は気迫のV奪回といわれ、無冠返上を成し遂げた。なお、最優秀選手に相澤美輝、新人賞川島誠、ベスト6では相澤美輝（GK）、V・クラムスコイ、磯島明人（DF）、杉沢明人、岩田康範、川平誠（FW）と王子製紙の選手が独占するものであった。²²

全日本アイスホッケー選手権大会で優勝回数は勝率でいうと五割を超えており、三度にわたつての五連覇があり、日本アイスホッケーリーグ開催以降において、全日本大会、全道大会との三冠を達成したのも三回を数えていて、王子製紙のアイスホッケーが日本において如何に強い位置にあるかを物語るもので、他のスポーツではそう見られるものではない。

同十年（九八）二月の長野五輪に日本チームはBグループに出場したが、世界から見るとまだまだレベルは低く、体力的問題、技術的問題など如何にして解決していくか、外国人選手を日本の実業団チームに迎えるばかりではなく、野球やサッカーのように外国プロチームに日本人が参加するなど、内弁慶の時期を脱するのも一つの方法といえよう。五輪予選、世界選手権も行なわれており王子製紙からは山中武司、磯島明人、桜井邦彦、杉沢明人、松浦浩史、岩田康範、城野正樹、舛川浩司、川平誠などが選ばれた。

一方、全道アイスホッケー選手権大会ではさらに優勝回数が多く、コンディション不良で中止もあるが、平成十一年（九九）二月までに七〇回大会を行なってきたており、王子製紙は四〇回の優勝を成し遂げている。ただ、昭和五十五年（八〇）から同六十二年（八十七）までの八年間というものは二度の中止はあるものの、全日本、日本リーグでは優勝しているのに、雪印、十條製紙に二度ずつ敗れていて全く優勝がないという記録も残っている。近年では雪印に連敗しているのである。

日本リーグは前にも記したように札幌オリンピックに備えるため、実業団選手権大会を発展的に解消して昭和四十一年（六六）十一月に開設された。チームはフランチャイズ方式により、各地で試合を行い、当初は各二試合を行なうものであったが、前期・後期に分け、プレーオフ制度の導入など次第に試合数も多くなり、複雑になっている。

王子製紙は当初より参加しており、昭和四十九年度までに三回の優勝があり、同五十年以降は外国人選手二人の参加が認められ、ソ連、カナダ、アメリカなどの国際級選手の入部があった。王子製紙は同五十四年（七九）の第一四回リーグで四回目の優勝をし、同五十六年（八二）の第一六回リーグから同五十九年（八四）の第一九回大会まで四連覇を遂げ、同六十二年（八七）と同六十三年（八八）の第二一回、第二二回大会でも二連覇していた。昭和年代までに一〇回の優勝であり、この頃が王子製紙の一番油の乗り切ったシーズンであったといえる。また、同五十九年以降外国人選手の登録が禁止され、僅かにコーチとして認められることになった。

ところが、平成七年の第三〇回リーグから再度外国選手二人（近年三人）までの出場が十二年ぶりで認められ、王子製紙ではクラムスコム、ドロフエーエフの加入があった。しかし、成績の方はいまひとつで平成元年（八九）の第二四回リーグと同二年（九〇）の第二五回リーグに二連覇、同五年（九三）の第二八回リーグに優勝はしたものの、同六年以降コクド、西武の東京チームに敗れ、六年間も優勝から遠ざかっている。第六七回全日本アイスホッケー選手権大会で見せたような気迫をリーグ戦でも見せて貰いたいものである。

王子製紙アイスホッケー部の優勝一覧表（昭和五十年以降）

大会名	開催年月日	開催地	備考
第47回全道アイスホッケー選手権大会	昭和50・10・3～5	苫小牧市	全道A級大会三年連続、二八度目の優勝
第44回全日本アイスホッケー選手権大会	" 51・1・10～18	札幌市	全日本A級大会三年ぶり一七回目の優勝

苦小牧市史（追補編）

第48回全道アイスホッケー選手権大会	昭和51・10・14～16	釧路市	全道A級大会四連覇、二九回目の優勝
第45回全日本アイスホッケー選手権大会	52・1・8～16	東京都	全日本A級大会二連覇、一八度目の優勝
第49回全道アイスホッケー選手権大会	52・12・23～25	苦小牧市	全道A級大会五連覇、三〇回目の優勝
第50回全道アイスホッケー選手権大会	54・2・8～10	室蘭市	全道A級大会六年連続二回目の優勝
第14回日本アイスホッケーリーグ	54・10・20～12・2	東京、苦小牧、釧路等	日本リーグで六年ぶり四度目の優勝
第51回全道アイスホッケー選手権大会	55・1・18～20	苦小牧市	全道A級大会で七V、三二回目の優勝
第48回全日本アイスホッケー選手権大会	55・3・5～9	東京都	全日本A級大会で三年ぶり一九度目優勝
第49回全日本アイスホッケー選手権大会	56・1・15～18	東京都	全日本A級大会で二連覇、二〇回目の優勝
第16回日本アイスホッケーリーグ	56・10・3～12・20	東京、苦小牧、日光等	日本リーグで二年ぶり五度目の優勝
第17回日本アイスホッケーリーグ	57・10・2～12・19	東京、苦小牧、札幌等	日本リーグで二連覇、六度目のV
第51回全日本アイスホッケー選手権大会	58・1・15～22	東京都	全日本A級大会で二年ぶり、二一回目の優勝
第18回日本アイスホッケーリーグ	58・10・1～12・18	東京、苦小牧、神戸等	日本リーグで三年連続、七回目の優勝
第52回全日本アイスホッケー選手権大会	59・1・19～22	東京都	全日本A級大会で二連覇、二二回目の優勝
第19回日本アイスホッケーリーグ	59・9・29～12・16	東京、苦小牧、八戸等	日本リーグで史上初の四連覇達成、八回目の優勝
第53回全日本アイスホッケー選手権大会	60・1・13～20	東京都	全日本A級大会で三連覇、二三回目の優勝
第21回日本アイスホッケーリーグ	61・9～12・22	東京、苦小牧、札幌等	日本リーグで二年ぶり九回目の優勝
第54回全日本アイスホッケー選手権大会	61・1・14～19	東京都	全日本A級で四連覇、二四回目のV
第55回全日本アイスホッケー選手権大会	61・12～62・1	東京都	全日本A級大会で五連覇、二五回目の優勝
第22回日本アイスホッケーリーグ	62・9・26～12・13	東京、苦小牧、釧路等	日本リーグで二連覇、一〇回目の優勝
第60回全道アイスホッケー選手権大会	63・9・2～4	苦小牧市	中止などにより九年ぶり、全道A級大会で三三度目の優勝
第57回全日本アイスホッケー選手権大会	平成元・1・9～14	東京都	全日本A級大会で二年ぶり二六回目の優勝
第61回全道アイスホッケー選手権大会	元・9・1～3	帯広市	全道A級大会で二年連続三四度目の優勝
第24回日本アイスホッケーリーグ	元・9・30～12・17	東京、苦小牧、日光等	日本リーグで二年ぶり二一回目の優勝
第62回全道アイスホッケー選手権大会	2・8・31～9・2	釧路市	全道A級大会で三連覇、三五回目の優勝
第25回日本アイスホッケーリーグ	2・9・29～12・24	東京、苦小牧、札幌等	日本リーグで二年連続、一二度目の優勝
第63回全道アイスホッケー選手権大会	3・8・30～9・1	苦小牧市	全道A級大会で四年連続、三六回目のV

第59回全日本アイスホッケー選手権大会	平成4・3・3〜8	札幌市	全日本A級大会で二年ぶれ二七度目の優勝
第64回全道アイスホッケー選手権大会	" 4・8・24〜26	帯広市	全道A級大会で五連覇、三七回目の優勝
第60回全日本アイスホッケー選手権大会	" 4・9・27〜10・3	東京都	全日本A級大会で二年連続、二八回目の優勝
第65回全道アイスホッケー選手権大会	" 5・9・9〜11	釧路市	全道A級大会で六年連続、三八度目の優勝
第28回日本アイスホッケーリーグ	" 5・10〜6・2	東京、苫小牧、釧路等	日本リーグで三年ぶり一三回目の優勝
第61回全日本アイスホッケー選手権大会	" 6・3・1〜6	札幌市	全日本A級大会で三連覇、二九回目のV
第66回全道アイスホッケー選手権大会	" 6・9・23〜25	帯広市	全道A級大会で七年連続、三九回目の優勝
第62回全日本アイスホッケー選手権大会	" 7・1・10〜16	東京都	全日本A級大会で四年連続、三〇回目の優勝
第63回全日本アイスホッケー選手権大会	" 8・1・12〜15	札幌市	全日本A級大会で史上初の五連覇、三一回目のV達成
第68回全道アイスホッケー選手権大会	" 9・1・31〜2・2	帯広市	全道A級大会で二年ぶり四〇回目の優勝
第66回全日本アイスホッケー選手権大会	" 12・1・12〜16	東京都	全日本A級大会で四年ぶり三二回目の優勝

〔北海道年鑑〕 各年 北海道新聞社 『苫小牧アイスホッケー連盟10周年記念記録集』 平成九年 苫小牧アイスホッケー連盟より作成

注(1) 『50年の歩み―苫小牧スケート協会創立50周年記念誌』 昭和五十一年 苫小牧スケート協会

(2) 『アイスホッケー』 平成十二年三月号 ベースボール・マガジン社

二、その他のアイスホッケー大会

高等学校のアイ 現在高校のアイスホッケー大会は、全国高等学校スケート競技選手権大会アイスホッケー競技選手権大会、北海道高等学校スケート競技選手権大会（全道高校アスィホッケー選手権大会兼国体予選）、国民体育大会冬季大会スケート競技会高校アイスホッケー、道南高校アイスホッケーリーグ戦、道南高校新人アイス

ホッケーリーグ戦、北海道高校選抜アイスホッケー大会、NHK杯高校アイスホッケー大会等が行なわれているが、本稿では紙面の都合上、全国大会、全道大会の二大会についてのみ挙げ、必要に応じて他大会での成績を付加させることにする。なお、本市高校では苦東、苦工、苦西、苦南、駒大苦高、苦中央高にアイスホッケー部がある。

全国高校氷上選手権大会は昭和二十七年（五二）一月に第一回大会が長野県蓼科湖で熱戦が繰り広げられた。以後昭和四十九年（七四）の第二三回大会までの記録では、同二十七年一月の第一回大会から同二十九年一月の第三回大会まで苦小牧東高（苦小牧高）が三連覇、同三十一年一月の第四回大会から同三十二年一月の第六回大会まで苦小牧工高が三連覇し、苦小牧勢が六年連続優勝を遂げていた。さらに、苦小牧東高は同三十六年一月の第一〇回から同四十年一月の第一四回まで五連覇し、同四十二年一月の第一六回大会と同四十三年一月の第一七回大会でも二連勝し、苦小牧工高の方も同四十五年一月の第一九大会と同四十八年一月の第二二回大会、同四十九年一月の第二三回大会にも勝って三度の優勝を飾っていた。また、同三十九年（六四）四月に開校した駒澤大学付属苦小牧高も苦節八年目にして同四十七年一月の第二一回大会に初優勝をしていた。

したがって、昭和四十九年一月の全国高等学校スケート競技選手権の第二三回大会まで苦小牧東高が一〇回、苦小牧工高が六回、駒大苦小牧高が一回と、苦小牧勢が実に一七回の優勝を飾っていた。他の優勝高校は釧路湖陵高二回、日光高三回、釧路第一高一回で苦小牧以外は僅か六回のみであった。

ところが、昭和五十年以降になると大きな変化があった。苦小牧勢では駒大苦小牧高の圧倒的な強さと、釧路勢の進出であった。

すなわち、第二四回大会から第四九回大会まで二六回にわたる優勝回数で見ると、駒大苦小牧高が断然多く一八回、釧路工高四回、苦小牧工高一回、釧路第一高一回、釧路短大付属高（現釧路緑ヶ岡高）一回、釧路江南高一回であり、

苦小牧勢一九回、釧路勢六回、本州勢では日光高の一回だけであった。

昭和五十年（七五）二月の第二四回大会から同五十二年二月の第二六回大会まで駒大苦小牧高が三連覇したが、特に第二五回と第二六回大会の決勝戦はいずれも釧路第一高で、共に延長戦にもつれ込む5対4、7対6という接戦であった。ただ、全道大会では苦小牧東高、苦小牧工高に敗れていて二冠をとったのは第二六回大会だけであった。

同五十三年（七八）一月の第二七回大会は苦小牧市で行なわれ、実に一六回大会以来七回目の対戦となった苦小牧東高対苦小牧工高が決勝戦で対決したが、8対7という接戦の末、苦工が四年ぶり七回目の優勝をし、全道大会も勝って二冠を達成した。同五十四年（七九）一月の第二八回大会では、日光高が駒大苦小牧高を敗り十年ぶり四度目の優勝を飾った。

同五十五年（八〇）に入ると駒大苦小牧高は絶好調となり、同年の二九回大会から同五十七年（八二）一月の第三一回大会まで二度目の三連覇を達成した。このうち、第二九回と第三一回大会は全道大会とともに二冠であった。また、同五十六年度（八一）には全道、全国、国体、全日本B級（同五十七年も二連覇）でも勝って高校生初の四冠に輝いたのである。

同五十八年（八三）以降苦小牧勢はやや低迷し、釧路勢の台頭が目立った。すなわち、同年の第三二回大会では釧路工高が初勝利、同五十九年（八四）一月の第三三大会では釧路短大付属高が初優勝、同六十年（八五）一月の第三四回大会では釧路工高が二度目の優勝となった。

同六十一年（八六）一月の第三五回大会では駒大苦小牧高と新設校の苦小牧南高が決勝戦で対決したが、大差で駒大苦高が勝って、四年ぶり八回目の優勝を飾った。翌六十二年（八七）一月の第三六回大会では釧路工高と苦小牧東高が決勝戦で対戦したが、釧路工高が2対0で勝ち、四回目の優勝となった。同六十三年（八八）一月の第三七回大

会では駒大苦小牧高と鉦路工高が再度決勝戦で対戦し、3対2で駒大苦高が逆転で、九回目の優勝を遂げた。

平成時代に入ると、駒大苦小牧高の目覚ましい活躍があった。同元年（八九）一月の第三八回大会では苦小牧勢では準決勝で姿を消し、鉦路勢の決戦となり、鉦路工高が二年ぶり四回目の優勝であった。同二年（九〇）一月の第三九回大会から同四年（九二）一月の第四一回大会まで駒大苦小牧高が三度目の三連覇を達成したが、第三九回大会では10対2で、第四〇回大会では8対3といずれも大差で鉦路短大付属高を敗り、この時点で苦小牧東高の通算一〇回の優勝回数を超えて、史上初の一度目の優勝となった。さらに、翌年の第四四回大会では鉦路江南高を4対3の接戦で敗り、一二回目の優勝と記録を伸ばした。

しかしながら、同五年（九三）一月の第四二回大会では先の全道大会に続いて再度鉦路江南高との決勝戦となり、3対2で鉦路江南高が初優勝し、ついに四連覇の夢が消えたのである。

このため駒大苦小牧高は打倒鉦路江南高を目標に極端過ぎるほどの脚力の強化に務め、陸上での走り込みは勿論、氷上でも九割はパックを使わず練習する徹底ぶりであったが、選手もこれを理解して練習に励んだ、これが自信となったと鈴木監督は喜びと共に語った。⁽¹⁾まず、同五年（九三）十二月の全道大会で準決勝で宿敵鉦路江南高を6対2で敗り、決勝では鉦路工高を5対1で敗り優勝、翌六年（九四）一月の第四三回全国大会では決勝で鉦路江南高と対戦し



高校アイスホッケー試合

7対0で完勝して前年の雪辱を果たし、二年ぶり一三回目の優勝であったが、以後駒大苫小牧高の優勝記録は止まらず勝ちを続けている。

すなわち、平成七年（九五）一月の第四四回大会では再度釧路江南を12対4で二連覇、一四回目の優勝、同八年（九六）一月の第四五回大会では四回目の三連覇を成し遂げ、同九年（九七）一月の第四六回大会には世界ジュニアB代表に七人を擁する駒大苫小牧高が、決勝で釧路工高を5対2で敗り初の四連覇、一六回目の優勝を決めた。

同十年（九八）一月の第四七回大会では初めて決勝に進出する埼玉栄高を9対2で敗り五年連続優勝をし、一七回目の勝利を味わった。さらに、同十一年（九九）一月の第四九回大会では決勝で釧路緑ヶ岡高を8対2で下し、ついに苫小牧東高の持つ記録（第一〇回大会〜第一四大会）を破り、史上初の六連覇を達成し、一八回目の優勝を飾った。同十二年（二〇〇〇）一月の第四九回大会では七連覇、一九回目の優勝を飾り、全道大会においても七連覇中で、大記録を打ち立てていて、高校アイスホッケー界の頂点をきわめているのである。

次の全道高等学校アイスホッケー選手権大会兼国体予選会については、昭和四十九年（七四）一月までの記録では、まだ参加校が少なく、日本一になった高校が二冠に輝く例が多かった。二三回大会うち一六回で、内訳でみると苫小牧東高が九回、苫小牧工高が四回、駒大苫小牧高が一回、釧路湖陵高が一回、釧路第一高が一回で苫小牧勢が八七パーセントに相当する一四回の全道制覇を成し遂げていた。⁽²⁾

さて、同五十年（七五）以降の成績についてみると、駒大苫小牧高の圧倒的な強さが続いている。第二七回大会から第五二回大会まで二六大会の優勝回数では、駒大苫小牧高が一六回、釧路工高五回、苫小牧工高が二回、釧路江南高二回、苫小牧東高一回で、苫小牧勢が一九回、釧路勢が七回であった。また、駒大苫小牧高は平成五年（九三）十二月の第四六回以来集に七連勝を続けている。以下、別表の「高校（全国・全道）アイスホッケー大会上位成績一覧

苦小牧市史（追補編）

表」を参照されたい。

高校（全国・全道）アイスホッケー大会上位成績一覧表（昭和五十年以降）

大会名	開催年月日	開催地	順位	備考
第27回全道高校アイスホッケー選手権大会	昭和50・1・9～12	札幌市	①苦小牧東、②釧路第一、③釧路工、④駒大苦小牧	苦東七年ぶり一四回目のV
第24回全国高校アイスホッケー選手権大会	50・2・10～13	富士吉田市	①駒大苦小牧、②苦小牧東、③日光、④苦小牧工	駒澤三年ぶり二度目のV
第28回全道高校アイスホッケー選手権大会	51・1・5～8	苦小牧市	①苦小牧工、②苦小牧東、③釧路工、④駒大苦小牧	苦工六年ぶり八度目のV
第25回全国高校アイスホッケー選手権大会	51・1・17～22	八戸市	①駒大苦小牧、②釧路第一、③苦小牧東、④苦小牧工	駒澤二連覇、二度目のV
第29回全道高校アイスホッケー選手権大会	52・1・19～18	釧路市	①駒大苦小牧、②釧路第一、③道日大、④苦小牧工	駒澤五年ぶり三回目のV
第26回全国高校アイスホッケー選手権大会	52・2・5～8	八戸市	①駒大苦小牧、②釧路第一、③苦小牧東、④八戸商	駒澤三連覇、四度目のV
第30回全道高校アイスホッケー選手権大会	53・1・5～8	札幌市	①苦小牧工、②駒大苦小牧、③釧路工、④釧路第一	苦工二年ぶり九回目のV
第27回全国高校アイスホッケー選手権大会	53・1・14～18	苦小牧市	①苦小牧工、②苦小牧東、③駒大苦小牧、④釧路第一	苦工四年ぶり七回目のV
第31回全道高校アイスホッケー選手権大会	54・1・9～12	帯広市	①釧路工、②駒大苦小牧、③道日大、④苦小牧東	釧工六年ぶり三回目のV
第28回全国高校アイスホッケー選手権大会	54・1・17～20	軽井沢町	①日光、②駒大苦小牧、③苦小牧東、④釧路短大	日光一〇年ぶり四回目のV
第32回全道高校アイスホッケー選手権大会	55・1・7～11	苦小牧市	①駒大苦小牧、②釧路工、③苦小牧東、④苦小牧工	駒澤三年ぶり三度目のV
第29回全国高校アイスホッケー選手権大会	55・1・20～24	釧路市	①駒大苦小牧、②苦小牧工、③釧路工、④苦小牧東	駒澤三年ぶり五回目のV
第33回全道高校アイスホッケー選手権大会	56・1・6～9	釧路市	①駒大苦小牧、②釧路工、③苦小牧南、④苦小牧工	駒澤二連覇、四度目のV
第30回全国高校アイスホッケー選手権大会	56・1・20～24	富士吉田市	①駒大苦小牧、②苦小牧東、③日光、④釧路工	駒澤二年連続六回目のV
第34回全道高校アイスホッケー選手権大会	57・1・8～12	札幌市	①釧路工、②駒大苦小牧、③苦小牧工、④釧路江南	釧工三年ぶり四度目のV
第31回全国高校アイスホッケー選手権大会	57・1・19～23	八戸市	①駒大苦小牧、②釧路工、③苦小牧東、④日光	駒澤三連覇、七度目のV
第35回全道高校アイスホッケー選手権大会	58・1・7～10	釧路市	①駒大苦小牧、②釧路工、③苦小牧東、④苦小牧南	駒澤二年ぶり五回目のV
第32回全国高校アイスホッケー選手権大会	58・1・19～25	盛岡市	①釧路工、②苦小牧東、③駒大苦小牧、④日光	釧路工初V
第36回全道高校アイスホッケー選手権大会	59・1・7～11	苦小牧市	①駒大苦小牧、②苦小牧南、③苦小牧東、④釧路工	駒澤二年連続六回目のV
第33回全国高校アイスホッケー選手権大会	59・1・21～25	札幌市	①釧路短大、②釧路工、③苦小牧東、④日光	釧路短大付属初V
第37回全道高校アイスホッケー選手権大会	60・1・10～13	札幌市	①釧路工、②駒大苦小牧、③苦小牧東、④苦小牧南	釧工三年ぶり五回目のV
第34回全国高校アイスホッケー選手権大会	60・1・20～24	日光市	①釧路工、②苦小牧、③苦小牧東、④苦小牧南	釧工二年ぶり二回目のV
第38回全道高校アイスホッケー選手権大会	61・1・8～12	苦小牧市	①駒大苦小牧、②釧路工、③釧路江南、④釧路短大	駒澤二年ぶり七回目のV
第35回全国高校アイスホッケー選手権大会	61・1・19～23	伊香保町	①駒大苦小牧、②苦小牧南、③苦小牧東、④釧路工	駒澤四年ぶり八度目のV
第39回全道高校アイスホッケー選手権大会	61・12・25～28	釧路市	①釧路工、②釧路短大、③苦小牧東、④釧路江南	釧工二年ぶり六度目のV

第36回全国高校アイスホッケー選手権大会	昭和62・1・18〜22	八戸市	①釧路工、②苫小牧東、③苫小牧南、③日光	釧路二年ぶり三回目目V
第40回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	苫小牧市	①駒大苫小牧、②釧路工、③苫小牧南、③釧路江南	駒澤二年ぶり八回目目V
第37回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	帯広市	①駒大苫小牧、②釧路工、③八戸商、③苫小牧工	駒澤二年ぶり九回目目V
第41回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	札幌市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③釧路短大、③苫小牧南	駒澤二年連続九回目目V
第38回全国高校アイスホッケー選手権大会	平成元・1・16〜20	軽井沢町	①釧路工、②釧路江南、③八戸商、③八戸工大	駒澤二年ぶり四回目目V
第42回全道高校アイスホッケー選手権大会	元・12・21〜24	帯広市	①釧路工、②駒大苫小牧、③白樺学園、③釧路短大	釧路工二年ぶり二回目目V
第39回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	盛岡市	①駒大苫小牧、②釧路短大、③苫小牧工、③日光	駒澤二年ぶり一〇度目のV
第43回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	釧路市	①釧路工、②駒大苫小牧、③苫小牧工、③苫小牧東	釧路工四年ぶり七回目目V
第40回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	富士吉田市	①駒大苫小牧、②釧路短大、③苫小牧東、③釧路工	駒澤二連覇、一度目のV
第44回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	苫小牧市	①駒大苫小牧、②釧路工、③苫小牧工、③釧路江南	駒澤三年ぶり一〇回目目V
第41回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	日光市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③釧路工、③釧路湖陵	駒澤三年連続二度目のV
第45回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	札幌市	①釧路江南、②釧路工、③苫小牧工、③苫小牧東	釧路江南三年ぶり二度目V
第42回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	苫小牧市	①駒大苫小牧、②釧路工、③釧路江南、③苫小牧東	駒澤二年ぶり一度目のV
第43回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	郡山市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③釧路湖陵、③苫小牧東	駒澤二連覇、二回目目V
第47回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	釧路市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③釧路緑ヶ岡、③苫小牧東	駒澤四年連続一四回目目V
第44回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	八戸市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③苫小牧東、③苫小牧南	駒澤二年連続一四回目目V
第48回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	苫小牧市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③苫小牧工、③釧路工	駒澤三年連続三回目目V
第45回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	伊香保町	①駒大苫小牧、②釧路江南、③釧路工、③八戸工大	駒澤三連覇、一度目のV
第49回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	札幌市	①駒大苫小牧、②釧路工、③釧路緑ヶ岡、③白樺学園	駒澤四連覇、一四回目目V
第46回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	釧路市	①駒大苫小牧、②釧路工、③苫小牧工、③白樺学園	駒澤六年連続一六回目目V
第50回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	帯広市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③白樺学園、③釧路緑ヶ岡	駒澤五連覇、一五回目目V
第47回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	郡山市	①駒大苫小牧、②埼玉栄、③白樺学園、③釧路緑ヶ岡	駒澤六連覇、一七回目目V
第51回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	釧路市	①駒大苫小牧、②釧路江南、③釧路緑ヶ岡、③白樺学園	駒澤七連覇、一八回目目V
第48回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	長野市	①駒大苫小牧、②釧路緑ヶ岡、③苫小牧工、③白樺学園	駒澤史上初の七連覇一七V
第52回全道高校アイスホッケー選手権大会	〃	苫小牧市	①駒大苫小牧、②白樺学園、③苫小牧東、③北海	駒澤史上初の七連覇一七V
第49回全国高校アイスホッケー選手権大会	〃	日光市	①駒大苫小牧、②釧路緑ヶ岡、③白樺学園、③埼玉栄	駒澤七年連続一九回目目V

『氷上の闘魂譜―苫高アイスホッケー部50年史』 昭和六十二年 田中 正編著 マルコ出版、『苫小牧 アイスホッケー連盟10周年記念記録集』 平成九年 苫小牧アイスホッケー連盟、『北海道年鑑』 各年 北海道新聞社より作成

中学校のアイス 現在中学校のアイスホッケー大会は、①全国中学校スケート競技会アイスホッケー、②北海道ホッケー大会記録 道中学校スケート競技大会アイスホッケー、③苦小牧中学校アイスホッケー選手権大会兼全道大会予選会兼王子杯争奪アイスホッケー大会、④NHK杯中学校アイスホッケー大会兼日胆中学アイスホッケー大会、⑤日ア連会長杯争奪道南地区中学新人アイスホッケー大会兼苦民杯争奪苦小牧中学校新人アイスホッケー大会、⑥白鳥ライオンズ杯争奪中学校アイスホッケー大会、⑦全日本少年アイスホッケー競技会（中学生の部）等が行なわれているが、本稿では紙面の都合上、全国大会、全道大会、苦小牧大会についてみの挙げ、他の試合は省略することにする。

先ず大会の概要について述べておくと、全国大会に出場するためには二つの難関があり、その一つは苦小牧中学校アイスホッケー選手権大会において上位に入り（過去には二、三、四チームの全道大会出場の場合があった）、全道大会では地元開催を除き、優勝ないし準優勝をしなければ全国大会への出場権はなかった。

これまでの成績をみると、苦小牧大会では和光が八回、苦東六回、弥生五回、明倫四回、啓明四回、光洋二回、啓北一回であった。全道大会では釧路鳥取が一〇回、和光七回、苦東三回、釧路北三回、釧路景雲三回、弥生一回、光洋一回、明倫一回、釧路大楽毛一回で、釧路勢が一七回、苦小牧勢一三回と釧路が断然優位であったが、不思議と高校ではこれが逆転し、苦小牧勢が有利となる結果が出ていた。全国大会では釧路鳥取六回、釧路北五回、和光三回、釧路景雲二回、苦東一回、明倫一回、釧路緑陵一回、日光東一回で、全道大会同様釧路勢が圧倒的に強く、釧路勢一四回、苦小牧勢五回、本州勢一回であった。^③

北海道中学校スケート競技大会アイスホッケー（全道中学アイスホッケー競技会）は昭和四十六年（七一）一月十一日～十二日に帯広市で第一回大会が行なわれたが、道内各ブロックで予選が行なわれた。苦小牧地区では前年（七

○) 十二月に当時行なわれていたNHK杯中学校アイスホッケー大会がその予選大会を兼ねることになり、苦東、弥生、和光、啓北、光洋の五中学がリーグ戦を行なつて、光洋が優勝、苦東が準優勝し、この二チームが全道大会に出場した。釧路地区から鳥取、景雲の二チーム、開催地帯広から帯広三、帯広四、帯広六、御影の四チームが参加したが、釧路同志の決勝戦となり、釧路鳥取が初優勝した。

第二回大会は昭和四十七年(七二)一月八日～九日に千歳市で行なわれ、苦小牧予選では前回同様五チームが参加リーグ戦の結果、一位弥生、二位苦東、三位和光が出場した。釧路勢を寄せ付けず、優勝弥生、準優勝和光、三位苦東と上位を独占した。第三回大会は同四十八年(七三)一月六日～七日に苦小牧市で開催され、苦小牧予選では開成、勇弘が初参加してリーグ戦の結果、光洋、弥生、和光、苦東の四チームが出場し、揃つて準決勝に進み、決勝では和光と弥生が対戦し8対0で和光が初優勝した。第四回大会は同四十九年(七四)一月六日、七日、十六日、十七日の間に苦小牧市で行なわれ、苦小牧予選で弥生、苦東、啓北の上位三チームが参加したが、決勝戦は鳥取と啓北が対戦、6対2で釧路鳥取が二度目の優勝をし、三位は弥生であった。

第五回大会は同五十年(七五)一月十六日～十八日に釧路市で行なわれ、苦小牧予選では凌雲、沼ノ端(勇弘不参加)が加わり、八チームのリーグ戦の結果、一位和光と二位弥生が全道大会に出場し、決勝戦は和光と釧路鳥取の対戦となり、4対3で和光が第三回大会に続いて二度目の優勝を飾った。第六回大会は同五十一年(七六)一月十六日～十八日に帯広市で行なわれ、苦小牧予選の結果、一位苦東と二位光洋が出場し、決勝は苦東と光洋の苦小牧同志の対戦となり、苦東が7対0で大勝して初優勝を遂げた。第七回大会は同五十二年(七七)一月十四日～十六日に苦小牧市で開催され、苦小牧予選により光洋、弥生、和光、苦東の四チームが出場し、この四チームが揃つてベスト四に進出し、決勝戦では光洋と弥生が対戦し、5対4の接戦の末光洋が初優勝を飾った。

第八回大会は昭和五十三年（七八）一月九日～十一日に釧路市で開かれたが、前年十二月に行なわれた苦小牧予選に凌雲が再度加わり九チームとなり、ブロック制をとり、Aブロック（光洋・凌雲・勇弘・東・沼ノ端）、Bブロック（和光・弥生・啓北・開成）の上位二チームの決勝トーナメントで代表を決め、全道大会には優勝和光、準優勝苦東が出場し、全道大会でも決勝戦で対戦し、10対3で和光が三年ぶり三度目の優勝となった。第九回大会は同五十四年（七九）一月十日～十二日に札幌市で行なわれ、苦小牧予選では明倫が初出場し、リーグ戦、決勝トーナメントの結果、苦東と凌雲が出場し、決勝戦では苦東と釧路鳥取との対戦となり、4対1で釧路鳥取が三度目の優勝をした。第十回大会は同五十五年（八〇）一月十一日～十三日に帯広市で行なわれ、苦小牧予選の結果、和光と苦東が全道大会に出場し、決勝戦は前年と同じ苦東と釧路鳥取となり、3対1で釧路鳥取の連続優勝となった。

昭和五十五年度から全国中学アイスホッケー競技大会が開催されることになり、北海道中学校スケート競技大会アイスホッケー競技はその予選を兼ねることになった。第十一回全道大会は同五十六年（八一）一月九日～十一日に苦小牧市で開催され、苦小牧予選の結果、一位和光、二位明倫、三位苦東、四位凌雲が全道大会に出場し、決勝戦は三年連続苦東と釧路鳥取との対戦となり、5対3で苦東が雪辱し、苦小牧地区第三代表の見事な逆転優勝であった。第十二回大会は同五十七年（八二）一月八日～十日に釧路市で行なわれ、苦小牧予選の結果、一位明倫、二位和光が全道大会に出場し、決勝戦は和光と明倫の苦小牧同志の対戦となり、2対1の接戦で和光が四回目の優勝を飾った。

第一三回大会は同五十八年（八三）一月十一日～十三日に札幌市で行なわれ、苦小牧予選では啓明が初出場し、一チームのリーグ戦、決勝トーナメントにより、一位弥生、二位明倫が全道大会に出場し、苦小牧勢は一回戦で敗退し、釧路鳥取の五度目の優勝となった。第一四回大会は同五十九年（八四）一月十三日～十五日に苦小牧市で開催され、苦小牧予選では一位弥生、二位明倫、三位和光、四位啓北が全道大会に出場し、決勝戦は和光と釧路北で行なわ

れ、3対2の接戦の末和光が、二年ぶり五回目の優勝を飾った。第一五回大会は昭和六十年（八五）一月十一日〜十三日まで帯広市で行なわれ、苦小牧予選では一位弥生、二位明倫が全道大会に出場し、決勝戦では釧路北と弥生の対戦となり、8対1で釧路北が初優勝した。

第一六回大会は同六十一年（八六）一月十日〜十二日に釧路市で行なわれ、苦小牧予選では一位苦東、二位弥生の二チームが全道大会に出場し、決勝戦は釧路北と釧路鳥取の釧路対決となり、釧路北が二連覇した。第一七回大会は同六十二年（八七）一月九日〜十一日に札幌市で行なわれ、苦小牧予選の一位苦東、二位明倫が全道大会に出場し、決勝戦は釧路大楽毛と明倫が対戦し、9対2で釧路大楽毛が初優勝した。第一八回大会は同六十三年（八八）一月八日〜十日まで帯広市で行なわれ、苦小牧予選で一位明倫、二位苦東が全道大会に出場し、決勝戦は明倫と苦東の苦小牧勢の対戦となり、10対3で明倫が初優勝を成し遂げた。

平成に入り、苦小牧予選の出場チームは苦東、弥生、和光、啓北、光洋、開成、勇払、沼ノ端、凌雲、明倫、啓明の十一校でここ八年ほど変化はなかった。第一九回大会は同元年（八九）一月六日〜八日まで苦小牧市で開催され、前年十二月の苦小牧予選の結果、一位明倫、二位苦東、三位和光、四位開成が全道大会に出場し、決勝戦は和光と明倫の苦小牧同志が対戦し、9対2で第三代表の和光が五年ぶり六度目の優勝を飾った。第二〇回大会は同二年（九〇）一月五日〜七日に釧路市で行なわれ、苦小牧予選では一位和光、二位光洋、三位明倫が全道大会に出場し、決勝戦では釧路鳥取と釧路北が対戦し、9対5で釧路鳥取の六回目の優勝となった。第二一回大会は同三年（九一）一月十一日〜十三日に苦小牧市で開催され、前年十二月の苦小牧予選の結果、一位明倫、二位和光、三位啓明、四位開成の四校が全道大会に出場し、決勝戦では釧路鳥取と和光が対戦し、9対2で釧路鳥取が二連覇した。第二二回大会は同四年（九二）一月八日〜十日まで帯広市で行なわれ、苦小牧予選の結果、一位啓明、二位明倫、三位苦東が全道大会に

出場し、決勝戦で釧路鳥取と啓明が対戦し、4対1で釧路鳥取が三連覇した。

第二三回大会は平成五年（九三）一月八日～十日まで苦小牧市で開催され、苦小牧予選には新設校の明野中が初参加し、六チームずつの二ブロックにより予選リーグが行なわれ、ブロック一位、二位の四チームにより決勝トーナメントの結果、一位啓明、二位苦東、三位弥生、四位啓北の四チームが全道大会に出場し、決勝戦は釧路鳥取と啓明が対戦し、6対0で釧路鳥取が大会史上初の四年連続優勝を成し遂げた。第二四回大会は同六年（九四）一月七日～九日まで釧路市で行なわれ、苦小牧予選により一位啓明、二位明倫、三位苦東が全道大会に出場し、決勝戦は釧路北と啓明が対戦し、2対1の接戦で釧路北に凱歌が挙がった。第二五回大会は同七年（九五）一月八日～十日まで帯広市で行なわれ、苦小牧予選の結果、一位和光、二位啓北、三位明倫の三校が全道大会に出場し、決勝戦では釧路景雲と和光が対戦し、10対4で釧路景雲が初優勝した。第二六回大会は同八年（九六）一月八日～十日まで帯広市で行なわれ、苦小牧予選の結果、一位苦東、二位明倫、三位啓明が全道大会に出場し、決勝戦は釧路景雲と釧路緑陵が対戦し、10対5で釧路景雲が二連覇した。苦小牧勢は三位、四位にとどまった。

第二七回大会は同九年（九七）一月七日～九日まで苦小牧市で開催され、前年十二月に行なわれた苦小牧予選の結果、一位苦東、二位沼ノ端、三位和光、四位凌雲の四校が全道大会に出場し、決勝戦では苦東と釧路春採が対戦し、6対4で苦東が勝ち、第一九回大会の和光以来実に八年ぶりに苦小牧勢の優勝となった。第二八回大会は同十年（九八）一月七日～九日まで釧路市で行なわれ、苦小牧予選では一位啓北、二位苦東、三位啓明となり全道大会に出場したが、決勝戦では釧路鳥取と釧路景雲が対戦し、2対0で釧路鳥取が五年ぶり一〇回目の優勝を飾った。第二九回大会は同十一年（九九）一月七日～九日まで帯広市で行なわれ、苦小牧予選では新設校の緑陵中が初出場し一三校となり、三ブロックリーグと敗者復活戦を採用し、三ブロックの一位、二位の六チームと敗者復活から二チームの計八チー

ムで決勝トーナメントが行なわれた結果、一位啓明、二位明野、三位和光となり全道大会に出場したが、決勝戦では昨年同様釧路鳥取と釧路景雲が対戦し、7対4で釧路景雲が雪辱した。第三〇回大会は平成十二年（二〇〇〇）一月七日～九日に苦小牧市で開催され、苦小牧予選では一位和光、二位明野、三位沼ノ端、四位光洋となり全道大会に出場し、決勝戦では和光と釧路緑陵が対戦し、5対4の接戦の末、和光が十年ぶり七回目の優勝を飾った。

全国中学校スケート競技大会アイスホッケーは全道大会に遅れること十年後のことで、毎年一月下旬から二月上旬に行なわれているが、北海道からは通例では全道大会での優勝、準優勝チームの二チームが出場していたが、地元開催には四チームが出場する場合もあり、出場チーム数にはばらつきがあった。

第一回大会は昭和五十六年（八一）二月四日～五日に青森県八戸市で行なわれたが、アイスホッケーには北海道から全道大会の優勝、準優勝チームの二チームが出場し、地元青森県四チーム、東京都、宮城県、岩手県などからは選抜チームが出場し、一六チームの争いとなった。決勝では北海道の釧路鳥取と苦東が対戦し、釧路鳥取が勝ち全道大会との二冠を達成した。第二回大会は同五十七年（八二）一月二十九日～三十一日まで札幌市で行なわれ、地元北海道からは全道大会の優勝の和光、準優勝の明倫、三位の釧路北、札幌羊丘の四校が出場し、青森県・栃木県各二校、長野県一校、東京・宮城・愛知の各選抜チームで一二チームの戦いとなり、決勝戦は和光と釧路北の道内決戦であったが、延長戦の末3対2で和光が全道大会との二冠を達成した。第三回大会は同五十八年（八三）二月二日～四日まで長野県軽井沢町で行なわれ、一〇チームが参加して決勝戦は釧路北と釧路鳥取の対戦となり、6対5で釧路北が初優勝した。

第四回大会は同五十九年（八四）二月七日～九日まで群馬県伊香保町で行なわれ、前回同様一〇チームの参加で決勝戦は今回も釧路北と和光の道内決戦となり、5対3で釧路北が二連覇を達成した。第五回大会は同六十年（八五）

一月三十一日～二月三日まで釧路市で開催され、北海道からは全道大会優勝の釧路北、準優勝の弥生、三位明倫と、地元釧路から釧路鳥取の四校が参加、計一二チームで争われたが、決勝戦は全道大会同様釧路北と弥生の対戦となり、9対4で釧路北が三連覇した。第六回大会は昭和六十一年（八六）二月二日～四日まで長野県松本市で行なわれ、北海道は釧路北と釧路鳥取の釧路勢の出場で、一〇チームで争われたが、今回も道内決戦となり釧路北が史上初の四連覇を達成した。



中学アイスホッケー試合

第七回大会は同六十二年（八七）二月四日～六日まで山梨県河口湖で行なわれ、北海道からは明倫と釧路大楽毛の二校が出場したが、決勝戦は日光東と釧路大楽毛の対戦となり、3対2で日光東が優勝し、初めて北海道以外の中学校に優勝旗が渡ったが、明倫はその日光東に準々決勝で敗れた。

第八回大会は同六十三年（八八）二月三日～五日に日光市で開催されたが、北海道代表には苫東、明倫と初めて苫小牧勢が占め、栃木県三、青森県二、長野県・群馬県各一、東京・宮城・岩手・千葉の各選抜一で、一三チームが出場し、決勝戦は明倫と苫東の苫小牧同志の対戦となり、7対3で明倫が初優勝し、全道大会との二冠を達成した。

第九回大会は平成元年（八九）二月三日～六日まで青森県八戸市で行なわれ、北海道からは昨年に引き続いて苫小牧勢の和光と明倫が出場し、青森県から四校で計一二チームで争われ、決勝戦は和光と明倫が対戦し、7対4で和光が七年ぶり二度目の優勝を飾り、全道大会と二冠に輝いた。第

一〇回大会は平成二年（九〇）二月一日～四日まで帯広市で開催され、北海道からは全道大会優勝の釧路鳥取、準優勝の釧路北、苫小牧地区から和光、帯広地区から帯広大空の四チーム、計一三チームで争われ、決勝戦では釧路同志の戦いとなり、9対4で釧路鳥取が勝った。第一一回大会は同三年（九一）二月二日～五日まで岩手県盛岡市で行なわれ、北海道から全道大会優勝の釧路鳥取、準優勝の和光が出場し、一二チームで争われ、決勝戦は釧路鳥取と和光の北海道同様の戦いとなり、6対4で釧路鳥取が勝つて二連覇した。第二回大会は同四年（九二）二月三日～六日まで長野県軽井沢町で開催され、北海道から全道大会優勝の釧路鳥取と準優勝の啓明が出場し、山形県からの出場があつて一三チームで戦われ、決勝戦は釧路鳥取と啓明との北海道同志の対戦となり、8対3で釧路鳥取が三連覇した。第一三回大会は同五年（九三）二月六日～九日に山形県山形市で行なわれ、北海道から全道大会により釧路鳥取と啓明が出場し、決勝戦でも対戦し6対3で釧路鳥取が四連覇を飾り、釧路北の持つ記録と並んだ。

第一四回大会は同六年（九四）二月四日～六日まで青森県八戸市で行なわれ、北海道から釧路北と啓明が出場し、青森県から四校が加わり、一五チームで争われたが、決勝戦では久々に北海道対本州勢となり、5対2で釧路北が八戸二を敗り、北海道勢の一三回目の優勝となった。なお、啓明は準々決勝で八戸二に敗れた。第一五回大会は同七年（九五）二月七日～九日に群馬県伊香保町で開催され、北海道からは全道大会優勝の釧路景雲と準優勝の和光が出場し、一四チームの間で争われ、決勝戦は全道大会同様釧路景雲と和光の間で争われ、7対5で和光が全道大会の雪辱を遂げ、和光が六年ぶり三度目の優勝をさらった。第一六回大会は同八年（九六）二月五日～八日まで福島県郡山市で行なわれ、北海道から全道大会により釧路緑陵、釧路景雲の釧路勢が出場し、長野県二チーム、神奈川選抜も加わり一六チームで争われ、決勝戦では久しぶりに釧路緑陵と宮城選抜の北海道对本州勢となり、9対0で釧路緑陵の初優勝となった。第一七回大会は同九年（九七）二月五日～七日まで栃木県日光市で開催され、北海道からは全道大会

苦小牧市史（追補編）

優勝の苦東と準優勝の沼ノ端が出場し、青森県・栃木県・長野県が各二、山形県・岩手県・宮城県・福島県・千葉県・東京都・神奈川県・群馬県の各一で、計一六チームが出場して争われ、決勝戦は九年ぶりに苦東と沼ノ端の苦小牧勢の対戦となり、8対1で苦東が初優勝し、全道大会との二冠に輝いた。第一八回大会は平成一〇年（九八）二月二日～四日まで帯広市で開かれ、北海道から釧路景雲、釧路鳥取の二校で、前回同様の一六チームで争われ、決勝戦は釧路同志の戦いとなり、5対4で釧路景雲が初優勝した。第一九回大会は同十一年（九九）二月三日～五日まで岩手県盛岡市で開催され、北海道から前年同様の釧路鳥取と釧路景雲が出場し、一六チームにより争われ、決勝戦も前年同様の釧路勢の戦いとなり、6対4で釧路鳥取が雪辱して六回目の優勝を飾った。第二〇回大会は同十二年（二〇〇〇）二月七日～九日まで長野県長野市で開かれ、北海道からは釧路緑陵と和光が出場し、一六チームで争われ、決勝戦は全道大会同様の釧路対苦小牧の対戦となったが、延長戦の末3対2で釧路緑陵が勝ち、和光の全道大会との二冠はならなかった。

全国大会の特徴についてみると、決勝戦に進出した地域性については釧路対苦小牧が九回、釧路同志が五回、苦小牧同志が三回、その他が三回であったし、全道大会との二冠については釧路鳥取が四回、釧路北が三回、和光が二回、苦東が一回、明倫が一回であった。

苦小牧中学校アイスホッケー選手権大会の出場校、全道大会出場一覧

回数	開催年月日	リンク名	数	参加校名	全道大会出場校
第1回	昭和45・12・21～25	ハイランド外	5	苦東、弥生、和光、啓北、光洋	光洋、苦東
第2回	46・12・23～24	岩倉体育館外	5	苦東、弥生、和光、啓北、光洋	弥生、苦東、和光
第3回	47・12・11～15	ハイランド外	7	苦東、弥生、和光啓北、光洋、開成、勇弘	光洋、弥生、和光、苦東
第4回	48・12・10～17	ハイランド外	6	苦東、弥生、和光、啓北、光洋、開成	弥生、苦東、啓北

『苦小牧アイヌホッケー連盟10周年記念記録集』 平成九年 苦小牧アイヌホッケー連盟、『苦小牧民報』 各号 苦小牧民報社より作成

第30回	昭和49・12・9 11・12・7 13	岩倉体育館外	8	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 凌雲 沼ノ端	和光 弥生
第29回	昭和48・11・28 10・12・2 13	ハイランド外	8	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端	和光 光洋
第28回	昭和47・12・18 9・12・3 13	ハイランド外	8	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端	和光 苦東 光洋 弥生
第27回	昭和46・12・18 8・12・5 13	王子セクター外	9	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲	和光 苦東
第26回	昭和45・12・23 7・12・2 13	王子セクター外	10	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	苦東 凌雲
第25回	昭和44・12・18 6・12・7 13	王子セクター外	10	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	和光 苦東
第24回	昭和43・12・19 5・12・10 13	王子セクター外	12	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明 明野	和光 啓北 明倫 啓明 明野
第23回	昭和42・12・20 4・12・11 13	王子セクター外	12	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明 明野	苦東 啓明 明倫 啓明 明野
第22回	昭和41・12・13 3・12・4 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	啓明 明倫 啓北
第21回	平成元・12・16 2・12・7 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	明倫 和光 光洋 開成
第20回	昭和39・12・16 平成元・12・8 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	和光 光洋 明倫
第19回	昭和38・12・17 63・12・7 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	明倫 苦東 和光 開成
第18回	昭和37・12・18 62・12・9 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	明倫 苦東
第17回	昭和36・12・21 61・12・13 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	苦東 明倫
第16回	昭和35・12・22 60・12・13 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	苦東 明倫
第15回	昭和34・12・18 59・12・13 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	弥生 明倫
第14回	昭和33・12・19 58・12・10 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	弥生 明倫 和光 啓北
第13回	昭和32・12・20 57・12・11 13	王子セクター外	11	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	弥生 明倫
第12回	昭和31・12・22 56・12・15 13	王子セクター外	10	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫 啓明	明倫 和光
第11回	昭和30・12・23 55・12・14 13	王子セクター外	10	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	和光 明倫 苦東 凌雲
第10回	昭和29・12・17 54・12・12 13	王子セクター外	10	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	和光 苦東
第9回	昭和28・12・18 53・12・8 13	王子セクター外	10	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	苦東 凌雲
第8回	昭和27・12・19 52・12・10 13	王子セクター外	9	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	和光 苦東 光洋 弥生
第7回	昭和26・12・19 51・12・18 13	王子セクター外	8	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	和光 苦東 光洋 弥生
第6回	昭和25・11・25 50・11・28 13	王子セクター外	8	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	苦東 光洋
第5回	昭和24・12・9 49・12・9 13	王子セクター外	8	苦東 弥生 和光 啓北 光洋 開成 勇弘 沼ノ端 凌雲 明倫	和光 弥生

中学校（全国・全道）アイスホッケー競技会上位成績一覧

大会名	開催年月日	開催地	順位	位（苫小牧予選は出場校名）	備考（苫小牧予選は全道出場校）
第1回全道中学アイスホッケー競技会	昭和46・1・11～12	帯広市	①	① 釧路鳥取 ② 釧路景雲 ③ 苫小牧光洋 ④ 苫小牧東	第1回全道大会は釧路鳥取に苫小牧弥生初V
第2回全道中学アイスホッケー競技会	47・1・11～12	千歳市	①	① 苫小牧弥生 ② 苫小牧和光 ③ 苫小牧東 ④ 帯広第三	苫小牧和光初V
第3回全道中学アイスホッケー競技会	48・1・6～7	苫小牧市	①	① 苫小牧弥生 ② 苫小牧弥生 ③ 苫小牧光洋 ④ 苫小牧東	釧路鳥取三年ぶり二回目のV
第4回全道中学アイスホッケー競技会	49・1・6～17	苫小牧市	①	① 釧路鳥取 ② 苫小牧弥生 ③ 苫小牧弥生 ④ 帯広第三	苫小牧和光二年ぶり二回目のV
第5回全道中学アイスホッケー競技会	50・1・16～18	釧路市	①	① 苫小牧和光 ② 釧路鳥取 ③ 苫小牧弥生 ④ 釧路景雲	苫小牧東初V
第6回全道中学アイスホッケー競技会	51・1・14～16	帯広市	①	① 苫小牧東 ② 苫小牧光洋 ③ 釧路鳥取 ④ 御影	苫小牧和光三年ぶり三度目のV
第7回全道中学アイスホッケー競技会	52・1・14～16	苫小牧市	①	① 苫小牧光洋 ② 苫小牧弥生 ③ 苫小牧和光 ④ 苫小牧東	釧路鳥取五年ぶり三度目のV
第8回全道中学アイスホッケー競技会	53・1・10～11	釧路市	①	① 苫小牧和光 ② 苫小牧東 ③ 釧路鳥取 ④ 帯広大空	釧路鳥取二年ぶり二回目のV
第9回全道中学アイスホッケー競技会	54・1・9～12	札幌市	①	① 釧路鳥取 ② 苫小牧東 ③ 苫小牧和光 ④ 帯広大空	苫小牧和光四年ぶり四度目のV
第10回全道中学アイスホッケー競技会	55・1・11～13	帯広市	①	① 苫小牧和光 ② 苫小牧東 ③ 苫小牧和光 ④ 帯広大空	苫小牧東五年ぶり二回目のV
第11回全道中学アイスホッケー競技会	56・1・9～11	苫小牧市	①	① 苫小牧東 ② 釧路鳥取 ③ 苫小牧明倫 ④ 苫小牧和光	第1回全道大会に釧路鳥取初V
第12回全道中学アイスホッケー競技会	57・1・8～10	八戸市	①	① 釧路鳥取 ② 苫小牧東 ③ 青森長春 ④ 日光中宮祠	苫小牧和光四年ぶり四度目のV
第13回全道中学アイスホッケー競技会	57・1・29～31	札幌市	①	① 苫小牧和光 ② 釧路北 ③ 日光 ④ 苫小牧明倫	苫小牧和光初V、道・国の二冠
第14回全道中学アイスホッケー競技会	58・1・11～13	札幌市	①	① 釧路鳥取 ② 釧路北 ③ 日光 ④ 苫小牧明倫	釧路鳥取三年ぶり五度目のV
第15回全道中学アイスホッケー競技会	58・2・2～4	軽井沢町	①	① 釧路北 ② 釧路鳥取 ③ 日光 ④ 帯広第三	釧路北全道大会初V
第16回全道中学アイスホッケー競技会	59・1・13～15	苫小牧市	①	① 苫小牧和光 ② 釧路北 ③ 日光 ④ 苫小牧弥生	釧路北全道大会二年連続V
第17回全道中学アイスホッケー競技会	59・2・7～9	伊香保町	①	① 釧路北 ② 苫小牧和光 ③ 日光中宮祠 ④ 宮城選抜	釧路北全道大会初V
第18回全道中学アイスホッケー競技会	60・1・11～13	帯広市	①	① 釧路北 ② 苫小牧弥生 ③ 苫小牧明倫 ④ 帯広五	釧路北全道大会二年連続V
第19回全道中学アイスホッケー競技会	60・1・31～3	釧路市	①	① 釧路北 ② 苫小牧弥生 ③ 釧路鳥取 ④ 苫小牧明倫	釧路北全道大会二年連続V
第20回全道中学アイスホッケー競技会	61・1・20～12	札幌市	①	① 釧路北 ② 釧路鳥取 ③ 苫小牧東 ④ 帯広西陵	釧路北全道大会二年連続V
第21回全道中学アイスホッケー競技会	61・2・2～4	松本市	①	① 釧路北 ② 釧路鳥取 ③ 東京選抜 ④ 宮城選抜	釧路北全道大会二年連続V
第22回全道中学アイスホッケー競技会	62・1・9～11	札幌市	①	① 釧路北 ② 苫小牧弥生 ③ 苫小牧明倫 ④ 軽井沢	釧路北全道大会二年連続V
第23回全道中学アイスホッケー競技会	62・2・4～6	富山県市	①	① 日光東 ② 釧路大葉毛 ③ 東京選抜 ④ 軽井沢	釧路北全道大会二年連続V
第24回全道中学アイスホッケー競技会	63・1・8～10	帯広市	①	① 苫小牧明倫 ② 苫小牧東 ③ 釧路鳥取 ④ 帯広大空	苫小牧明倫初V
第25回全道中学アイスホッケー競技会	63・2・3～5	日光市	①	① 苫小牧明倫 ② 苫小牧東 ③ 日光 ④ 日光東	苫小牧明倫初V、全道と二冠

第19回全道中学アイスホッケー競技会	平成元・1・6～8	苫小牧市	①苫小牧和光、②苫小牧明倫、③苫小牧開成、④苫小牧東	苫小牧和光五年ぶり六度目のV
第9回全国中学アイスホッケー競技会	元・2・3～5	八戸市	①苫小牧和光、②苫小牧明倫、③日光東、④八戸二	苫小牧和光七ぶり二V、道二冠
第20回全道中学アイスホッケー競技会	2・1・5～7	釧路市	①釧路鳥取、②釧路北、③苫小牧和光、④釧路大葉毛	釧路鳥取七年ぶり六回目のV
第10回全国中学アイスホッケー競技会	2・2・1～4	帯広市	①釧路鳥取、②釧路北、③帯広大空、④苫小牧和光	釧路鳥取九年ぶり二V、道二冠
第21回全道中学アイスホッケー競技会	3・1・11～13	苫小牧市	①釧路鳥取、②苫小牧和光、③苫小牧光洋、④釧路景雲	釧路鳥取道大会二年連続七V
第11回全国中学アイスホッケー競技会	3・2・2・3～5	盛岡市	①釧路鳥取、②苫小牧和光、③日光、④東京選抜	釧路鳥取道・道大会二連覇
第22回全道中学アイスホッケー競技会	4・1・3～10	帯広市	①釧路鳥取、②苫小牧啓明、③釧路景雲、④釧路大葉毛	釧路鳥取道・道大会二連覇
第12回全国中学アイスホッケー競技会	4・2・3～6	軽井沢町	①釧路鳥取、②苫小牧啓明、③青森長者、④軽井沢	釧路鳥取道・道大会三連覇
第23回全道中学アイスホッケー競技会	5・1・8～10	苫小牧市	①釧路鳥取、②苫小牧啓明、③苫小牧弥生、④釧路春採	釧路鳥取道大会四年連続九V
第13回全国中学アイスホッケー競技会	5・2・6～9	山形市	①釧路鳥取、②苫小牧啓明、③八戸二、④蔵王	釧路鳥取道・道大会四連覇
第24回全道中学アイスホッケー競技会	6・1・7～9	釧路市	①釧路北、②苫小牧啓明、③釧路大葉毛、④釧路景雲	釧路北八年ぶり3V
第14回全国中学アイスホッケー競技会	6・2・4～6	八戸市	①釧路北、②八戸二、③軽井沢、④青森長者	釧路北八年ぶりV、道大会二冠
第25回全道中学アイスホッケー競技会	7・1・8～9	帯広市	①釧路景雲、②苫小牧和光、③釧路鳥取、④苫小牧明倫	釧路景雲初V、
第15回全国中学アイスホッケー競技会	7・2・7～9	伊香保町	①苫小牧和光、②釧路景雲、③八戸二、④日光	苫小牧和光六年ぶり三回目のV
第26回全道中学アイスホッケー競技会	8・1・8～9	帯広市	①釧路景雲、②釧路緑陵、③苫小牧東、④苫小牧明倫	釧路景雲二連覇、道大会6連V
第16回全国中学アイスホッケー競技会	8・2・5～8	郡山市	①釧路緑陵、②宮城選抜、③日光、④千葉選抜	釧路緑陵全国大会初V
第27回全道中学アイスホッケー競技会	9・1・7～9	苫小牧市	①苫小牧東、②苫小牧沼ノ端、③苫小牧凌雲、④釧路北	苫小牧東道大会一六年ぶり三V
第17回全国中学アイスホッケー競技会	9・2・5～7	日光市	①苫小牧東、②苫小牧沼ノ端、③日光東、④日光	苫小牧東全国初V、道大会二冠
第28回全道中学アイスホッケー競技会	10・1・7～9	釧路市	①釧路鳥取、②釧路景雲、③釧路北、④釧路緑陵	釧路鳥取道大会五年ぶり一〇V
第18回全国中学アイスホッケー競技会	10・2・2～5	釧路市	①釧路景雲、②釧路鳥取、③日光中宮祠、④宮城選抜	釧路景雲全国初V
第29回全道中学アイスホッケー競技会	11・1・7～9	帯広市	①釧路鳥取、②釧路鳥取、③苫小牧啓明、④苫小牧明野	釧路景雲道大会二年ぶり3V
第19回全国中学アイスホッケー競技会	11・2・3～5	盛岡市	①釧路鳥取、②釧路鳥取、③軽井沢、④日光	釧路鳥取全国大会六年ぶり6V
第30回全道中学アイスホッケー競技会	12・1・7～9	苫小牧市	①苫小牧和光、②釧路緑陵、③苫小牧光洋、④釧路鳥取	苫小牧和光一〇年ぶり7V
第20回全国中学アイスホッケー競技会	12・2・7～9	長野市	①釧路緑陵、②苫小牧和光、③軽井沢、④長野屋陵	釧路緑陵全国大会四年ぶり二V

〔苫小牧アイスホッケー連盟10周年記念記録集〕 平成九年 苫小牧アイスホッケー連盟 『北海道新聞 縮刷版 各号 北海道新聞社より作成〕

女子アイスホッケー 女子アイスホッケーについては昭和十二年（三七）に王子病院の看護婦や郵便局交換手なとペリグリンの活躍 によりアイスホッケーの真似事が行なわれ、同十六年（四一）の皇紀二六〇〇年の記念奉

祝大会にアトラクシヨクとして試合を行なったとの記録や写真も残っているが、これは本格的なものではなく、単なる遊びに過ぎなかった。

苦小牧スケート協会は創立三〇周年を迎えた昭和五十二年（七七）二月三日に「アイスホッケーデー」を設けて、その記念事業の一つに女子アイスホッケー戦を組み入れ、苦小牧オールスター対国土計画女子（東京）の試合を行なった。苦小牧チームは元女子スピード選手を中心とする俄かチームで、組織的な練習量を誇る国土計画に8対0で大敗した。しかし、これが切っ掛けとなつてやがてクラブチームである苦小牧ペリグリンの誕生となった。

すなわち、同五十二年（七七）三月七日にこの試合の反省会を行なうことになったが、選手の中からもアイスホッケーを続けたいとする声が強く、この反省会が女子アイスホッケークラブチームの発会式も兼ねることになり、ここに「苦小牧ペリグリン」（愛称ペグ、コンドルより強い鳥・隼の意味）が誕生した。

苦小牧ペリグリンは同五十三年（七八）三月四日～六日に帯広市で行なわれた第一回全日本女子アイスホッケー選手権大会（同大会運営委員会主催）に出場したが、帯広太陽、東京伊勢丹に敗れ三位に甘んじることになった。その後は打倒帯広、東京勢を目標に練習を重ね、同五十四年（七九）三月一日～四日に地元苦小牧市で行なわれた同第二回選手権大会で苦小牧ペリグリンは宿敵である帯広太陽、東京国土計画を退け見事初優勝を飾った。第三回大会でペリグリンはシルバーシールズ（東京）に惜敗して三位に甘んじた。第四回大会ではペリグリンが強豪を連破し二度目の優勝を成し遂げた。

一方では、同六十一年（八六）三月に苦小牧駒澤短大女子アイスホッケー同好会「駒澤ペガサス」が結成され、市内二番目の女子チームとなった。同六十二年（八七）四月に三番目の女子チームとして高校では全国初の苦小牧西高校女子アイスホッケー部「苦西高エンジェルス」が誕生した。平成元年（八九）十月に市内四番目の女子チームとし

て「トムボーイ」が結成され、ともに苦小牧アイスホッケー連盟に登録された。実力的にはペリグリンがA級、他はB級である。現在女子アイスホッケー試合は道新杯争奪全道女子アイスホッケー大会(B)、苦小牧民報杯争奪全道女子アイスホッケー大会、苦小牧ハスカップライオンズクラブ杯争奪道南地区女子アイスホッケー大会、全日本女子アイスホッケー選手権大会A・B等が行なわれているが、本稿では紙面上の都合もあり、全日本女子アイスホッケー選手権大会Aを中心に述べることにする。

昭和五十六年度(八一)から女子アイスホッケーチームも日本アイスホッケー連盟に登録することになり、その公認の公式戦となり、新たな形での第一回全日本女子アイスホッケー選手権大会が同五十七年(八二)三月八日～十一日まで、東京の品川スケートセンターで九チームが参加して開かれた。苦小牧ペリグリンは決勝リーグへ進出したが三敗し優勝から脱落、帯広太陽が初代チャンピオンになった。第二回大会は同五十八年(八三)三月三日～五日まで八戸市で行われ、苦小牧ペリグリンは初戦で伊勢丹(東京)に敗れるという波乱があり、帯広太陽が二連覇した。第三回大会は同五十九年(八四)三月五日～七日まで福岡市で開催され、苦小牧ペリグリンは二勝したが決勝リーグ進出は成らず、国土計画が初優勝した。

第四回大会は同六十年(八五)三月一日～三日まで一四チームが参加して釧路市で開催され、苦小牧ペリグリンは決勝戦で宿敵帯広太陽を逆転で破り初優勝を飾った。第五回大会は昭和六十一年(八六)二月二十八日～三月三日まで日光市で行われ、苦小牧ペリグリンは決勝リーグで敗れ、国土計画、帯広太陽に次いで三位となった。第六回大会は同六十二年(八七)二月二十八日～三月三日まで苦小牧市で開催され、国土計画が優勝し、苦小牧ペリグリンは三位であった。

昭和六十二年度から全道女子アイスホッケー選手権大会も開催されることになり、全日本選手権に先駆けて例年二月に行なわれている。第一回全道大会は同六十三年(八八)二月六日～七日に室蘭市で行なわれ、苦小牧ペリグリン

が優勝し、以後平成十一年度（九九）まで一三連勝を続けており、本文では省略するので女子アイスホッケー上位成績一覧表を参照のこと。第七回全日本選手権大会は同六十三年（八八）二月二十九日～三月三日まで軽井沢町で行われ、苦小牧ペリグリンは決勝リーグとともに無敗の国土と対戦し、ペリグリンが逆転勝ちを収め三年ぶり二度目の優勝に輝いた。初出場の苦西高エンジェルズは五位と健闘した。駒澤ベガサス是一回戦で敗退した。

第八回大会は平成元年（八九）三月一日～三日まで神戸市のポートアイランドスポーツセンターで一六チームが参加して行われた。苦小牧ペリグリンは決勝リーグへ進出し二勝したが、国土計画が優勝した。苦西高エンジェルズは決勝リーグ進出は成らなかった。

第九回大会は同二年（九〇）二月十日～十二日まで帯広市で開催、国土計画が二連覇し、ペリグリンは二位であった。第一〇回大会は同三年（九一）二月二十二日～二十四日まで神戸で行われ、苦小牧ペリグリンは決勝で国土を大差で破り三年ぶり三度目の優勝を果たした。

苦小牧ペリグリンは平成二年六月に岩倉建設の資金援助を受けることになり、同三年（九一）九月十四日に登録を行い「岩倉ペリグリン」と改称した。メーブル（カエデ）の中にペリグリン（はやぶさ）のマークの入った新ユニホームでリンクに登場することになった。

第二一回大会は同四年（九二）一月三十日～二月二日まで札幌の真駒内アイスアリーナで行われた。岩倉ペリグリンは、決勝で宿敵国土を下し、岩倉ペリグリンが二年連続四度目の優勝を飾った。第二二回大会は同五年



女子アイスホッケー試合

三月十八日～二十一日まで八戸市で開かれ、コクドレディースが優勝、岩倉ペリグリンは二位にとどまった。第一三回大会は平成六年（九四）二月二十六日～二十八日まで軽井沢町で開催され、岩倉ペリグリンが優勝し、本大会での連勝記録が始まった。第一四回大会は同七年（九五）三月二日～四日まで軽井沢町で行われ、決勝で岩倉ペリグリンがコクドレディースを下し二年連続の栄冠に輝いた。第一五回大会は同八年（九六）二月二十三日～二十五日まで札幌市月寒体育館で行われ、岩倉ペリグリンは決勝でスポーツシテムファイターズ（札幌）を退け、史上初の三連覇を果たし七度目の栄冠に輝いた。

第一六回大会は同九年（九七）三月十二日～十六日まで苫小牧市の白鳥アリーナで国内女子トップ八チームの強豪が参加して行われた。五輪プレシーズンのこの年から、より均衡した実力同士のチームが戦うことで、それぞれの実力を高めるため実力別のA、B級に分けた。地元で四連覇を目指す岩倉ペリグリンは、決勝戦で釧路六花亭ベアーズと対戦し4対3で釧路を下し、四年連続八度目の優勝を果たし女王の座を飾った。最優秀選手に最年少の中学生の久保英恵（岩倉）が選ばれた。第一七回大会は同十年（九八）三月十四日～十五日まで帯広市で開催され、岩倉ペリグリンが五連覇した。

第一八回大会は同十一年（九九）三月、釧路市の丹頂アリーナで行われ、岩倉ペリグリンが釧路六花亭ベアーズを下して六年連続優勝を飾った。大会最優秀選手に岩倉FWの久保英恵（岩倉）が輝いた。第一九回大会は同十二年（二〇〇〇）三月八日～十二日に苫小牧市の白鳥アリーナで開催され、六花亭ベアーズ釧路と岩倉ペリグリンの争いとなり、優勝決定戦では3対3の引き分けとなり、両者とも二勝一分となったが、得失点の差で六花亭ベアーズが初優勝し、岩倉ペリグリンの七連覇を阻んだ。

日本アイスホッケー連盟主催の全日本女子アイスホッケー選手権大会は、優勝回数では岩倉ペリグリン（苫小牧ベ

苦小牧市史（追補編）

リグリン）一〇回、コクドレディースが六回、帯広太陽二回、六花亭ベアーズ一回であり、連勝記録は岩倉ペリグリンの六連覇であった。

第一八回長野冬季五輪大会は平成十年（九八）二月に開催され、女子アイスホッケーも正式種目として初めて登場した。日本チームも参加したが、岩倉ペリグリンから板橋亨監督をはじめ、小田由香、佐藤理絵、畠中亜希子、佐久間千絵、帯川牧子、小野聡美、荒城三晴、五十嵐充子、佐藤雅子、藤原志保の一〇選手が選ばれた。しかし、世界の壁は厚く日本は五戦全敗で白星をあげることが出来なかった。この中で初ゴールを決めた畠中の活躍が光った。

女子（全国・全道）アイスホッケー選手権大会上位成績一覧表

大会名	開催年月日	開催地	順位	位	備考
◎全日本女子アイスホッケー選手権大会運営委員会主催					
第1回全日本女子アイスホッケー選手権大会	昭和53・3・4～6	帯広市	①帯広太陽、②伊勢丹、③苦小牧ペリグリン	帯広太陽第一回大会優勝	
第2回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 54・3・1～4	苦小牧市	①苦小牧ペリグリン、②国土計画、③シルバースールス	苦小牧ペリグリン初V	
第3回全日本女子アイスホッケー選手権大会	55・3・10～13	苦小牧市	①シルバースールス、②帯広太陽、③苦小牧ペリグリン	シルバースールス初V	
第4回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 56・3・4～7	苦小牧市	①苦小牧ペリグリン、②帯広太陽、③小山遊園地	苦ペリグリン二度目のV	
◎日本アイスホッケー連盟主催（女子チームも日本アイスホッケー連盟に登録し、第一回大会となる）					
第1回全日本女子アイスホッケー選手権大会	昭和57・3・8～11	東京都	①帯広太陽、②シルバースールス、③釧路ベアーズ	新大会で帯広太陽V	
第2回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 58・3・3～5	八戸市	①帯広太陽、②シルバースールス、③釧路ベアーズ	帯広太陽二連覇	
第3回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 59・3・5～7	福岡市	①国土計画、②釧路ベアーズ、③帯広太陽	国土計画初V	
第4回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 60・3・1～3	釧路市	①苦小牧ペリグリン、②国土計画、③釧路ベアーズ	苦ペリグリン初V	
第5回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 61・2・28～3	日光市	①国土計画、②帯広太陽、③苦小牧ペリグリン	国土計画全日本で二度目V	
第6回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 62・2・28～3	苦小牧市	①国土計画、②苦小牧ペリグリン、③伊勢丹	国土計画二連覇、三回目V	
第1回全道女子アイスホッケー選手権大会	" 63・2・6～7	室蘭市	①苦小牧ペリグリン、②帯広太陽、③苦西高エンジェルズ	苦ペリ初V全道連勝始まる	
第7回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 63・2・29～3	軽井沢町	①苦小牧ペリグリン、②国土計画、③帯広太陽	苦ペリ全日本三年ぶり二V	
第2回全道女子アイスホッケー選手権大会	平成元・2・8～11	釧路市	①苦小牧ペリグリン、②帯広太陽、③苦西高エンジェルズ	苦ペリグリン二連覇	
第8回全日本女子アイスホッケー選手権大会	" 元・3・1～4	神戸市	①国土計画、②苦小牧ペリグリン、③帯広太陽	国土二年ぶり四回目のV	

第3回全道女子アイスホッケー選手権大会	平成2・1・19	旭川市	①苦小牧ペリグリン、②釧路ペアーズ、③帯広太陽	苦ペリグリン三連覇
第9回全日本女子アイスホッケー選手権大会	2・2・10	帯広市	①国土計画、②苦小牧ペリグリン、③帯広太陽	国土二連覇五回目のV
第4回全道女子アイスホッケー選手権大会	3・1・25	帯広市	①苦小牧ペリグリン、②釧路ペアーズ、③帯広太陽	苦ペリグリン四連覇
第10回全日本女子アイスホッケー選手権大会	3・12・22	神戸市	①苦小牧ペリグリン、②国土計画、③帯広太陽	苦ペリ全日本三年ぶり三V
第5回全道女子アイスホッケー選手権大会	3・12・12	苦小牧市	①岩倉ペリグリン、②帯広太陽、③釧路ペアーズ	岩倉ペリグリンと改称五V
第11回全日本女子アイスホッケー選手権大会	4・1・30	札幌市	①岩倉ペリグリン、②国土計画、③帯広太陽	岩倉全日本二連覇四回目V
第6回全道女子アイスホッケー選手権大会	5・1・15	帯広市外	①岩倉ペリグリン、②帯広太陽、③フアニーダックス	岩倉全道六連覇六V
第12回全日本女子アイスホッケー選手権大会	5・3・18	八戸市	①コクドレディース、②岩倉ペリグリン、③帯広太陽	コクド三年ぶり六度目のV
第7回全道女子アイスホッケー選手権大会	5・12・2	札幌市	①岩倉ペリグリン、②フアニーダックス、③帯広太陽	岩倉の二大会の連勝始まる
第13回全日本女子アイスホッケー選手権大会	6・2・26	長野市	①岩倉ペリグリン、②コクド、③六花亭ペアーズ	岩倉全日本の連勝始まる
第8回全道女子アイスホッケー選手権大会	6・12・25	釧路市	①岩倉ペリグリン、②スポーツシステム、③六花亭ペア	岩倉全道八連覇八V
第14回全日本女子アイスホッケー選手権大会	7・3・2	軽井沢町	①岩倉ペリグリン、②コクド、③六花亭ペアーズ	岩倉全日本二連覇六V
第9回全道女子アイスホッケー選手権大会	8・1・11	帯広市	①岩倉ペリグリン、②六花亭ペアーズ、③スポーツシス	岩倉全道九連覇九V
第15回全日本女子アイスホッケー選手権大会	8・2・23	札幌市	①岩倉ペリグリン、②スポーツシステム、③六花亭ペア	岩倉全日本三連覇七V
第16回全道女子アイスホッケー選手権大会	9・1・17	苦小牧市	①岩倉ペリグリン、②六花亭ペアーズ、③スポーツシス	岩倉全道一〇連覇一〇V
第17回全日本女子アイスホッケー選手権大会	9・3・12	札幌市	①岩倉ペリグリン、②六花亭ペアーズ、③コクドレディ	岩倉全日本四連覇八V
第18回全道女子アイスホッケー選手権大会	10・3・14	帯広市	①岩倉ペリグリン、②六花亭ペアーズ、③スポーツシス	岩倉全道一一連覇一一V
第19回全日本女子アイスホッケー選手権大会	10・12・25	釧路市	①岩倉ペリグリン、②六花亭ペアーズ、③コクドレディ	岩倉全日本五連覇九V
第10回全道女子アイスホッケー選手権大会	11・2・24	釧路市	①岩倉ペリグリン、②六花亭ペアーズ、③スポーツシス	岩倉全道一二連覇一二V
第13回全道女子アイスホッケー選手権大会	12・1・7	旭川市	①岩倉ペリグリン、②六花亭ペアーズ、③コクドレディ	岩倉全日本六連覇一〇V
第19回全日本女子アイスホッケー選手権大会	12・3・8	苦小牧市	①六花亭ペアーズ、②岩倉ペリグリン、③コクドレディ	岩倉全道一三連覇一三V

『北海道新聞縮刷版』昭和五十二年〜平成十一年 北海道新聞社、『苦小牧アイスホッケー連盟10周年記録集』平成八年
 苦小牧アイスホッケー連盟、『新聞切抜綴—スポーツ③』平成元年〜同十二年 苦小牧市史編集事務局編より作成

その他のアイス 苦小牧市はスケートのまちとして古くから知られており、特にアイスホッケー競技については
 ホッケー大会 野球やサッカーのように市民に親しまれ、幼稚園、学校、大学、企業、工場、職場、職域団体、

同好会、クラブ、〇Ｂ会など様々な形でチームが存在し、平成八年度（九六）の活動団体数一〇五、選手二、三三〇人、役員一二五人を数え、愛好家、支援者、応援団、観覧者なども入れると、本市のアイスホッケー人口も相当数に達するものである。

そこで、これまでに記述しなかった苦小牧アイスホッケー連盟公認の大会、競技会について簡単に挙げておくことにする。



小学生アイスホッケー試合

小学生の大会では苦小牧市教育委員会杯・王子杯争奪小学校アイスホッケー選手権大会と道新杯ちびっこアイスホッケー大会（平成十年より道新杯小学生アイスホッケー大会と改称）が共に昭和四十六年度（一九七二）から始まり、平成十一年度（九九）で第三〇回大会を数えている。出場校は当初は苦小牧の小学校一〇校だけであったが、現在は鷗川から一校が加わり一九校であるが、児童の少ない植苗、近年は勇払も欠場している。同三〇回大会出場校は明野、北星、苦東、沼ノ端、苦西、北光、美園、糸井、澄川、日新、明徳、豊川、緑、錦岡、泉野、清水、大成、若草と鷗川であった。近年の優勝校をみると、市教委杯・王子杯小学校アイスホッケー選手権大会では美園小（S 62）、大成小（S 63）、緑小（H 元）、若草小（H 2）、澄川小（H 3）、緑小（H 4）、緑小（H 5）、若草小（H 6）、北光小（H 7）、泉野小（H 8）、緑小（H 9）、美園小（H 10）、澄川小（H 11）明野小（H 12）であり、道新杯アイスホッケー大会では緑小（S 62）、大成小

(S 63)、緑小(H元)、豊川小(H2)、澄川小(H3)、緑小(H4)、緑小(H5)、緑小(H6)、北光小(H7)、泉野小(H8)、緑小(H9)、緑小(H10)、美園小(H11)、明野小(H12)であった。⁽⁵⁾昭和四十七年度(七二)から始まった苦小牧市内小学校新人アイスホッケー大会兼日ア連会長杯争奪道南地区小学生新人アイスホッケー大会は平成十一年度で第二九回大会である。二年遅れで日ア連会長杯道南地区が兼ねられ、現在は苦小牧の小学校の外に札幌、恵庭、室蘭、鶴川等から七チームが参加し、二四・二七チームで争われている。

全道小学生アイスホッケー選手権大会は同五十六年(八二)一月に第一回大会を行なっており、小学校の同好会や小学生の少年団・クラブの形で出場しており、苦小牧、釧路、帯広、札幌、恵庭、旭川等から参加しているが、第一回大会から苦西小同好会が二連覇する活躍であったが、その後釧路、帯広、札幌、清水にも優勝があり、優勝回数では苦小牧と釧路が各八回、清水二回、札幌と帯広が各一回である。⁽⁶⁾ただ、苦小牧勢の優勝は平成五年までであり、その後は全く低迷しており、たまに三位、四位に入る程度で将来の苦小牧のアイスホッケーに対し多少の不安材料になっている。

全道小学生アイスホッケー(少年)選手権大会上位成績一覧

回数	開催月日	開催地	上位成績
第1回	S 56・1・16 S 18	札幌市	①苦小牧西、②苦小牧北星、③苦小牧日新、④釧路鳥取西
第2回	S 57・1・15 S 17	札幌市	①苦小牧西、②釧路寿、③苦小牧澄川、④月寒ストロンガー
第3回	S 58・1・14 S 16	苦小牧市	①釧路寿、②釧路駒場、③苦小牧東、④苦小牧美園
第4回	S 59・1・14 S 16	札幌市	①釧路鳥取、②苦小牧西、③苦小牧東、④釧路旭
第5回	S 60・1・14 S 16	札幌市	①苦小牧豊川、②釧路寿、③真駒内イーグル、④釧路新陽
第6回	S 61・1・10 S 12	札幌市	①苦小牧豊川、②釧路鶴野、③釧路愛国、④釧路鳥取西
第7回	S 62・1・12 S 14	札幌市	①帯広大空、②苦小牧緑、③釧路美原、④釧路駒場

苦小牧市史（追補編）

第8回	S 63・1・10 12	札幌市	①苦小牧清水、②帯広大空、③苦小牧大成、④釧路大葉毛
第9回	H 元・1・10 12	札幌市	①釧路愛国、②札幌真駒内イーグル、③苦小牧緑、④釧路新陽
第10回	H 2・1・8 10	札幌市	①釧路昭和、②帯広大空、③帯広開西、④釧路興津
第11回	H 3・1・8 10	帯広市	①苦小牧澄川、②帯広大空、③釧路新川、④苦小牧緑
第12回	H 4・1・8 10	札幌市	①苦小牧緑、②釧路新川、③札幌月寒ストロンガー、④真駒内イーグル
第13回	H 5・1・8 10	札幌市	①苦小牧緑、②札幌真駒内イーグル、③釧路愛国、④苦小牧大成
第14回	H 6・1・8 10	苦小牧市	①釧路旭、②釧路芦野、③帯広西、④釧路美原
第15回	H 7・1・8 10	札幌市	①札幌月寒ストロンガー、②釧路昭和、③釧路共栄、④苦小牧北光
第16回	H 8・1・8 10	札幌市	①釧路新川、②札幌月寒ストロンガー、③釧路昭和、④苦小牧澄川
第17回	H 9・1・9 11	帯広市	①釧路昭和、②星置ケッターズジュニア、③釧路共栄、④苦小牧明野
第18回	H 10・1・8 10	札幌市	①清水ジュニアクラブ、②釧路鳥取、③苦小牧緑、④苦小牧澄川
第19回	H 11・1・7 9	札幌市	①清水ジュニアクラブ、②釧路昭和、③札幌ノースウフル、④苦小牧明野
第20回	H 12・1・7 9	釧路市	①釧路駒場、②釧路鳥取、③苦小牧明野、④釧路新陽

（『新聞切抜綴—アイスホッケー①・②』昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編）

その他に全日本少年アイスホッケー競技会（小学生の部）、日専連杯 Pee Wee アイスホッケー大会、HTB杯全国選抜少年アイスホッケー大会等がある。

一般のアイスホッケーチームでは、平成八年度市内における苦小牧アイスホッケー連盟への登録状況では、A級1チーム、B級3チーム、C級一六チーム、D級四〇チームであったが、近年ではB級五チーム、C級一六チーム、D級四九チームとやや増加しており、リーグ戦やトーナメント大会による公式戦が毎年行なわれ、非公式の試合も数多く行なわれていて、五カ所の室内スケート場（白鳥アリーナ、王子スケートセンター、ハイランドスケートセンター、ときわスケートセンター、沼ノ端スケートセンター）〔平成十二年三月二十日オープン〕がフル活用されている。

平成九年三月末現在の市内の一般アイスホッケーチーム

A級 一チーム

王子製紙

B級 五チーム

食道園キングス、日本製紙勇払、新日鉄室蘭、苫小牧市役所、苫小牧高専

C級 一六チーム

大忠クラブ、苫小牧埠頭、日本通運、苫小牧清掃社、NTT苫小牧、ウサミ産業F、木場興業カナックス、ブライダルハウス、苫小牧消防署、ミッキーマウス、出光ゼアス、シスコムキングス、苫小牧ベアーズ、王子工営、フォックスバット、コープダック

D級 四二チーム

スカイ、トヨタ部品共販、日産サービスセンター、大統領、ホテルニュー王子、ビートルファミリー、まるべに、レッドブル、ピース、北海道石油共同備蓄、スパイダーズ、苫小牧卸売、菱中建設、スーパーチャックス、ウイングス、スパークス、苫小牧ガス、トンボイント、白老クラブ、ベアーズ、バル、マシンスターズ、マーシイチップス、ダイナマイターズ、HSK、日専連苫小牧、苫小牧共同発電、消防署、五右衛門倶楽部、ホワイトイーグル、国長金属、丸彦渡辺建設、新酸素化学、ステルス、カナデアンス、出光クラブ、苫小牧信用金庫、スラッシュモリ、千葉海産ウエスト、日軽ラウンズ、苫小牧デンチャーズ、苫小牧高専教職員

女性チーム 四チーム

岩倉ペリグリン、トムボーイ、駒澤ベガサス、苫小牧西高

〔平成八年度苫小牧アイスホッケー連盟大会成績表〕 平成九年 苫小牧アイスホッケー連盟より作成

注(1) 『苫小牧民報』 平成六年一月二十二日号 苫小牧民報社

- (2) 『氷上の闘魂譜―苦小牧東高アイスホッケー部50年史』 昭和六十二年 田中 正編著 マルコ出版
- (3) 『苦小牧民報』 各号 苦小牧民報社、『苦小牧アイスホッケー連盟10周年記念記録集』 平成九年 苦小牧アイスホッケー連盟
- (4) 『苦小牧アイスホッケー連盟10周年記念記録集』 平成九年 苦小牧アイスホッケー連盟
- (5)(6) 『新聞切抜綴―アイスホッケー①・②・③』 昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

第五節 スピードスケート

一、活躍した実業団・高校選手

全日本スピードス 全日本スピードスケート選手権大会の歴史は古く昭和五年（一九三〇）一月、八戸の長根リンクで開かれた。これは第一回国民体育大会冬季大会スケート競技会兼第一五回全日本選手権大会でもあった。五、四六）は大会が中断されたが、戦後の復活大会は同二十二年（四七）一月、第一回大会同様八戸市の長根リンクで開かれ、これは第一回国民体育大会冬季大会スケート競技会兼第一五回全日本選手権大会でもあった。

以来、各地において大会が続けられ、数々の名選手を輩出してきた大会であった。同五十年（七五）二月の第四三回選手権大会は八戸市長根リンクで行われた。当時、活躍した地元苦小牧関係の選手には村上由紀子（王子）、鈴木隆夫（王子）らがいた。また、同五十年代に名をはせた選手には、大山三喜雄（王子）、山本雅彦（同）、八重樫（太田）裕子（同）、篠原雅人（同）らの活躍が際立っていた。

一方、高校選手には郷中正子（苦西高）、山本恵子（苦小牧中央高）、橋本聖子（駒大苦小牧高）、佐藤千栄子（同）、房野抄子（同）、関ナツエ（同）、帰山由美（同）、大月利恵（苦南高）らが全日本選手権で高校生離れの記録をマークした。

昭和六十年代（八五）には橋本聖子（富士急・駒大苦高出）、浅尾恵子（三協・同）、関ナツエ（三協・同）ら女子の台頭が著しく、短距離をはじめ中・長距離においても大会記録を更新していった。男子では篠原雅人（王子）、南光彦（同）らの活躍が目立ち国際的選手に成長していった。同六十二年（八七）八月から苦小牧スケート協会は苦小牧スケート連盟（フィギュア部門を含む）となりアイスホッケー連盟と分離した。

同六十年代及び平成年代（八九）における全日本選手権大会で活躍した主な男子選手には前述のほか、王子製紙の渡辺俊之、宮部保範、堀井学、上田浩勝、武田豊樹らがおり、一方、女子選手には駒大苦小牧高出身の山本宏美、小笠原みき、山本真弓、帰山由美、虎口貴子らが全日本選手権大会での上位入賞を果たし、日本代表選手として冬季オリンピック、ワールドカップ、世界スプリント選手権などの国際舞台で活躍した。¹⁾

近年における冬季 第一二回冬季オリンピック大会は昭和五十一年（七六）二月、インスブルック（オーストリア）オリンピック大会 ア）で行われ、男子の鈴木正樹、大山三喜雄、山本雅彦（王子製紙）と女子の太田裕子（駒大苦小牧高）、長谷川恵子（同高出）が出場したが、いずれも世界の壁は厚く、鈴木五〇〇メートル一位が最高の成績であった。

第一三回冬季五輪大会は同五十五年（八〇）二月、レークプラシッド（アメリカ）で行われ、日本代表として山本雅彦（王子製紙）と八重樫裕子（同）が出場したとともに成績は振るわなかった。第一四回大会は同五十九年（八四）二月、サラエボ（ユーゴスラビア）で行われ、篠原雅人（王子製紙）、鈴木靖（駒大苦小牧高出）と女子の橋本聖子

（駒大苦小牧高出）、房野抄子（同）の四人が出場、橋本の女子五〇〇メートル一位が最高の記録であった。第一五回大会は昭和六十三年（八八）二月、カルガリー（カナダ）で行われ、森山秀実（苦東高出）、橋本聖子（駒大苦小牧高出）、房野抄子（同）、関ナツエ（同）、戸田則子（苦小牧中央高出）の五人が出場した。橋本は五〇〇、一、〇〇〇、五、〇〇〇メートルでいずれも五位に入賞、一、五〇〇メートルでも六位に入るなど四種目入賞を果たした。

第一六回冬季五輪大会は平成四年（九二）二月、アルベールビル（フランス）で行われ、日本代表の宮部保範（王子製紙）、小笠原みき（同）橋本聖子（駒大苦小牧高出）、帰山由美（同）、戸田則子（苦小牧中央高出）らが出場した。橋本は女子一、五〇〇メートルで日本初の三位となり銅メダルに輝いた。また、一、〇〇〇メートルでも五位に入賞するなど健闘した。宮部は男子五〇〇メートルで五位となった。第一七回大会は同六年（九四）、リレハンメル（ノルウェー）で行われ、日本代表で宮部保範（新王子製紙）と堀井学の男子、女子の小笠原みき（新王子製紙）、山本宏美（同）、山本真弓（同）、橋本聖子（駒大苦小牧高出）、楠瀬志保（同）、田畑真紀（同）、椿文子（同）の過去最高の八人が出場した。堀井は男子五〇〇メートルで見事三位の銅メダルに輝いた。山本宏美は女子五、〇〇〇メートルで日本新をマーク、初出場ながら銅メダルを獲得し表彰台に立った。橋本も女子三、〇〇〇メートルで六位と入賞を果たした。椿はショートトラックで五〇〇、一、五〇〇メートルともに準々決勝で惜しくも敗退した。第一八回長野冬季オリンピック大会は、平

長野冬季五輪スピード競技を報ずる新聞

成十年（九八）二月七日から日本では二十六年ぶりに長野市で世界七二カ国が参加して開催された。郷土苫小牧からはスピードスケート、アイスホッケー、ショートトラックの三種目に日本代表として二五人の選手が参加した。スピード競技には男子の堀井学（王子製紙）、山影博明（同）、野崎貴裕（同）、女子の楠瀬志保（駒大苫小牧高出）、香川真由美（同）、ショートトラックに椿文子（同）らが出場した。男子五〇〇メートルでメダル期待の堀井は一三位、山影は一五位となったが、同僚の清水宏保が堂々の金メダルに輝いた。また、女子五〇〇メートル出場の楠瀬は一二位、一、五〇〇メートルは一一位と上位入賞が果たせなかった。^②

スピードスケートの 世界スピード選手権大会を「ワールドカップ大会」と改称し、平成二年（九〇）十二月からワールドカップ大会 世界各国を転戦して行われた。ヘレンベーン（オランダ）大会で宮部保範（王子製紙）は五〇〇メートルで二位となり、続く松本大会でも国内最高リンク新で二位となった。しかし、軽井沢大会では順位を落とし三位に止まった。

ワールドカップダボス（スイス）大会は同四年（九二）一月から三月にかけて行われた。大会出場の宮部（王子製紙）は一、〇〇〇メートルで優勝を飾り、総合で二位をキープした。三月のサバレン（ノルウェー）大会で宮部は二位となった。同五年（九三）三月のインツェル（ドイツ）大会とヘレンベーン（オランダ）大会で宮部は五〇〇メートル総合順位は四位に終わった。

同年十二月のハーマル（ノルウェー）大会五〇〇メートル出場の宮部は六位に終わった。同六年（九四）一月のウエストアリス（アメリカ）大会に宮部保範、堀井学、山本真弓（王子製紙）、楠瀬志保（駒大苫小牧高出）、橋本聖子（同）らが出場した。宮部は男子五〇〇メートルで優勝、今季初勝利を挙げた。堀井は二位、山本は五位に入賞好成績を収めた。インスブルック（オーストリア）大会で山本宏美（新王子製紙）が五位に入った。小笠原みき（同）は

一二位に終わった。平成六年（九四）三月のインツェル（ドイツ）大会で、宮部は男子五〇〇メートルで二連勝、山本宏美（同）は三、〇〇〇メートルで五位、一、〇〇〇メートルで楠瀬が五位、橋本は六位に入賞した。ヘレンバーン大会では堀井が五〇〇メートルで優勝、総合で宮部が五位となった。女子の山本真弓（王子製紙）楠瀬らも健闘したが上位入賞は成らなかった。

同六年（九四）十一月のベルリン大会女子三、〇〇〇メートルで山本宏美の六位が最高、小笠原は振るわなかった。同年十二月の帯広大会で男子五〇〇メートルで堀井がリンク新で優勝、一、〇〇〇メートルでは世界記録保持者の宮部が制した。女子の楠瀬、梶、山本（真）らの活躍も目立った。

帯広大会第二戦男子一〇〇〇メートルで宮部が三位に入賞したほか堀井、女子の楠瀬、山本（真）らもよく善戦した。同七年（九五）一月のダボス（スイス）大会で楠瀬が総合でトップに立った。男子の宮部、堀井も上位に食い込んだ。続くカルガリー（カナダ）大会では堀井が五〇〇メートルで自己ベストで優勝、宮部も一、〇〇〇メートルで今季二勝目を挙げた。女子の楠瀬、梶は実力を出し切れなかった。

同七年（九五）十二月のヘレンバーン（オランダ）大会男子五〇〇メートルで堀井が二連勝を飾り、宮部も今季三戦を制した。女子の楠瀬もよく健闘した。同八年（九六）一月のメデオ（カザフスタン）大会男子五〇〇メートルで堀井と宮部が男子五〇〇メートルで同タイムの優勝を分けた。また宮部は一、〇〇〇メートルも制し今季初勝利を挙げた。二月のインスブルック（オーストリア）大会男子五〇〇メートルで堀井がリンク新で優勝、日本男子は全四レースで優勝を独占する圧倒的な強さを見せた。同年二月のローズビル（アメリカ）大会出場の堀井も宮部ともに三位以内の入賞を果たせなかった。また、女子の楠瀬も上位進出が成らなかった。同八年（九六）三月のカルガリー（カナダ）大会男子五〇〇メートルで堀井が世界新、日本新の35秒67をマーク、さらに一、〇〇〇メートルでも世界

新、日本新の1分11秒67を出して優勝、五〇〇メートル総合で堀井が制覇、宮部は三位となった。

平成八年（九六）十二月のチョンジュ（韓国）大会男子五〇〇メートルで堀井がリンク新で優勝を飾り、W杯通算勝利を16とした。同月の伊香保大会は一七カ国から七九選手が参加して行われた。男子五〇〇メートルで堀井が国内最高記録でW杯通算17勝目を挙げた。同九年（九七）一月のカルガリー（カナダ）大会では堀井、宮部ともに振るわなかった。ミルウォーキー（アメリカ）大会男子一、〇〇〇メートルで堀井がリンク新で連勝、五〇〇メートルは二位となった。二月に行われたインスブルック（オーストリア）大会男子五〇〇、一、〇〇〇メートルで堀井も宮部も上位入賞は果たせなかった。女子の楠瀬も五位以内に入れなかった。堀井はワールドカップ総合成績五〇〇メートルで二位、一、〇〇〇メートルは高得点で優勝を飾った。

同十年（九八）一月のバゼルガディビ（イタリア）大会出場の堀井は波に乗れず屈辱的な成績に沈んだ。同年十二月の春川（韓国）大会男子五〇〇メートル出場の堀井は記録が伸びず八位止まりであった。同十一年（九九）一月のコラルボ（イタリア）大会男子代表の野崎貴裕（王子製紙）、女子は田畑真紀（駒大苫小牧高出）、香川真由美（同）、妹尾榮里子（王子製紙）、長岡弥生（苫小牧臨検センター）らが出場した。女子三、〇〇〇メートル出場の田畑が八位で最高、ほかの選手は二ケタ台の成績で実力を十分に出し切れなかった。^③

注（1）（2）（3）『連盟設立一〇周年記念誌』平成九年 苫小牧スケート連盟設立一〇周年記念事業実行委員会、『北海道年鑑』各

年版 北海道新聞社、『新聞切抜綴—スポーツ③』平成元年〜同十二年 苫小牧市史編集事務局編

二、高校スピードスケート

全国高校スケート この大会が開催されたのは新制の高校が設置されて暫らくしてからで、昭和二十七年（一九五二）一月に長野県蓼科湖で第一回全国高校スケート競技選手権大会が開かれた。

そして、同四十九年（七四）一月の第二三回大会で長谷川恵子の活躍と二、〇〇〇メートルリレーにも勝った駒大苦高女子は学校別対抗で初優勝した。同五十年（七五）二月には第二四回大会を迎え、山梨県富士吉田市の富士急ハイランドで開催された。男子では東出俊一（苦工高）、女子のでは榑中正子（苦西高）、小林明子（駒大苦高）、船橋咲恵（同）らが活躍したが、駒大苦高女子は振るわず四位に甘んじた。

第二五回大会は同五十一年（七六）一月八戸で行われ、女子一、〇〇〇メートルで船橋咲恵（駒大苦高）が優勝、三、〇〇〇メートルで吉田葉子（同）が勝ち、学校別で二年ぶり二回目の優勝を遂げた。第二六回大会は同五十二年（七七）一月、群馬県伊香保町で行われ、女子三、〇〇〇メートルで早坂悦子（駒大苦高）が大会新で優勝した。また女子二、〇〇〇メートルリレーで駒大苦高（早坂、船橋、脇田、森）が大会新、日本高校新で優勝を飾った。第二七回大会は同五十三年（七八）一月、盛岡市で行われた。女子五〇〇メートルで石井和恵（駒大苦高）、一、〇〇〇メートルは脇田貴美子（同）が制し、男子二、〇〇〇メートルリレーでも勝利し、学校対抗で駒大苦高女子が一位となり、以後八連覇となった。

第二八回大会は同五十四年（七九）一月、長野県軽井沢町で行われ、女子一、〇〇〇メートルで大会新をマークして脇田貴美子が優勝、同三、〇〇〇メートルでは高校新を出した早坂悦子が活躍して二連覇を達成した。また、二、〇〇〇メートルリレーで駒大苦高男子が大会新、同女子が日本新を出してアベック優勝を飾った。第二九回大会は同

五十五年（八〇）一月に釧路市で行われ、女子の五〇〇、一、五〇〇メートルで石井和恵が優勝を飾り、リレーも勝つて、学校対抗の女子は駒大苫高が三年連続五度目の全国一に輝いた。

第三〇回大会は昭和五十六年（八一）一月、山梨県富士吉田市の富士急ハイランドで行われ、女子五〇〇メートルで日向寺三佳（駒大苫高）が大会新で優勝、女子一、〇〇〇メートルで橋本聖子（同）が大会新で、また三、〇〇〇メートルでも橋本が二冠に輝いた。女子二、〇〇〇メートルリレーで駒大苫高（平、日向寺、佐藤、長崎）は日本新で優勝を飾った。第三一回大会は同五十七年（八二）一月、八戸市長根リンクで行われ、男子一、〇〇〇、五、〇〇〇メートルで樽本覚（駒大苫高）が優勝、女子五〇〇メートルで平智聡（同）、三、〇〇〇メートルで佐藤千栄子（同）、一、五〇〇メートルで橋本聖子（同）がそれぞれ優勝を果たした。また、女子二、〇〇〇メートルリレーで駒大苫高（房野、田中、佐藤、平）は大会新、高校新をマークして優勝を飾った。

第三二回大会は同五十八年（八三）一月、岩手県盛岡市県営リンクで行われ、女子五〇〇、一、〇〇〇メートルで房野抄子（駒大苫高）、一、五〇〇メートルで関ナツエ（同）、三、〇〇〇メートルで伏見克代（同）が優勝、二、〇〇〇メートルリレーでも駒大苫高が勝つて、六連覇を達成した。第三三回大会は同五十九年（九四）一月に釧路市で行われ、女子五〇〇メートルで田中明美（駒大苫高）、一、五〇〇メートルで関ナツエ（同）、三、〇〇〇メートルで浅尾恵子（同）が優勝を飾った。また二、〇〇〇メートルリレーで駒大苫高が無敵の四連覇を遂げた。

第三四回大会は同六十年（八五）一月、日光市で行われ、帰山由美（駒大苫高）が一、〇〇〇メートルで、関ナツエ（同）が一、五〇〇メートルで大会新を出して優勝した。また、二、〇〇〇メートルリレーで駒苫高女子が学校対抗で八連覇を達成した。第三五回大会は同六十一年（八六）一月、群馬県伊香保町で行われ、帰山由美（駒大苫高）は一、五〇〇、三、〇〇〇メートルの二種目を制したが、学校対抗では九連覇はならなかった。第三六回大会は同六

十二年（八七）一月、八戸市長根リンクで行われたが、常勝の苦小牧勢に優勝者のない大会に終わった。第三七回大会は昭和六十三年（八八）一月帯広市で行われ、女子五〇〇、一〇〇〇メートルで大月利恵（苦南高）が二冠王となった。女子二、〇〇〇メートルリレーで駒大苦高が高校新で優勝した。

第三八回大会は平成元年（八九）一月に軽井沢町で行われ、女子三、〇〇〇メートルで山本宏美（駒大苦高）が優勝したが、女王の座にあつたりリレーで駒大苦高は惨敗したものの、学校別対抗では四年ぶり一一回目の優勝を飾った。第三九回大会は同二年（九〇）一月に盛岡市で行われた。女子一、五〇〇、三、〇〇〇メートルで鉄田貴子（駒大苦高）が二冠に輝いた。また、女子リレーで駒大苦高が優勝、前年の雪辱を果たし学校別対抗で二年連続一二度目の優勝を飾った。第四〇回大会は同三年（九一）一月、富士吉田市で行われた。駒大苦高は善戦したが結果を出すことは出来なかった。第四一回大会は同四年（九二）一月に日光市で行われ、男子の大槻嘉（苦南高）が五〇〇メートルで優勝、女子の五〇〇メートルで大竹口綾（駒大苦高）が優勝した。また、女子リレーでは駒大苦高が日本高校新をマークして優勝の栄冠に輝いた。

第四二回大会は同五年（九三）一月十九日から二十三日まで、苦小牧市では三十九年ぶりの開催となった。大会には三三都道府県から二七八校、一、二八一人が参加した。女子五〇〇、一、五〇〇メートルで香川真由美（駒大苦高）が二冠を達成し、女子リレーでも駒大苦高（原田、大竹口、植松、香川）がリンク新で制し、女子学校対抗は駒大苦高が二年連続一四度目の優勝を飾った。第四三回大会は同六年（九四）一月に福島県郡山市で行われ、駒大苦高女子の大竹口が五〇〇メートルで優勝、原田季世子が二位となった。一、五〇〇メートルでは虎口貴子が優勝、沢田こずえが二位となった。^①

第四四回大会は同七年（九五）一月に八戸市で行われ、苦小牧勢の優勝はなかったが、全体的な活躍により学校別

対抗では駒大苦高が一五回目の優勝を飾った。第四五回大会は平成八年（九六）一月に群馬県伊香保町で行われたが、苦小牧勢の活躍はなかった。第四六回大会は同九年（九七）一月に釧路市で行われ、女子リレーで駒大苦高が久しぶりの優勝を果たした。第四七回大会は同十年（九八）一月に福島県郡山市で行われたが、女子五〇〇メートルで石黒真弓（駒大苦高）が二位に入賞したのが最高であった。第四八回大会は同十一年（九九）一月に長野市で行われ、苦小牧勢はかつての黄金時代にかげりが見え、帯広、釧路圏や本州勢に上位を独占されてしまった。今後の奮起を期待したい。

全道高校スケート 全道高校スケート競技選手権大会は全国大会より三年早い、昭和二十四年（四九）一月八日競技選手権大会に苦小牧市の王子製紙リンクで行なわれたのがその初まりであった。

全国大会で活躍した選手は、当然ながら本大会でも活躍しており、本稿ではその活躍した選手のみを挙げることにする。同五十年代（七五）前半の高校スピードスケート界の精鋭には、駒大苦高の中村裕信、脇田貴美子、吉田葉子、佐藤千栄子、日向寺三佳らを挙げることが出来る。同後半では駒大苦高の竹原信男、樽本覚、橋本聖子、石井和恵、早坂悦子、平智聡、伏見克代、関ナツエ、房野抄子、田中明美、浅尾恵子、山口優瑞、苦小牧中央高の戸田則子、山本恵子、道日大の山本達也、今井弘、椿央、南道彦らが選手権大会で競り合って記録に挑戦していた。

同六十年代（八五）における全道大会で際立った成績を収めた選手には、苦南高の大月利恵、駒大苦高の山本真弓、佐藤敏恵、楠瀬志保、椿文子、鉄田貴子、山本宏美、佐藤浩子、門田千代、塚原倫朗らがいた。

平成年代（八九）に入ってからには駒大苦高の佐藤慶一、長岡弥生、田畑真紀、大竹口綾、野中亜希子、小林加苗恵、三戸伸崇と苦南高の沢口一樹などの活躍があった。

注（１）（２） 『北海道年鑑』 各年版 北海道新聞社、『新聞切抜綴—スポーツ①②③』 昭和五十年～平成十二年 苫小牧市史編集事務局編

三、中学スピードスケート

全国中学校ス 第一回全国中学校スケート競技大会は昭和五十六年（一九八一）二月に八戸市長根リンクで行
ケート競技大会 われた。田中明美（啓北）、関ナツエ（明倫）の活躍があつたが、優勝には届かなかった。第三
回大会は同五十八年（八三）二月に長野県軽井沢町で行われ、女子三、〇〇〇メートルで帰山由美（啓北）が大会新
をマークして優勝、諸橋緑（同）も二位になり女子総合でも啓北中が初優勝を飾った。

第五回大会は同六十年（八五）一月、釧路市柳町リンクで行われ、大月利恵（啓明）が女子五〇〇メートルで優勝、
一、〇〇〇メートルでは三位となった。第七回大会は同六十二年（八六）二月、山梨県富士吉田市の富士急ハイラン
ドで行われ、女子一、〇〇〇メートルで山本真弓（和光）が大会新で優勝し、女子学校別対抗でも和光中が初優勝に
輝いた。第八回大会は同六十三年（八八）二月に栃木県日光市で行われ、長岡弥生（和光）が女子三、〇〇〇メート
ルで優勝し、女子学校別対抗でも和光中が二連覇を成し遂げた。第九回大会は平成元年（八九）二月に八戸市の長根
リンクで行われ、長岡（和光）は女子一、五〇〇メートルで優勝、三、〇〇〇メートルは二位、曾我（同）は五〇〇
メートルで二位の成績を収め、女子学校別対抗で堂々の三年連続優勝を飾ったのである。しかしながら、その後の大
会では苫小牧勢は不振に終わっている。

第一九回大会は同十一年（九九）二月に盛岡市の県営リンクで行われたが、女子一、五〇〇、三、〇〇〇メートル

で小野寺未夏（啓北）が二冠に輝いたものの、学校別対抗女子で啓北中は二位にとどまり、他の選手の記録は不調に終わった。^①

全道中学校ス 全道中学校スケート競技大会の第一回大会は、昭和四十六年（七二）一月六日から苫小牧市のケート競技大会 ハイランドスポーツセンターで行われた全道中学放送スピード選手権大会がその初まりであった。苫小牧勢では女子の中道悦子（勇弘）が五〇〇、一〇〇〇、一、五〇〇メートルの三種目制覇を遂げた。また男子の加藤秀樹（和光）が一、五〇〇メートルで二位の成績を収めた。第二回大会は同四十七年（七二）一月に千歳市営リンクで行われ、男子五〇〇メートルで岡村利行（和光）が優勝、斉藤（同）が三位となった。

第四回大会は同四十九年（七四）一月に苫小牧市ハイランドスポーツセンターで行われ、女子の船橋咲恵（和光）は一、〇〇〇、一、五〇〇メートルの二冠に輝いた。脇田貴美子（啓北）は一、五〇〇メートルで二位となった。

第七回大会は同五十二年（七七）一月、白老町ボロト湖で行われ、女子の佐藤三重子（啓北）が一、〇〇〇、一、五〇〇メートルの二種目を制覇、石井和恵（同）は一、〇〇〇メートルで二位となった。同五十三年（七八）一月の第八回大会は釧路市の柳町リンクで行われ、山木恵子（和光）が女子一、〇〇〇メートルで優勝を飾った。第九回大会は同五十四年（七九）一月、札幌市真駒内リンクで行われ、女子の山木恵子（和光）が一、〇〇〇メートルで二連覇を達成した。

第一三回大会は同五十八年（八三）一月、札幌市の真駒内リンクで行われた。女子の帰山由美（啓北）は三、〇〇〇メートルで優勝、山田法子（凌雲）が一五〇〇メートルの栄冠に輝いた。第一四回大会は同五十九年（八四）一月、苫小牧市のハイランドスケートセンターで行われ、女子一、〇〇〇メートルで大月利恵（啓北）が優勝したにとどまった。第一五回大会は同六十年（八五）一月、帯広市緑ヶ丘リンクで行われ、男子五、〇〇〇メートルで久保大輔（明

倫）が優勝、女子の大月利恵（啓明）は五〇〇メートルで優勝した。第一六回大会は同六十一年（八六）一月、釧路市柳町リンクで行われ、女子三、〇〇〇メートルで谷美和（和光）が強敵の山本宏美（白老）を抑え優勝を飾った。第一七回大会は昭和六十二年（八七）一月、札幌市真駒内リンクで行われ、男女ともそれなりの活躍があり、女子リレーで和光中が栄冠に輝いた。

第一八回大会は同六十三年（八八）一月八日から帯広で行われ女子三、〇〇〇メートルで長岡弥生（和光）が堂々の優勝を飾った。第二〇回大会は平成二年（九〇）一月、釧路市柳町リンクで行われ、記録は低調に終わった。その後も苦小牧中学勢は低迷を続け、二、三の選手が上位入賞するだけであった。

平成七年（九五）一月の第二五回大会は札幌市真駒内リンクで行われ、女子では石黒真弓（明野）が五〇〇メートルで、男子では半崎泰生（明野）が三、〇〇〇メートルで苦小牧勢としては久々の優勝を飾った。

第二八回大会は同十年（九八）一月、釧路市柳町リンクで行われ、女子の小野寺未夏（啓北）が一、五〇〇メートルで優勝したが、翌十一年（九九）の第二九回大会では振るわなかった。^②

注（一）（二）『連盟創立10周年記念誌―協会創立72周年』平成九年 苦小牧スケート連盟、『北海道年鑑』各年版 北海道新聞社、

『新聞切抜綴―スポーツ①②③』昭和五十年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

第六節 野 球

一、社 会 人 野 球

王子製紙硬式 王子製紙苫小牧工場硬式野球部（根岸幸男監督）は昭和二十五年（一九五〇）五月に当時道内で野球部の発足 最強を誇っていた同軟式野球部を母体に結成し、日本社会人野球協会北海道連盟に登録した。

当時の王子球場（現グランドホテル・ニュー王子）は軟式球場のため非常に不備なものであった。同二十六年（五一）に市内旭町（現末広町・総合体育館）の王子製紙社有地に市営球場が建設されて、軟式から硬式への本格的な猛練習が始まった。

初の公式戦は同二十五年（五〇）六月の第二回北海道社会人野球結成大会が札幌市の中島球場で一七チームが参加して行われたが、トラックに幌をかけ砂利道のガタガタ道路に揺られ埃まみれの出陣であった。公式戦初出場の王子製紙苫小牧工場は古豪の三菱美唄、土屋建設を破り、準決勝で強豪・小樽協会と対戦苦杯し、三・四位戦でも函館太洋に敗れ、初陣は四位の成績であった。このときの試合経験が原点となつて王子製紙苫小牧は社会人野球界の強豪にまで成長していった。

創部五十年余を経た王子製紙苫小牧工場野球部は都市対抗出場一〇回、社会人野球日本選手権出場一〇回の戦跡を飾り、特に同六十二年（八七）の第五八回都市対抗本大会ではベスト8に残る活躍があった。^①

都市対抗野球 昭和二十六年（五一）から毎回出場の王子製紙苦小牧工場野球部は、同三十四年（五九）の第三大会への出場 ○回都市対抗野球兼日本選手権北海道地方大会（一六チーム参加）に出場、円山球場での決勝で王子製紙は羽幌炭礦を13対8で破り初優勝しチーム結成後、苦節十年目にして宿願の夏の後樂園進出を果たした。その後も都市対抗野球道大会で優勝し、同四十年代（六五）までに四回、憧れの後樂園へ出場し健闘した。

しかし、同五十年（七五）には国内のインフレ、不況のあおりで野球部は対外試合の自粛を決め当面、出場を見合わせたこともあったが、同五十六年（八一）七月、第五二回都市対抗野球で王子製紙苦小牧工場（平田衛一監督）は十五年の長いトンネルを見事掻い潜り、全勝で四度目の道第一代表となった。

王子製紙苦小牧工場は本大会一回戦で三菱重工長崎と対戦、好機に決定打を欠いた王子は3対6で一回戦突破は成らなかった。なお、王子の樋口博美投手が第五回インターコンチネンタルカップ野球大会の全日本メンバーに選ばれた。⁽²⁾

同五十八年（八三）七月、第五四回大会に北海道第二代表の王子製紙苦小牧工場は、二年ぶり通算五度目の後樂園出場となった。第一戦で新日鉄名古屋の打線につかまり、最終回に3点本塁打を許し6対7の逆転サヨナラ負けを喫した。第五六回大会は同六十年（八五）七月に行われ、北海道第二代表の王子製紙苦小牧工場は、初戦でNTT東京と対戦し、八回に満塁本塁打を浴びた王子がNTTに突き放され、悲願の一勝は成らなかった。

第五八回大会は同六十二年（八七）七月、王子製紙苦小牧工場（樋口博美監督）は一回戦で川崎市の三菱自動車川崎と対戦し1点を争う大接戦となったが最終回、四時間の熱戦の末、王子の猛攻で七回目の後樂園出場で悲願の一回戦突破を果たし、応援席は大歓声のルツボと化した。⁽³⁾ 準々決勝ではNTT東海に惜しくも敗れた。

第六七回大会は平成八年（九六）八月、東京ドームで行われた。新王子製紙苦小牧工場（石井馨監督）は九年ぶり

八度目の道代表権を獲得、本戦に出場した。新王子は一回戦で浜松市のヤマハと対戦したがヤマハに大量点を許し1対8で初戦で敗退した。

第六八回大会は同九年（九七）七月、東京ドームで行われた。王子製紙苦小牧工場は大阪市・日本生命と対戦し、優勝候補の日生を相手に粘りの挑戦野球で奮闘したが終盤、力尽き初戦突破は成らなかった。

第七〇回大会は同十一年（九九）七月、東京ドームで行われ、道第一代表の王子製紙苦小牧工場は神奈川の第二代表川崎市の優勝実績四回の東芝と対戦し、3対5で及ばず敗れた。同年八月に王子製紙苦小牧硬式野球部の石井馨監督が勇退、新監督に大西豊勝が就任した。道内五強といわれた王子は同七年（九五）以降、都市対抗で三回、日本選手権では五年連続の代表権を獲得するなど道内の強豪として君臨している。

社会人野球日 第九回日本社会人野球選手権大会は昭和五十七年（八二）十月に大阪球場で行われ、本道代表初本選手権大会 出場の王子製紙苦小牧工場は四国代表の大倉工業と対戦し、二番手投手の大西豊勝が大倉打線を抑え、外野手の阿部一行の決勝3ランで打ち勝ち初戦を突破した。二回戦で王子製紙は近畿代表の新日鉄堺と対戦、王子のエース樋口が2ホームーを浴びるなどして敗れベスト8進出は成らなかった。

第一〇回日本選手権は同五十八年（八三）十月に大阪球場で行われ、本道代表として二年連続二度目の出場を果たした王子製紙苦小牧（平田衛一監督）は初日の第一試合で電電四国と対戦し、王子は大西、樋口的好継投で電電を破り初戦を制した。二回戦で王子はベスト8進出をかけて地元近畿の松下電器と対戦した。接戦の好試合となったが王子は最終回に逆転サヨナラ負けを喫し、前年に続き二回戦の壁を破ることができなかった。

第一三回日本選手権は同六十一年（八六）十月大阪球場で行われ、本道代表の王子製紙苦小牧工場（樋口博美監督）は一回戦で兵庫代表の新日鉄広畑と対戦し、2対2の同点で迎えた九回に広畑の二塁打で2点を奪われ王子が突き放



王子製紙苦小牧工場野球部

された。

第二二回日本選手権は平成七年（九五）十月にグリーンスタジアム神戸で行われた。本道代表として八年ぶり五度目の出場を果たした新王子製紙苦小牧工場は一回戦で新日鉄名古屋と対戦し、先制直後に逆転を喫し追加点を奪われて反撃を阻まれ2対5で敗れた。

第二三回日本選手権は同八年（九六）十月にグリーンスタジアム神戸で行われ、二年連続六度目出場の王子製紙苦小牧工場は一回戦で北陸銀行と対戦し接戦の末、王子が5対6の1点差で惜敗して第一〇回大会以来一三年ぶりの初戦突破は成らなかった。

第二四回日本選手権は同九年（九七）十月大阪シティドームで行われ、本道代表で三年連続出場の王子製紙苦小牧工場は開幕一回戦で日本生命と対戦し2対7で王子が敗れて念願の初戦突破を果たせなかった。

第二五回日本選手権は同十年（九八）十月に大阪シティドームで行われ、王子製紙苦小牧工場は四年連続八度目の道代表として出場、一回戦で四国代表のNTT四国と対戦し延長一二回の大熱戦の末、勝ち越しを許した王子は裏の攻撃で追い上げられずまたもや初戦勝利の壁に阻まれた。

第二六回日本選手権は同十一年（九九）十月に大阪ドームで行われた。道代表の王子製紙苦小牧工場は一回戦で日産自動車と対戦、一時は先行する展開となったが打線の反撃及ばず4対7で敗れた。⁽⁴⁾

道内では輝かしい伝統を持つ王子製紙苦小牧工場野球部ではあったが、会社そのものが企業合併により巨大化し、

苦小牧工場、春日井工場、米子工場にそれぞれ野球部があった。しかし、厳しい経済情勢の中で収益への影響もあり、企業におけるスポーツ活動が問われることになった。これは同社経営会議でも論議され、すでに平成十年（九八）九月に米子工場野球部の廃止を決め、苦小牧工場についてもアイスホッケー部、スピートスケート部を残し、野球部は春日井工場に統合する方針を打ち出した。平成十一年（九九）十二月二十一日に梶田工場長代理（野球部長）は翌十二年（二〇〇〇）八月を以て苦小牧工場野球部を休部する旨発表した。⁵⁾スポーツ都市苦小牧にとっては大きな打撃ではあったが、道内社会人チームはすでに変革期を迎えており、同十一年末現在で企業チームは僅か六であり、クラブチームが一三となっていることからこれを物語るものであり、もはや時代の流れなのかもしれない。

注(1) 『四〇年の歩み』 平成三年 王子製紙㈱苦小牧工場硬式野球部

(2) 『北海道年鑑―昭和57年度』 昭和五十八年 北海道新聞社

(3)(4) 『新聞切抜綴―スポーツ①・②・③』 昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

(5) 『苦小牧民報』 平成十一年十二月二十二日号 苦小牧民報社

二、高校野球

全国高校野球選 苦小牧の高校勢の全国高校野球選手権大会に出場したのは、苦小牧工業高が春の選抜大会には手権大会の出場 昭和三十一年（一九五八）、同三十四年（五九）、同四十七年（七二）、同四十九年（七四）、平成元年（八九）の五回、夏の甲子園出場は昭和四十七年（七二）の一回の出場を果たしていた。

一方、苦小牧東高は昭和三十二年（五七）、同四十年（六五）、同四十三年（六八）、平成十年（九八）の選抜甲子園に四回出場、同三十四年（五九）の夏の甲子園に一回、また、駒大苦小牧高が同四十一年（六六）の夏の大会一回出場しており、苦小牧勢は春の甲子園に九回出場、夏の大会に三回出場、計一二回の出場を果たしていた。[↑]

同四十九年（七四）三月、甲子園球場で行われた第四六回選抜高校野球選手権大会には苦小牧工高（金子満夫監督）が四度目の出場を果たした。一回戦で苦工高は緒戦から強豪の広島商と対戦したが、健闘むなしく0対2と惜敗涙をのんだ。

第六一回選抜大会は平成元年（八九）三月甲子園で開幕したが、苦小牧工高は昭和四十九年以來の実に十五年ぶりの念願の甲子園出場であった。

開会式直後の第一試合で日高高（和歌山）と対戦し、両軍合わせて33安打の大会新記録をマークする大乱戦となった。苦工高は序盤の劣性から成田の記念すべき平成第一号のホームランなどで大逆転を演じ12対7で選抜大会悲願の甲子園初勝利を挙げ、苦工高「遠く狭霧につつまれて」の校歌をとどろかせた。苦工高は二回戦で強豪・京都西高と対戦し、苦工高が初回に2点を先行したが、中盤で京都西に大量点を奪われ2対11と突き放されベスト8進出はならなかった。^②

第七〇回選抜大会に出場のため平成十年（九八）三月二十日に甲子園入りした苦東高は、二十五日に開会式後出番がなく待ちに待たされた。くじ引きで出場高三六番目のしんがりとなり、雨もあつて開幕から八日間も試



苦小牧東高選抜大会甲子園出場

合がなかったのである。これが影響した訳ではないが、四月二日の初戦では浦和学院と対戦し、三回までは0対0と善戦したものの、中盤以降エース寺沢の玉が高めに浮き、痛打を浴びてしまい、1対7で初戦敗退した。甲子園出場のため八年ぶりに復活した応援団が堂々の応援を披露し、十数年間休眠していた応援歌「白煙悠々樽前靈峰」もアルプススタンドにこだまし、スポーツ好きの市民を楽しませてくれたのである。

南北北海道大会での

第六七回南北北海道大会は昭和六十年（八五）七月、札幌・円山球場で行われ室蘭地区代表の

苫小牧勢の活躍

一八回出場の苫小牧工高（金子満夫監督）は緒戦で強豪、東海大四高を破り、二回戦で小樽工高を振り切った。準決勝で強敵、駒大岩見沢高を延長一回の末苫工高が競り勝った。十三年ぶり二回目の甲子園を目指した苫工高は決勝戦で函館有斗高と対戦、苫工高が先制したものの守備に乱れが出て函館有斗にミスをつかれ優勝を逸し、準優勝に終わった。

第六八回大会は同六十一年（八六）七月に札幌市の円山球場で行なわれ、苫小牧工業高と苫小牧東高が出場した。

苫工高は一回戦で敗退したが、苫東高は一回戦で駒大岩見沢高に快勝し、二回戦で札幌創成と対戦し苫東高の木村の投打の活躍で札幌創成を逆転で下した。準決勝は室蘭大谷高戦となり、苫東高が18安打で三時間半にわたる乱打戦に打ち勝った。決勝戦は苫東高と東海大四高となり、同三十四年（五九）以来の甲子園出場をねらう苫東高は中盤、東海大四高に支配され優勝を果たせなかった。

秋季全道高校野球

第四一回秋季大会は昭和六十三年（八八）十月札幌市の円山球場で行われ、一回戦で苫小牧

大会（新人戦）

工高（金子満夫監督）は小樽潮陵高を中軸打線爆発で七回コールド勝ちで二回戦へ駒を進めた。

二回戦進出の苫工高は砂川北高を猛攻で大量点を奪い七回コールド勝ちを収めた。準決勝で苫工高は強豪の函館有斗高と激突、苫工高は中盤に集中打で逆転し優勝候補の函館有斗高を破り十五年ぶりの決勝進出を決めた。決勝戦で苫

工高は宿敵東海大四高と対戦したが、持ち前の打線が振るわず東海大四の壁を破ることができず準優勝に終わった。
苦工高は平成元年（八九）四月の選抜甲子園大会代表に選ばれた。

第四回秋季大会は平成三年（九一）十月、札幌市の円山球場で行われ、苦小牧ブロック代表の苦小牧工高は一回戦で札幌清田と対戦、投打にまさる苦工高が清田を下し初戦を突破した。二回戦で苦工高は強豪、函館有斗高に快勝、準決勝で砂川北高と激突したが苦工高が競り勝った。決勝対決は苦工高と駒大岩見沢の決戦となった。2点を先取した苦工高であったが、後半駒大岩見沢高に逆転を許し、惜しくも準優勝となった。

第五〇回秋季大会は同九年（九七）十月、札幌市の円山球場で行われ、室蘭支部代表の苦東高（小城監督）は一回戦で旭川竜谷と対戦し、苦東高が持ち前の集中打で竜谷投手陣を打ち込み、六回コールド勝ちして初戦を突破した。二回戦で苦東高は札幌地区の強豪、北海高と激突し4対2と快勝した。準決勝で苦東高は函館工業と対戦し、苦東高が11安打の猛攻で七回コールドゲームで大勝した。

選抜甲子園につながる決勝戦で苦東高は小樽北照と激突、序盤は互角の投手戦となったが、中盤から苦東・寺沢が北照の打線につかまり1対5で敗れ準優勝に終わった。しかし、第七〇回の記念選抜大会には北海道から二チーム選ばれることになり、翌年三月の選抜甲子園大会に出場した。⁽⁴⁾

注(1) 『苦小牧市史―下巻』 昭和五十一年 苦小牧市

(2) 『苦工野球部七五年史・闘魂』 平成十年十二月二十五日発行 苦小牧工業高等学校

(3) 『苦小牧民報』 平成十年十二月十九日号 苦小牧民報社

(4) 『新聞切抜綴―スポーツ①・②・③』 昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編



中学校の野球大会（オーロラ球場）

三、中学野球

全国中学校 第四回全国中学校軟式野球大会は昭和五十七年（八二）八月、横浜スタジアムで行われた。北海道
野球大会 代表の明倫中学校野球部（佐藤義光監督）は一回戦で千葉代表の習志野第三中と対戦、先手を取った
明倫は同点で迎えた六回、長短打で習志野三中に2点を奪われ、2対4のスコアで惜敗した。

第五回大会は同五十八年（八三）八月、横浜スタジアムで行われた。二年連続出場の本明倫中野球部は一回戦で東海
地区の富士宮第二中と対戦し、1対4でリードされて迎えた最終回到、四球
などで一死満塁から2点をかえし詰め寄ったものの一歩及ばず、前年に続い
て一回戦の壁を破れなかった。

第一七回大会は平成八年（九六）八月、宇都宮市清原球場で行われた。

本道代表の啓北中学校は一回戦で東海地区代表の各務原稲羽中（岐阜県）
を6対5の七回サヨナラで制し、二回戦で関東地区群馬蓑郷中と対戦し、1
対0で勝ち準決勝へ駒を進めた。準決勝戦で啓北中は熊本県八代第六中と対
戦し、善戦したが0対5で敗退、決勝進出を果たせなかった。^①

全道中学校 第二九回大会、第三〇回の全道中学校野球大会に出場した
野球大会 胆振地区代表の明倫中学校は準決勝、準々決勝までしか進め
なかった。しかし、同五十七年（八二）八月に帯広市で行われた第三三回大
会に三年ぶり三度目の出場を果たした明倫中は、一回戦で北檜山中に快勝、

二回戦は延長一〇回の末、礼文船泊中を破り、準決勝で鹿部中を下し、決勝戦で留萌中を2対0で完封し初優勝を飾った。明倫中は横浜スタジアムで行われる全国大会の切符を手にした。

続く同五十八年（八三）の第三四回大会は札幌市の円山球場で行なわれ、胆振代表の明倫中学校は一回戦で稚内潮見中を5対1、二回戦で岩見沢光陵中を1対0、準決勝で釧路地区の鶴居中に5対0、決勝では石狩地区の広島東部中と対戦し、1対0で完封して二連覇を成し遂げた。明倫中のエース西田投手は本大会の失点は僅か一点だけでの好投を見せた。

第四六回大会は平成七年（九五）八月、札幌市円山球場で行われた。胆振地区代表の啓北中学校は二回戦から登場した。初戦の大楽毛中（釧路）には2対0の快勝、三回戦の聖園中（旭川）戦でも得点を重ね準決勝へ駒を進めた。準決勝の北白石中（札幌）戦は熱戦を展開、最終回に同点に追いつかれ延長戦となったが、八回、北白石は2点を追加、啓北はリードされた。この回の裏、啓北は猛反撃に出て劇的なサヨナラ勝ちを収めた。これに勢いづいた啓北は決勝戦で厚別中（札幌）を下して優勝、三度目の全道大会出場で初の全国大会の出場権を獲得した。⁽²⁾

注（１）『新聞切抜綴—スポーツ①・②・③』昭和四十八年～平成十二年 苫小牧市史編集事務局編

四、その他の野球

苫小牧市 苫小牧市役所野球部が発足したのは終戦直後の昭和二十一年（一九四六）のことであった。以来五役所野球部 十有余年の歴史を刻み道内屈指の軟式野球界の王者としてその地位にあり輝かしい球歴を築き上げ

てきた。

昭和五十年（七五）以前の同野球部活躍の戦跡は、天皇賜杯全日本軟式野球大会全国大会、常陸宮賜杯全日本準硬式野球全国大会、国体野球競技などに出場して、数々好成績を納めてきた。しかしながら、新人選手の獲得は思うようにならず、選手の高齢化が目立ちはじめ、部の在り方も再検討されることになった。そこで同五十二年（七七）には準硬式の大会から身を退くことにしたのである。

同六十三年（八八）六月十日、苫小牧市役所軟式野球部OBを中心にした新チーム「苫小牧市役所軟式野球クラブ」（高橋一郎監督）が誕生した。これは平成元年（八九）に開催される「はまなす国体」から新設される軟式野球壮年の部（四〇歳以上）への出場を目指そうというものであった。

国体軟式野球壮年の北海道代表を決める決定戦が平成元年（八九）五月、千歳市民球場で行われた。決定戦は苫小牧市役所クラブと釧路スターズの対戦となり、投打に勝る苫小牧市役所が第一試合1対0と釧路を下し、第二試合は13対1の五回コールドゲームで制し本道代表の座を射止めた。

はまなす国体軟式野球は同元年九月十九日から千歳市民球場などで行われた。成年二部壮年の苫小牧市役所（岩本靖雄監督）は二回戦から登場し、徳島フオーティー（徳島）を7対0で破り優勝した。準決勝では厚木クラブ（神奈川）と対戦し中盤までの得点を守り抜いて厚木を振り切った。決勝で苫小牧市役所は鳥取県選抜（鳥取）を7対4で下し、晴れの国体初優勝を飾った。



苫小牧市役所野球部の国体出場

文化、スポーツなどの分野で輝かしい活躍をした選手などに対して道知事が贈る「榮譽をたたえて」の贈呈式が平成元年（八九）十二月七日、札幌で行われた。第四四回国民体育大会（はまなす国体）成年二部壮年で優勝した苦小牧市役所クラブが受賞の榮譽に輝いた。

第四五回国体（とびうめ国体）道予選は同二年（九〇）八月、苦小牧市営オーロラ球場など三会場で行われた。壮年の部二回戦で苦小牧市役所クラブは旭川クラブに快勝、準決勝で苦小牧市役所クラブは札幌クラブを接戦の末、突き放し決勝へ進出した。決勝戦は工学院クラブ（室蘭）と対戦し延長一回にサヨナラ勝ちを決めた苦小牧市役所クラブが二連覇を達成した。

とびうめ国体秋季大会は同年十月二十一日から福島県で行われた。軟式野球壮年の部に出場の苦小牧市役所クラブは一回戦で全神戸クラブに勝利を収めたが、二回戦でオール香川に0対3で惜しくも敗退、四強入りは成らなかった。第四六回国体道予選が同三年（九一）八月、室蘭市営中島球場で行われた。軟式野球壮年の部に出場の苦小牧市役所クラブは決勝戦で釧路スターズを延長一回の末、サヨナラ勝ちで優勝を飾り三年連続の国体出場を決めた。また、二回戦の松前クラミング戦では苦小牧市役所の高橋投手がノーヒットノーランを達成した。

石川国体秋季大会は同年十月、石川県で行われ軟式野球壮年の部出場の苦小牧市役所クラブは一回戦で岡山代表の岡山と対戦し4対5で敗れ初戦突破を果たせなかった。

第四七回国体道予選最終戦は平成四年（九二）八月、伊達市営館山グラウンドで行われ軟式野球壮年の部で苦小牧市役所クラブは決勝で室蘭・蘭東クラブと対戦し3対0で勝ち道内随一の強豪ぶりを発揮、四年連続の道代表に決まった。

山形国体秋季大会（べにばな国体）は同年十月四日から山形県で行われた。軟式野球壮年の部出場の苦小牧市役所

クラブは一回戦でオール京都（京都）と対戦、1対0で苦小牧が京都を下したが、準々決勝で苦小牧は郡山クラブライオンズ（福島）に惜しくも0対3で敗れ準決勝進出を阻まれた。¹⁾

少年硬式 苦小牧では初の中学生を対象とした硬式野球クラブチーム「苦小牧レインボー球団」（板谷實球団野球大会 代表）の結団式が平成三年（九一）三月十九日、王子町の成志会館で行われた。結団式には子どもたち一九人のほか父母、球団関係者五〇人が参加し激励を受けた。

第二一回日本少年野球春季選手権大会（中学生硬式野球）が平成三年（九一）三月、大阪・日生球場で行われた。北海道代表として出場した苦小牧レインボーは一回戦で大阪北支部代表の大淀と対戦、1対4で敗れ初戦を突破できなかった。

中学生硬式野球協会北海道支部結成記念大会の決勝トーナメントが同三年（九一）十月、苦小牧市の王子球場で行われた。決勝トーナメント出場チームは苦小牧クラブ（福田勝夫代表）をはじめ札幌、新札幌、函館など四チームが参加した。今季新たに結成した苦小牧クラブは準決勝で札幌ホエールズと対戦し健闘むなしく1対4で敗退、決勝進出は成らなかった。

中学校硬式野球ミドルリーグの第一回東日本少年野球苦小牧クラブ結成記念大会が同四年（九二）六月、苦小牧緑ヶ丘球場で苦小牧クラブ、新札幌クラブ、札幌北陽クラブ、札幌ホエールズ、函館中央クラブなど七チームが参加して行われた。

苦小牧クラブは準決勝で新札幌を1対0で破り、決勝戦では札幌ホエールズに大量12点を挙げ五回コールドゲームで優勝した。最優秀選手に天野雅文（苦小牧クラブ）が選ばれた。

第二回東日本少年野球北海道リーグ上位トーナメント決勝戦が同五年（九三）七月に行われ、苦小牧クラブが優勝、



少年硬式野球の全国大会出場

全国大会の出場権を獲得した。同年八月に大阪・日生球場で開かれた第二回全国少年野球選手権大会に出場の苦小牧クラブは初戦で敗退した。

少年少女硬式野球全国大会リーグ東京大会は同七年（九五）五月、東京ガスグラウンドで行われた。北海道代表の苦小牧クラブは一回戦で江戸川クラブを7対1の四回コールドで破つたのに続き、二回戦でも東京ニュータイガースにも8対2の四回コールド勝ちを収め準決勝に駒を進めたが惜しくも敗れた。

中学生硬式野球の「日本リトルシニア野球協会北海道連盟第一七回全道選手権大会」が同七年（九五）八月、苦小牧緑ヶ丘球場とオーロラ球場、鶴川町営球場の三会場に一五チームが参加して行われた。苦小牧からは苦小牧シニアが二回戦から登場、札幌豊平東シニアと対戦し3対2で健闘及ばず惜敗、初戦を飾れなかった。⁽²⁾

全道少年 第八回全道少年野球大会は昭和五十四年（七九）七月、札幌・中島と美香保の両球場で行われた。

野球大会 苦小牧・千歳ブロック代表の苦小牧勇弘育成会は初出場となった。勇弘は一回戦で遠軽東スポーツ少年団と対戦し4対0と快勝した。

二回戦の勇弘は陸別町スポーツ少年団と対戦、投打にまさる勇弘は五回までに大量10点を奪いコールドゲーム勝ちを収めた。準決勝で勇弘は室蘭祝津ファイターズと対決、延長九回2対2の引き分けの末、抽選負けを喫した勇弘が悔やし涙にくれた。

第一回全道少年野球大会は同五十七年（八二）七月、室蘭市宮球場で行われ苦小牧・千歳代表として三年ぶり二度目の出場を果たした勇弘育成会は二回戦から登場、三井芦別ブラックスネークスを下し、準決勝で上手稲コンドルを延長八回逆転で破り決勝へ進んだ。決勝戦では小樽緑町会と対戦、最終回に二点を入れ、3対2で小樽を振り切り、初制覇の栄冠に輝いた。勇弘は大阪で行われる全国大会の出場権を獲得した。

第二回全日本学童軟式野球大会は同五十七年（八二）八月、大阪・住之江公園球場で行われた。本道代表の勇弘育成会は一回戦で京都代表の久御山バッファローズと対戦、延長戦の末4対6で惜しくも初戦の突破は成らなかった。

第二回全道少年野球大会兼第一五回全日本学童軟式野球大会は平成七年（九五）七月、野幌運動公園野球場で行われた。苦小牧から出場した美園スラッガーズは一回戦で釧路寿とんけしを下し、準々決勝で室蘭中島リトルタイガースを破った。快進撃の美園は準決勝でも網走旭ベースボールクラブを延長九回の末、突き放して勝利を収め決勝へ進出した。決勝で古平野球スポーツ少年団と対戦し3対6で敗れ、全国大会の出場権を獲得できなかった。⁽³⁾

注(1) 『苦小牧市役所野球部創部五十年記念誌―五十年の軌跡（飛翔）』 平成九年 苦小牧市役所野球部

(2)(3) 『新聞切抜綴―スポーツ③』 平成元年〜同十二年 苦小牧市史編集事務局編

第七節 その他のスポーツ

一、陸上競技とマラソン

活躍した陸上競技選手 昭和二十一年（一九四六）十一月に苫小牧陸上競技協会の復活総会が開かれ、以来、五十数年の長から分離、独立が承認され道内一七番目の地方協会となった。

一方、長年の懸案であった緑ヶ丘公園陸上競技場（三種公認）も将来的に二種、一種へ格付けされるよう設備充実が苫小牧市によって進められることになり、全国、全道レベルで活躍できる有力選手の強化、陸上競技愛好者の底辺拡大に大きな弾みとなっている。

同五十年（七五）以降で特筆される選手は、山内ともこ（苫中央高）で、同五十七年（八二）～同六十年（八五）まで日刊スポーツ北海道女子マラソン二〇キロメートルで優勝したのをはじめ、全国都道府県対抗女子駅伝、国際女子駅伝に出場、道陸協より女子優秀選手賞を受賞した。さらに山内は、北海道選手権で二種目優勝、群馬国体一、五〇〇メートルで道最高記録をマーク、同五十九年（八四）には日本陸連より春日弘賞を受賞した。同六十年（八五）に山内はダイエー苫小牧店に入社したが北海道選手権で二種目制覇、五、〇〇〇メートルで三連勝を飾るなど、八〇〇メートルからマラソンまで延べ二一種目で北海道記録を更新した山内の傑出した大活躍は際立ったものがあつた。昭和五十年（七五）以降における苫小牧陸協所属の主な活躍選手の活躍状況を一覧表にすると次のとおりであつた。

苦小牧地区で活躍した陸上選手一覧表（昭和五十年～平成三年までの記録）

年次	氏名	所属	活躍内容
昭和50年	田中康恵	苦小牧西高	三重国体出場、市体協スポーツ優秀賞受賞（走高跳・道ベスト2）、全道高校（同・優勝）
	小路修司	苦小牧東高	市体協スポーツ優秀賞受賞（走高跳・道ベスト3）
	片岡良子	光洋中教員	三重国体出場（札幌選手権一〇〇m優勝）
51年	高橋紀明	苦小牧東高	全道高校（一〇〇、二〇〇m優勝）、道陸協より優秀選手賞受賞、市体協スポーツ賞受賞
	田中康恵	苦小牧西高	佐賀国体出場（走高跳六位入賞）、北海道選手権（同優勝）、道陸協優秀選手賞受賞
	飛渡紀代美	山陽国策バ	札幌選手権（砲丸投優勝一〇m八八、北海道新記録）
53年	柳原進一	苦小牧西高	全道高校（ハンマー投優勝五三m四〇）
	白田則子	光洋中教員	北海道選手権（円盤投優勝三五m四八）
	坂口明子	光洋中教員	北海道選手権（五種競技優勝）
	板谷浩美	苦小牧西高	全道高校（円盤投優勝三三m五八）
54年	宮下一美	王子製紙	全国青年大会（三段跳優勝一三m七五）
	鈴木省三	王子製紙	全国青年大会（砲丸投優勝一五m二八）
	小島徹雄	山陽国策	全国青年大会（三種競技優勝）
55年	飛渡紀代美	山陽国策	北海道選手権（円盤投優勝三七m三六）
	覚張千万	苦小牧工高	北海道選手権（一〇〇、二〇〇m優勝、二〇〇m北海道新記録）
	長岡孝行	勇弘中	全国中学一年一、五〇〇m四位入賞、北海道新記録、日本陸連河野一郎賞受賞
57年	山内ともこ	苦小牧中央高	全国都道府県対抗女子駅伝出場、国際女子駅伝出場、北海道女子マラソン優勝、道陸協優秀賞
	白田則子	光洋中教員	北海道選手権（円盤投優勝三九m一八）
58年	長岡孝行	勇弘中	苦小牧市中体連（四〇〇m（大会新）、三、〇〇〇m優勝、全国陸上入賞（北海道中学新）
	山内ともこ	苦小牧中央高	北海道選手権一、五〇〇m、三、〇〇〇m優勝、群馬国体（一、五〇〇m八位入賞）
	池添裕之	苦小牧クラブ	札幌選手権（走高跳優勝二m〇八、北海道最高記録）
59年	山内ともこ	苦小牧中央高	全国高校（八〇〇m八位、北海道選手権（三、〇〇〇m、五、〇〇〇m優勝、春日弘賞受賞）
	宮下一美	王子製紙	胆選手権（三段跳七連勝）
	柿崎弘江	苦小牧工高	北海道選手権（女子二〇〇m優勝）

昭和59年	寺井直樹	苫小牧東高	全道高校（三段跳優勝一四m一八）
	松岡洋	啓北中	北海道中学苫小牧大会（二〇〇m優勝）
	山田学	啓北中	北海道中学苫小牧大会（二年一、五〇〇m優勝）
60年	山内ともこ	ダイエー苫小牧	北海道選手権（三、〇〇〇、五、〇〇〇m優勝、五、〇〇〇m三連勝、北海道新道ジュニア（C三種競技優勝）
	神田めぐみ	明倫中	全道中学（二・三年共通八〇〇m優勝）
	山田学	啓北中	国体道予選（少年B八〇〇m優勝、新記録）
61年	山田めぐみ	苫小牧東高	全日本中通陸（中女子一〇〇m北海道一位）
	神田学	明倫中	全道高校（八種競技優勝）
62年	伊藤文雄	苫小牧工高	全道高校（女子槍投四三m九四、北海道一〇傑一位）
平成元年	大谷亜希	苫小牧南高	全道高校（J一〇mハードル優勝）
	川田昌則	苫小牧南高	北海道選手権（女子槍投優勝、全道高校（女子槍投優勝、市体協スポーツ優秀賞受賞）
2年	大谷亜希	苫小牧南高	北海道高校新人（二〇〇、二〇〇m二種目優勝）
	福田みほ	苫小牧南高	北海道高校新人（二一〇mハードル優勝）
	井内聖	苫小牧東高	国体道予選（二一〇mハードル優勝、市体協スポーツ優秀賞受賞）
	小林寛明	苫小牧東高	北海道高校新人（二〇〇mハードル優勝）
3年	佐藤徳子	苫小牧南高	北海道高校新人（二〇〇mハードル優勝）

昭和六十一年度（八六）に「苦小牧陸上競技協会・栄章規定」が制定され、選手については年度末の「道陸協・一〇傑表」をもとに選考、翌年度の春季記録会において表彰することになった。表彰は 最優秀選手賞、優秀選手賞、中学奨励賞、小学奨励賞、特別賞などとなっている。

荒崎 恵(道女子短大・走幅跳)、田村彰英(王子製紙・槍投)、柿崎雅子(札幌大・走高跳)、荒谷雅子(苦陸協・ハーフマラソン)
板谷浩美(青葉幼稚園 円盤投)、大谷亜希(苦南高・槍投)、川田昌則(苦南高・一一〇mハードル)、小林寛明(苦東高・一二〇m)

ハードル)、岩野利之(苦南高・二、〇〇〇m障害競技)、三上孝幸(苦高専・五、〇〇〇m競歩)、斉木順子(苦陸協・ハーフマラソン)、酒井富士子(苦陸協・マラソン)、尾崎晃(苦工高・一〇〇m)、福田みほ(苦南高・一〇〇m、四〇〇mリレー)、森真由美(苦南高・四〇〇mリレー)、神田めぐみ(苦南高・四〇〇mリレー)、井内 聖(苦東高・一一〇mハードル)、土谷孝平(苦東高・二〇〇m、四〇〇mリレー)、加藤恭生(苦東高・四〇〇mリレー)、三浦二郎(苦東高・三段跳、四〇〇mリレー)、飯田昭人(苦東高・四〇〇mリレー)、今野博文(苦南高・槍投)、竹中良洋(苦東高・一〇、〇〇〇m)、酒井祐敬(苦工高・J円盤投)、佐藤徳子(苦南高・一〇〇mハードル)、藤枝加奈子(苦南高・一〇〇mハードル)、曾根垂希(苦西高・砲丸投)、中島正義(苦南高・J砲丸投)、田村彰英(王子製紙・槍投)、大浦拓美(駒大苦高・槍投)、井上涼子(苦南高・砲丸投)

『苦小牧陸上競技協会創立50周年記念誌・足跡』 平成八年 苦小牧陸上競技協会

苦 小 牧 苦小牧市教育委員会、苦小牧陸上競技協会、苦小牧民報社主催の第一回苦小牧マラソンが昭和五十
マラソン 九年(八四)十月十日の「体育の日」に開催された。このマラソンはこれまで市内で開かれていた市
民マラソン(市教委主催)と支笏湖マラソン(苦小牧民報社主催)とを一本化し、多くの市民の参加を得ようといわ
れることになった。

第一回マラソンの種目は男子二〇キロ、男女一〇キロのロードレースとオープン参加の五、三キロの四コースが設
定され、市宮陸上競技場を発着点に総勢八三〇人が健脚を競った。初のマラソンには地元苦小牧をはじめ千歳、恵庭、
札幌などからも参加、気温はやや低めではあったが、さわやかな秋晴れのもと選手は思い思いの記録に挑戦した。初
優勝を飾ったのは、男子二〇キロロードは中野良二(東千歳自衛隊)、男子一〇キロは中沢重道(千歳107走友会)、
女子一〇キロでは佐藤綾子(和光中)が制した。また、車いすマラソンに山口勇ら三人が三キロ完走コースに出場、
沿道の声援を受けながら心地よい汗を流した。

第二回苦小牧マラソンは昭和六十年（八五）十月十日、秋晴れの広がる市営陸上競技場を発着点に八八六選手が参加して行われた。出場選手中最高年齢者で選手宣誓の大役を務めた八一歳の菅井久太郎らが快走、男子二〇キロで門脇邦夫（千歳ランナーズ）が大会新記録で初優勝、男子一〇キロは中沢重道（千歳）が大会新記録で二連勝、女子一〇キロでは大川真佐子（勇払中）が大会記録を短縮して初優勝に輝いた。

第三回苦小牧マラソンは同六十二年（八六）十月の体育の日に市営陸上競技場を主会場に開かれた。今回は千歳線開通六〇周年を迎え、基点の沼ノ端を出発点とする特別記念ロードレースも行われ、一、〇三〇人と過去最高の参加者となった。家族四人で第一回大会から参加している吉川正一家が選手宣誓を行い、次々にさわやかなスタートを切った。男子二〇キロロードは坂本好康（千歳ランナーズ）が初出場で初優勝を飾った。男子一〇キロは上野松夫（千歳第七師団口連隊）、女子一〇キロは酒井富士子（苦中央高一年）、特別記念コースでは男子が酒井洋（大昭和白老）、女子は小野多恵子（苦小牧ランシークラブ）がそれぞれ優勝した。

第四回苦小牧マラソンは同六十二年（八七）十月十日に今秋一番の冷え込みの中でスタートした。エントリーは新設された女子二〇キロと完走ファミリーなどで参加者は一、二六八人と過去最高を記録した。今大会には姉妹都市、八王子富士森走友会の守屋和利ら六人も参加し健脚を競った。男子二〇キロは第一回大会優勝の中野良二（千歳ランナーズ）が独走、二位に大差をつけて優勝した。新設の女子二〇キロは楠瀬志保（駒大苦高）が初優勝を飾り、一〇キロ男子は竹内貴之（札幌大学）、同女子は大川真佐子（苦南高）が優勝した。

第五回苦小牧マラソンは同六十三年（八八）十月の体育の日、市営陸上競技場を主会場に開かれた。あいにくの曇り空であったが参加者は一、二一三人に及んだ。小林洋一家六人による選手宣誓が行われ、八つの部門でのレースが行われた。ハーフマラソン男子は初参加の関憲治（当別陸協）が、同女子は酒井富士子（苦中央高）が優勝を飾っ

た。ロード一〇キロ男子（四〇歳未満）は門脇邦夫（東千歳）、同四〇歳以上では中沢重道（千歳若葉走友会）、女子は白川陽子（苦東高）がそれぞれ優勝した。

第六回苦小牧マラソンは平成元年（八九）十月の好天に恵まれた体育の日に行われた。地元をはじめ千歳、恵庭など道内外一五市町から一、三五〇人が参加、岩田康幸一家五人が元気に選手宣誓を行い、ハーフマラソンを皮切りにスタートした。ハーフマラソン男子は初挑戦の上野松夫（千歳ランナーズ）が優勝、同女子は酒井富士子（苦臨床検査センター）が二位以下を大きく引き離して二連覇を果たした。また、一〇キロ男子・二〇歳代で鈴木克知（北星学園大）、同三〇歳代は堀内健二（大昭和製紙）、同四〇歳代で中沢重道（千歳若葉走友会）、同五〇歳以上で高谷敬三（函館走友会）、一〇キロ女子は三〇歳未満で大川真佐子（北電臨海火力保守センター）、同三〇歳以上で鈴木冊子（八王子市）がそれぞれ優勝を飾った。

第七回苦小牧マラソンは同二年（九〇）十月の体育の日、苦小牧をはじめ千歳、札幌、函館など道内一四市町のほか、東京などからの初参加もあり一、一八八人が出場した。ファミリー参加の小川充一家五人が選手宣誓を行い、男女のハーフマラソンを皮切りにスタートした。ハーフ男子は三上浩二（きょうほく石油）が初制覇、女子は酒井富士子（苦小牧臨床検査センター）が堂々の三連覇を果たした。一〇キロ男子一〇・二〇歳代は金子一夫（千歳ランナーズ）、同三〇歳代は森中修一（札幌旭警備）、同四〇歳代は中沢重道（陸上自衛隊東千歳駐屯地）、同五〇歳以上は高橋四郎（同）が優勝、同女子三〇歳未満は栗原知香恵（穂別陸上少年団）、同三〇歳以上では猪村かなえ（ナイアガラMC）がそれぞれ晴れの栄冠に輝いた。

第八回苦小牧マラソンは同三年（九一）十月の体育の日に初の試みとして設けられた道道苦小牧環状線の市街地コースに道内一八市町から一、五三八人が参加し、マラソン愛好者、家族やグループ参加が目立った。ファミリー参加の



苦小牧マラソン大会

青木敏文一家五人が選手宣誓したあと、沿道の声援を受けて熱戦が繰り広げられた。ハーフマラソン男子は上野松夫（千歳ランナーズ）が二位との差を約一キロ引き離して、二年ぶり通算二度目の優勝を果たした。同女子は余裕のレース展開をみせた酒井富士子（カナモト）が四年連続四度目の優勝を達成した。一〇キロ男子一〇・二〇歳代は石見一樹（早来自衛隊）、同三〇歳代は森中修一（札幌市）、四〇歳代は平泉幸男（白老曹友会）、同五〇歳代以上は高橋四郎（北千歳自衛隊）が優勝、同女子三〇歳未満は新納有紀子（北星学園大）、同三〇歳代以上は松下優子（苦小牧ガッテンダーズ）がそれぞれ栄冠を勝ちとった。

第九回苦小牧マラソンは平成四年（九二）十月の体育の日、小雨の降る中でファミリーコースに参加の鈴木利一家の選手宣誓に続いて、男女車いすハーフマラソンを皮切りに男女二二種目に一、四六六人が出場し健脚を競った。ハーフマラソンには国際姉妹都市ネーピア市からの招待選手が出場、初の車いすハーフマラソンも行われ、沿道に詰めかけた多くの市民から熱い声援が送られた。ハーフマラソン男子は中盤から二位以下を大きく引き離して独走した招待選手のフィル・コストレイ（ネーピア市）が好記録で優勝、女子の松下優子（苦小牧ガッテンダーズ）は招待選手のサンドラ・ジェイン・ウイギンズ（ネーピア市）をゴール直前で競り勝ち逆転優勝を決めた。車いすは小野茂（北海道車イスマラソンクラブ）が初優勝を飾り、一〇キロロード男子一〇・二〇歳代は山下広京（千歳市）、同三〇歳代は森中修一が（二連勝・札幌市）、同四〇歳代は吉田佳津夫

(大昭和走ろう会)、同五〇歳以上は高橋四郎が(三連勝・リバーサイドゴルフセンター)が優勝、一〇キロロード女子三〇歳未満は新納有紀子(二連勝・北星学園大)、同三〇歳以上は手繰早知子(苦小牧気分は走会)がそれぞれ優勝を飾った。

第一〇回苦小牧マラソンは平成五年(九三)十月の体育の日、市営陸上競技場をメイン会場に行われたが、開会式からあいにくの雨となり、完走部門は中止されたが、ハーフマラソンなどのロード部門は全種目で健脚を競った。登録選手は最高齢七三歳までの約一、三〇〇人が受け付けを済ませたが、激しい雨が降り出しファミリー三キロ、五キロは中止となった。ハーフ車いすマラソンには男女二六人が出場、レースでは昨年優勝の小野茂(北海道車イスマラソンクラブ)が終始、独走体制の実力を発揮して二連覇を果たした。ハーフ男子は森和人(東芝電波特機)が好タイムで優勝、同女子は加瀬清美(苦中央高)が前回の覇者、新納を同タイム先着でわずかにかわし初優勝を遂げた。一〇キロ男子一〇・二〇歳代は前田義久(苦泉野小教)が優勝、同三〇歳代は上野松夫(自衛隊七師団)、同四〇歳代は酒井洋(大昭和白老)、同五〇歳以上は大和守人(ヤマザキ製パン)、同女子は高尾美雪(北星学園大)がそれぞれ優勝を飾った。

第一一回苦小牧マラソンは同六年(九四)十月の体育の日、緑ヶ丘公園陸上競技場をメイン会場に開かれた。苦小牧、千歳をはじめ白老、函館など八市一四町から約一、一〇〇人の選手登録があり、各種目で日ごろの練習の成果を競り合った。今回で三回目の車いすマラソンは二八人がエントリーし、初出場の宝塚一也(北海道車いすマラソン)が初優勝を飾った。ハーフ男子は前回の覇者、森和人(東芝電波特機)が歴代三位の記録で二連覇を達成した。同女子は前年優勝の加瀬清美(カナモト)が最後まで余裕の走りをみせ二連勝に輝いた。一〇キロ男子一〇・二〇歳代は岡田宜明(北海道マラソンクラブ)が優勝、同三〇歳代は上野松夫(自衛隊七師団)が二連勝、同四〇歳代は酒井洋

（大昭和白老）が二連勝、同五〇歳以上は大和守人（恵庭市役所）が連続優勝、同女子は浅野裕美（北海道ゴルフ倶楽部）が初優勝を遂げた。

第二二回苦小牧マラソンは平成七年（九五）十月十日に地元苦小牧をはじめ道内三三市町村と、遠来の広島県からの参加者もあり、一、三五二人が出場、完走部門とロードレース部門の計八種目に分かれ、全力を尽くす力走を繰り広げた。今年で四回目の車いすハーフマラソンでは、大会二度目出場の長田弘幸（札幌）が健闘、初優勝を飾った。ハーフ男子は岡崎祐三（新王子製紙）が快調な走りをみせ初優勝、一〇キロ男子一〇・二〇代は岡田宜明（北海道地区補給処）が二連勝、同三〇・四〇歳代で森中修一（札幌）が第九回大会の三〇歳代に続いて二回目の優勝、同五〇歳以上は大和和人（恵庭市役所）が三年連続の優勝、昨年までの女子ハーフマラソンとロードレースが一本化された女子一〇キロは楨本美恵子（函館トリアスロンクラブ）が初優勝を飾った。

第一三回苦小牧マラソンは同八年（九六）十月の体育の日に、地元苦小牧をはじめ道内三三市町村と埼玉県からの参加を含めた約一、四〇〇人が出場、沿道の市民の声援を受けて健脚を競った。車いすハーフには二人がエントリー、長田弘幸（エスカヨツ）が二連覇を果たした。男子ハーフは栗林秀人（栗林商会室蘭）が二度目の参加で初優勝、一〇キロロード男子一〇・二〇歳代は長谷川春良（第73戦車連隊）が初出場、初優勝、同三〇・四〇歳代は岡田宜明（北海道地区補給処）が見事、三連覇を達成、同女子は楨本美恵子（函館トリアスロンクラブ）が二年連続優勝を飾った。

第一四回苦小牧マラソンは同九年（九七）十月の体育の日、曇り一時雨となったが地元、苦小牧をはじめ道内三五市町村と、遠来の愛知、徳島両県からの参加を含め一、二七二人が出場、家族五人で参加した真所一雅一家の選手宣誓が秋空に澄み渡り、苦小牧の秋を彩った。車いすハーフには二五人が出場、猛烈なデットヒートの末、長田弘幸

(札幌) が見事に三連覇を達成し、実力の差を見つけた。新設定のコースで行われた男子ハーフは強豪、森和人(東芝電波特機) が三年ぶり史上最多三回目の優勝を果たした。同10・20歳代は佐々木一也(陸上自衛隊7師団) が初参加、初優勝を飾った。同30・40歳代では岡田宜明(北海道補給処) が堂々の四連覇を達成した。同50歳以上は中村浩二(札幌ヤクルト) が初出場、初優勝、同女子は太田尚子(アブロスエアロ組) が快走をみせ優勝した。

第一五回苦小牧マラソンが平成十年(九八)十月の体育の日、地元苦小牧をはじめ道内三〇市町村と遠来の神奈川、千葉、静岡、岡山各県からの参加も含め一、二一七人が出場、八種目に分かれて快晴の街を駆け抜けた。同大会には、ジョセフ・M・オツオリ(トヨタ自動車)、佐々木七恵(エスビー食品)の両招待選手を招き大会に花を添えた。また、四つ子の家族六人で参加した本間龍美一家が選手宣誓を行い、ファミリー三キロを皮切りにレースが始まった。車いすは樽前ハイランド市バス停留所前を、男女一〇キロは啓明中グラウンドをスタート地点に実施、熱走が展開された。今回で七回目を迎えた車いすハーフには二八選手が出場、長野冬季パラリンピックに出場を果たした長田弘幸(北海道車椅子マラソンクラブ)が四連覇という偉業を成し遂げた。男子ハーフは初出場の池本隆志(池本コーポレーション)が初栄冠に輝いた。男子一〇キロ一〇・二〇歳代は初参加の鶴田賢一(BURNING BLOOD)が初優勝、同30・40歳代は岡田宜明(北海道補給処)が五回連続優勝を飾り、同50歳以上は中沢重道(千歳若葉走友会)は一回目から出場し通算七回目の優勝を成し遂げた。女子一〇キロは太田尚子(苦小牧踊走会)が大会新記録で二年連続優勝を飾った。

第一六回苦小牧マラソンは、好天に恵まれた同十一年(九九)十月の体育の日、地元苦小牧をはじめ道内三七市町村、道外も兵庫、神奈川、埼玉県など七市から一、二七七人が出場した。車いす三キロが新設された完走部門とロードレース部門九種目に分かれ力走を展開した。開会式では家族六人で参加した小室優一家が元気いっぱい宣誓したあ

と、フアミリー三キロを皮切りにスタートが切られた。車いすハーフには二四選手が出場、神戸から初出場の藤川康博（日進医療器）が過去最高タイムで初優勝を飾り、長田弘幸（札幌市）の五連覇を阻止した。ハーフ男子は小学三年だった第一回大会以来、一五年ぶりの参加で酒井健太郎（NRC-K）が歓喜の初優勝に輝いた。一〇キロ男子一〇・二〇歳代は初参加の伊藤一臣（まどかRC）が優勝、同三〇・四〇歳代は常勝の岡田宜明（北海道マラソングラブ）が六回連続優勝の栄冠を手にした。同五〇歳以上は中沢重道（千歳若葉走友会）が通算九度目、五〇代では二連勝を果たした。同女子は太田尚子（とよぞくらぶ）が自身の歴代最高タイムを更新する好タイムで五連覇に花を添えた。^{〔一〕}

中学 駅伝 苦小牧体育協会四〇周年記念第一回中学駅伝苦小牧大会が（苦体協主催、苦小牧市、市教委、苦陸苦小牧大会 協、苦中体連、苦小牧民報社共催）平成四年（九二）十月十八日、青空の広がる緑ヶ丘公園陸上競技場をメイン会場に開かれた。苦小牧をはじめ伊達、登別、早来、鶴川、静内などから男子一七、女子八チームが出場し、道道苦小牧環状線六区間二〇キロを舞台に熱いレースが展開された。

男子は全区間一位を維持した静内第三中が、女子は四人が区間賞を獲得して好タイムで走り抜いた鷺別中がそれぞれ優勝を飾った。地元勢の男子では苦東中アイスホッケー部Aが二位、沼ノ端中Aが四位、明倫中アイスホッケー部が七位、凌雲中アイスホッケー部が八位に入賞した。女子は啓明中フアイターズが三位、啓北中が五位、和光中が六位、明倫中が七位の成績であった。また、男子区間賞は二区の茅森健一（苦東A）、三区の伊藤敬埜（凌雲A）、四区の吉沢雄介（苦東A）、五区の佐藤雄三（沼ノ端A）、六区の横山雅茂（同）がそれぞれ獲得した。また、女子区間賞は五区の岸本あゆみ（啓明中フアタヘズ）であった。

第二回大会（苦小牧市体育協会、苦小牧民報社主催）は同五年（九三）九月二十三日、男子二一、女子九チームの

計三〇チームが出場し、沿道の市民の声援を背に白熱したレースを展開した。男子は第三区間でトップに立った鷺別中が最終区間で激しく追い上げる沼ノ端中を抑えて初優勝を飾った。女子は札幌信濃中が二位以下に大差をつけて初の栄冠に輝いた。地元勢の男子では沼ノ端中が二位に食い込み、苦東中Aが六位、啓北中陸上部が八位に入賞した。また、女子は啓明中陸上部が四位、沼ノ端中が六位、啓北中陸上部が七位、明倫中陸上部が八位に入賞した。地元選手の男子区間賞では四区の森本佳樹（沼ノ端）、五区の田中圭太（明倫A）、六区の横山雅茂（沼ノ端・大会新）が獲得、よく健闘した。

第三回大会が好天の平成六年（九四）七月三十一日、男子二三、女子一五チームの大会最多の計三八チーム、約三八〇人が参加して開かれた。男子は二区で首位に立ち、独走態勢をキープした初出場の札幌南が丘中が大会新記録の好タイムで優勝、上位四位までを札幌勢が独占した。女子は前回優勝の札幌信濃中が断トツのレースを繰り広げ同校A・Bが接戦を展開、同Bが競り勝ち優勝、二連覇を達成した。また、札幌信濃中の石川理子ら六人はいずれも区間賞を独占した。地元苦小牧勢では女子七位に沼ノ端中が入賞したのが最高位であった。

第四回大会は薄曇り時折り小雨がぱらつく中、同七年（九五）七月三十日緑ヶ丘公園陸上競技場を発着点に地元苦小牧をはじめ六市五町から男子四〇、女子二一、計六一チーム出場の過去最大規模の大会となった。男子はスタートから上位チームが混戦となり、六区でアンカーがトップに立つ



中学駅伝苦小牧大会

た札幌羊丘中が大会新をマークして優勝、女子は二区から徐々に差をつけた初陣の赤平中が初優勝に輝いた。地元苦小牧勢は男子沼ノ端中が一〇位、女子では大健闘した沼ノ端中が四位に入賞、啓明中バスケットA・Bがそれぞれ六、七位と善戦した。⁽²⁾

苦小牧市スポーツ宣言三〇周年記念・第五回中学駅伝大会は平成八年（九六）八月十一日、真夏の駅伝としては涼しい中、男子三五、女子二五、計五〇チームが出場、道道環状線の二車線使用に拡大しての大会となった。男子は福島中（渡島）と札幌南が丘中が序盤から激しいトップ争いとなり、六区で抜け出した福島中が初出場、大会新で初優勝を飾った。二位の札幌南が丘中も大会新をマークした。女子はスタートから終盤にかけて上位をキープした札幌信濃中が二年ぶり三回目の優勝を果たした。二位には四人のランナーが区間賞を獲得した苦小牧選抜が入賞、歴代地元女子としては最高順位とタイムをマークした。苦小牧勢女子が区間賞を勝ち取ったのは第一回以来、四年ぶりの健闘で二区の清水紗織（沼ノ端）、三区の熊谷弘美（和光）、四区の池田有美（沼ノ端）、五区の須田三枝子（明倫）の四選手であった。

第六回大会は同九年（九七）八月十日、雨あがりのなか地元苦小牧をはじめ恵庭、札幌、岩見沢、上富良野など一三市町から男子三四、女子一六、計五〇チームが出場して黄色のたすきをつなげる健脚を競った。男子は七飯町（渡島）の大中山中が歴代二位の好タイムで初優勝、女子は福島中（渡島）が初優勝を飾り、渡島勢が栄冠を独占した。苦小牧勢は女子の啓北中が七位と善戦したが、他のチームでは弥生中男女の一二位であった。

市制五〇周年記念・第七回大会は、絶好のコンディションに恵まれ同十年（九八）八月二日、一一市町から男子三一、女子一二、計三三チームが出場して白熱したレースを展開した。男子は六区で前年の覇者七飯町大中山中（渡島）を抜いた上磯中陸上部（同）が好タイムで初優勝、女子は全区間独走し大会新記録をマークした七飯女子選抜（同）

が初優勝を飾った。地元苦小牧勢では、女子の啓北中が二位に食い込み市内勢過去最高タイムの準優勝に輝いたほか、弥生中バスケット部Aが六位、明野中陸上部が八位、男子も啓北中が八位入賞を果たした。

第八回大会は平成十一年（九九）七月十八日、緑ヶ丘陸上競技場を発着点に開かれた。道道苦小牧環状線（清水町―柏木町）を折り返す一七・一キロ六区間の新コースに男子二九チーム、女子一三チームの計四二チームが出場、選手は懸命にたすきをつなぎ力走した。男子は札幌羊丘中が好タイムで四年ぶり二度目の優勝飾った。地元勢では啓北中がよく健闘し四位となり、同校男子として三年連続の入賞を達成、光洋中選抜は六位、緑陵中選抜七位、苦東中が八位とそれぞれ入賞を果たした。また、区間賞に男子一区の守屋暁生（啓北）と同五区の柳谷祐（光洋）が獲得した。女子は二年連続出場の上富良野中が札幌屯田中央中との競り合いを制して優勝を果たした。啓北中は序盤で出遅れたが五区で札幌屯田中央中を逆転し二位と好走した。啓北中三区の藤田光、五区の小野寺志保、六区アンカーの阿部江利奈の三人がそれぞれ区間賞に輝いた。なお、地元勢では弥生バスケットAが四位、沼ノ端バステニーズが五位、啓明中バスケットが六位、明倫中が八位と上位入賞を果たした。^③

注（１）（３）『新聞切抜綴―スポーツ①・②・③』昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

（２）『苦小牧陸上競技協会設立50周年記念誌・足跡』平成八年 苦小牧陸上競技連盟

二、その他のスポーツ

岩倉組女子バスケット 昭和四十二年（一九六七）四月に株式会社岩倉組は女子バスケットボール部（田口正平
ボールチーム 監督）を創設した。アイスホッケー部ほどではなかったが、道内の高校有望選手を集めて
技術強化を図った。一時は全道女子バスケットボール界の王座を維持し、苦小牧初の実業団チームとして数々の戦跡
を残したことはあまり知られていない。

岩倉組女子バスケットボール部は結成直後の同四十三年（六八）十月の福井国体に本道代表として出場し、三回戦
まで勝ち進んだ。その後、同五十年（七五）まで本道代表として五年連続国体に出場、道内の女子バスケットボール
チームでは屈指の強豪として岩倉旋風を巻き起こした。

しかしながら、同五十年（七五）以降会社経営も不振に向かい、同社スポーツ部の維持経営も困難な状態に陥って
いた。このため、最も金の掛るアイスホッケー部は同五十四年（七九）五月に廃部（雪印移管）を決定し、岩倉組は
翌五十五年四月一日に不良団体の清算会社に移落してしまった。この間、女子バスケット部は有望選手の入部もなく
陰りをみせ同年十月の三重国体、同五十三年（七八）十月の長野国体でも一回戦で敗退する結果となった。それでも
同五十六年度（八一）の全道実業団大会に出場して一〇連勝を飾ったのである。^①

岩倉組女子バスケット部は国体道代表七回、全国実業団大会三回出場を果たし、同チームの目指した日本リーグ入
りは実現できなかったが、同五十六年度（八一）をもって多くのファンに惜しまれながら廃部となった。

その他のスポーツで スポーツ宣言都市苦小牧におけるスポーツの歴史は古く、その代表的なものにスケート界
活躍した選手・団体の 目覚ましい活躍があり、幾多の国際的な名選手を輩出してきた。一方、野球、柔道、剣道、

陸上競技等においても数々の輝かしい戦跡を残し、スポーツの歴史が築き上げられてきた。

特に近年になって体育施設の整備が進められハイランドスポーツセンターや総合体育館、緑ヶ丘総合運動公園の各施設、白鳥アリーナなどをはじめとする諸施設では、年間延べ一三〇万人を超す利用者のあることは、苫小牧市体育協会を根幹とする各スポーツ加盟団体の活動が基礎となつて苫小牧の生涯スポーツの充実、発展に寄与しその成果がますます高められている。

昭和五十年（七五）以降の苫小牧市における、これまでに記すことの出来なかつたその他のスポーツ界で全道・全国で活躍した選手・団体（チーム）の主なものを挙げれば次のとおりである。

昭和五十年以降においてその他のスポーツでの活躍記録

種別	年 月	場 所	成 績 内 容
剣 道	昭和51・8	東京都	第11回全日本少年剣道錬成大会に苫小牧剣道スポーツ少年団・苫小牧正心館が出場する。
	52・8	東京都	第12回全日本少年剣道錬成大会中学の部で苫小牧正心館が三位入賞。
	61・7	札幌市	第34回北海道地区大学体育大会剣道女子団体で苫小牧駒澤短期大学が優勝。
	61・10	札幌市	第12回北海道女子学生剣道優勝大会団体の部で苫小牧駒澤短期大学が優勝。
	63・5	札幌市	第15回北海道女子学生剣道選手権大会で駒澤大学苫小牧短期大学（学名変更）の三浦弘美三段が優勝、菊地亜希子三段が二位、徳増英子三段が三位入賞、全国女子学生剣道選手権大会に出場。
	平成元・4	水戸市	第30回全国選抜少年剣道錬成大会で浅野千晶子（苫小牧正心館）が優秀選手に選ばれる。
	3・5	札幌市	第18回北海道女子学生剣道選手権大会個人戦で阿部明子（駒大苫小牧短大）が優勝。
	8・12	苫小牧市	第11回北海道スポーツ少年団剣道交流大会胆振A団体戦で苫小牧選抜が優勝、全国大会出場へ。
	10・6	札幌市	第22回北海道地区少年剣道錬成大会小学生団体の部で苫小牧真義館Aが優勝、中学生女子個人の部で藤田舞（同）が準優勝、全国大会へ出場。
	10・9	札幌市	第24回北海道女子学生剣道優勝大会で苫小牧駒澤大学剣道部が短大時代から通算し二度目の優勝を飾り、全日本女子学生剣道大会へ出場。

1022

軟式 庭球	昭和60・7 61・6	札幌市 札幌市	第31回全道実業団軟式庭球大会団体戦で苫小牧市役所Aが優勝、全日本実業団大会出場。 第8回北海道小学生軟式テニス大会男子個人で細野湖・伊藤義隆(苫小牧ソフトテニスクラブ)が優勝、男子団体戦でも苫小牧チームが優勝。 第11回北海道小学生軟式庭球大会で苫小牧ソフトテニスクラブの女子5年チームが優勝。 全道中学体育大会軟式庭球個人戦で佐々木ヒロミ・氏家美紀組(苫小牧)が準優勝、全国大会出場。 第22回北海道中学生インドアソフトテニス大会で小西卓・小野寺篤史組(苫小牧)が準優勝、全日本大会出場。 第15回全日本小学生テニス選手権大会男子団体の部で北海道チーム(堀一郎監督、選手のうち磯部伸也、渡辺賢二ともに澄川小)、女子団体の部で同(都田あゆみ、早坂麻衣ともに清水小)が全国制覇。 第20回朝日レディステニス記念全道大会ダブルスで苫小牧テニス協会の五十嵐とし子が札幌の選手とペアで優勝、全国大会出場。
柔道	昭和52・8 61・8 61・9 61・11 平成11・7	東京都 枚方市 東京都 東京都 札幌市	昭和52年度全国定時制高校体育連盟体育大会柔道の部に長谷川法明(苫小牧)が全国大会出場。 第16回全日本実業団柔道個人選手権で畑山一之四段(王子製紙)が三位入賞。 第23回東日本実業団柔道団体対抗大会三部で王子製紙が優勝。 全日本新人体重別柔道北海道予選95キロ超級で鶴間謙治初段(王子製紙)が優勝、全日本大会へ。 第52回北海道・東北対抗柔道大会個人戦で長谷川清志三段(王子製紙)が二年連続準優勝。 第12回全日本マスターズウエートリフティング選手権55〜59歳の部83キロ級で前川正喜(新王子製紙)が日本新記録を更新して三連覇、世界大会へ三年連続出場。 第9回北海道秋季ウエートリフティング競技大会兼95全道マスターズ選手権大会高校生の部108キロ超級で若林貴博(苫小牧)が優勝、同83キロ級で高尾幸司(同)が準優勝、マスターズ40歳以上76キロ級で前川正喜(山手町)と今野澄男(北光町)が優勝。 第16回全国身体障害者スポーツ大会で藤井洋美(苫小牧)が陸上競技の部(立ち幅跳び、ソフトボール投げ)で銀メダル獲得。 第1回北海道身体障害者アーチェリー競技大会で佐藤伸夫(苫小牧身体障害者アーチェリークラブ)が優勝。
ウエートリフティング	平成6・11	いわき市	
テニシング	11・7	旭川市	
身体障害者スポーツ	昭和55・11 61・8	宇都宮市 札幌市	

苫小牧市史（追補編）

身体障害者スポーツ	平成3・8	札幌市	第6回北海道身体障害者アーチェリー競技大会男子Bランクの部で松川隆志（見山町）が優勝、女子Bランクで外村マリ子（花園町）が二位入賞。
小学生陸上競技	平成10・7	室蘭市	第16回北海道小学生陸上競技大会5年男子一〇〇mで伊丸岡亮太（沼ノ端小）が優勝、全国大会出場また6年女子ボール投げで小林麻友（明野小）が三連覇達成。
	10・9	東京都	第14回全国小学生陸上競技交流会5年男子一〇〇mで道代表の伊丸岡亮太（沼ノ端小）が二位入賞
空手道等	昭和58・6	札幌市	第10回オーブントーナメント北海道空手道選手権大会で渡部昭次（若草小・極真会館高木道場苫小牧支部）が優勝、深川正伸（同）が三位入賞。
	平成11・6	札幌市	第18回北海道高等学校少林寺拳法大会女子個人演武・規定の部で伴辺望・久保愛（苫東高）が優勝

（『新聞切抜綴』スポーツ①・②・③』昭和四十八年〜平成十一年 苫小牧市史編集事務局編より作成）

注（1） 『苫小牧地区バスケットボール協会創立40周年記念誌・40年の歩み』 平成四年 苫小牧地区バスケット協会

第五章 観光とまつり

第一節 苦小牧の観光資源

一、苦小牧観光協会と観光対策

苦小牧観光 苦小牧観光協会（小保方一雄会長）は昭和六十三年（一九八八）五月の定時総会において懸案と協会の法人化 なっていた社団化に向けて「社団化特別委員会」（成田繁委員長）の設置を決めた。観光事業に対する期待が高まる中、これまで同協会は任意団体として推移、事務局も苦小牧商工会議所に委託され、専従職員がいな
いこともあって、大規模な観光事業の展開も限界にきているのが実情であった。このため同協会では同五十九年度（八四）から法人格を持つ社団法人化の促進を最重要課題に位置付けてきたが、同特別委員会の設置により一歩踏み出した取り組みとなった。

一方、同協会の社団化について苦小牧商工会議所（渡辺三郎会頭）は、全面的にバックアップすることとし、同会議所と市理事者との懇談会でも同協会の社団化実現に向けて強力な支援を要請した。これに対し市は同協会の社団化に前向きな考えを示し、市と観光協会、商工会議所の三者一体で具体的な活動が進められることになった。

平成元年（八九）四月二十五日、同協会の諮問機関「社団化特別委員会」は、協会の体質強化を図るため、法人化

を積極的に推進すべきとの結論に達し、その見解を小保方会長に答申した。これを受けて同協会理事会が五月十日に開かれ、同会長は社団法人化を提案、社団法人化とそのため「社団法人設立実行委員会」（会長兼務）の設置が承認された。苦小牧観光協会の平成元年度（八九）定期総会が開かれ、悲願の社団法人化促進を正式に機関決定した。

全道、全国規模の大会、競技会などの誘致を通じ、苦小牧の産業経済、文化、体育の振興を図ってきた「苦小牧市全道全国大会誘致連絡協議会」（会長・小保方一雄）は同三年（九二）四月一日、総会を開き大会誘致協の解散を決めた。同協議会は昭和五十九年（八四）一月に発足し、苦小牧市と苦小牧商工会議所、同観光協会で構成されていた。各種大会の誘致計画の策定、関係機関や関係団体との連絡調整、観光促進交流会への参加、来苦者の歓迎事業などを主な事業として取り組んでいたが、観光協会の社団法人化に伴い発展的に解消することになったのである。

苦小牧観光協会の法人認可が平成三年（九二）七月三日、道から正式に下りた。昭和二十四年（四九）十二月十日に任意団体として発足した苦小牧観光協会は、実に設立以来四十二年の歳月を経てようやく法人化された。このことにより社会的信用度がさらに確立され、人的体制や財政基盤も充実、各種積極的な事業の展開によって新しいリゾート、レクリエーション時代に対応していくことになり、その活動が大いに注目を浴びた。

道内で観光協会が社団法人化しているのは札幌、函館、旭川、室蘭、白老、登別、上富良野、千歳、小樽に次いで苦小牧観光協会は一〇番目となった。七月三十日には懸案であつた社団法人化を祝い、記念式典と祝賀会が盛大に行われ新しい船出となった。^①

観光大使の 苦小牧観光協会は平成八年（九六）三月、苦小牧市外に住む苦小牧出身者などを「観光大使」に任命 命 命し、苦小牧の観光を全国にPRすることを明らかにした。これは、かつて苦小牧に勤務していた愛着を持っている人や苦小牧に縁のある人、観光行政の推進に積極的な人などを観光大使に任命するというもので、名

刺や観光パンフレットを無料で配布し、それぞれの居住地区で宣伝活動を展開してもらおうという新規事業の一つであった。

初年度は「東京とまこまい会」の会員六〇〇人を中心に五〇人程度に委嘱し、苦小牧観光の魅力を広くPRしてもらうことにした。平成八年（九六）十月に出来上がった名刺は、苦小牧観光スポットの写真入りで、ハクチョウがたえずむウトナイ湖、神秘的な樽前ガロー、キャンプ客で賑わうアルテン、雄大な樽前山の四種類で、それぞれ「スケートとハスカップの街とまこまい」の観光スポットの写真を採用、同年十一月中旬までに観光大使五〇人を達成、苦小牧観光PRにかかわる観光大使の活動に大きな期待が寄せられた。

新千歳空港ターミナルへの出店 北の空の拠点・新千歳空港は平成四年（九二）七月一日、新旅客ターミナルビルがオープン、新しい航空時代への幕を開けた。同ビル二階に苦小牧観光協会の観光物産センター「ゆのみnon—no」が鳥越市長と小保方会長が一日店長を務め、同日オープンした。

同センターは、苦小牧と東胆振の物産販売と観光案内を兼ねた店舗で、ターミナルビルのテナント中では唯一観光協会が運営する物販店となった。苦小牧市産ホタテ、ホッキなどの貝類や海産物加工品、スモークサーモン、ハスカップ加工品、ラーメンなど食品や木彫民芸品のほか、穂別のメロン、鵜川のシシヤモなど東胆振の特産品を販売する一方、苦小牧と東



新千歳空港ビルのゆのみnon—no

胆振の各種観光パンフレットを置きPR、観光客らが立ち寄り幸先よいスタートとなった。

しかしながら、ゆのみnononoは苫小牧観光協会発足以来初めての収益事業であったが、特産品のイメージが弱く経営が伸び悩み、新製品の開発や発掘が課題となっていた。平成五年（九三）七月に空港内の販売店の売り上げ増を目的に店内改装を進める等の苦心も多かった。しかし、開店五年目の観光物産センターゆのみnononoは地元特産品を強化、売り上げアップを図っているものの店舗は二階の駐車場との連絡口付近にあり、生ものの海産物は販売できないという規制があり、ハスカップ製品などが中心の品ぞろえとなっていた。さらに搭乗口やセンタープラザから遠いという立地条件もあって赤字の厳しい状態から脱し切れず、協会では頭痛の種でもあった。

こうした折り、道が北海道輸入促進地域（FAZ）計画の第一弾として旧ターミナルビルで展開していた各種施設を新ビルに移転したのに伴い、同十年（九八）八月五日、ゆのみnononoは念願の移動がなかった。出店場所を移転した同店は売り上げが伸び始め、今後に大きな期待が寄せられた^②。

東胆振物産

苫小牧市は昭和五十九年（八四）三月、東胆振一市六町の産業と観光の振興を図るため「東胆振物

まつり

産即売観光展」の実現に向けて、各町と協議していくことにした。これは前年十一月に札幌で開催さ

れた北海道物産まつりでは各市町村が取り組んでいる一村一品運動で各地の特産、名産品などの展示、即売会が予想以上の成果を挙げたことが刺激となった。

苫小牧からも四業者が畜産品、菓子、海産物、弁当などを出品し、約一四五万円の売り上げがあった。こうした物産展を東胆振広域圏でも開催して、産業と観光の両面の振興に役立てていこうという構想であった。同年五月に開かれた東胆振広域振興協議会で開催が決まり、九月には実行委員会を発足させ、出品内容や予算、協賛事業などを細部にわたって決定した。

道の提唱する一村一品運動に添った官民一体の初のイベント「84東胆振物産観光まつり」が昭和五十九年（八四）十月二十七日から四日間、サンプラザを会場に開かれた。東胆振一市六町の四〇社から一三四品目の物産が並び人気を呼んだ。出品されたのは苦小牧の「ゆのみ羊かん」、白老の「ヌカにしん」、早来の「御幸ようかん」、追分の「スイートコーンハニー」、厚真の「ジンギスカン」、鹉川の「ししやも」、穂別の「長いも」など所狭しと並べられ、買い物客でごった返し反響は上々であった。

このほか、六階にはビデオコーナーも設けられ、一市六町の観光ガイドが常時放映されPRに努めた。また、穂別の纏太鼓の演奏、特別サービスとして穂別米、観光タオルなどが無料プレゼントされたほか、一市六町からも抽選により名産品がプレゼントされた。

ふるさと再発見を合言葉に開かれた同物産まつりは、初のイベントであったが、期間中の入場者は約一万人で、売り上げは目標の五〇〇万円を突破して、約六五一万円になり盛況のうちに閉幕した。

第五回を迎えた「88同物産観光展」（陛下のご病気でまつりを削除）が同六十三年（八八）十月二十八日から四日間、サンプラザ特設会場で開かれた。一村一品運動も定着し東胆振一市六町から三五店が出店、一五三品の特産、名産が出品されたほか、今年から西胆振三市一町が初参加して全体の出品数は一八一品にのぼった。シシャモをはじめハスカップ、カリンズ製品、えぞ白貝、タラコ、ジンギスカンなど、いずれも各市町が普及に力を入れている商品ばかりで、ダイエー苦小牧店の新装オープンと重なったこともあって、開店早々から大勢の市民でごった返した。また、会場の一角ではアイデア商品を集めた試作品展も開かれ、独自開発した技術やアイデアを凝らした作品が来場者の関心を誘った。

第一〇回東胆振物産まつりが平成五年（九三）十月二十二日から二十五日まで、サンプラザ特設会場で開かれた。

東・西胆振圏から三〇店が出店、農水産加工品や陶芸、木工品など各地自慢の特産品一六七点が所狭しと並べられた。二十三日には各首長が一日店長を務め、格安販売の売り込みに一役かった。一〇回目を記念したイベント、演歌歌手のミニコンサート、親子餅つき大会、記念特別抽選会など盛りだくさんの催しに会場は終日、買い物客で賑わった。

東胆振の特産品を一堂に集めた秋のイベントである第一五回同物産まつりが同十年（九八）十月二十九日、サン普拉ザで開幕した。同まつりは苦小牧市制施行五〇周年記念事業として、国際姉妹都市・ネーピアと国際友好都市・秦皇島市にちなんだ中国とニュージーランドの物産コーナーも開設され、ビデオを放映するなど来場者に両国の観光と特産物をPR、好評を博した。同物産まつりは十一月一日で閉幕したが四日間^③の延べ来場者数は前年比二七パーセント増の開催以来初めての一万八、〇〇〇人を超える大盛況であつた。

注（一）（二）（三）『新聞切抜綴—観光・レクリエーション』昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

二、観光地・観光資源の変化

観光地から野鳥の聖域 国土地理院発行の五万分の一図をみると「ウトナイ沼」となっており、「ウトナイ湖」となったウトナイ湖はなっていない。湖の定義では、中央部が沿岸植物の侵入を許さない深度五〜一〇メートル以上を有するものとなっており、ウトナイ沼の深度はせいぜい深いところで二メートルであるから、学術的に「ウトナイ沼」が正しいのである。^①

この沼が一般的有名となったのは昭和三十三年（一九五八）七月にウトナイ遊園地が設けられ、ここにウトナイ観



白鳥の遊ぶウトナイ湖

光ホテルが建ってからであった。一時は温泉も掘り当て、ボーリング場、ジギスカンコーナー、遊園地、パットゴルフ場などがあり、野外スケート場と白鳥の飛来があり、また、近くに市営ユースホステルも開設され、ウトナイ湖は苦小牧を代表する観光地の一つになった。

しかしながら、昭和五十年代後半（八〇）からウトナイ観光ホテルの経営が悪化し、同五八年（八三）二月四日に苦小牧港開発会社が施設一切を買収して、ホテルとボーリング場は改修し、温泉パラダイスを撤去して新たに郊外型レストランを建設、同年七月二十四日に全面オープンした。最初は自然を生かした景觀に人気があり、それなりの営業を続けていたが、バブルの崩壊後の不景気も手伝って次第に低迷し、営業そのものが成り立たなくなり、平成七年（九五）十一月五日に閉鎖したのである。

ところが、その一方ではウトナイ湖が野鳥の聖域として新たな価値観を有することになり、自然保護、野鳥保護が叫ばはじめ、観光地ウトナイ湖が変貌していく要因ともなった。

財団法人「日本野鳥の会」は昭和五十四年（七九）五月、ウトナイ湖周辺をボランティアの手による日本では最初のバード・サンクチュアリ（野鳥の聖域）として、ネイチャーセンターや観察小屋などの施設建設を進めると発表した。ウトナイ湖が選ばれたのは、渡り鳥の重要な中継基地であり一八六種もの豊富に鳥相を示す開発地域で、自然保護の必要が高まる人口密集地に近く、人と自然のふれ合いの場となるなどが理由

としてあげられた。^②

これを受けて昭和五十四年（七九）八月九日に日本野鳥の会苦小牧支部（紀藤義一支部長）が設立され、同五十六年（八一）四月、同サンクチュアリの運営、全体計画を協議する運営協議会がウトナイ観光ホテルで開かれ発足した。日本野鳥の会会員一万人が足かけ五カ年間の野鳥保護基金の募金一億円をもとに整備された「ウトナイ湖サンクチュアリ」の開所式が同年五月十日に行なわれ、新たなウトナイ湖が発見した。その後、同五十七年（八二）三月三十一日にはウトナイ湖一帯が国設鳥獣保護区に指定されたのである。

自然保護と自然教育の拠点となつてオープンから一周年を迎えたサンクチュアリ・ネイチャーセンターの来館者数は二万人を越す来訪者があつた。まさにウトナイ湖サンクチュアリはオープン一年目にして苦小牧の顔の一つになつた。野鳥の宝庫が自然鑑賞、観察として人気を集めることになり、同六十年（八五）五月、ウトナイ湖・美々川流域が「北海道自然一〇〇選」に選ばれた。さらにまた、平成四年（九二）一月十七日にウトナイ湖はラムサール条約湿地に登録され、市役所において「国際登録認定証」の交付式が行われた。

ウトナイ湖は野鳥保護、自然保護という別の意味での観光資源を有することになり、一方では工業開発も進められていて、いかにして両立させていくか今後において難しい問題も抱えているのである。

オートリゾート苦小牧 オートリゾート苦小牧（アルテン）構想は北海道開発庁の発表した「オートリゾート・ネット小牧（アルテン） トワーク計画」がそもそもの始まりであつた。オートリゾートパークは昭和六十三年（八八）七月の計画ではトキト沼を中心とする民有地を主に約四〇ヘクタールを対象としたが、土地所有者との交渉がまともならず、この計画を縮小し、錦大沼公園に隣接する市有地二三ヘクタールと同公園の一部を対象として整備を進めることに変更したのである。

しかし、この計画は市農業委員会、市都市計画審議会で公園区域拡大が問題視され論議を呼び、自然環境保全審議会でも強い反発があった。一方、同リゾートパーク計画に関して市と苦小牧自然保護協会との話し合いが昭和六十三年（八八）十二月二十七日に行われ、保護団体側は自然保護地域と利用地域の明確化などの注文をつけ、同計画に不透明な部分が多いことから話し合いを継続することを求めたのである。

こうした中で苦小牧市は、平成元年（八九）三月九日、錦大沼公園で進めるオートリゾートパーク計画の基本計画を明らかにした。同構想では同公園（二二・七ヘクタール）のうち約四五ヘクタールを開発し、第三セクターが運営する有料のオートキャンプ場、乗馬場、カヌー基地、パークゴルフ場などの施設を特色とし、無料の都市緑化植物園、日帰りキャンプ場などを整備、スポーツ、レクリエーション活動のほか自然観察、体験学習などの教育的活動も出来るようにするというものであった。

市は同元年九月十四日に錦大沼公園オートリゾートの動・植物、自然景観、大気、水質、騒音・振動など環境保全や公害防止に関する環境影響調査結果を自然環境保全審議会に報告し、審議会は環境への影響は少ないとの結論を出して大枠で了承した。これを受け市は、同月二十日に「オートリゾート樽前」（仮称）の年次別建設計画をまとめたのである。

同事業計画では同元年度から同四年度（九二）までを一期、同五年度（九三）から同七年度（九五）までを二期とし、同四年の暫定開業を目指しキャンプینگカーサイト（キャンプ場）、修景池（調整池）に始まり、センターハウス、トイレ・炊事棟、青少年キャンプ場、デイキャンプ場を順次着工し、第三セクターの行う工事も同三年（九一）からスタートさせる計画であった。

なお、公共事業分合計二三億二、〇〇〇万円の財源として補助金八億九、三〇〇万円、起債一〇億八、七四〇万円

を見込み、一般財源から三億九、〇〇〇万円を支出する計画も合わせてまとめた。^③

オートリゾート樽前の開発面積は約四五ヘクタールで上下水道、キャンプ場、駐車場など基盤部分の整備は市が公共事業として手がけ、営利部分のクアハウス（多目的温泉保養施設）、コテージなどの建設については第三セクターが当たることにし、総事業費は約三三億円を見込んだ。この事業主体となる第三セクター設立へ向け、発起人会（市など四者で構成）の初会合が平成三年（九一）十月二十五日、苦小牧市役所で開かれた。発起人会のメンバーは市のほか、北海道コカコーラ・ボトリング、道環、山大産業の四者で、出資者構成は市のほか、金融機関三社、報道機関三社、三井グループ四社、地元企業九社の計二〇社とすることを決めた。苦小牧オートリゾート（本社苦小牧市字樽前四二一、資本金一億五、〇〇〇万円）の創立総会と取締役会が平成三年（九一）十一月二十七日、ホテルニュー王子で開かれた。代表取締役社長には前苦小牧市監査委員の池野昌利を選任した。

苦小牧オートリゾートの名称は平成四年（九二）二月二十日、「オートリゾート苦小牧」に、愛称を「ARTEN（アルテン）」とすることを決めた。愛称は苦小牧オートリゾート、ティアラ、アクト苦小牧、パパ苦小牧、レパ苦小牧の中から選ばれ、オートのA、リゾートのR、苦小牧とテナントのTENを組み合わせて「アルテン」とした。

平成四年（九二）七月、オートリゾート苦小牧「アルテン」はオープンを前にすべての工事が完了した。苦小牧の滞在型観光の活性化を担うオー



オートリゾート苦小牧アルテン

トリゾート苦小牧（アルテン）が平成四年（九二）七月二十五日、樽前の錦大沼公園内にオープンした。

完成したのは八〇サイト（区画）のオートキャンプ場で、上下水道や電気、衛星放送も入るテレビ電源などデラックスな装備が誇りとなった。全面完成すると二三〇サイトまで増え、国内最大規模となる。さらに四〇〇人収容の青少年キャンプ場、管理棟であるセンターハウス、マウンテンバイクの専用コースを備えた多目的広場や野外ステージもある親水公園も完成した。オープン初日はあいにくの雨模様となったがオープン記念式典を実施、華やかに開業した。このあとオーブンディングイベント「YOU・遊・ゆう」とまこまい子どもキャンプ祭など各種のイベントが繰り広げられた。

オートリゾート苦小牧「アルテン」が、日本オートキャンプ協会の同五年度（九三）「四つ星」マークのオートキャンプ場に認定された。星マーク制度は、オートキャンプ場選びの目安のほか、キャンプ場自体の施設管理や整備のレベルアップを図ることを狙いに昭和六十三年度（八八）に創設されたものである。

国内にはオートキャンプ場を含めて約二、五〇〇カ所のキャンプ場があるが、同協会のキャンプ場整備委員会がキャンプ場診断士部会の意見を参考に格付けを行ったものであった。四つ星には昨年オープンしたばかりのアルテンのほかマオイオートランド（長沼町）、グリーンステイ洞爺湖の道内三カ所を含む六カ所が認定された。

「今年こそオートキャンプのメッカに行こう」をテーマに日本オートキャンプ協会主催の「第三回全日本オートキャンプ北海道大会」が平成五年（九三）八月十二日から十六日まで五日間の日程でオートリゾート苦小牧（アルテン）で開かれた。道内で開かれるのはこれが初めてで全国各地から三〇〇家族、一、〇〇〇人規模が参加し、オートキャンプを通じて交流を深めた。⁽⁴⁾

苦小牧市農業委員会の総会が同五年八月二十六日、市役所で開かれ、苦小牧オートリゾートが温泉試掘調査のため

農地を一時転用する許可申請などに関する議案を審議、原案通り可決した。苦小牧オートリゾートは温浴施設建設のため周辺の地質調査を行い、火山性の泉源が存在する可能性が高いとして市内樽前の市有樽前放牧場北側を試掘場を選定した。

アルテンが開業から四年目を迎えた平成七年（九五）六月には、日本キャンプ協会の最高位である「五つ星」キャンプ場の認定も受け、道内外のキャンパーの人気を集めハイグレードのキャンプ場として、苦小牧の滞在型観光活性化の起爆剤として、その一翼を担う様相を呈してきた。

同八年度（九六）のオートキャンプ場マーク制度の最高位である「五つ星」にアルテンが三年連続の受賞となり、全国一ランクの「お墨付き」となり、さらに全国のキャンパーの人気上昇した。同協会が全国のキャンパーを対象に実施した「もう一度行きたいキャンプ場」アンケートで、オートリゾート苦小牧市（アルテン）が全国九位にランクされた。

苦小牧オートリゾート（本社苦小牧・占部一誠社長、資本金二億八、〇〇〇万円）は同八年（九六）九月、アルテン敷地内で温泉掘削工事をスタートさせた。通年施設としての需要を高めるための同社の「クワハウス」（温浴施設）開設計画は積年の課題であった。平成年代に入って市内には大型浴場が次々にオープンしたこともあり、採算性などから建物規模を含む計画は二転三転し、計画は遅れ気味に推移していた。

同月二十七日には温泉ボーリング工事の安全祈願祭が行われた。キャンプシーズン最盛期となる来夏までに露天ぶろを開設する計画で地下一、八〇〇メートルまで掘削する工事がこの日から始動した。四年連続「五つ星」マークの最高位となったアルテンの温泉ボーリングは平成九年（九八）三月二十七日までに温泉を掘り当てた。

同社はボーリング業者の日鉱探開（本社東京）へ作業を委託し、温泉掘削工事を進めていた。工事は最終的に地下

一、八五三・四メートルまでボーリング、念願の温泉が湧出した。湯温は四九度もあり、湯量は毎分一三〇リットルで泉質は「ナトリウム・塩化物強塩泉」で色は無色透明、皮膚病や神経痛に効能が期待できるとあり、平成九年（九八）七月までに露天ぶろが開設されることになった。

市は同十一年度（九九）予算案にアルテン敷地内の温浴施設建設費として一〇億一、〇〇〇万円を計上した。レスハウス西側に建設した建物は、鉄筋コンクリート造り平屋建て、延べ二、〇九一平方メートルで、施設内に大浴槽、気泡浴、サウナ、みずぶろ、打たせ湯、ハーブ湯、寝湯を設置した。このほか、休憩室（和室と洋室各一室）、ラウンジ、売店、レストラン「湯待夢」、マッサージコーナーなどが設けられた。

市はオートリゾート・アルテンに平成十一年（九九）十月八日、温浴施設「ゆのみの湯」をオープンした。午前十一時から落成式を行い、午後三時に営業を開始、オートキャンプ場の新しい目玉誕生で利用者増の相乗効果が期待される新名所となった。運営する苦小牧オートリゾート（村岡実社長）は、キャンパーを含め年間一五万人の利用を見込んだ。⁽⁵⁾

樽前ヒュッテ 樽前山七合目の市営ヒュッテ（標高七二〇メートル）は昭和三十三年（五八）に開設、面積二〇平方メートル、方メートル、休憩、宿泊人員一五人、管理人常駐の施設として樽前山登山観光道路（約六、八〇〇メートル）七合目に建設された。築後二五年を経て老朽化が進み建設以来の改修工事が同五十八年（八三）十月に始まった。屋根の塗装、外壁張り替え、窓の二重化などのほか、壁には断熱材を入れて厳寒に耐えられるよう改修され、工費は約三〇〇万円であった。同時にヒュッテ前の五〇台収容の駐車場を新たに造成、大型バス一二台を含む三〇〇台収容に拡張された。

樽前山七合目ヒュッテ無人化について同六十一年（八六）十月、市議会で問題となった。板谷實市長は同ヒュッテ

の通年無人化を原則とする考えは変わらないが、今冬は従来通り管理人を常駐させると表明した。これは当面の無人化が凍結されたものであったので、しばしばこの問題が論議されていた。

この問題について鳥越忠行新市長は昭和六十二年（八七）五月、同ヒュッテの管理体制については従来通り市嘱託職員による常駐の管理を続ける方針を固めた。これにより論議を巻き起こしてきた同ヒュッテ管理問題は、すべて解決された。

同ヒュッテには管理人が通年常駐しているが、これまで不十分だった日曜日、祝日などの連絡体制を強化するため同六十三年（八八）六月から待望の無線電話が設置された。同ヒュッテの通信手段は防災無線と消防無線の二種が配備されているが、事務連絡用の防災無線は夜間や土曜日の午後、日曜日、祝日などは連絡の受け手となる市役所職員がおらず通信は不能、このため消防無線で苦小牧市中央消防署に連絡し、消防署を通じて連絡がとれるようになった。

樽前ヒュッテは登山者にとっては極めて大事に施設であり、初めて訪れる人にとつてもありがたい施設で、ある一面では観光的な側面も持つものである。

市営モーラップ休憩所「樽前荘」は昭和二十七年（五二）八月二十日、支笏湖畔モーラップキャンプ場に建設費二、一三二万円をかけて完成し、翌二十一日から一般観光客に開放された。二階建ての面積二七三平方メートルで六〇人の簡易宿泊休憩所で階下休憩は無料、階上休憩及び宿



ライダーで賑わった旧樽前荘

泊は有料とした。昭和三十二年度（五七）から天幕を備えつけ貸し出しを始めた。

市は観光拠点施設の一つとして樽前荘を直営、好評を得て利用客で賑わってきたが、同六十年（八五）から利用料金の値上げなどが影響し利用者が激減した。五月から十月まで営業している樽前荘は同六十一年度（八六）は六一八人と前年の半分に、特に一般は前年の一、二八三人が四八九人と約三分の一の利用者にとどまった。

これは宿泊料金を一般で二〇〇円から六〇〇円に一挙に三倍へ値上げしたことによるものであった。ここ数年オートバイによる道内旅行者が口コミで増え上向き傾向であったが、一挙に敬遠される結果となった。建物も老朽化してこのままでは利用増に転じる要素はなく、積極的なPRや観光施設としての抜本的な見直しに迫られた。

施設の老朽化問題を抱える市営休憩所「樽前荘」の運営あり方について協議してきた苫小牧市樽前荘・ユースホステル運営検討懇話会では樽前荘は存続するとの方針を固め、市長に提言した。

市は平成五年（九三）十二月、宿泊者が伸び悩む市営樽前荘とユースホステルの運営懇話会を設置、今後の運営のあり方について提言を求めた。このなかで施設の存廃を含めた議論が話題となり、宿泊者からは市あてに廃止阻止を訴える投書が郵送されるなど反対運動が巻き起こった。首都圏や近畿圏など過去に利用した全国のライダー仲間施設廃止のうわさが話題を呼んだものであった。

樽前荘は老朽化のため平成十年（九八）八月から一時休業し全面改築が始まった。新樽前荘は総工費一億二、〇〇〇万円で着工し、木造二階建て三三二平方メートルでログハウス風、五人部屋が五室、八人部屋が三室設けられ、同十一年（九九）六月二十九日に完成し、七月一日に新樽前荘がオープンした。⁶

フアンタジー 平成元年（八九）五月四日、大手スーパ―長崎屋はJR苫小牧駅北側に隣接する木場町に全天候ドーム型室内遊園施設「フアンタジー・ドーム」の建設計画を発表した。同ドームは最頂部の高さが五〇

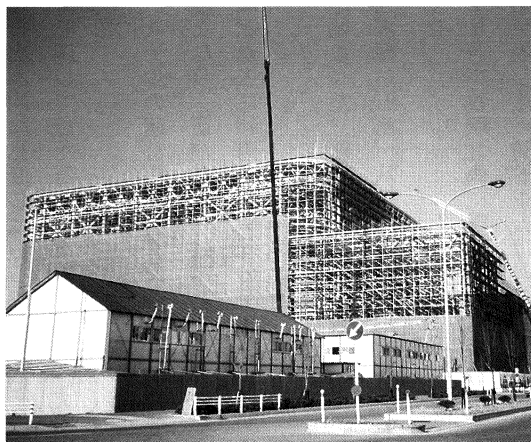
メートルに達する大規模なもので、室内施設には時速八五キロのスーパードラッグコースターなど大型遊具二五種を配置するほか、輪投げや射的を楽しむカーニバルコーナー、飲食店を集めてフードパークなどを開設するというもので、平成元年（八九）七月二十六日に現地で起工式を行なった。

施設面積約一万四、〇〇〇平方メートルに鉄筋造りコンクリート四階建て、延べ三万七〇〇平方メートルのフード付き遊園施設は一五〇億円で、長崎屋の系列会社サンランドが出資して設立した現地法人「ファンタジーランドとまこまい」が担当することになった。

新しいショッピングセンター戦略として、建設を進めていた同ドームの竣工式と長崎屋苦小牧店との連絡通路スカイウエーの開通式が、同二年（九〇）八月三十日に行なわれた。全天候型の大規模レジャー施設を建設したのは流通業界では初めてのことであり、年間八〇〇一〇万人の入場者を見込んで、同年九月五日にファンタジー・ドームがオープンした。

長崎屋と子会社のサンファンタジーランドとまこまいは、同八年（九六）十一月二十九日にファンタジー・ドームを来年一月十六日に閉鎖すると公表した。閉鎖後は改装したうえ長崎屋苦小牧店が移転し、売場面積を拡大して同十年（九八）三月六日に開店した。

サンファンタジーランドとまこまいは約一五〇億円を投資してファンタジー・ドームをオープンさせ、同ドームと



建設中のファンタジードーム

苦小牧店を結び物販との相乗効果をねったが、景気の低迷などもあって苦戦続きであった。入場者数は当初年間八〇万人を目標にしたが、最大のピーク時でも五五万人にとどまった。入場料の無料化などで集客アップを試みたが、同八年（九六）二期の累積赤字は六八億円に上り、大幅な経営改善にはつながらなかった。なお、旧長崎屋の建物は系列会社トモールが引継ぎ、平成十一年（九九）十二月に遊戯施設・飲食施設等の一部が開業した。⁽⁷⁾

バブルの崩壊など景気の低迷はあるにせよ、またもや観光施設の閉鎖である。業者の見通しの甘さ、集客方法のまずさもあるが、苦小牧には大がかりな観光施設は育たないとのジンクスもあるのではないのか。ウトナイ観光ホテル（レイクホテル）、シヨイランド樽前、樽前ハイランド、白鳥湖観光ホテルなども同じみちを辿ってきているのである。

その他 シヨイランド樽前は株式会社道王（本社苦小牧）が市内錦岡の丘陵地に昭和五十年（七五）八月二日の施設 十日オープンした。道内で初の総合的なレジャー施設で貸別荘のほか各種スポーツ施設、温泉、遊具などが整備され、家族揃って自然を満喫できるとのキャッチフレーズのもとオープンと同時に会員募集を開始した。

総面積は約二一万平方米で敷地内には貸別荘のほか温泉大浴場、レストラン、バー、テニスコート、健康センター、ゴルフ練習コース、貸農園などの各種施設が整備された。

シヨイランド樽前を営んでいる道王は同五十四年（七九）四月、北海道野性動物公園をオープンした。ライオン、シベリアトラ、ヒョウ、アライグマなどの猛獣をはじめツル、キンケイ、クジャク、インコなど八〇種、一、〇〇〇頭、羽を収容、樽前山ろくは動物王国に変身した。

しかしながら、動物の飼育に不手際があり、多くのライオン等を死亡させてしまった。このため、道の指導を受け、多額な負債を抱え経営が行き詰まり、道王は同五十八年（八三）六月、倒産に追い込まれた。道王は事実上の倒産となったが、施設としての北海道野性動物公園は債務弁済の肩代わりとして別会社に賃貸され運営されることになった。

同公園は昭和五十九年（八四）七月、新装オープンした。世界珍獣の一つに数えられるボンゴのほか、アライグマ、キンカジウなど新たな動物も加わった。

同動物公園でカニクイザル一〇匹が同六十年（八五）十二月、飢えと寒さのため相次いで死亡、同公園冬季の暖房を電気に頼っており、電気料未納で送電を止められたため、動物たちは寒さに凍え、体力のないカニクイザルが全滅した。この事故で道は処分、指導後、初の立ち入り検査を行った。

ジョイランド樽前の野性動物公園は折からの不況と入場者の激減で経営不振となり同六十二年（八七）二月、当面再開のメドも立たず事実上の倒産に追い込まれた。

TBS樽前ハイランドは、同四十五年（七〇）十一月十四日に市内樽前の同ヘルスセンターで完成式を行い、森と湖の大自然を生かしたファミリールンドの誕生を祝った。完成したのは二〇〇人収容の大広間をもつヘルスセンター、年中泳げる温水プール、自然を生かしたボニー牧場、プロムナード、しいたけ園、ホテルなどで同月十五日オープンした。

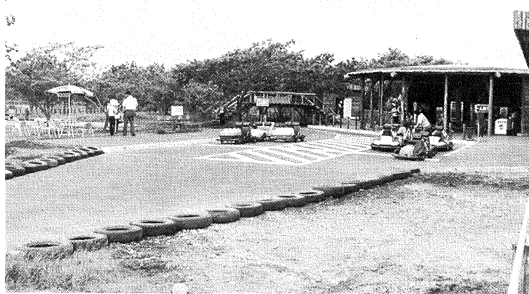
同ハイランドは国道36号から二・五キロ山側へ入った地点で第一期工事は三三〇万平方メートルの敷地内に総工費五億五、〇〇〇万円を投じて、鉄骨コンクリート地下二階、地上四階建てのホテル、同平屋建て温水プール、同二階建てヘルスセンターなどの施設が竣工した。

同ハイランドはホテル、温水プールに引き続き翌四十六年（七二）四月には貸しボートや子ども用ゲーム施設を開放した。特にわが国では千葉県行川アイランドでしか見られない、南米のチリから輸入したフラミング（別名ベニツル）の華麗なショー（二〇〇羽）が繰り広げられた。

フラミングショーを呼び物にしていたTBS樽前ハイランドが折からの不況で道内人口が減少しているうえ、ここ

数年、夕張や留寿都に大型レジャー施設がオープンし、客足が奪われ経営不振に陥った。そのうえオープンしてから十五年を経て施設全体が老朽化し、巨額を投じて一新しなければ入場者増も見込まれない状況にあつて、再利用や再開の見通しも立たず、昭和六十二年（八七）四月をもって休業となった。同施設の人気者フラミンゴ一〇六羽（減少）はそれぞれの施設に引き取られた。⁸⁾

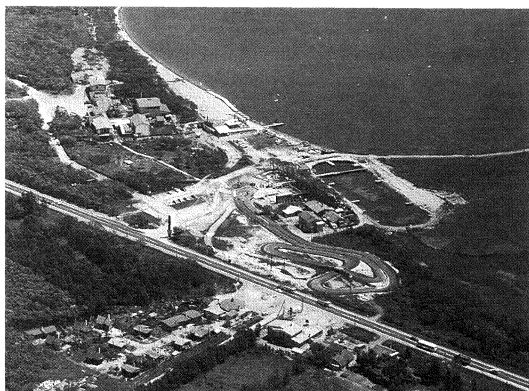
森田遊園地は市内樽前奥地の森田沼周辺が整備され、昭和四十九年（七四）五月一日から「森田遊園」としてオープンした。森田沼は周囲四キロでこの沼の持ち主である森田哲也が約一、〇〇〇万円をかけてツツジ五〇〇本を植え



ジョイランド樽前



TBS 樽前ハイランド



繁栄したウトナイ湖畔一帯

たほか、あずま屋を建て、売店をつくるなどして沼の周囲を整備、ボートも導入した。

国道36号から車で三〇分程度のところにあるこの沼の周囲では、これまで青少年団体などが自然と親しむ場として利用されてきた。森田は今後家庭レクの場として利用してもらうことにし施設などはあまりつくらない方針だという。

白鳥湖温泉の沼は持ち主の名をとり丹治沼とも呼ばれていたが、昭和三十六年（六一）五月に千歳の時計店経営者であった五十嵐直蔵が丹治沼の東側高台に温泉ホテルを建て、これを「白鳥湖温泉ホテル」としたため、白鳥湖の名が定着した。沼の前方には遊園地も設けられ、野外バーベキュー、ボート遊びなどで一時は静寂な沼として人気を集めたが、同四十三年（六八）ごろから営業不振になり、同四十四年（六九）十二月に丹治林業が買収、営業を続けた。その後客足の減少により、平成四年（九二）三月にホテルを廃業した。⁹⁾

王子サービセンターが健全娯楽施設として巨大迷路「ファミリールンド・ラビイ」を昭和六十三年（八八）三月十一日、現地で地鎮祭を行い工事に着工した。名称のラビイは英語の「迷路」の意である。巨大迷路は市内花園町の同社花園店西側隣接地約三、三〇〇平方メートルの敷地に約一億円かけて建設するもので、アスファルト舗装した上に高さ二メートル前後の板べいを張り巡らせ、スタートからゴールまでの平均歩行距離は三キロとした。迷路内を約一時間で回れるようにするほか、鉄骨ブリッジを二カ所に設置し、迷路内を一望できるように工夫された。巨大迷路は同年四月二十七日オープン、待ちかねた子どもたちやお年寄り、幼児を連れだった父母など家族連れの姿が多数見られ大へん賑わった。しかし、オープン七年後の平成六年（九四）九月十五日、施設の老朽化と集客力の激減などの理由で閉鎖となった。

その外に平成元年（八九）三月二十四日宇美沢に開設した乗馬を主体とするノーザンホースも観光施設として脚光を浴びている。

注(1) 『苦小牧市史―上巻』 昭和五十年 苦小牧市

(2) 『ウトナイ湖ラムサル条約湿地登録記念誌』 平成五年 苦小牧市

(3)(4)(5) 『新聞切抜綴―観光・オートリゾー』 昭和六十二年〜平成十年 苦小牧市史編集事務局編

(6)(8) 『新聞切抜綴―観光・レクリエーション』 昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

(7) 『苦小牧民報』 平成八年十一月三十日号

(9) 『角川日本地名大辞典①北海道 上巻』 昭和六十二年 角川書店

三、娯 楽 施 設

市内におけ 苦小牧市内においてこれまでに温泉が噴出した例は多くあるが、いわゆる温泉営業を続けているとる温泉施設 ころは、湯遊クラブピア、湯けむりパーク湯らん銭、ニュー健康オアシス湯らり、アルテンゆのみの湯、いといの湯等がある。

湯遊クラブピアは平成四年(九二)に藤コーポーションの経営する「風呂館海の扉」として開設されたが、四年後に「湯遊クラブピア」と改称した。冷泉であるが、成分に塩化ナトリウムを含んでおり、天然温泉である。

湯らん銭は日新町ショッピングモール街にパチンコ店経営者により公衆浴場として開業したが、使用する地下水から温泉となる成分が含まれていることが判明した。温泉は温度が二五度以上か、水分中に炭酸水素ナトリウムやメタけい酸が一定量含まれている場合とされ、湯らん銭の場合水温は一度程度であったが、水分中の物質が一定量を超えていたので、同八年(九六)八月七日に北海道温泉協会から許可され、天然温泉の看板を掲げることになった。

アルテンゆのみの湯は平成八年（九六）九月二十八日に約一億四、〇〇〇万円をもってボーリングに着手し、翌九年（九七）三月二十七日に地下一、八五三メートルの地点で四九度のナトリウム塩化物強塩泉を掘り当てた。七月二十日には露天風呂「樽前」（水着着用）として開業したが、同十年度（九八）に総工費約一二億円をもって延べ二、六〇〇平方メートルの本格的な温泉棟の建設に着手した。この温泉施設は公募により愛称を「ゆのみの湯」（名付親・竹田正博）とし、同十一年（九九）十月八日にオープンした。^①

いといの湯は和風レストラン「荒狗路（あらくじ）苦小牧店」を経営する（株）グルメボーイが同十一年（九九）十一月に隣接地に開設した割烹温泉である。塩化ナトリウムを含む天然泉で、神経痛、関節痛、慢性消化器病、婦人病、冷え性等に効能があると言われている。

ニュー健康オアシス湯よりは同三年（九一）十二月八日に市内柳町で漢方励明薬湯苦小牧健康センターとして開業した。当初より塩化ナトリウムを含む天然温泉と薬湯によりそれなりの利用者を得ていたが、遠距離、高料金、馴れなどもあって五年後から経営が悪化し、同十年（九八）には経営者、名称とも変わっている。

閉鎖された ウトナイ観光ホテルは昭和四十三年（六八）に建設され、さらに温泉パラダイスを建設し、郊外の天然温泉 観光地として人気を博していた。当初は五〇〇メートルほどの浅部の温泉を利用していたから、色は



アルテンゆのみの湯

黒ずんだ茶褐色であった。その後一、五〇〇メートル以下からの温泉を掘り当て、無色透明の温泉となった。しかし、一時は温泉とジンギカン鍋のほか、ボーリング、ゴーカート、パットゴルフなどの遊戯施設により、宴会や日帰り客も多くあつて、苦小牧の奥座敷とも言われたが、自然保護の高まる中で温泉・食堂・遊戯施設とも利用者の減少による不況に見舞われ、昭和五十八年（八三）七月に苦小牧港開発に買収された。その後も同社によりレイクホテルとして温泉営業も続けられたが、平成七年（九五）十一月五日を最後に全面閉鎖し長い温泉の歴史を閉じたのである。

白鳥湖観光ホテルにおいても塩化ナトリウムを含む天然泉が噴出し、営業を引き継いだ丹治林業においても温泉経営を続けていたが、レイクホテル同様不況に陥り、平成四年（九二）三月をもって閉鎖した。

苦小牧温泉は市街地の歓楽街である大町の「サウナイン苦小牧」が地下水を汲み上げようと掘った井戸水が二五度には満たないが、弱アルカリ性の「冷鉱泉」と診断された。平成三年（九一）十二月二十日から「苦小牧温泉」と改称して営業を開始した。当初はかなりの人気を得て流行っていたが、そのうち飽きられ利用数が減少し、現在は休業中である。

五徳温泉は有明町にあった温泉で、平成二年（九〇）七月に温泉ホテル海洋亭として開業したが、一年ほどで閉鎖した。同四年（九二）一月三十一日には天然秘湯「五徳温泉」として再開し、冷泉を三七〜三八度で加熱し、温質は炭酸分、硫酸分を含む強塩泉で湧出量は毎分三二〇リットルの天然温泉であった。入浴後の休憩ができる大広間にはカラオケ装置なども用意し、浴衣、タオルは無料で貸し出しグループ利用には無料バスが送迎していたが、二年余りで利用減が続ぎ、休業状態となり間もなく閉鎖となった^②。

昭和五十年以降 昭和五十年（一九七五）二月現在の苦小牧の映画館は旭館、王子娛樂場、日劇、遊樂館の四カ所の映画館の変遷 所であつた。その後、幾多の変遷があつたが同五十五年三月には九館と最も多い数字であつた。

映画館の小型化やアダルト映画の登場で新しい館が出来たが、反面古い伝統を持つ映画館が姿を消したのもこの前後であった。

苦小牧では最も古い娯楽と文化の殿堂として七〇年余（大正四年開設）の銀幕の歴史を刻んできた王子娯楽場は木造建築であるが故に、老朽化も激しく危険な建物になったうえ、映画界の不況もあって取り壊されることになった。昭和五十七年（八二）五月三十一日、サヨナラ王子娯楽場映画祭が開かれ、惜しまれながら閉館した。そして六月十一日から解体が始まり、八月一日より娯楽場パーク駐車場に変わった。^③

苦小牧で初めて常設映画館として大正十一年（二二）五月に開館した旭館は、その名称の通りを旭館通りと呼ぶほど親しまれた施設であった。映画黄金時代には収容人員四〇〇人の大型映画館でありながら、立ち見があるほどの盛況ぶりであったと言われた。しかし、テレビの普及と映画産業の斜陽化により入場者は激減し、大型映画館では経営も成り立たなくなっていた。昭和六十一年（八六）四月二十七日には「火宅の人」の上映を最後に六四年間の銀幕の歴史を閉じたのである。

昭和五十年以降に開設された映画館は苦小牧日活、松竹セントラル、サンテアトル、苦小牧東宝、苦小牧スカラ座、日劇2、シネマ・トールス、ストリップ劇場としてデラックスショー劇もあったが、この中からも閉鎖を余儀なくされる場所もあり、平成十一年（九九）四月現在で苦小牧の映画館は、サンテアトル、シネマ・トールス、セントラル映劇、苦小牧東宝、苦小牧日劇、苦小牧日劇2の六館である。^④

注（１）『新聞切抜綴―観光・オートリゾット』昭和六十二年～平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

（２）『続苦小牧市史年表』平成九年 苦小牧市史編集事務局

(3) 『苦小牧民報』 昭和五十七年五月三十日号 苦小牧民報社

(4) 『タウン&ハローページ』職業別・50音別電話帳、苦小牧・日高地方』 平成十一年 NTT

第二節 各種まつりと市民

一、苦小牧のまつり

昭和五十年以降の 昭和五十年（一九七五）の港まつりは第二〇回を迎え、八月八日から三日間、元王子球場とまこまい港まつり 横広場（現グランドホテル・ニュー王子）をメイン会場に「二〇歳の年輪みんなのまつり」をテーマに一三万市民総参加のもとに繰り広げられた。まつりの中心行事は仮装パレードで、個人や各企業から一四の出し物が参加、三日間の人出は延べ四八万人を超す人出となった。「希望とやすらぎへの出発（たびたち）」をテーマに同五十一年（七六）八月六日から三日間第二一回とまこまい港まつりが行われた。メイン行事となった市民おどりパレードには、町内会を中心にして四一団体、二、五〇〇人の市民が参加して鉄南、鉄北の二コースに分かれて長いおどりの列が続いた。沿道には約六万五、〇〇〇人の市民が詰めかけ短い北国の夏を楽しんだ。

第二六回とまこまい港まつりは同五十六年（八一）八月七日から三日間、元王子球場を主会場に行われた。メイン行事の市民おどりパレードには史上最高の五七団体、四、二〇〇人が参加して繰り広げられたが、途中激しい雨に見舞われ中止となった。市民おどりが中止されたのは同四十五年（七〇）に市民おどりが初登場以来初めてのことであつ

た。

開港二〇周年、市制施行三五周年を祝う第二八回とまこまい港まつりが昭和五十八年（八三）八月五日から開幕した。三日間とも快晴に恵まれメーンの吹奏楽パレードには、幼稚園から市内小中高校や企業の一五団体、一、一〇〇人が参加、見事な演奏パレードを繰り広げた。このほか港公園ではポートフェスティバルが行われヤングを中心に三万人の人数で賑わった。「海に大地に咲かせる未来」をテーマに、第三〇回とまこまい港まつりは同五十九年（八四）



とまこまい港まつり

八月二日からメーン会場を若草町の中央公園お祭り広場に移して行われ、三日間の人数は史上最高の三万四、〇〇〇人を記録した。メーンのマーチング・フェスティバル、ポートカーニバルは見物の市民の人垣で埋まった。このまつりには姉妹都市のネーピア、八王子、日光からの参加もあり最高の盛り上がりを見せた。

「港にロマン、あしたに拓け、若いまち」をテーマに第三三回とまこまい港まつりは同六十二年（八八）八月五日から繰り広げられた。苦小牧二一五年、市制施行四〇周年、開港二五周年を祝つてのまつりは、ネーピア市のデイヴィット・ブリベンス市長も参加して親善の踊りを熱演した。第三五回とまこまい港まつりは「希望の港、大きく育て、わが郷土」をテーマに、平成二年（九〇）八月一日から三日間豪華に繰り広げられた。まつりのメーンである市民踊りには町内会や事業所などから六七団体、約五、〇〇〇人が参加、マーチング・フェスティバル、納涼市民おどりなどのイベントが次々に登場

した。また、若草中央公園では初めて取り組んだ「協賛店」も終日賑わいを見せ、三日間の人出は四五万一、〇〇〇人と連日猛暑の中、市民はまつりに酔いしれた。

「育て若い芽、とびだせ世界の海へ」をテーマに第四〇回とまこまい港まつりは、平成七年（九五）八月四日から三日間の日程で行われた。メーン会場の若草中央公園には、市民手作りの協賛店七四店やビアガーデンが開店、家族連れで賑わった。また、苦小牧港と中国・秦皇島港の国際友好港締結一〇周年を記念して来客した「中国交通部秦皇島港訪日代表团」の王世宝团长、朱福昌副团长らも参加、市民から熱烈歓迎の拍手を受けた。

「出会い、感動、港輝く」をテーマに第四三回とまこまい港まつりは同十年（九八）八月七日から三日間行われた。市制五〇周年記念にふさわしい多彩な催しに市民の熱気が溢れ三六万二、〇〇〇人の人出で賑わった。若草町の中央公園には地元企業や市民グループ協賛の出店一一九店が軒を並べた。最終日は一日の人出としては過去最高の延べ二〇万二、〇〇〇人が繰り出した。恒例のマーチング・フェスティバルやポートカーニバルのほか、これに全国郷土芸能まつりのパレードが合流し、青森の「ねぶた」、秋田の「竿頭」、沖縄の「エイサー」などが威勢よく登場し、参加団体と観客が一体となってまつりを盛り上げた。

「夢・人・もつと熱い夏」をテーマに第四四回とまこまい港まつりは、平成十一年（九九）八月六日から三日間、若草町の中央公園を主会場に多彩なイベントが繰り広げられた。中央公園には事業所や市民グループによる一〇九の協賛店が出店、ビアガーデンは開会式前から混雑が始まった。中心街では港まつりの華、市民おどりが行われ一八町内会、三一の事業所など四九団体、約四、三〇〇人の市民が「苦小牧おどり」と「とまこまいサンバ」を交互に熱を帯びた踊りを披露した。また、マーチング・フェスティバルやポートカーニバルなどの催しに市民の熱気が溢れ、期間中三一万七、〇〇〇人の人出を記録した。

とまこまい港まつり一覽表（昭和五十年以降）

回数	開催日	実行委員長	メイン会場	テーマ	主な行事（市民おどり、花火大会恒例）
第20回	S50・8・8～10	本間 敏幸	旧王子球場広場	二〇歳の年輪みんなのまつり	仮装・鼓笛パレード、歌謡ショー、海洋少年団
21回	51・8・6～8	大田 剛	〃	希望とやすらぎへの出発	吹奏楽・鼓笛パレード、大笑いショー
22回	52・8・12～14	岩倉 巻次	〃	熱くなれ、俺たちの街	全国郷土芸能・吹奏楽・仮装パレード、ライブ
23回	53・8・11～13	大泉 源郎	〃	翔けふるさと、とび散るしぶき	夢のスパークルショー、仮装・吹奏楽パレード
24回	54・8・10～12	大泉 源郎	〃	燃えろふるさとあすへのジャンプ	花のステージ、ミニSL、仮装・吹奏楽パレード
25回	55・8・7～9	大泉 源郎	〃	ひらけ大地、輝けふるさと	ヨットレース、マーチング・仮装パレード
26回	56・8・7～9	大泉 源郎	〃	伸びよふるさと、高まるいぶき	堀江淳コンサート、仮面ライダージョー、
27回	57・8・6～8	大泉 源郎	〃	ひびけつちおと、でつかい未来	松村和子・堀江淳・伊藤多喜雄共演、パレード
28回	58・8・5～7	板谷 實	〃	吹き込め新風、広がれ未来	山車太鼓共演、マーチング・仮装パレード
29回	59・8・3～5	板谷 實	〃	かおる潮風、新たな飛躍	親子船釣り大会、サマーライブ、マーチングパ
30回	60・8・2～4	板谷 實	若草中央公園	海に大地に、咲かせる未来	ラジコン大会、ゲートボール、ボートカーニバル
31回	61・8・1～3	板谷 實	〃	そだてよう若い力と我等の郷土	マーチング・ボートカーニバルパレード
32回	62・8・1～3	鳥越 忠行	〃	港から世紀へ羽ばたけまちづくり	レーザーフアンタジージュ、マーチングパレ
33回	63・8・5～7	鳥越 忠行	〃	港にロマンあしたに拓け若いまち	ジャズダンスショー、ヒートアップフェスタ
34回	H元・8・4～6	鳥越 忠行	〃	港に夢みんなどつくる希望の灯	歌のオンステージ、カラオケ選手権大会
35回	2・8・3～5	鳥越 忠行	〃	希望の港大きく育て、わが郷土	勇払千人隊御会所、マーチングパレード
36回	3・8・2～4	鳥越 忠行	〃	人の和とつなぐ港に夢ひらけ	ゲートボール大会、ボートカーニバル
37回	4・8・7～9	鳥越 忠行	〃	わが港確かな未来へいま躍進	サマーエレクトーン、ビンゴゲーム、吹奏楽
38回	5・8・8～10	鳥越 忠行	〃	三〇年築いた港に飛躍の未来	ビンゴゲーム、マーチング・ボートカーニバル
39回	6・8・5～7	鳥越 忠行	〃	海に夢、港に咲かせる大きな未来	山車太鼓、ブルースヨットショー、船釣り大会
40回	7・8・4～6	鳥越 忠行	〃	育て若い芽、とびだせ世界の海へ	ミニSL運行、ゲートボール大会、歌謡大会
41回	8・8・2～4	鳥越 忠行	〃	夢のせて、港が拓く二一世紀	樽前ばやし、よさこいソーラン、港カーニバル

第42回	H 9・8・1↘3	鳥越 忠行	若草 中央公園	夢のかけ橋、若さあふれる苦小牧	親子船釣り大会、ワイルドワンズショー
43回	10・8・7↘9	鳥越 忠行	"	出会い、感動 港輝く	山車太鼓、全国芸能まつり、よさいこソーラン
44回	11・8・6↘8	鳥越 忠行	"	夢・人・もつと熱い夏	少年三味線、マーチング・カーニバルバレード

『観光まつり・港まつり関係書類』 昭和二十五年〜平成十一年 苦小牧市史編集事務局編より作成

昭和五十年以降の苦

苦小牧ハイランドスポーツセンターを会場に第九回苦小牧スケートまつりが、昭和五十年

小牧スケートまつり (七五) 二月八、九日の二日間、約九万二、〇〇〇人の市民が繰り出して行われた。子ども氷上運動会、ジュニアボブスレー記録会、小学校スピードスケート記録会、親と子の氷上ピクニック、町内会対抗競技、モデル撮影会など多彩な行事が繰り広げられた。氷上カーニバルには市内の企業などから六つの出し物が登場、一万二、〇〇〇人の観客がスタンドに詰めかけた。一方、スケートまつりの名物となっている「しばれ焼き」会場は大繁盛でニュージールランド産のマトン三〇〇頭分にのぼる二万食が胃に収まり、四〇本用意されたドラム缶は空くひまもないほどであった。苦小牧スケート協会創立五〇周年記念の第一〇回苦小牧スケートまつりは同五十一年(七六)二月七日、ハイランドスポーツセンターで二日間の幕を開けた。子ども氷上運動会をはじめ氷上カーニバル、雪造スベリ台が子どもたちの人気となった。しばれ焼き会場も大賑わいで最終日には小学校スピードスケート記録会やモデル撮影会、剣道野試合など数々の行事が行われ、九〇〇発の花火が打ち上げられて冬の一大ページェントが繰り広げられた。

第一五回苦小牧スケートまつりは同五十六年(八一)二月六日から三日間行われた。会場のハイランドスポーツセンターには延べ一〇万人の市民が訪れ、カーニバルや氷上花火大会、小学校スピードスケート競技会、苦民杯道南中学アイスホッケー新人戦などが行われ、郷土の冬まつりを楽しんだ。氷都の冬を楽しむ第二〇回苦小牧スケートまつ

りは、昭和六十一年（八六）二月四日、四日間の幕を開けた。姉妹都市の八王子、日光をはじめ、友好都市の千歳、釧路、指宿などからも来賓を迎えた。第一九回まつりから登場の市民参加による「ミニ雪像コンテスト」には三〇団体が参加して彩りを添えた。第二五回苦小牧スケートまつりは平成三年（九一）二月九日に開幕、会場には大勢の市民が訪れ混雑した。町内会対抗競技大会やまつりの華・ウィンターカーニバル、フィギュアスケートの公開演技、アマチュアバンドのミュージックシャワーなどを楽しみ延べ二万人の人出であった。

冬の祭典第三〇回苦小牧スケートまつりは同八年（九六）二月十日から三日間、ハイランドスポーツセンターで開かれた穏やかな天候と連休で二八万九、〇〇〇人を超す人出で、名物しばれ焼きは三万三、〇〇〇食を完売、六六〇キログラムの肉がさばれた。最終日にはダンスパフォーマンスショーやアイスアリーナ建設基金スポーツ用品オークションなどが行われた。オークションでは新王子製紙アイスホッケー部選手のサイン入りホッケースティックを目玉に、スケート靴やホッケー防具が格安で売りさばかれ、売り上げ一九万三、八〇〇円の全額をアリーナ建設基金に寄付をした。第三三回苦小牧スケートまつりは同十一年（九九）二月十二日に開幕、姉妹都市の八王子、日光両市市長をはじめ親善使節団を迎え、盛りだくさんの行事が繰り広げられた。メイン会場では地元企業や団体による計一六店の協賛店が来店し、苦小牧観光協会が地元産ホッキを格安で販売、人気を集めたほか恒例のしばれ焼きも六〇個用意したドラム缶は黒山の人だかりとなった。三日間の人出は延べ



苦小牧スケートまつり

一九万九、〇〇〇人であつた。冬の華、花火大会は緑ヶ丘公園展望台付近で打ち上げられ、澄み切った夜空に幻想的な世界を演出した。⁽²⁾

苦小牧スケートまつり一覧表（昭和五十年以降）

回数	開催年月日	実行委員長	メイン会場	大画像名	主な行事（しばれ焼き・花火大会恒例）
第9回	S50・2・8～9	荻英介	ハイランドスケートS	苦小牧港	氷上運動会、氷上ビックニック、カーニバル
10回	51・2・7～9	荻英介	"	苦スケート協会50周年記念像	ボブスリー、小学生スケート、カーニバル
11回	52・2・11～13	荻英介	"	スポーツ都市宣言10周年記念塔	剣道野試合、氷上運動会、千人隊太鼓
12回	53・2・10～12	荻英介	"	冬の開拓農家	小学生スピード、女子アイスホッケー
13回	54・2・10～12	竹橋 欣司	"	宇宙戦艦ヤマト	雪山スロープ、小学生スケート、カーニバル
14回	55・1・26～29	竹橋 欣司	"	国体により雪像中止	氷上水族館、ちびっこアイスホッケー
15回	55・2・9～11	竹橋 欣司	"	水像・氷の水族館	中学スケート競技会、剣道、カーニバル
16回	56・2・6～8	竹橋 欣司	"	水像・中国の龍門	氷上運動会、宝さがし、カラオケ大会
17回	57・2・12～14	海老原 朗	"	霊峰樽前と苦小牧城	ボブスレー競技会、カーニバル、剣道大会
18回	58・2・11～12	石川 晴樹	"	宇宙人E・T	中学スピード大会、ボブスレー競技会
19回	59・2・10～12	石川 晴樹	"	忍者ハットリくん	シャンシャン馬橋、剣道大会、カーニバル
20回	60・2・9～11	石川 晴樹	"	ゴジラ	ホーキングアイスホッケー、カーニバル
21回	61・2・8～11	石川 晴樹	"	マンモス山	親子ふれあいリレー、ふるさと民謡まつり
22回	62・2・13～15	石川 晴樹	"	南極日本基地	スノーコンサート、氷上ビックニック
23回	63・2・11～14	村瀬 眞	"	白雪姫と七人の小人	苦小牧・鉦路アイスホッケー、カーニバル
24回	H元・2・10～12	村瀬 眞	"	宮殿とパンダ	中学校スプリント、ふるさと民謡まつり
25回	2・2・10～12	村瀬 眞	"	バットマン	郷土芸能大会、歩くスキー、剣道野試合
26回	4・2・9～11	木下 克彦	"	アンパンマンと仲間たち	フギユア公開演技、ホーキングホッケー
				そんごくう	ウルトラクイズ、カーリング大会、剣道

第27回	H 5・2・12 14	木下 克彦	ハイランドスケートS	雪の城	氷上ビクニック、ふるさと民謡まつり
28回	6・2・11 13	木下 克彦	"	闘う恐竜	チビッコスケート競技会、歩くスキー
29回	7・2・10 12	木下 克彦	"	Sレドリーム号 幸せゆき	中学校スプリント、ホーキングホッケー
30回	8・2・10 12	木下 克彦	"	幸せいっぱい福ねずみ	氷上ビクニック、ウルトラクイズ、剣道
31回	9・2・7 9	高嶋 浩	"	LOVENICE CATCH	小学校スビート競技会、郷土芸能フェスタ
32回	10・2・13 15	高嶋 浩	"	ポケモンファミリ	チビッコスケート競技会、氷上ビクニック
33回	11・2・12 14	高嶋 浩	"	よみがえれタイタニック	スノーフェステバル、郷土芸能まつり
33回	12・2・11 13	篠田 和久	"	飛躍の年 二千年童くんよろしく	ダンスパフォーマンス、各アイスホッケー

『苦小牧スケート祭り関係書類』 昭和四十二年～平成十二年 苦小牧市史編集事務局編より作成

昭和五十年以降に行な 苦小牧市においては夏のとまこまい港まつり、冬のスケートまつりの二大まつりのわれているその他のまつり ほか、趣向を懲らした各種まつりが毎年繰り広げられている。

緑ヶ丘公園まつりは当初は花見の延長線上の感覚で桜まつりとして、公園頂上に登る途中のさくらの樹々の間で行なわれていた。昭和四十九年（七四）から緑ヶ丘公園の整備も進み、緑ヶ丘公園まつりと改称して頂上の芝生で行なわれるようになった。同五十四年（七九）からは市と商工会議所、観光協会の三者で実行委員会を組織して行なわれている。

サクラの植樹運動が進められ、ボートの乗り場やバーベキューハウス、ジャンボ滑り台の遊具施設の設置で、市民の憩いの場として人気の高まっている金太郎の池周辺に会場を移したのは平成八年（九六）からである。この時に開催日を五月の第三日曜日で定着させ、開催時間は一時間繰り下げ午前一〇時半から午後三時までとした。

今では金太郎の池周辺での公園まつりもすっかり市民に定着し、平成十一年（九九）五月には第二六回まつりを迎



緑ヶ丘公園裏坂で行なわれた桜まつり

えた。天候にも恵まれ、青空が広がる金太郎の池広場には約二万三、〇〇〇人の市民で賑わった。イベントは市民吹奏楽団による「桜コンサート」とMBAバントワリング、蝦夷美衆の「よさこいソーラン踊り」、民謡ふるさと会による「ふるさとの歌」、舞踊北扇流の「桜おどり」などのアトラクションに観衆は沸いた。このように緑ヶ丘公園まつりは年々、市民に定着度を増してますます盛んな一大イベントとなっている。

とまこまいハスカップウィークは苦小牧のシンボルであるハスカップをみんなの手で育て、未来に受け継ぐと地元若手商業者らで昭和五十四年（七九）六月三十日から七月十五日までの二週間にわたって苦小牧駅前通りを舞台に第一回苦小牧ハスカップウィークが繰り広げられたのが始まりである。

この新しいまつりは市内の青年が中心となってハスカップウィーク実行委員会をつくり、商店街の活性化、他都市からの観光客、購買客の動員につながるものとして企画された。期間中、同実行委は苦小牧駅から三条通り交差点区間約四〇〇メートルにハスカップのフラワーポットを置き、街路灯に装飾を施し各商店ではハスカップバザールを行い、これらによって 駅通り一帯をハスカップムード一色にしウィークを盛り上げた。

ハスカップウィークは毎年テーマを設け、思考を懲らして行なわれており、平成十一年（九九）には第二一回を迎え七月一日から十日まで、シンボルストリート商店街を中心に開かれた。多彩なイベントが展開され、レシートセー

ルをはじめ、初のハスカップ広場では苦小牧市農協の生ハスカップも販売され、ラブエキマエ献血も恒例イベントの一環となり、地元バンドのコンサート、グリーンフェスタ、ハスカップボーイ&ガール集まれも行われて若者に記念品がプレゼントされるなど、同ウィークは回を重ねるごとに市民に根づいた苦小牧の夏の風物詩の一つとして発展している。

港ふれあいフェスティバルは夏の観光客、帰省・Ｕターン客で賑わうフェリーターミナルの活気を地域のイベントに結びつけ、市民と港のふれあいの場を作ろうと企画された。第一回港ふれあいフェスティバルは昭和六十二年（八七）八月十四日から三日間、苦小牧港フェリーターミナルを会場に開かれた。第一会場のシャシー置場では東胆振各市町の物産を扱うふるさとバザール、臨海鉄道のレールや機関車部品を売るレールバザールのほか、大迷路、モーターボート、自動車などの展示が子どもたちの人気を集めた。第二会場のターミナルビル三階ではネーピア広場が設けられ、ニュージールランドの物産が展示、即売され、予想を上回る人出で賑わった。

「新発見、港はこんなにもしろい」をテーマに第二回フェスティバルが同六十三年（八八）八月十二日から、フェリーターミナルを会場に繰り広げられた。第一会場のシャシー駐車場では、海賊焼きやピアガーデン、各展示・即売コーナーが店開きをした。また「ぼくらの水族館」では苦小牧沖で見られる三五種類の魚や海の生物が展示されて興味を誘った。第二会場ではニュージールランドフェアが開かれ、直輸入のキウイフルーツ、キウイワインなどのほか、キャンデーやチョコレートなどの特産品が販売され大勢の市民や観光客で賑わった。

第七回フェスティバルは平成五年（九三）七月二十三日に開幕した。名物の「海賊焼き」に人気が集まり、太平洋フェリー「きたかみ」では野だてが行われ、船内見学に訪れた人たちに抹茶が振る舞われた。屋外会場では物産展、フリーマーケット、縁日が行われ家族連れで賑わった。「出会いワクワク 思い出キラキラ 港はみんなの宝島」をテ

マに第一〇回フェスティバルは平成八年（九六）七月二十六日から三日間、フェリーターミナルを会場に開かれた。一〇年の歴史を刻んだまつりは、おなじみの海賊焼きの香りが潮風に乗って模擬店に子どもたちで賑わった。イベントでは連日繰り広げられた「よさこいソーラン」が場内を練り歩き、また、「勇払千人太鼓」が迫力満点に披露、豪華フェリーの一般公開や記念行事「船上フォーラム」が行われたほか、海上保安庁の巡視船「そうや」の体験航海も行われ、期間中の人出は過去最高の六万五、〇〇〇人を記録した。同十一年（九九）七月には第一三回目の港ふれあいフェスティバルを迎え、市民はもとより観光客にも人気を得ている。

その他のまつりでは、苦小牧中心商店街まちづくり実行委員会の主催する「とまこまいナナカマドまつり」が昭和六十一年（八六）十月から一条銀座で開催され（二時中止）、苦小牧産のホッキや樽前牛などの特産物を味わいながら、苦小牧観光の魅力を広くPRする「樽前山フェスティバル」は苦小牧観光協会が中心となってアルテンを会場に平成七年（九五）九月から行なわれ、日本一の水揚げを誇る苦小牧の特産品ホッキを市民に浸透させようと同八年（九六）十一月から「ホッキフェスタ・苦小牧漁港まつり」が苦小牧漁港区で開催され、それぞれが特徴を生かしなが（³）ら続けられている。

注（1）（3）『新聞切抜綴―港まつり・他フェスタ』昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

（2）『新聞切抜綴―スケート祭』昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

二、市民おどりと郷土の歌

郷土の歌と

苦小牧市の市制施行五〇周年記念事業の一環として制作した市民おどりの新曲「とまこまいサン

おどりバ」が平成九年（一九九七）四月十日、発表された。作詞・阿久悠、作曲・羽田健太郎、歌手・長山

洋子と決まった。市は新曲作りを計画し、同八年度（九六）予算に一、五〇〇万円を計上、とまこまい港まつり常設委員会のメンバーに市内の音楽やダンス関係者を加えた「市民おどり新曲イメージ検討専門委員会」を設立して、東京のプロダクションを通じて、おどりの振り付けと曲作りを進めた。

「出会い感動 港輝く」をテーマに第四三回とまこまい港まつりは同十年（九八）八月八日から三日間行われた。まつりの華である市民おどりには五一団体、四、六〇〇人が参加して「とまこまいサンバ」の初登場となった。踊りは「とまこまいサンバ」と従来の「苦小牧おどり」を交互に踊る試みで、かつて見られなかった一段と華やいだおどりの輪が繰り広げられた。

「とまこまいサンバ」

作詞／阿久 悠・作曲／羽田健太郎・編曲／伊戸のりお・歌／長山洋子

バラダイス 求めて

ロマンスを 探して

北国を めざせば

おとめらが 歩けば

大地は 花ざかり

港に 船が群れ

みどりの風が吹く

広場は 人の波

すれちがう誰もが

美しい自然と

ほほえみをうかべ

移りゆく季節

青空の下で 歌いつづける

つかまえて 私を

この街の どこかで

つかまえて 私を

甘い言葉で 誘ってよ

好きなひとと トマコマイ

心はずむ トマコマイ

月の下の トマコマイ

踊るサンバ すてき

あざやかな色に 染まりつづける

つかまえて 私を

ときめきの まんまで

つかまえて 私を

熱い想いで 抱き締めて

昼も夜も トマコマイ

胸に響く トマコマイ

星の下の トマコマイ

踊るサンバ すてき

（『苦小牧民報』 平成九年四月十日号 苦小牧民報社）

三、ミス 苦 小 牧

昭和五十年以降 苦小牧でミスが選ばれたのは昭和二十五年（一九五〇）七月で、北海道開発博覧会ミス苦小牧のミス苦小牧 としての山田静江（王子病院看護婦）が最初である。その後ミス朝市なども行なわれたが、本格的なミス苦小牧は第一回とまこまい港まつりを開催するに当たり、ミス港まつりを選出したことによるものであった。この時はミスを一人、準ミスを二人、入選ミスを選んでいた。

苦小牧市史（追補編）

その後一時的に中止したこともあった。同四十年（六五）からは次のように形は変わったが、毎年続けられている。すなわち同四十五年（七〇）の第一五回とまこまい港まつりから「ミス苦小牧」と改称し、ゴールデンクラウン一人、シルバークラウン二人とした。さらに、同六十三年（八八）の第三三回とまこまい港まつりからは美人コンテストではないという考えからゴールデン、シルバークラウンの呼称を廃し、三人ともミス苦小牧とし、現在に至っている。⁽¹⁾

ミス苦小牧一覧表（昭和五〇年以降）

年	回	氏	名	年	回	氏	名
昭和50	20	菊池 美幸	藤本久美子	昭和62	32	金久保貴子	辻 洋子
"	51	山下 五月	今沢いずみ	"	63	加藤 美香	中村 里織
"	52	越後谷 忍	真部 秋子	平成元	34	近江麻利子	齊藤 美紀
"	53	北沢 光枝	高橋 智子	"	35	洪澤 雪絵	高丸えり子
"	54	岩花 純子	古川 千鶴	"	36	杉江 知子	柴山美保子
"	55	小野智香子	藤田 聖子	"	37	坂本 恵	齊藤 理砂
"	56	工藤千佳子	上野むつみ	"	38	高橋 知里	相武 綾
"	57	吉成 一代	渡辺 紀子	"	39	加賀谷知子	荒川奈津紀
"	58	高城真由美	高嶋希美恵	"	40	橋本 恵美	柴田 幸枝
"	59	佐々木麻里	坂本 晴美	"	41	児玉 憲子	山口 明子
"	60	塚本 則子	高橋 千尋	"	42	澤田美奈子	矢代 桃子
"	61	新谷比呂恵	幸野あゆみ	"	43	堀江 ゆか	太田 紀子
	31		和田 輝美				牧野利絵子

平成11 44 八島 紗織 会田 千秋 小関 紀子 平成12 45 島田千登世 川渕美和子 今野美由紀

(『苦小牧のミスたち』 平成七年 堀江敏夫著 苦小牧女性史時の原稿(未発表))

注(1) 『新聞切抜綴―観光・みなとまつり、他(フエスタ)』 昭和四十八年〜平成十二年 苦小牧市史編集事務局編

